592
592-67
7
1200501526472

出版年鑑

1935

東京書籍商組合版

岩波書店 昭和九年度新刊

東京・神田・一ツ橋二ノ三
振替東京二六二四〇
電話九段一八七(4)

岩波書店 昭和九年 新刊書

書名	著者	版	定価	頁
法律學辭典 第一卷	末弘嚴太郎編	四六倍	七・〇〇	
	田中耕太郎輯	六八二	四五	
岩波動物學辭典	谷津直秀	四六倍	二三・〇〇	
	岡田彌一郎編	一三四四	五七	
フイヒテ 知識學の概念 並に第二序論	山本饒譯	菊判	二・五〇	三〇八
プラトン對話篇 饗宴	久保勉 阿部次郎譯	菊判	二・二〇	二五四
心理學研究法	増田惟茂著	菊判	五・五〇	六〇〇 圖二二
フレヨエベル 母の歌と愛撫の歌	茅野蕭々譯	菊倍判	八・〇〇	二〇〇 圖五五
ベスタロッチー教育學	長田新著	菊判	二・二〇	三八二
教育科學(2)	廣島文理科大教育學研究室	菊判	一・二〇	二三四
名も無き民のこゝろ	河村幹雄遺稿	菊判	一・五〇	三七〇 口繪一
神ながらの道	筧克彦進講	菊判	四・五〇	七六八 圖六九
ヘーゲル全集 哲學史 上卷	武市健人譯	菊判	三・五〇	五一〇
佛教の諸問題	金子大榮著	菊判	二・八〇	四八八
追想集 内村鑑三先生	鈴木俊郎編	四六判	一・三〇	三三二 圖八
罪と其救ひ	江原萬里著	四六判	三・二〇	七一八 口繪一
イエスと創造的保守主義	ウォーカ著 杉村一枝譯	四六判	一・二〇	二四四
世界文學 及び一般文化におけるその位置	モウルトン著 本多顯彰譯	菊判	二・〇〇	五二〇
漱石先生	松岡讓著	四六判	一・五〇	三六二
福澤先生を語る —諸名士の直話—	高橋義雄編	四六判	・九〇	二八四 口繪三
巴里滯在記	小宮豐隆著	四六判	一・八〇	二六二 圖一六
世界文化と日本文化	阿部次郎著	菊判	三・三〇	六一八
宿南昌吉遺稿 日記紀行俳句	阿部次郎編	菊判	三・二〇	七三六 圖五
靜夜集	安倍能成著	四六判	二・〇〇	四〇〇
觸媒	吉村冬彦著	四六判	二・二〇	四九〇
碧潭集	橋田邦彦著 山極一三編	四六判	二・五〇	五二八
春秋草紙	荻原井泉水著	四六判	二・〇〇	三八〇
求道讀本 一日一善(上)	トルストーイ著 原久一郎譯	四六判	三・二〇	九三二
萬葉集研究年報(四)	萬葉三水會編	菊判	一・二〇	一八六
柿本人麿(上)	齋藤茂吉著	菊判	三・五〇	五〇二

岩波書店 昭和九年 新刊書

書名	著者	版	定価	頁
歌集 輕雷集以後	中村憲吉著	四六判	一・八〇	二八八
旅順入城式	内田百間著	四六判	一・八〇	三一六
提督秋山眞之	秋山眞之會編	四六判	一・三〇	二二八 圖一四
穗積歌子	蘆谷蘆村著	四六判	一・五〇	三六四 圖一〇
平福百穗畫集	唐紙製 帙入		二五・〇〇	四五
穗積陳重遺文集 第三冊		菊判	五・〇〇	六九四 口繪四
穗積陳重遺文集 第四冊		菊判	五・〇〇	六八四 口繪四
御觸書寛保集成	高柳眞三 石井良助編	菊判	八・〇〇	一三七〇
皇室制度講話	酒卷芳男著	菊判	二・五〇	三八二
法律哲學概論 第一分冊	田中耕太郎著	菊判	・九〇	一四六
世界法の理論 第三卷	田中耕太郎著	菊判	七・五〇	七三六
新小切手法	伊澤孝平著	四六判	・八〇	二三二
社會法と市民法	橋本文雄著	菊判	二・八〇	四一八
法學研究(3)	東京商科大學研究年報	菊判	二・〇〇	四一六
十周年記念 法學論集	東北帝國大學法文學部	菊判	四・五〇	六九四
世界大戰原因の研究	鹿島守之助著	菊判	七・〇〇	一〇五〇
國家と階級	高田保馬著	菊判	二・五〇	四〇四
アダム・スミス、マルサス、リカアドオ(正統派經濟學研究)	小泉信三著	菊判	二・八〇	四六八
滿洲問題	矢内原忠雄著	四六判	一・五〇	二八二
年報 經濟學(1)	東北帝國大學經濟學會	菊判	一・三〇	二五二
幕末秘史 新聞薈叢	明治文化研究會	菊判	五・〇〇	四九四 口繪二
日本資本主義分析 日本資本主義における再生産過程把握	山田盛太郎著	菊判	一・五〇	二五〇
日本資本主義 社會の機構	平野義太郎著	菊判	二・三〇	四〇四
世界と日本 對恐慌工作裡の政治經濟『年誌』	東京政治經濟研究所	菊判	二・五〇	六一八
經濟學研究(3)	東京商科大學研究年報	菊判	二・〇〇	三五四 口繪一
十週年記念 經濟論集	東京帝國大學法文學部	菊判	五・〇〇	七八六
商學研究(3)	東北商科大學研究年報	菊判	二・〇〇	三五四
ルイ・ドゥブローイ 波動力學	渡邊慧譯	菊判	三・三〇	三五二 圖三
増訂 計算法及び計算器械	小平吉男著	菊判	二・三〇	二六八 圖九〇
晩近 土壤膠質化學	川村一水著	菊判	二・〇〇	二二二 圖三三
氣象學 改稿第二版(上)	岡田武松著	菊判	三・五〇	五一〇 圖一六六
特種雲形圖	藤原咲平著	局額用	・六〇	三色刷 圖一六

昭和拾年版

出版年鑑

東京書籍商組合

592-67

序

出版界の動きは社會と民衆との動きを如實に反映する鏡のやうなものである。昭和九年に於ける出版の種數は實に二萬六千餘と云ふ多數に上り、我國開國以來未だ曾て無き記錄である。その記錄の內よりパンフレツト、リーフレツト、ビラ等を除いた出版物の悉くを收錄したのが本年鑑である。年々二萬餘種の刊行を見る我國の出版界は、恐らくは世界最高の順位を占むるに至つた。斯の如く出版數の向上したるは如何なる原因であるか、其れは從來は娛樂を主とし、研學資料として頒布されたものは次位に屬して居た然るに近頃に至り圖書の普及は津々浦々殆んど全國的に頒布され、圖書に接せざるものは時代の落伍者として共に文化を語るべからずとまで卑下さるゝに至つた。要するに圖書は精神的糧であつて今や人間生活上の必需品である。此の複雜なる社會に立つに知識を圖書に抑がざれば、時代の潮流を窺ひ知ることを得ぬのである。如何なる圖書があるか、如何なる圖書は何れより出版せらるゝか、其れを直に解決し、指定するのが本年鑑である。卽ち本年鑑は讀書界の羅針盤であつて、其の求めんとする圖書は悉く此の册子

最新刊

東北帝大教授 文學博士 武內義雄著

孟子要略

四六判・上製・箱入 定價一・八〇 送料一二

孟子要略は南宋の大儒朱子六十三歲の編纂で旣に著逃された孟子精義、孟子集注、孟子或問の經驗と研究により孟子の全精神把握の爲その取捨配列最も要を得たと古來稱せらるゝ名著である。眞西山は本書に序して先生之於孟子發明之至也矣——而其要在此編——無復餘蘊矣と讃嘆してゐる。然るに孟子要略は散佚して傳らず朱竹垞、王白田等の大儒をして徒らに痛惜せしめたが、後金仁山、劉傳瑩五章而も孟子の精髓はこゝに盡きて居るが、殘部百七十五章も亦棄てがたく研究の便をも圖り其本文は之を附錄として要略の後に附し諸家の注解中尤も妥當なるものゝみを欄外に采入した。本書の出現により孟子は必要にして充分の研究が完成された譯である。

の研究により異書より孟子要略を復還するの途が開けた。而して清の曾國藩行し得た。卽ち第一卷性說、第二卷孝悌の道、第三卷義利の辨、第四卷政治の要、第五卷に古賢の評論を輯め一讀孟子の主張と、その由て來る所を諒解し得るやう次第された。

集注は尤も人口に膾炙してゐるが、其後考證學が進むにつれて朱子の誤が訂正された部分も少くない。之等考證家の諸說は先生が精當なりとせらるゝものに限り欄外に錄し且つ先生の嚴密なる御研究の結果も欄外に併記せられた。要略に采入された孟子は凡そ八十

東京商科大學教授 太田哲三著 八版 菊判・上製 定價二・八〇 送料〇・二〇
會計學概論

東京商科大學教授 太田哲三著 再版 菊判・上製 定價一・七〇 送料〇・一八
銀行簿記教程

東京商科大學教授 太田・岩田共著 再版 菊判・上製 定價一・六〇 送料〇・一二
インフレーション會計

産業合理局財務委員・通信省囑託として事業會計制度の確立に盡瘁され、計理士試驗委員として學界に重きをなす著者が多年の蘊蓄を傾倒して纒理的に且つ又實際的に會計學上の問題を經緯に解說し殆ど餘す所なき定評ある斯學の權威書。

檢試驗委員として學界に重きをなす著者が多年の蘊蓄を傾倒して纒理的に且つ又實際的に會計學上の問題を經緯に解說し殆ど餘す所なき定評ある斯學の權威書。

商業簿記を一通り終つた者が最も平易に且つ能率的に銀行簿記を會得する目的の爲に著はされたもの。所載の例題一切を記入し得る練習帳が附屬して居ることは他の追隨を許さぬ利便である。精讀と記帳により銀簿の知識は完全に收得される。

インフレは世界の經濟政策を支配せんとしつゝある。物價と貨幣、金と紙の關係は强々增大せんとしつゝある。從つて生ずる資產負債の再評價は、隱利義務の紛爭は……何れも來るべき會計學の實踐部門たる金貸會計を取扱へる我國最初の研究である。

東京 一ノ神・小川町 田内・小田神保ビル

高陽書院

振替東京九〇〇三 電話神田一七二四

中に收錄してある。

我組合は圖書の普及を圖る爲めに、明治二十六年に『圖書總目錄』を刊行し爾來四五年毎に之を改版增補し、今は第八版を重ね。別に明治三十五年以來毎月『圖書月報』を發行し今尙繼續して第三十三卷に及び。更に昭和四年以來年々『出版年鑑』を刊行して今回第七回を數ふるに至つた。本『出版年鑑』は一般の要求に添ふべく組合が犧牲を拂ひ、廉價と普及の實質を備ふることに努力して居る。其の內容必ずしも完璧を期するものとは云はれぬが、本年鑑が讀書家並に書籍業者の指針ともならば幸甚とするところである。

昭和十年三月

東京書籍商組合

組長　山崎信興

凡例

一、本年鑑（昭和十年版）に輯刊錄した新刊圖書目錄は昭和九年一月より同十二月まで、一箇年間に刊行された單行本である。

一、昭和三・四・五・六・七・八年の刊行書については本年鑑の昭和四年版・同五年版・同六年版・同七年版・同八年版・同九年版の六卷に依つて調査されたい。

一、定價の明記なく非賣とも豫約とも記してないものは多く自費出版にして、奥附に何等の明記なきもので、官版も亦同じである。

一、判型については次の略符を以てこれを示した。

◎は菊判　○は四六判　△は菊判以上の大型　×は四六判以下の小型

一、書集・樂譜・その他に於て判型を簡明に記し難い場合、或は其の頁數を記す必要を認めない場合には、凡て之を略した。

一、教科書については煩を避くる爲め頁數を略記したものもある。

一、本年鑑に揭載された出版廣告は、他面また刊行書の說明でもあり亦九年度前後の記錄でもあるから、特に廣告索引を編して、其れ等の檢索に便した。

一、本年鑑編纂上に不備の點、お氣付の點あらば次年度編纂の參考までに、東京書籍商組合「出版年鑑」編輯部宛御敎告を乞ふ。

編者

圖書類別目錄索引

	頁
皇室	二七三
神書	二七五
宗教	二七七
哲學	二九三
教育	三三二
教育資料	三三三
問題集	三四七
受驗參考書	三六九
教科書	三八一
少年少女讀物	四三一
文學	四四一
詩歌・俳句	四四八
小說	四九一
語學	五一五
辭典	五二一
外國語	五四一
歷史・傳記	五七三
地理・地圖	六一一
法律	六一九
政治	六三五

圖書類別目錄索引

	頁
經濟	六六一
社會	六七七
數學	六八五
理學	六八七
醫學・衞生	七一七
商業	七二九
交通	七三三
工業・工藝	七五三
農業・園藝	七六一
軍事	七六五
美術	七七一
音樂	八〇五
運動	八一一
娛樂	八一五
家政婦人讀物	八二一
叢書	八二七
全集	八五三
講座	八七九
雜書	九二五

昭和十年版 出版年鑑目次

昭和九年の出版界……一
昭和九年度單行本發行府縣別統計表……一四
昭和九年度内容體裁類別統計表……一六
出版物毎月對比表……一三
出版界一年史……一四

昭和九年二月

月賦値下の臨時總會……一四
京都出版協會總會……一四
退任評議員表彰……一四

三月

洋紙の暴騰……一五
出版協會と洋紙業の會見……一六
出版法改正法律案の通過……一七
納本規定の綜合統一……一七
商工省の紙價對策……一七
東枝吉兵衞君逝去……一八

四月

函館の大火……一九
京都教育疑獄の餘波……一九
朝鮮總督府の檢閲强化……二〇
關東廳の檢閲强化……二〇
王子製紙に警告……二〇
辭書の著作權爭ひ……二一
婦人雜誌の附錄制限協定……二一
中等教科書協會と洋紙商……二一

五月

六種出版に啓明會から補助金……二二
國定教科書大改善……二二
教科書の字體改正……二二
獨逸印刷藝術展覽會……二二
大阪出版業組合運動會……二四
國際文化振興會……二四
出版廣告主座談會……二四
御文庫碑石の建立……二四
中等教科書協會の賦課金……二五

六月

出版協會の販賣制度改善策……二五
良書の普及事業……二六

七月

明治天皇御紀を改綱公刊……二六
公刊明治天皇御紀綱修委員會規程……二七
文部・内務大臣と局長……二七
出版法改正期日公布……二八
著作權爭ひは起訴……二八

八月

出版届樣式の簡略化……二八
算術教科書色刷……二九
輸入出版物の檢閲統制……二九
九州聯合會の總會……二九
中島卯三郎君死去……四〇

九月

東京の雜誌週間……四〇
東京書籍商組合臨時總會……四〇
佐賀の雜誌文化展覽會……四一
關西風水害……四一
日本國民史完成祝賀會……四一

十月

關西風水害見舞……四二
日本雜誌協會の慰問……四三
圖書大市會出來高……四三
地方協會定時總會……四三
濡損品の善後處理……四四
聯合會定時總會……四四
大阪古書組合の水害對策……四五
外國作品の飜譯に就て……四五

十一月

全國圖書祭……四六
圖書祭……四七
雜誌カバーの排除……四八
二大印刷會社の合併……四八
運賃値下の運動委員……四九
雜誌文化展覽會……四九
市場協會秋季大市會……四九
圖書雜誌小賣組合總會……四九
長井庄一郎氏逝く……五〇
中等教科書販賣協會總會……五〇
殖民地の逆料負擔撤廢運動……五〇

十二月

古典文學物の取締……五一
芥川・直木賞の制定……五一
大市會の福引抽籤會……五二
福岡組合國防費を献金……五二
文藝家協會の改組……五二

昭和十年一月

東京書籍商組合定時總會……五三
大阪書籍雜誌商組合總會……五三
日本雜誌協會總會……五四
書店員慰勞會……五四
中等教科書協會總會……五四
東京雜誌販賣業組合總會……五四
東京出版協會總會……五五
京都組合の總會……五五
東京組會の正副組長……五五
九年度製紙生產販賣高……五五
坪內博士逝く……四〇
我國刊行の圖書年表……五六
新聞雜誌發行年表……五七
書籍目錄一覽……五八
圖書解題……六二
商標登錄書籍一覽……六四
號數活字の大きさ……三三
ポイント系統の活字の大きさ……二九二

ルビーと振假名……八五二
活字の書體……八五二
假名一字のちがひ……五八五
誤記され易い漢字……六八四
辨似……六八六
校正の術語(一)……六八六
校正の術語(二)……七一六
印刷用紙計算法……六三四
印刷用紙算出表(一)……六七六
印刷用紙算出表(二)……七二八
印刷用紙算出表(三)……七三三
印刷の順序……八七七
製本の順序……九二四
中立圖書館設置……三三三
議院圖書館……八一九
奈良朝時代の重なる國文學書……四二六
平安朝時代の重なる國文學書……四三〇
鎌倉室町時代の重なる國文學書……四九〇
江戶時代の重なる國文學書(一)……五一〇
江戶時代の重なる國文學書(二)……五四〇
江戶時代の重なる國文學書(三)……五七二
江戶時代の重なる國文學書(四)……五八六
江戶時代の重なる國文學書(五)……六一〇
全國書籍商組合員統計……七二
東京書籍商組合員業別分布表……七六
全國書籍商組合所在地……七七
東京書籍商組合……七九
規約……七九
販賣規程……八三
取引規程……八四
從業者表彰規程……八五
評議員……八六
全國書籍商組合聯合會……八六
規約……八六
常任幹事……八九
東京出版協會……八九
規約……八九
協議員……九五
中等教科書協會……九五
規約……九五

幹　事……九八
日本雜誌協會……九九
規　約……九九
評　議　員……一〇四
東京雜誌販賣業組合……一〇四
規　約……一〇四
幹　事……一一〇
東京圖書雜誌小賣業組合……一一一
規　約……一一二
幹　事……一一三
東京圖書雜誌小賣業組合支部細則……一一三
全國醫書組合……一一四
規　約……一一四
常務委員……一一八
書籍業團體一覽……一一八
東京書籍商組合員一覽……一二〇
歐米書籍國際團體……一二一
英國の書籍業團體……一二六
獨逸の書籍業團體……一三〇
佛蘭西の書籍業團體……一三四
諾威の書籍業團體……一三〇
瑞典の書籍業團體……一三〇
丁株の書籍業團體……一三八
和蘭の書籍業團體……一三八
伊太利の書籍業團體……一三八
墺太利の書籍業團體……一三八
瑞西の書籍業團體……一三八
米國の書籍業團體……一三八
出　版　法　規……一六六
著　作　權　法……一六六
著作權法施行細則……一七三
著作權登錄樣式……一七八
改正著作權法……一七九
登錄簿事項用紙……一七九
登　錄　稅　法……一八一
教科用圖書檢定規則……一八二
教科書檢定ニ關スル願屆書式……一八四
軍隊教育用圖書檢閱規則……一八六
出版法ニ據リ刻版印本ヲ差押ヘタルトキ取扱處分方……一八六

差押出版物ノ分割還付ニ關スル件……一八七
新聞紙法及豫約出版法ニ據ル保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種類……一八八
出版ニ關スル取締諸法令……二〇九
刑　法(抄)……一八八
民　法(抄)……一八九
治安警察法(抄)……一八九
警察犯處罰令……一八九
菊御紋並禁裏御用等の文字濫用ヲ禁ス……一八九
御肖像ニ關スル取締方……一九〇
弘曆者ノ外頒曆取扱ヲ禁ス……一九〇
本曆略本曆頒布及一枚摺略曆出版方……一九〇
一枚摺曆出版ノ規定……一九一
神社寺院ノ守札及神佛號記載ノ畫像出版ニ關スル達……一九一
大日本帝國憲法(抄)……一九一
未發表ノ著述ノ稿本ニ關スル民事訴訟法……一九一
文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル「ベルヌ」條約……一九二
出　版　法……二〇一
出版法施行規則……二〇四
豫約出版ニ關スル願屆書式……二〇八
新　聞　紙　法……二一一
新聞紙法ニ關スル願屆書式……二一七
納本ニ就テノ注意……二一九
第三種郵便物認可規則……二三〇
郵便規則摘要……二三三
第三種郵便物ニ關スル願屆書式……二三三
第三種郵便注意事項……二三五
約束郵便取扱承認規則……二三六
郵便規則摘載……二三七
約束郵便ニ關スル注意……二三八
約束郵便ニ關スル願屆書式……二三〇
內國通常郵便物料……二三二
內國小包郵便料……二三三
文部省圖書推薦規程……二三三
文部省圖書認定規程……二三四
全國中等學校數……二一九
全國主要圖書館一覽……二三六

◇圖書類別目錄索引……索四
◇圖書類別目錄……二七三
◇廣告掲載店名索引……索三
廣告圖書類別索引……索
◇輯錄圖書統計表……九三八
奥附……九三八

廣告掲載店名索引

青野文魁堂……九三九
秋田魁新報社……一〇〇五
淺見文林堂……二五七
アトラス社……五五二・五五三
アトリエ社……五〇八・五〇九
アルス……九四六・九四七
有精堂出版部……九四五
有誠堂書店……九四四
有斐閣……六四一
有朋堂……五九九
育成洞……二六一
郁文堂書店……五〇三
石川松聲堂……九四三
一誠堂書店……六〇七
一進堂書店……八四〇
井上書店……三六三
岩波書店……前付一・二・三
内田老鶴圃……五〇四・五〇五
芸艸堂……八九五
大分新聞社……一〇〇八
大岡山書店……八四一
大倉廣文堂……八八四
大倉書店……表四・五九三・五九四・五九五
大倉洋紙店……九九二
大阪朝日新聞社……一〇一三
大阪時事新報社……一〇〇三
大阪毎日新聞社……一〇〇一
オーム社……二六〇
王子製紙株式會社……九九一
岡村書店……三六四・三六五
岡本商店……九九一
小樽新聞社……一〇一〇

音樂世界社……八八三
改造社……四五二
開拓社……八八二
開隆堂……八三九
海文堂書店……七九〇
科學知識普及會……一四七
學習社……六〇八
鹿兒島新聞社……一〇四六
柏原洋紙店……九八九
金井信生堂……七三九
金剌芳流堂……六九三
金原商店……七九五
河出書房……六〇〇
考へ方研究社……四九九
巖松堂書店……五五六
巖翠堂書店……七九二
觀世流改訂本刊行會……六九八
九州日報社……一〇〇九
共益商社書店……七九四
共同印刷株式會社……九八七
共同書籍株式會社……八八一
共立社……六九六・六九七
京文社……八四七
基督教出版社……六九五
金星堂……四五三
金の星社……四〇六・四〇七
九段書房……九六一
栗田書店……五〇一・五〇二
吳新聞社……一〇四五
京城日報社……一〇一一
警醒社……七五二
啓文社書店……九五八
慶文堂……三六〇・三六一
敬文堂書店……三五八
研究社……四〇八・四〇九
健文社……四一〇・四一一・四一二・四一三

興學館……九五六
興文社……九六〇
向山堂書房……八九四
厚生閣……四五四・四五五
弘道閣……七九三
弘道館……五一二
弘明堂……七五〇
洪洋社……八三四
高陽書院……扉裏
交蘭社……八三三
克誠堂書店……六九四
光世館……八九二
光風館書店……三五四・三五五
光融館……八九一
黑龍會出版部……後付三
小島文開堂……九七九
工政會出版部……九五七
財政經濟學會……八三五
榊原文盛堂……三五七
山海堂出版部……七八八・七八九
三友社……七九六
三教書院……七四九
三元堂……六八九
三省堂……三一五・三一六・三一七
三成社……三五九
時事新報社……九九五
至誠堂書店……五五五
實業之日本社……三六七
下野新聞社……一〇〇四
受驗研究社……九八〇・九八一
春江堂……七八六・七八七
小學館……九七〇
章華社……七四八
裝華房……四五六
彰文館書店……五四八
尙文堂……四五七

尙美社……八八六
松陽堂……三二四
照林堂書店……四九八
昭和書房……七九九
駸々堂書店……九八二・九八三
辰文館……七四三
新潮社……四一四・四一五・四一六
新聞之新聞社……四五八
崇文堂出版部……七四三
杉田日進堂……七三八
鈴木書店……三六二
須原屋書店……六九二
政經書院……九七八
聖公會出版部……六五三
姓氏家系大辭典刊行會……四四九
正則英語學校出版部……二六八・二六九
成美堂……七八五
誠光堂……六四九
誠文堂……五五八・五五九・五六〇
盛文館……九七三
盛林堂書店……六五二
川流堂……八〇〇
草文社……六四四
第一書房……六五四・六五五
大學書林……六四三
大正書院……七九一
大成書院……九四一
大同館書店……三一二
大同書院……九七七
大同洋紙店東京支店……九八五
大東館書店……七〇三
大東出版社……六九〇
大日本印刷株式會社……九八八
大日本雄辯會講談社……四〇一・四〇二・四〇三・四〇四・四〇五
大日本圖書株式會社……四五〇・四五一
太平洋紙店……九八六
大明堂……八三七
太陽堂……八八九
泰文館……三五三
泰文堂……九五九
ダイヤモンド社……九〇九
臺灣日日新聞社……一〇四九
高岡本店……五九八
常磐印刷所……九七六
竹村書房……九〇八
立川書店……九五五
淡海堂書店……九〇六
中外商業新報社……九九六
中國新聞社……一〇〇七
中國民報社……一〇〇六
中文館……八八八
千倉書房……八四三
つるや書房……二七二
帝國教育會出版部……八四二
帝國建築協會……八九三
帝國書院……八九〇
帝國地方行政學會……八三六
東京朝日新聞社……九九三
東京開成館……三一三
東京辭書出版社……七九七
東京出版社……八八五
東京書籍株式會社……九〇一
東京書籍商組合……一〇五三
東京圖案印刷株式會社……九〇七
東京地形社……九一〇
東京泰文社……九一二
東京日日新聞社……九九四
東苑書房……八四五
東雲堂……五四五
東海堂……七〇四
東洋經濟新報社……六〇六
東洋出版社……三六八

東洋圖書株式合資會社…五五四
同文館……七〇〇
刀江書院……二五八・二五九
德文堂書店……九〇三
中井商店……九八四
中村書店……四六〇・四六一
名古屋新聞社……九九九
南光社……七四〇・七四一
南江堂……七五一
南山堂……九〇五
新潟新聞社……一〇四三
新潟每日新聞社……九九八
日英社……六四九
日英堂書店……七九八
日獨書院……六九九
西ヶ原刊行會……九〇四
二松堂書店……九一三
日本古書通信社……一〇二四
日本出版社……九七四・九七五
日本書籍株式會社……九〇〇
日本新聞聯盟……一〇〇〇
日本評論社……七四四・七四五・七四六
俳書堂……八九九
培風館……五九六・五九七
博進堂……二七〇
博信堂出版部……八九八
博文館……四六二・四六三・四六四
白水社……四九七
白揚社……六五六
檜書店……九六九
藤井佐兵衞書店……九五三
藤井書店……九六七
藤谷崇文館……九五二
富山房……五四六・五四七
富文館……九六八
婦女界社……八九七
文學社……後付二
文化書房……八九六
文求堂……四五九
文藝社……五〇六・五〇七
文教書院……五一〇
文憲堂……六〇五
文原堂……九六六
文光社……九六五
文光堂書店……二七一
文修堂……九六四
文書堂……三六六
文進社……九六三
文盛堂出版部……三五六
文明社……九六二
文友堂……八八七
文陽堂……八四八
文錄社……六九一
平凡社……六四五・六四六・六四七
寶文館……五四九
寶文館(大阪)……九七一
報知新聞社……一〇〇三
防長新聞社……一〇四五
芳文堂……六四二
朋文堂……九四二
法律評論社……七〇一
北越製紙株式會社……一〇一二
北國新聞社……一〇三六
北陸每日新聞社……一〇四三
北隆館……三一一・五〇〇
松邑三松堂……七三七
丸善株式會社……三〇六・三〇七・三〇八・三〇九
滿洲日報社……一〇四九
三宅莊藏書店……九五四
都新聞社……一〇三四
明治書院……三一八・三一九・三二〇
明治圖書株式會社……六五一

明文館……三〇五
明文堂……後付一
目黒書店……二六四・二六五
モナス……六五〇
森江書店……五一一
森山書店……七〇二
柳原書店……九七二
雄山閣……五五七
雄風館書房……五五〇・五五一
勇林堂書店……九〇二
湯川弘文社　九四八・九四九・九五〇・九五一
養賢堂……二六二
吉川弘文館……六〇四
讀賣新聞社……九九七
龍王堂……八四四
龍吟社……二六六・二六七
立命館出版部……六〇二・六〇三
瞭文堂……八四六
糧友會……六〇一
料理の友社……八三八
林平書店……二六三
六盟館……九四〇
早稻田大學出版部……三一〇

廣告圖書類別索引

○皇室
教育勅語謹解……五〇七
歷代皇陵……六〇三
聖訓謹解……後付三
皇室制度講話……前付一

○神書
神道集……八四一
神道の研究……五二一
神道名目類聚抄……八四一

○宗教
阿含經講義……六五四
阿彌陀經講話……九〇六
朝のいのり……八九四
新井石禪師大演說集……四〇三
イエスの國語……八九四
イエスの內部生活……七五二
罪と其救ひ……前付一
佛教の諸問題……前付一
基督教史……前付一
一日一善……前付一
碧潭集……前付一
イエスと創造的保守主義……前付一
遺教經講話……三一八
維摩經講義……八九一
維摩經釋義……五四九
いろは碧巖……六九〇
永遠のキリスト……八九四
永福寺餘暇……九〇八
學道用心集講義……八九一
紙芝居の實際……六九五
かち〳〵山の巻……八九四
神の發見……七五二
ガラテヤ書註解……八九四
加拉大書の精神……八九四
歎異鈔講義……八九一
歎異鈔講話……三一八
觀音經講話……八九一
觀音經靈驗記……八九一
舊約聖書續篇……六五三
舊約の話……六五三
基督教會史……七五二
基督教の經濟倫理……七五二
基督教女性觀……八九四
基督教要義……八九四
基督教論文集……八九四
基督の一生……五〇六
キリストの基督教……八九四
基礎の研究……八九四
基督の福音……五〇七
偶像の數々……八九四
空の空なる哉……八九四
燻れる麻……六九五
原人論講義……八九一
現代日本と基督教……八九四
現代の宗教哲學……七四五
國體と基督教との融合……八九四
コリント前後書……七九八
金剛經講義……八九一
坐禪の捷徑……八九一
坐禪用心記講義……八九一
坐禪和讃講話……八九一
寺院經濟史研究……七四九
寺院經濟史の研究……八四一
十字架の蔭に立つ……八九四
十字架の道……八九四
宗教英詩十二講……六九五
宗教經驗の諸相……七五二
宗教々育教授法要領……七五二
宗教と資本主義の勃興……七五二
宗教讀本……七四六
宗教復興……七四六
宗教早わかり……五〇七
四十二章經講義……八九一
靜なる細き聲……八九四
支那西教史考……八九四
主の祈の研究……八九四
釋迦の生涯……五〇六
修養禪味……九一二
初代の人々……八九四
信仰入門……八九四
新約聖書略註……七九八
新約聖書ロマンス……七五二
親鸞聖人全集……四一四
眞理を步む……六五五
隨喜稱名……八九一
靜坐のすゝめ……八九一
聖書動物考……七五二
聖書の特質……八九四
聖書民俗考……七五二
生命宗教と生命藝術……七五二
禪海一瀾講話……八九一
禪學講話……八九一

禪學讀本……六五五
禪宗聖典講義……八九一
禪宗曹洞聖典……八九一
禪關策進講義……八九一
禪と基督教……八九四
禪堂の修行と生活……五二一
禪門法語集……八九一
禪林句集……八九一
創造的禮拜……七五二
即身成佛義講義……八九一
即身成佛義講說……九五三
大乘院寺社雜事記……七四九
大乘佛教史論……五二一
對註新約聖書……七五二
多聞院日記……七四九
哲學及宗教……七五二
天台四教儀講義……八九一
天路歷程……七五二
十牛圖講話……六九〇
十牛圖講話……八九一
日本佛教史講話……五二一
日蓮聖人研究……四一四
日蓮の生涯……五〇六
白隱禪師法語集……八四八
白隱和尚全集……二六六
碧巖集提唱錄……五二一
碧巖錄講話……八九一
パスカルの宗教思想……八九四
パレスチナの面影……八九四
パレスチナの今昔……七五二
般若心經講義……六五四
般若心經講義……八九一
バンヤン恩惠溢る……八九四
病院で說教……八九四
不二の世界……六五四
佛遺教經講義……八九一
佛教概論……六五四
佛教とは何ぞや……六九〇
佛教入門……五〇七
佛教讀本……六九〇
佛教要典……四六四
佛陀の福音……五〇七
物質觀の革命……七五二
プラウニング信仰詩……八九四
法句經……五二一
法句經講義……六五四
法華經講義……八九一
法華經の行者日蓮……四六三
梵鐘・燈籠輯錄……五〇六
マタイ傳……七九八
マルクスよりイエスへの歩み……八九四
水と原生林とのはさまにて……九六四
妙法蓮華經……九六六
無門關講義……八九一
無門關鑽燧……五二一
明慧上人要集……五二一
モーセと小誡……六九五
約百記講演……八九四
預言文學……七五二
ヨハネ傳……七九八
夜船閑話……八九一
理趣經入門……九五三
臨濟宗聖典……八九一
臨濟錄講話……八九一
臨濟錄夜話……五二一
リビングストンの生涯……八九四
六方禮經講話……六九〇
ロマ書・ガラテヤ書……七九八
我が見たる植村正久と內村鑑三……八九四

○哲學

新しき修養……五〇七
偉人の修養……五〇七
英雄待望論……四〇三
王陽明の哲學……八四一
街頭心理學……六五〇
街頭の哲學……六五〇
簡明國民道德要領……九六五
韓非子講義……九六〇
韓非子鈔……四一〇
韓非子新釋……五二一
空手道教範……八八四
教育的心理學……九六七
現代倫理學の理念……八三七
國體本義……後付三
哲學史上……前付一
神ながらの道……前付一
名も無き民のこゝろ……前付一
心理學研究法……前付一
知識學の概念……前付一
東洋倫理……前付一
哲學の根本問題……前付一
人間の學としての倫理學……前付一
言志四錄……九五一
言志四錄新釋……九六八
孝經大字中庸……五二一
皇國國體要論……六〇三
孔子……七四六
孔子解說……六〇三
孔子聖蹟志……四六四
向上發展の基礎……五〇七
國體の本義……五四九
國民道德史論……五一四
國民道德要論……五一一
榮根譚講義……八九一
榮根譚講話……八九〇
榮根譚詳解講義……六九三
榮えゆく道……四〇五
左傳新講……六四二
四書講義……九六〇
思想善導……五〇七
兒童心理學……九六七
支那經學史概說……八三七
出世の礎……四〇五
荀子鈔……四一〇
修養雜話……四〇五
小學……九五一
小學精解……四一三
處世の道……四〇五
周濂溪の哲學……九六七
新國史の神髓と日本精神……九〇二
新論語講話……七四八
心理學……九六七
心理學の話……五〇七
精神科學序說……九〇二
精神修養……五〇七
世界格言全集……三一四
世界の格言と警句……五〇七
先哲叢談……九五一
莊子新講……四一一
莊子新釋……五一二
孫子解說……六〇三
孫子の新研究……二六三
大學解義……三一八
大學・中庸・孝經……九五一
大日本國號の研究……三一二
大日本國體概論……五四九
中庸解義……三一八
綴方心理學……四五五
哲學史概說……九六六
哲學の話……五四九
哲學早わかり……五〇七
哲學物語……六五〇
道德の原理……五四九
東洋精神の復活……四九八
東洋倫理學原論……六〇三
日本儒學史……八八四
日本精神……八四一
日本精神講話……四九八
日本精神史……九〇二
日本精神讀本……七四六
日本精神と武士道……七八六
日本精神の研究……八四一
日本精神の本質……八八四
日本精神文化大系……四五三
美學思想史……八九四
美學問題集……六〇三
批評的倫理學……七四一
平凡道德……五〇七
蒙求……九五一
孟子……九五一
孟子詳解……四一三
孟子解說……六〇三
孟子新解……三一八
孟子新釋……五一二
孟子通解……三一九
物の力、心の力……三六七
譯註論語……三六五
陽明學講話……七四八
陽明學演義……五四九
倫理學の話……五〇七
倫理講話……九六六
歷史と生の哲學……六五〇
老子解義……三一九
老子講話……七四八
老子解說……六〇三
老子新釋……五一三
老子新講話……九六八
論語……七四六
論語……九五一
論語解義……三一九
論語講義……六五五
論語詳解……四一三
論語新講義……九六八
論語新釋……五一三
論理學……七四五
論理學……九六六
論理學提要……八九四
論理學早わかり……五〇七

○教育

歐米數學教授參觀記……九六二
各科教授法精義……七四一
各學年の學級經營……九〇三
學校訓練の實際……四五五
學校災害の防備と訓練……四九八
學校社會學……七四一
學校新經營の實際……七四〇
學年別學級經營の實際……九七〇
革新的修身教育原論……七四一
斯の如き人は成功する……五〇七
教育科學……前付一
ペスタロッチー教育學……前付一

母の歌と愛撫の歌……前付一
國語教育科學……後付二
圖書月報……五九五
圖書總目錄……五九五
簡明教育大意……九六五
形象の讀み方教育……四五五
教育學精義……九五八
教育學說と我が國民精神……二六四
教育學の話……五〇七
教育的文學理論……九五八
教育と實際……八九四
現代教育概觀……九〇二
現代教育學の形態と其動向……七四一
現代新教育汎論……九〇二
現代の作法……七四一
現代讀方教育……九〇二
高學年の唱歌教育……九〇二
鄉土學習指導方案……二五九
鄉土教育運動……二五九
公民科教授資料……六〇三
公民科要典……三一三
公民としての心得……五〇七
國民としての常識……五〇七
國語教育學……四五四
國民教育の中心問題……二六四
國民叢書……五〇七
五千字記憶法……九六〇
今後の地理教育……七四〇
今後の綴方教育……七四一
今後の讀方教育……七四〇
裁縫新教授書……四五一
作業教育の本質……九六二
算術教育原論……九六二
算術教育指導原理……九〇二
算術指導系統的細案……九〇二
算術の本質と指導の根抵……九六二
宗教々育の諸問題とその實際研究……四九八
習字教育詳說……二六五
思春期男女の性教育……七九六
實際的勞作教育原論……九〇二
實踐解明の讀方教育……四五四
實踐國語教育……九五八
實踐國語教育……七四一
兒童教養の考へ方……四九九
兒童心理と家庭教育……七四〇
兒童圖畫心理學……七四〇
師範出身の異彩ある人物……七四〇
修養全集……四〇二
小學校教科用圖畫……九〇〇
小學校訓育細案……四九八
小學校の職業指導……六五〇
小學校修身科教授法……四九八
小學國語讀本解說並に教授細目……九七〇
新興讀方教育……六〇三
新時代の珠算教育……九〇二
新修身指導解說……九七〇
新聞を讀む基礎の知識……五〇七
生活教育學……二六四
生活辨證法的教授原論……四五四
生產的勤勞學校の經營……七四一
成人教育の話……五〇七
精神作興新讀本……六八九
青年の進むべき道……五〇七
體力測定……九六七
魂の書方教育……二六五
中學年の唱歌教育……九〇二
智的生活講義……八九〇
地理新教育精義……四五四
低學年の唱歌教育……九〇二
系統的日本東洋西洋教育史……九五八
圖書總目錄……五〇二
惱める農村教育の改造……九〇二
日本教育を考へる……九〇二
日本精神究明の國史教育……九〇二
日本精神陶冶の修身教育……九〇二
日本精神徹底の國語教育……九〇二
人間學と勞作教育の實踐……九〇二
人間生活の教育……七四一
農村教育原論……七四一
農村問題と鄉土教育……九〇二
野間淸治短話集……四〇五
輓近教育心理學提要……九五八
批判的教育學の問題……五四九
ヒルテイの教育の仕方……八九四
文學形象の綴方教育……九〇二
文化教育學原論……九〇二
米國學校の課外教育……七四一
辨證的教育學……四五四
本邦教育學說史……七四一
まことの國語教授……六八九
見たまゝ聞いたまゝ……九六二
明日の女性教育……七四一
優良小學校大觀……四九八
讀方考査の研究……九七四
讀方教育書……五五四
讀方教育に於ける鑑賞指導……九〇二
讀方教育の原理と實際……九〇二
讀方教育の新機構……四五四
讀み方教育要說……四五五

讀方力建設の教育……九〇二
理科教育……九五八
理科教育の原理と實際……九〇二
理想後の五型……七四一
立志より成功への近道……五〇七
禮拜と教育……六五〇
我子の愛育法……八九七

○教育資料

科學實驗玩具の作り方……六四八
書方手本新指導書……五五四
學藝會最新演技研究……八九六
學藝會資料全集……八九六
學藝會の實際……八九六
學校經營細案……四九八
學校講話新資料……四五四
實際教育問答叢書……四五五
兒童劇指導の實際……八九六
兒童劇の作り方と指導法……八九六
修身新指導書……五五四
小學國語讀本指導精案……五五四
小學書方手本指導精案……五五四
新講話資料……四九八
生活學校と學習統制……四五五
系統的教育科問題研究……三六六
父兄懇話會細案……四九八

○受驗參考書

海軍軍人獨學受驗志願入學立身法……六〇五
各科受驗の要點……九七六
高等學校—進路と展望……四九九
高等試驗基準問題解答……二六一
高等試驗基續問題解答……二六一
高等試驗行政、司法、外交、各科問題集……二六一
國語試驗問題要語精解……八九二
國文法書取試驗問題要綱精解……八九二
實檢受驗指針と問題全集……六〇五
師範學校入學試驗に出た問題と模範解答……九四九
受驗者の取るべき道……四九九
受驗生の大全科五年前、後期六年前、後期……九七四
受驗の英單語……八九二
受驗必勝秘訣五十箇條……三五九
巡査看手消防手志願者要訣……三六四
少年航空兵志願受驗立身法……六〇五
少年電信兵志願受驗立身法……六〇五
東京音樂學校、文檢、受驗準備、新曲聽音練習問題集……七九四
新受驗……六〇五
全國中等學校入學試驗模範解答……三六五
專檢高資高檢問題全集……六〇五
帝國大學試驗問題類纂……二六一
遞信官吏職員任官就職立身法……六〇五
鐵道採用受驗と問題集……六〇五
東京學校案內……九六一
東京府中等學校入學試驗問題及模範解答……九六一
獨學受驗合格の新研究……二六一
中學校女學校實業學校入學試驗に出た問題と模範解答……九四九
入學試驗問題及模範解答……九六一
中學校女學校實業學校入學試驗問題とその答へ方……九四九
筆問、筆答、口頭試問答へ方指導……九四九
普通試驗講座……二六一
模範答案研究……二六一
幼年學校問題集……六〇五
陸軍諸學校入學試驗問題集……六〇五

○少年少女讀物

愛犬バック物語……五一〇
愛の歌……三一四
愛馬きたかぜ物語……五一〇
青い鳥……四〇六
青葉の少女は唄ふ……八九六
赤い風船……八九六
赤穗四十七士……四〇七
新しい童話・一年生……四〇七
新しい童話・二年生……四〇七
新しい童話・三年生……四〇七
新しい童話・四年生……四〇七
アラビヤ夜話……九〇六
アラビヤン・ナイト……四〇六
アンデルセン童話……四〇六
生きた國史の學習……九八一
生きた地理の學習……九八一
生きた讀方學習書……九八一
生きた理科の學習……九八一
偉人の話・一年生……四〇六
偉人の話・二年生……四〇六
偉人の話・三年生……四〇六
偉人の話・四年生……四〇六

偉人の話・五年生……四〇六
偉人の話・六年生……四〇六
一、二年のお話遊び……八九六
一年生童話讀本……四〇六
一年の劇・對話・お話……九〇三
海から來た使ひ……三六五
海の魔王……九〇六
海邊のお城……八九六
麗はしき母……四〇四
英傑の少年時代……三六七
お母さんのお話(1)大將のお馬……四〇七
お母さんのお話(2)エレビツーウダン……四〇七
教へ得ぬ惱み……九七九
落葉ばらばら……八九六
お話劇集……八九六
面白い科學遊び……三一四
海軍讀本……四〇六
各科の研究……六〇八
輝く凱旋像……四〇五
學校劇集卷上低學年用……七九一
學校劇集卷下高學年用……七九一
學校劇集成……七九一
學校舞踊……九四〇
學藝會實演兒童劇集……八九六
學藝會用兒童劇集……九七一
學習指導……九七〇
學習心理學……七四〇
學童唱歌劇……八三七
霞の松原……八九六
ガリバー旅行記……四〇七
河うその赤んぼ……三六五
川中島合戰……四〇七
完成國語模範學習書……九八一
完成讀方算術……四〇四
級の光り……四〇四
苦心の學友……四〇一
グリム童話集……四〇七
黑太子物語……九〇六
教室劇集……八九六
航空讀本……四〇六
高等小學唱歌……四五〇
幸福な朝……九〇六
幸福の窓……九〇六
五科主要問題とその答へ方……九四九
五年生の童話讀本……四〇六
五、六年の對話集……八九六
國語腕だめし……九四八
國語算術新練習……九四九
國語讀本模範學習書……九八一
國語標準學習書……九四九
古事記物語……四〇六
小太郎と小百合……四〇三
子供繪卷の指導……七九三
子供に聞かせる偉人の話……六四八
子供に聞かせる科學の話……六四八
コドモ繪本……七三九
こどもの劇……九七九
こんちうのせいくわつ……四〇七
西鄕隆盛……八九六
さらさら小波……九七六
三科仕上げの要點……九四九
三科のまなこ……九四九
三科標準學習書……四〇六
三年生の童話讀本……九四八
算術腕だめし……九四八
算術學習の研究……九四九
算術仕上げの要點……九七六
珠算上達カード……九四九
算術標準學習書……九四九
算術模範學習書……九八一
兒童課外讀本……八四八
兒童劇……九七九
兒童劇選集……八九六
兒童劇と兒童映畫……八九六
兒童聖書物語……七九八
兒童漫畫……四〇六
小學英語讀本……四五一
小學英習字帳……四五一
小學國語讀本指導日案……九七〇
小學國史繪圖……六〇八
小學作方教本……五四八
小學兒童の詩……四五四
小學日本國史參考圖……五四八
小國農業書……四五〇
小公子……四〇七
小楠公……四〇七
少女百面相……四〇一
少女純情詩集……四〇一
少女模範文……四〇一
少年講談……四〇三
少年鼓手……四〇六
少年讃歌……四〇一
少年詩集……四〇一
少年戰線……四〇一
少年プリユータク英雄傳……四〇四
少年物語讀本……三六五
少年模範文……四〇一
少年聯盟……四〇一
ジヤン・バルヂヤン……四〇六
新式模範自習辭典……九四九
新兵器の發明物語……五一〇
新ロビンソン漂流記……四〇七
尋一學校劇集成……七九一
尋二學校劇集成……七九一
尋三學校劇集成……七九一
尋四學校劇集成……七九一
尋五學校劇集成……七九一
尋六學校劇集成……七九一
尋常小學唱歌……四五〇
數學遊戲壹百題……七五〇
優れた少年少女の話……三六五
聖書物語……四〇六
西遊記……四〇七
關ケ原合戰……四〇七
全科學習書……六〇八
全科受驗の急所と模範解答……九四八
全權先生……四〇一
續旅で見た動物の生活……五一〇
曾我兄弟……四〇七
體育ダンス教本……九〇三
太閤秀吉……四〇七
大全科學年……九四九
大楠公……四〇七
對話兒童劇……八九六
寶島探險物語……四〇六
竹取物語……四〇六
旅で見た自然界の不思議……五一〇
旅で見た動物の生活……五一〇
たんぽゝの家……三一四
忠烈軍神物語……三五九
力だめしの算術問題……九四九
知識の寶庫……六〇八
父の國と母の國……四〇四
月夜の白馬……九〇六
綴方仕上げの要點……九七六
低學年童謠唱歌兒童劇振付集……八九六
ドウブツノチエ……四〇七
動物物語……四〇四
童話の日本史……八四八
トルストイ童話集……四〇六
奴隷トム物語……四〇七
ドン・キホーテ……四〇六
蜻蛉のお爺さん……三六五
入學模擬試驗七十五回……九四八
新田義貞……四〇七
日本イソップ繪物語……四〇三
二年生童話讀本……四〇六
二年の劇・對話・お話……九〇二
人形劇脚本集……八九六
にんじん……四〇七
伸びる地理國史理化三科の要點……九四八
のらくら伍長……四〇三
のらくら上等兵……四〇三
はだかの王樣……九〇六
八大學習雜誌……九七〇
發明界の驚異……五一〇
發明家物語……四〇四
發明美談……四〇四
花の首輪……四〇四
母いづこ……四〇四
母を尋ねて三千里……四〇六
春を告げる鳥……四〇三
萬國の王城……四〇五
秀でた少年少女の話……三六五
白虎隊と彰義隊……四〇七
豹の眼……四〇五
ひろすけ兒童讀本……三六五
不思議の國アリス……四〇六
吹雪の夜……八九六
平家物語……四〇六
標準珠算教科書……五四八
冒險正ちやん……九六一
吼える密林……四〇五
幕春のメロデイ……八九六
牧場の少年……四〇六
魔法の城……九〇六
マリヤ樣のお星……三六五
漫畫常設館……四〇三
漫畫のお祭……四〇一
漫畫の罐詰……四〇三
漫畫水兵……九六一
○□サン、ヽ助サン……四〇三
ミツキー忠助……九六一
みなし兒……四〇六
村の少年團……四〇一
名作兒童劇……九〇三
猛獸境探檢記……四〇五
模範生の算術……九四九
模範生の地理……九四九
模範生の讀方……九四九
模範生の理科……九四九
模範大全科……六〇八
山彦退治……八九六
夕暮れのうた……九〇六
四年生の童話讀本……四〇六
讀方學習の研究……九四八
讀方、書方、書取百點カード……九四九
讀方仕上げの要點……九七六
ライオンと小供……九〇六
龍神丸……四〇五

伸びる地理國史理化三科の要點……九四八
のらくら伍長……四〇三
のらくら上等兵……四〇三
はだかの王樣……九〇六
八大學習雜誌……九七〇
發明界の驚異……五一〇
發明家物語……四〇四
發明美談……四〇四
花の首輪……四〇四
母いづこ……四〇四
母を尋ねて三千里……四〇六
春を告げる鳥……四〇三
萬國の王城……四〇五
秀でた少年少女の話……三六五
白虎隊と彰義隊……四〇七
豹の眼……四〇五
ひろすけ兒童讀本……三六五
不思議の國アリス……四〇六
吹雪の夜……八九六
平家物語……四〇六
標準珠算教科書……五四八
冒險正ちやん……九六一
吼える密林……四〇五
幕春のメロデイ……八九六
牧場の少年……四〇六
魔法の城……九〇六
マリヤ樣のお星……三六五
漫畫常設館……四〇三
漫畫のお祭……四〇一
漫畫の罐詰……四〇三
漫畫水兵……九六一
○□サン、ヽ助サン……四〇三
ミツキー忠助……九六一
みなし兒……四〇六
村の少年團……四〇一
名作兒童劇……九〇三
猛獸境探檢記……四〇五
模範生の算術……九四九
模範生の地理……九四九
模範生の讀方……九四九
模範生の理科……九四九
模範大全科……六〇八
山彦退治……八九六
夕暮れのうた……九〇六
四年生の童話讀本……四〇六
讀方學習の研究……九四八
讀方、書方、書取百點カード……九四九
讀方仕上げの要點……九七六
ライオンと小供……九〇六
龍神丸……四〇五

陸軍讀本……四〇六
リンカーン物語……四〇五
りんご……七五二
六年生童話讀本……四〇六
ロビンソン漂流記……四〇六

○文學

旭の心……六〇三
新しき日記文……五〇六
十六夜日記、東關紀行……四一〇
伊勢物語……九五一
伊勢物語新講……三六四
潮汐……前付一
春秋草紙……前付一
觸媒……前付一
靜夜集……前付一
世界文學……前付一
伊勢物語に就きての研究……八四一
異本徒然草……六〇二
雨月物語……四一〇
雨月物語詳釋……六四二
雨月物語、春雨物語……九四八
打たずに鳴る太鼓……六八九
運命に從ふ者……五〇六
江戸文學史……三五八
演劇概論脚本作法……三一四
鶯里隨筆……五〇六
奥の細道附芭蕉文集……九四八
落窪物語精解……四一一
鬼の念佛……六〇三
書取及文法學び方考へ方と解き方……四九九
樂訓……九五一
花月双紙……四一〇
花月物語……九四八
かざし抄……八四一
漢文……九七一
漢文解釋……三六一
漢文解釋新指導……六五二
漢文解釋の要項……九四九
漢文解釋要點の研究……九八一
漢文解釋法……四一三
漢文學講座……六九六
漢文考へ方……九三九
漢文初步學び方考へ方と解き方講義……四九九
漢文學び方考へ方と解き方……四九九
漢文の要點……八九二
漢文速成……七八九
檜園文集抄……八四一
檜園文集・夢後集要義……八九二
既知より未知を征服する漢文考へ方……四九九
近思錄愼思錄……九五一
近世國文詳解……四一三
近代外國文學講話……三一四
近代思想講話……三一四
軍人書翰文……九五二
軍人葉書と書翰……九五二
桂月全集……九六〇
藝術の話……五〇七
藝術民族學研究……六〇三
藝術論……八九五
警鐘の亂打……五〇六
劇と映畫の話……五〇七
硯友社の文學運動……七八九
現代作文の基礎論と實際並鑑賞……三六八
現代書翰文選……三六五
現代青年雄辯集……四〇三
現代大雄辯演說集……三六五
現代手紙大鑑……三六五
現代文解釋……三六一
現代文學の輪廓……五〇七
現代文藝思潮……八八五
現代文選評集……三一四
現代名家大演說集……四〇二
ゲーテの思想……六〇三
高等國文英華……六八九
口語體書簡文……五〇六
工房小閑……九〇八
國語漢文間題練習カード……四九九
國文解釋指導……六五二
國文解釋法……四一三
國文解釋要點の研究……九八一
國文學研究（萬葉集篇）……八四一
國文學書史……四五四
國文學の批評的研究……七八九
國文學史概要……五〇七
國文考へ方……九三九
國文初步學び方考へ方と解き方講義……四九九
古文眞寶鈔……四一〇
國文精說……五五〇
國文法概說……六〇三
國文法とその練習……三六四
國文法のたすけ……七九七
國文學び方考へ方と解き方……四九九
古今新寶……九五〇
古代文學研究……三六五
古文學踏査……八四一
古文眞寶新釋……五一二

五分間演說集……四〇二
作文の要點……八九二
作文學び方考へ方と解き方……四九九
作文寶典……七八七
雜草園……九〇八
座談術……四〇二
更科日記……九四八
三體千字文……三六六
三鞭酒の泡……七四六
殘夜焚艸錄……九〇八
シエストフ選集……四五二
慈眼山隨筆……九〇八
式辭演說大觀……三六五
式辭と演說……五四五
式辭と弔辭……二九〇
詩歌と劇……七五二
自然文學講話……三一四
柘榴のある庭……九〇八
書簡文作法……三一四
常山紀談……四一〇
上代民族文學とその學史……八三七
修辭學の要領……五〇七
受驗作文……三六一
十訓抄……九四八
十分間演說集……四〇二
朱鳥……九〇八
春畝遺稿……九六〇
商業書翰文……九八二
小說作法……三一四
新時代の論文……五〇六
新選書簡文……五〇六
新聞先覺評論……六〇三
新釋奥の細道……八九九
鈴蘭の歌へる……五〇六
駿臺雜話……九四八
精說國文法……五九九
正續文章軌範鈔……四一〇
正文章軌範講義……九六〇
世界を描く……六〇三
草書便覽……三六六
續文章軌範講義……九六六
村道……九〇八
體驗を語る……四〇五
大正文學十四講……八八五
竹取物語……九四八
玉勝間、花月双紙要義……八九二
玉かつま詳解……九四八
玉かつま鈴屋集……四一三
中古文學選釋……六九三
女子書翰文……五八二
堤中納言物語評釋……六〇三
徒然草……四一〇
徒然草……六〇二
徒然草……九四八
徒然草講義……三六五
徒然草講義……九六七
徒然草要義……八九二
手紙文實習講話……六八九
天體と日本文學……六〇二
東關紀行詳解……八九二
東西遊記……九四八
唐詩選詳解講義……六九三
動物と藝術……八九五
唐宋八家文……九五一
德川時代の和歌の研究……六〇三
毒禪……九五一
土佐日記東關記行……三六四
土佐日記新講……八八五
トマス、ハアデイ研究……九〇八
頓生菩提……八八四
日本文學書誌……三一四
日本文章史……六〇三
根岸短歌會の位相……六〇三
俳人芥川龍之介論……四六二
俳諧歲事記……三六七
放送芭蕉を語る……七四六
白雲集……八九九
芭蕉書簡集……九四八
藩翰譜、折たく柴の記……三六七
日のさす方へ……五〇六
美文精選……七四六
氷河のあくび……三一四
文學概論……五〇七
文學概論……八八五
文學鑑賞讀本……九〇八
文學放談……六五五
文學讀本……六〇三
文藝遊狂……五〇三
文藝科學讀本……五〇六
文藝社作文叢書……三一四
文章概論……五〇六
文章組立法……五〇六
文章三百六十五日……五〇六
文章春秋……六〇三
文章入門……五〇六
文章報國……九四〇
文章軌範……三五八
平安文學史……六〇二
方丈記……九四八
方丈記十六夜日記……九七五
ほるとがる文……九〇八
枕草子……九四八
正岡子規……七八九
滿點國語……九七五

萬葉集新解……七八九
未刊國文古註釋……八四二
武藏野日記……九〇八
紫式部日記……九五一
紫式部日記の研究……六〇三
紫式部日記評釋……四一一
名家記行漢文選……九五一
明魂……三六七
明治文學概論……八八五
明治文學史……三五八
明治文學十二講……八八五
明治文學序說……七八九
明治文學史論……七四六
最も要領を得た式辭弔詞と其の挨拶……三一四
本居宣長翁書簡集……九五八
模範讀方……九八〇
譯註徒然草……三六五
やさしい國文學史……四五五
野叟曝言……六〇三
山の隣人……九〇八
雄辯法講話……四〇三
謠曲選釋……七八九
幼學綱要……六〇四
吉野拾遺評釋……四一一
よろこびの泉……三六七
若人の胸へ……五〇六
若き男女の爲に其他……六〇三
吾が父を語る……三六七
歷史文學……七五二

○詩歌・俳句

新しい詩は如何して作るか……五〇六
一茶おらが春……八九九
輕雷集以後……前付一
柿本人麿……前付一
萬葉集研究年報……前付一
學生必吟……五一二
歌集くさふぢ……六〇三
漢詩作法……六〇三
漢詩入門……六〇三
漢詩絕句の作法と鑑賞……六〇三
漢詩の解き方……八九〇
川端千枝全歌集……六〇三
其角五元集全解……八九九
きさらぎ……六〇三
去來抄新講……八九九
句集淺草川……八九九
句集くぢら……八九九
句集道しば……八九九
句集新樹……八三三
現代詩歌選……九五六
現代詩創作講座……四五二
現代俳句大觀……四六二
興國詩選……五一二
高等學校、專門學校寮歌集……四九九
五元集全解……九四八
古今和歌集……九四八
古今和歌集遠鏡……六四二
古詩源注解第一……六〇三
故人春夏秋冬……八九九
古俳句講義……八九九
古俳句輪講合本……八九九
作歌入門……六〇三
作歌の本義……六〇三
作歌本義……六〇三
猿蓑定本……八四一
三體唐詩選講義……九六〇
山岳詩集……九四二
子規句集講義……八九九
詩語集成……六〇三
支那女流詩講……六〇三
抒情歌……九〇八
昭代一萬歌集……六〇三
新軍歌集……九五八
新興詩人選集……五〇六
新古今集の鑑……六〇三
新古今和歌集……九五七
新選一萬歌集……三六五
新川柳大觀……六四四
新俳句提唱……六〇三
炭俵定本……八四一
青年日本の歌……六〇三
川柳雜俳集……九六〇
川柳の社會觀……五〇六
短歌作法……三一四
短歌初學……六〇三
短歌の本質と表現法……六〇三
短歌は如何して作るか……五〇六
短歌文法七十講……六〇三
短歌用語小辭典……六〇三
短歌論攷……六〇三
長詩作法……三一四
唐詩三百首新釋……五一二
唐詩選……九五一
唐詩選詳說……三一九
唐詩選新釋……五一二
都々逸集……三一四
南窓歌話……六〇三
日本和歌史……六〇三
日本和歌讀本……六〇三
年刊歌集……六〇三
俳諧お遍路さん……八九九
俳諧古典集……八九九
俳諧史上の人々……八九九
俳諧大要……八九九
俳句季語解……八三三
俳句季語事典……六〇三
俳句季寄せ……八九九
俳句作法……三一四
俳句辭典……六〇三
俳句新釋……六〇三
俳句の考へ方と作り方……四九九
俳句の本質……八三三
俳句の道……六〇三
俳句は如何して作るか……五〇六
俳句表現辭典……六〇三
俳句文法六十講……六〇三
俳句用語……八九九
俳句論攷……六〇三
俳趣情景……五〇六
俳人惟然の研究……八九九
俳人許六の研究……九九九
俳文俳句集……九六〇
俳人北涯……八九九
俳文俳句新釋……三六一
放庵歌集……九〇八
蹏唄集……三一四
白詩新釋……三一九
白水郎句集……八九九
芭蕉全集……九六〇
晩翠詩集……四六三
百人一首の講義……六〇三
蕪村新花摘……八九九
萬葉集……九四八
萬葉集……九六七
萬葉集講義……五四九
萬葉集讚攷……八四一
萬葉集新辭典……六〇三
萬葉集全釋……八八四
三ケ島葭子全歌集……六〇三
名句の鑑賞……九〇六
明治大正俳句史……六〇三
山家集金槐集……九五一
梨葉句集……八九九
例句手帳……八三三
連句入門……八九九
連作俳句集……八三三
朗吟詩選……五一二
倭漢朗詠集……六四二
和歌の話……三六五
和漢朗吟集新解……三一九
和文和歌集……九六〇

○小說

あゝ玉杯に花うけて……四〇一
曉の歌……四〇一
饗宴……前付一
赤穗義士……五〇六
朝の雲雀……四〇一
海豹の如く……四〇一
亞細亞の曙……四〇五
仇討新八景……四〇一
嵐の小夜曲……四〇四
一直線……四〇一
いのちの洗濯……四〇一
浮世草子集……九六〇
海に立つ虹……四〇四
大石良雄……四〇三
大番頭小番頭……四〇一
怪奇探偵實話……四〇一
怪談名作集……九六〇
かがやく忠魂……八八七
花月双紙の講義……六四二
歌舞伎脚本集……九六〇
祇王……六〇三
消えゆく虹……四〇四
喜劇全集……四〇二
義太夫名作集春……三一四
義太夫名作集夏……三一四
絹糸の草履……四〇四
俠客……三〇五
戲曲の見方と考へ方作り方……四九九
夾竹桃の花咲けば……四〇一
基督の一生……五〇六
敎育講談全集……四〇三
源氏物語……四一〇
源氏物語……九五一
源氏物語講義……六四二
源氏物語講義……四一一
紅顏美談……四〇一
講談全集……四〇三
滑稽本集……九六〇
細菌の獵人……七九九
佐々木邦全集……四〇三
里見八犬傳……九六〇
眞田の智謀……五〇六
支那小說仙遊記……六〇三
島を愛した男……四一一
受驗小說選集……四九九
洒落本集……九六〇
新作仇討全集……九六〇
神州天馬俠……四〇一
新版義士銘々傳……四〇一
會我兄弟……五〇六

大楠公……五〇六
大陸非常線……四〇五
高山彦九郎……五〇六
武田信玄……五〇六
短篇小說新研究……八八五
忠犬八公物語……六五〇
父と子……四〇一
敵中横斷三百里……四〇五
豐臣秀吉……五〇六
長靴の三銃士……四〇三
嘆きの都……四〇一
涙の握手……四〇四
日蓮の生涯……五〇六
新田義貞……五〇六
人情本集……九八〇
白夜は明くる……四〇二
母……四〇二
母ごころ……八八七
バルザック全集……七八五
一粒の麥……四〇一
評判講談……四〇三
評判講談全集……四〇二
評判落語全集……四〇二
毬の行方……四〇二
三つの花……四〇四
未來花……四〇二
やぶれ傘……三〇五
落語全集……四〇二
良人ある人々……四〇二
われ等若し戰はば……四〇一

○語學

王義之全集……九八〇
王獻之全集……九八〇
歐陽詢全集……九八〇
楷書飲中八仙歌……七四三
楷書歸園田居……九八〇
楷書帖範……九八二
楷書千字文……九八〇
楷書千字文……九八二
かれ荻葉帖……七四三
漢碑集……九八〇
顏眞卿全集……九八〇
館本十七帖……九八〇
九成宮醴泉銘……九八〇
行書帖範……九八二
行書千字文……九八〇
行書千字文……九八二
行書諫院題名記……七四三
虞世南全集……九八〇
言海……二六三
國語……九七一
國語學の知識……五〇七
國語學史概論……四〇二
國語學說鈴……四〇二
五體千字文……九八二
國文法の基礎……九四八
國文法の知識……五〇七
國民習字教範……九八二
三體千字文……七八七
三體千字文……九〇六
三體千字文……九八二
實業習字帖……九八二
實用書翰文……九八二
初學臨池指鍵……九八〇
書簡用語くづし方辭典……九八二
書道帖範……九八二
書道大鑑……七四六
書道寶典……九〇六
書譜……九八〇
諸國方言索引……六〇二
常用字くづし辭典……九八二
行書帖範……九八二
繻遂良全集……九八〇
新興書道……九八〇
新修書道講義……九八〇
草書帖範……九八二
草書千字文……九八〇
草書千字文……九八二
大字疱姑仙壇記……九八〇
女子習字帖……七〇九
女子習字帖(補習用)……七〇九
女子習字帖……九八二
女子文のかきぶり……九八二
女子新習字帖……七四九
趙子昂集……九八〇
綴り方倶樂部……八四五
篆書千字文……九八二
日本口法講義……五四九
日本文典……三六一
日本文法講義……五四九
日本文法論……五四九
日本名筆全集……五五七
七體いろは……九〇六
北魏集……九八〇
名家書道鑑……二六五
孟法師碑……九八〇
用字便覽……三一〇
要領適確なる國文法……三六六
隸亭序、半截碑……九八〇
臨伊都内親王願文……九八〇
臨鍾本十七帖……九八〇
臨九成宮醴泉銘……九八〇
臨書譜……九八〇
臨遂良行書千字文……九八〇
臨大字疱姑仙壇記……九八〇
臨智永楷書千字文……九八〇
臨智永草書千字文……九八〇
臨繼色紙素性集……九八〇
臨孟法師碑……九八〇
臨蘭亭半截碑……九八〇
臨禮器碑……九八〇
禮器碑……九八〇
隸書千字文……九八二

○辭典

アクセント辭典……四五四
英語類語辭典……八八二
英和辭典……五九三
英和商業經濟辭典……四〇九
エス和新辭典……八八九
改修言泉……五九四
化學用語新辭典……八八九
樂語辭典……七九四
漢和新辭典……五四五
機械用語新辭典……八八九
基督教大辭典……七五二
基督教大辭典增補版……七五二
金融大辭典……七四四
現代文描寫辭典……三六五
工業化學語彙……三〇八
工業用語新辭典……八八九
航空用語辭典……九五六
廣辭林……三二七
公民科辭典……七九七
國漢新辭典……九六三
國語新辭典……九六一
國史大辭典……六〇四
國史辭典……六〇八
國民百科大辭典……五四六
故事成語大辭典……三二〇
コンサイス英和新辭典……三二七
最新字典……九三九
國語新語最新大辭典……九〇六
サン英和辭典……七九八
ジェム英和英辭典……三一六
ジェム和英辭典……三一五
字源……三一八
字源(漢和字典)……三二〇
實務用語辭典……九〇九
小學英和辭典……五四八
植物學用語新辭典……八八九
植物辭典……七八七
詳解漢和大字典……五四七
書翰辭典……五四五
寫眞百科大辭典……九四六
新釋重要故事熟語集……九四九
新式英和辭典……三六四
新式辭典……五九三
新英和小辭典……四〇八
新英和大辭典……四〇八
新漢和辭典……七八七
新漢和大字典……四六四
新修辭典……七八七
新修大辭林……七八七
新修日用辭典……五五五
新修百科大辭典……四六四
新撰俳諧辭典……五九四
新佛和小辭典……四九七
新佛和熟語辭典……四九七
新聞語辭典……五〇二
新和英小辭典……四〇九
新和英大辭典……四〇九
新佛和辭典……五九三
新佛和辭典……四九七
スクール和英新辭典……四〇九
スクール英和新辭典……四〇九
世界地名大辭典……七四一
禪宗辭典……八九一
全植物辭典……五四七
ソウエード略語辭典……四九七
大英和辭典……五四六
大英和辭典……五九三
大辭典……六四五
大辭典追加……七五一
大獨日辭典……表ノ四
註解和獨辭典……五四八
地理辭典……六〇八
電氣術語新辭典……八八九
動物學用語新辭典……八八九
獨和辭典……五九三
獨和辭典……七五一
獨和小辭典……七五一
獨和新辭典……八八九
獨和大辭典……五九三
獨和大辭典……七五一
獨和法律經濟辭典……七〇四
日常寶典……五四五
日本文學大辭典……四一五
日本民俗學辭典……七九九
日用辭典……五四五
日用辭典……六〇八
農業大辭典……七四四
標音佛和辭典……四九七
標準英語文法作文辭典……七三七
佛敎大辭典……五九四
佛和新辭典……八八九
佛和兵語辭典……四九七
佛蘭西語不規則動詞逆引

辭典……四九七
便利重寶辭典……七八七
僕の英語辭典……四〇八
ポケット支那語辭典……四五九
本邦原色茸類辭典……九五六
明解漢和大辭典……七八七
蒙古語大辭典……八〇〇
モダン新語辭典……七八七
模範佛和大辭典……四九七
用言活用廻轉式圖表……七九七
理科辭典……六〇八
露和新辭典……八八九
露和大辭典……四九七
露和大辭典……五九三
和獨辭典……六九三
和佛辭典……四九七

○外國語

イソップ獨習……三六四
イソップ物語……六九三
伊太利語四週間……六四三
一、二年の英語讀本……九五九
一、二年の英作文……九五九
一、二年の英文法……九五九
一年生の英語單語集……九五〇
印象的獨逸文法……六九九
英語……九八二
英語一萬暗誦法……三六六
英語音聲……五九四
英語會話の實際と應用……九五九
英語考へ方問題撰集……四九九
英語單語一萬五阡……三六四
英語基本單語集……四九九
英語單語集……八三九
英語單語と熟語……三六四
英單語連鎖式暗記法……三五九
英語四週間……六四三
英語重要單語の統計的研究……七三七
英語と末語の比較研究……九五九
英語の第一歩……九六四
英語の發達……九五九
英語貿易實務捷徑……三六四
英語學び方考へ方と解き方……四九九
英作文の第一歩……九六四
英作文要點の研究……九八一
英作文の練習……三六四
英單語連鎖式暗記法……三五九
英文解釋の力……九五九
英文解釋要點の研究……九八一
英文釋義……六九三
英文新論語選……八九〇
英文正解法……三六四
英文手紙の正しき書方作り方……九五九
英文東洋經濟新報……六〇六
英文法動詞の形と意味……九五〇
英文法の第一歩……九六四
英文法の學び方……三六四
英文法汎論……九五九
英文法講義……六四二
英文法精義……二六九
英文法要訣……九五九
英文和譯……三六〇
英文和譯着眼點……九五九
英文和譯新指導……六五二
英文和譯の練磨……九七一
英文和譯學び方考へ方と解き方……四九九
英譯法然上人行狀繪圖……七九三
エスペラント四週間……六四三
改訂英文構成法……四一二
化學英語の研究……八八九
化學獨逸語解釋研究……八八九
化學の第一歩……九六四
學生英文學選……四一一
漢文作法要說……六四二
基本英文法……二六八
グリムお伽噺講義……六九九
クローン獨逸日常生活……六九九
現代日英會話……六九三
工學英語解釋研究……八八九
工學獨逸語解釋研究……八八九
工業英語研究……八八九
高速度英文解釋……三六四
西園寺公(英文)……六〇三
佐川の英文解釋……四五七
三年生の英語……九五〇
三年生の英語單語集……九五〇
三、四年の英作文……九五九
三、四年の英文解釋……九五九
三、四年の英文法……九五九
試驗によく出る英語の解釋法……三六四
自修者の獨逸文法……八八九
自修者の獨文和譯……八八九
自修者の獨逸語……八八九
自修書の佛蘭西語……八八九
自修者の和文獨譯……八八九
受驗英語讀本……五九九
受驗生英語重要單語集……九五〇
實驗英語音聲學……九五九
實用英文典……二六八

實用獨逸文法講義……六九三
實用日英會話……六九三
實用日獨會話……六九三
實用日佛會話……六九三
實用日露會話……六九三
支那語一、二、三の讀方から……八八九
支那語講座……六四三
支那語四週間……六四三
島を愛した男……四一〇
初等英語の自習……九〇六
初等ロシア語讀本……五九四
初年生の英語……八八九
初年生の獨逸語……八八九
初年生の佛蘭西語……八八九
初年生のロシヤ語……八八九
重要單語……四一二
上級生の英文法……六四二
上級生の英語……九五〇
新英作文着眼點……九五九
新式英文和譯狙ひ所……四一二
新式和文英譯狙ひ所……四一二
新選英文和譯問題……九五〇
新標準英文典……二六九
新和文英譯……九五九
ス氏英文學詳解……九六〇
西班牙語四週間……六四三
大學入試本位英單語類撰……八三九
單語と熟語……四五七
テストペーパーインケミストリー……九四〇
獨逸語四週間……六四三
獨逸語短期大學……六四三
獨逸語譯註文庫……五〇三
獨逸商業通信文……五九四
獨逸難文詳解……六九三
獨逸語標準單語辭典……六九九
獨逸語問題と解答……六九九
獨文解釋法……五九三
獨逸文詳解……七〇四
獨文抄釋……六九九
動詞叙法の研究……九五九
動詞時制の研究……九五九
ドストエフスキー研究……四一二
日支會話……八〇〇
日支會話及時文……六九三
日本趣味……四一〇
二年生の英語……九五〇
二年生の英語單語集……九五〇
日滿露會話……五九四
日蒙會話……八〇〇
標準英單語の合理的覺え方……八三九
フアツションスケツチ……九四一
フイフテイ、フエイマス、ストリーズ獨習……三六四
佛語の發音及文法……五九四
佛蘭西語四週間……六四三
佛蘭西語短期大學……六四三
葡萄牙語四週間……六四三
模範獨逸語講座……六九九
モルナール傑作短篇集……六九九
ユース、オブ、ライフ全譯講義……三六四
臨床短文例……六九九
例解文法カード……六九九
露西亞語學階梯……五九四
露西亞語四週間……六四三
露西亞語書翰文……五九四
露西亞語文法……五九四
露西亞文法……五九四
分る樣に說明した英作文の書き方……三六四
和獨教材……五九四
和文英譯……三六〇
和文英譯の急所……九七一
和文英譯の學び方……三六四
和文英譯新指導……六五二
和文英譯要訣……九五九
和文英譯練習問題解答……九五〇
和文英譯……五九四
和文英譯根抵……六九三
和文英譯練習……五九四

○歷史・傳記

日韓合邦秘史……後付三
室町時代庭園史……前付一
新聞薈叢……前付一
御觸書寬保集成……前付一
山岡鐵舟……後付三
東亞先覺志士記傳……後付三
漱石先生……前付一
內村鑑三先生……前付一
穗積歌子……前付一
提督秋山眞之……前付一
宿南昌遺稿……前付一
福澤先生を語る……前付一
赤穗義士……五〇六
新しき年中行事……五〇七
維新精神史研究……六〇三
エヂソン傳……四〇二
江戶城大奧秘史……三一二
大鏡……九五一
大隈重信……四〇二

女形研究……六〇二
家系々圖の合理的研究法 六〇二
近古史談……三六五
近古史談……九五七
近代快傑錄……八四三
九條武子夫人……四〇二
教育家としての石田梅岩 六〇三
源氏物語の音樂……五四九
現代音樂家列傳……八八三
現代史學大系……六九六
建武中興の回顧……七四八
講談日本外史……九六〇
弘法大師傳集覽……五二一
國史……九七一
國史教育論……七四八
國史大系……六〇四
國史と日本精神の顯現……九六七
國史附圖……九四九
國文大年表……八八八
國民綜合日本史……八八八
古事記……九五一
古事記精解……四一二
古事記全釋……八八四
古事記傳……六〇四
古事記讀本……六四二
古事記評釋……七八八
今日の歷史……五〇七
西行……六五五
眞田の智謀……五〇六
眞田幸村傳……三二二
猿の群れから共和國まで 六九七
山水と歷史……八四三
史記列傳講義……九六〇
史學概論……六九七
シッダールタ……六五五
釋迦の生涯と思想……五〇六
春秋左氏傳鈔……四一一
殉難錄稿……六〇四
聖德太子古憲法明辨……九四〇
十八史略……三六五
十八史略……九五一
十八史略講義……九六〇
十八史略新講……六四二
十八史畧詳解……四一三
十八史略新解……三二〇
十八史略新釋……五二二
上級日本史……九八二
神皇紀……三六五
神皇正統記……四一〇
神皇正統記・吉野拾遺……九五一
神代の國史……四六三
神典、古事記講話……七四八
新撰小學國史教師用書基本的研究……八八八
新人物論……七四六
親鸞……六五五
姓氏家系大辭典……四四九
西洋史……三六〇
西洋史……九五五
西洋史……九七一
西洋史概論……六九七
西洋史重要問題解答……九五〇
西洋拜見……六九七
西洋歷史講義……六九三
西洋歷史の知識……五〇七
西洋歷史の準備……九八二
西洋歷史の要點……八九二
西洋歷史學び方考へ方と解き方……四九九
西洋歷史要點の研究……九八一
世界十傑……四〇二
世界出版美術史……五〇六
世界二十傑傳……七八六
全譯日本外史……九六〇
綜合日本史概說……八八八
綜合日本史概說……八八八
綜合日本史概說……八八八
曾我兄弟……五〇六
讀史廣記……七四八
大楠公……五〇六
大日本史……四〇二
大日本歷史集成……六九一
太平記……九四八
高山彥九郎……五〇六
武田信玄……五〇六
忠烈軍神物語……三五九
徹底せる西洋歷史……四一三
徹底せる日本歷史……四一二
德川家康傳……三一二
讀史廣記……七四八
豐臣秀吉……五〇六
東洋史……九五五
東洋史……九七一
東洋史觀……五四九
東洋史要釋……六九七
東洋歷史講義……六九三
東洋歷史の知識……五〇七
東洋歷史の準備……九八二
東洋歷史要點の研究……九八一
東洋史重要問題解答……九五〇
ナポレオン……四〇二
新田義貞……五〇六
二宮尊德……四〇二
日本外史……三六五
日本外史……九五一
日本外史解義……五二二
日本外史講義……九六〇
日本外史詳解……四一三
日本外史新解……三二〇
日本外史新釋……五二二
日本國史年代圖表……五四八
日本史……九五五
日本史重要問題解答……九五〇
日本宗教史……三五八
日本上代染草考……八四一
日本紳士錄……三〇九
日本史精義……六〇三
日本政記山陽詩鈔……九五一
日本政記論文精解……四一三
日本讀史年表……六〇四
日本武士道史……八八八
日支文化交涉史……八九〇
日本文化史……五五〇
日本米食史……六〇一
日本盲人史……七九九
日本歷史年表……五〇七
日本歷史の知識……五〇七
日本歷史の準備……九八二
日本歷史の要點……八九二
日本歷史要點の研究……九八一
乃木將軍……四〇二
美談逸話集……四〇二
標準西洋歷史精義……九八二
標準東洋歷史精義……九八二
標準日本歷史精義……九八二
藤田東湖……七九九
米國新聞史論……六〇三
平家物語……九四八
平家物語……四一〇
平家物語……五四九
平家物語新釋……三六四
平治物語……九四八
保元物語……九四八
放鷹……六〇四
梵鐘・燈籠輯錄……五〇六
增鏡……四一〇
增鏡……九四八
增鏡解釋……九三九
增鏡新講……三六四
增鏡の講義……六四二
增鏡讀本……九三九
滿洲新史……七九〇
滿洲帝國全史……七四〇
滿洲民族變遷史……七九〇
滿點三科國史地理理科……九七五
民間傳承論……六九七
ムツソリニ傳……四〇二
明治大正の事蹟……五〇七
明治編年史……八三五
模範生の國史……九四八
耶蘇傳……七五二
リヴイングストン傳……六九五
ルーズベルト……四〇二
六國史(續日本紀上)……八四一
倭寇と山田長政……三一二
我等の國史……七四八

○地理・地圖

憧れのキャンピング……四一〇
泉を聽く……九四二
大峰山脈と其溪谷……九四二
奥秩父……九四二
奥秩父と其附近……九四二
外國地理……九七一
外國地理……九八二
外國地理の要點……八九二
外國地理要點の研究……九八一
簡明世界地理……四一二
簡明日本地理……四一二
九州の山々……九四二
キャンピングの指導……九四二
霧の旅……九四二
近畿の山と谷……九四二
銀嶺に立つ……九四二
ケルン……九四三
郷土地理研究……二五九
コンサイス大東京地圖……九一〇
最新極東大地圖……五五三
最新世界現狀大地圖……五五三
最新世界地圖……九六〇
最新大大阪全圖……五五三
最新大東京全圖……五五三
最新大日本交通分縣全圖……五五三
最新日本地圖……九六六
山鄉風物誌……九〇八
市町村便覽……八四〇
自動車道路哩程一覽地圖附……九〇三
社會地理學の動向……二五九
新選詳圖……八九〇
新大東京區別町名交通便覽……九六一
新大東京全圖……九六一
新日本圖帖……二五八
新滿洲國大地圖……九六一
生產地理精義……七九三
積雪期登山……九四二
世界大地圖……九六一
世界地理……五五五

世界地理重要問題解答……九五〇
世界地理の要點……八九二
瀨戸内百圖誌……二五九
全國市町村便覽……九五三
全國鐵道遊覽地圖……五五三
全國名所めぐり……五〇七
綜合鄉土地誌……九七四
祖母嶽……九四二
大東京區分地圖……五五二
大東京區分地圖……九六一
大東京交通案内圖……八四四
大東京市制全圖……八四四
大東京新編入二十區區別圖……八四四
大東京中央市街地圖……八四四
大東京と郊外の行樂……七〇三
大東京明細地圖……五五二
大日本分縣地圖……九六一
大滿洲國詳圖……八〇〇
旅と滯在……九四二
地圖……二七二
地圖、製圖、彫刻、印刷……五五三
地理通論……九七一
地理通論……九八二
地理通論重要問題解答……九五六
東京から日歸り旅行地圖……五五二
東京附近山の旅……九四二
東京附近の山々……九四二
登山……四一〇
東北の山々……九四二
南紀風物誌……九〇八
日本產業地域圖……九六〇
日本人口密度圖……二五八
日本對外通商地圖……八〇〇
日本大地圖……九六一
日本地理……九五五
日本地理……九七一
日本地理……九八二
日本地理の知識……五〇七
日本地理の準備……二〇二〇
日本地理重要問題解答……九五〇
日本地理要點の研究……九八一
ハイキングの手引……九四二
濱名湖の地域研究……二五九
標準外國地理精義……九八二
標準日本地理精義……九八二
マッターホーンの北壁を攀づ……九四二
滿洲經濟地圖……八〇〇
滿洲國經濟地理圖說……二五八
滿洲國地圖……七九〇
滿洲國地名便覽……七九〇
滿洲國地理掛圖……四五一
三日スキー術……九四二
峰、峠、氷河……九四二
南アルプスと其の溪谷……九四二
名所を尋ねて一、二泊……八四四
山！……九四二
山を行く……九四二
山小屋……九四二
山の寫眞のうつし方……九四二
山のスケッチ……九四二
山の手帖……九四二
山へ溪谷へ……四一二
行雲とともに……九四二
雲と人生……九四二
要領適確なる外國地理……三六六
六甲……九四二
わかり易いスキー術……九四二

○法律

有閑法學……七四六
有効な證書の書方……九七四
英國法提綱……六〇三
英法概論……七九二
會計法規輯覽……八三六
會計法規通論……五四九
カード式法規問答……九〇三
法律學辭典……前付一
商事調停法解說……前付一
民法……前付一
行政法……前付一
法學論集……前付一
法學研究……前付一
社會法と市民法……前付一
新小切手法……前付一
世界法の理論……前付一
法律哲學概論……前付一
穗積陳重遺文集……前付一
關稅法大意……九七八
行政法口述要領……二六一
警察犯處罰令釋義……七九二
刑事訴訟法、裁判所構成法答案構成要領……二六一
刑法總論各論口述要領……二六一
刑法史の或る斷層面……九七八
刑法問題解義……二六一
憲法答案構成要領……二六一
憲法政治……五五〇
憲法と政黨……七四五
憲法早わかり……五〇七
憲法問題解義……二六一
現行學令類纂……八三六
現行法令輯覽……八三六
現行令規全集……八三六

健康保險關係法規集……八三六
交通事故と賠償責任……九七二
公法學の諸問題……六四一
公民法規要典……三一三
國際公法問題解義……二六一
債權各論……九七二
債權總論……九七二
債權法總論答案構成要領……二六一
債權法各論答案構成要領……二六一
最新行刑令釋義……七九二
最新六法全書……七九七
殺人犯檢擧の端緒……七九二
事業會計實務參考法規……三六八
時局國際法論……七四六
市制町村制及府縣制……八三六
實用所得稅營業收益稅相續稅計算法……三六八
自動車交通事業法關係法規全書……九〇三
自動車取締法規集……九〇三
自動車取締法規全集……九〇三
出版關係法規……五〇六
出版法規總覽……五〇六
商事調停法と和解……八八四
商法概論……九七二
商法總論……七〇二
親族法要綱……七九二
新民事訴訟法學說判例總攬……七九二
神社法令類纂……八三六
選擧法罰則解說……七九二
相續法講義案……七九二
大審院判例抄錄……七九二
擔保物權法……七九二
帝國憲法逐條要義……九七八
帝國憲法口述要領……二六一
手形と小切手の書き方と見方……三六七
手形法及小切手法……六〇二
ナチスの法律……七四六
二十世紀に於ける死刑……六〇二
日本憲法の基本主義……七四六
農林商工法令輯覽……八三六
陪審法早わかり……五〇七
破產法……七〇一
破產法問題解答口述問答集……二六一
破產和義中續記錄……九七八
百般願屆書式例と其解說……五五五
物權法……七九二
物權法答案構成要領……二六一
平時國際法大意……五五六
兵事法令類纂……八三六
法學入門……七四六
法學餘錄……九七八
法學論文集……九七八
法窓五月雨雜記……九七七
法律學概論……九七三
法律學說判例總覽……七〇二
法律學說判例總覽續編……七〇二
法律學說判例要旨集……七〇二
法律綱要……五五〇
法律と人情の新戰術……九二三
法律の知識……五〇七
北米合衆國憲法政治要說……七九三
民事訴訟法問題解義……二六一
民法口述要領……二六一
民法總則……七九二
民法總論答案構成要領……二六一
民法一九二條の研究……六〇二
民法問題解義……二六一
民法問題解答口述問答……二六一
破產法問題解答口述問答……二六一
勞働契約の研究……九七八
六法全書……三六四
六法全書……五五六

○政治

赤字時代の財政諸問題……六〇二
犬養木堂氏大演說集……四〇二
和蘭の印象と國際法廷の九箇年……六〇三
革新論及革新運動を戒むガンデイと其思想……六〇三
議會政治の檢討……七四五
公民政治論……五五〇
國家改造の原理及其實行……七四五
亞細亞大觀……後付三
日本之亞細亞……後付三
滿洲問題……前付一
國家と階級……前付一
世界大戰原因の研究……前付一
最近世界外交史……五五一
自治政策……五五〇
新日本建設……六〇二
新聞政治外交記事の基礎知識……五〇三
政治外交面の讀み方……五〇三
政治財政史の基礎的研究……五四九
政黨早わかり……五〇七
旋風裡の日本……六〇三
租稅判例總覽……八三六
地方稅改革問題……六〇二
直接民主政治……七四六
東亞の形勢と日本の將來……六〇三

東洋政治學……六〇二
永井柳太郎氏大演說集……四〇二
濱口雄幸氏大演說集……四〇二
非常時に際し全國民に愬ふ……九六八
非常時の認識と青年の覺悟……九六八
普通選擧の話……五〇七
松岡全權大演說集……四〇二
滿洲國の財政問題……六〇二
滿蒙講座……六〇二
ムッソリニの獅子吼……四〇二
ルーズヴェルトの手紙……六〇二

○經濟

伊太利政治經濟研究……六〇二
インテリ向き新利殖法……八四〇
英吉利政治經濟研究……六〇二
オン・セイイング・プリース……六〇三
外國爲替・金・銀……三六八
外國爲替新讀本……六〇二
會社經營効率の研究……六〇六
株界二十年……六〇六
アダム、スミス、マルサス、リカアドオ……前付一
日本經濟史概要……前付一
經濟論集……前付一
經濟學研究……前付一
日本資本主義分析……前付一
經濟學……前付一
株金拂込論……九七八
貨幣と物價……三六八
勘業債券の買方賣方……六〇三
管理通貨論……七四四
金買入法と金の諸問題……六〇三
金解禁早わかり……五〇六
金銀讀本……七四六
金と銀……七四四
金本位制の研究……六〇六
金問題概論……七四四
金融機構論……五五〇
金融の基礎知識……六〇六
近代貨幣理論の種々相……五五〇
經營學年報……七四四
經營學の基礎的諸問題……七四四
經營財務論……三六八
景氣變動論……五五一
經濟學の知識……五〇七
經濟記事の基礎知識……五〇一
經濟記事の基礎知識……九〇九
經濟參謀本部論……七四四
經濟圖表の見方……六〇六
經濟年鑑……六〇六
經濟面の讀み方……五〇三
現代經濟學概觀……七四四
公債の話……五五〇
厚生經濟論……七四四
小口金融の話……五五〇
國民經濟組織の缺陷と世界恐慌……五五一
國民經濟讀本……七四六
米專賣の問題……六〇三
産業貿易觀……八四三
實踐金融論……八四三
社會經濟思想概論……七四五
重工業株の徹底的研究……五〇一
常識經濟學……五五〇
人口統計に於ける諸問題……六〇二
新聞經濟記事の基礎知識……五〇二
新貿易方策と爲替……五五一
世界經濟機構と景氣變動……五五一
世界經濟の基礎知識……三六八
世界經濟の現勢……七四四
世界經濟論……七四四
一九三五年投資相談……八四三
戰時經濟論……七四四
戰時財政論……七四四
貸借對照表の作成と吟味……五五〇
ダイナスト……六〇三
大日本外國貿易月表……六〇六
短期新東日日表……六〇六
貯金のすゝめ……五〇七
帝國歲計豫算の話……六〇六
獨逸政治經濟研究……六〇三
東株日日高低精覽……六〇六
日本金融論……六〇六
日本經濟史……六四七
日本經濟年報……六〇六
日本財政論……五五一
日本の景氣變動……六〇六
農村經濟論……七四五
ハイデッカーの存在學……三六八
半世紀財界側面誌……六〇六
非常時の財源問題……六〇三
フアッシヨ的統制經濟……七四五
物價指數の理論と實際……三六八
佛蘭西政治經濟研究……六〇三
ブロック經濟論……七四四
平價切下論……七四五
米國政治經濟研究……六〇三
米穀統制論……七四四
米穀問題解決方策……六〇三
貿易統制論……七四四
松江藩の經濟史研究……七四四
滿蒙産業統計……八〇〇
滿蒙資源要覽……八〇〇
滿蒙資源論……七四五
三つの經濟學……五五一
明治大正財政詳覽明治大正國勢總覽……六〇六
豫算の解說……七四四
利殖相談……五五〇
リフレーションの基礎理論……七四四
我國主要産業に於けるカルテル的統制……五五〇

○社會

アジアに叫ぶ……四六五
異國趣味……七四六
田舍と都會……二五八
榮養概念・食物知識……六〇一
歐洲最近の動向……七四五
歐米の展望……八九〇
警鐘の亂打……五〇六
皇道日本の世界統制……九二三
國家社會主義論策……七四八
財づる物語……六〇六
世界と日本……前付一
日本資本主義社會の機構……前付一
世界文化と日本文化……前付一
巴里滯在記……前付一
産業朝鮮……七四四
支那讀本……六〇三
支那風俗春秋……六〇三
社會運動史……六〇三
社會改造運動の心理學的考察……六〇二
社會學……七四五
社會事業研究……七四五
社會政策學概論……七四八
社會問題早わかり……五〇七
趣味の滿洲……七九〇
世界列强のプロパガンダ戰……三六七
赤露脫出記……七四六
調理概論……六〇一
日本主要食品榮養圖解……六〇一
日本と蘇聯邦……七四五
日本米食史……六〇一
日滿交際常識……七九〇
パンの科學……六〇一
人を說く法……八四三
貧者必勝……八四三
ファッシズム批判……七四五
不惑の人生觀……八四三
文明に對する叛逆……六〇三
米國總動員計畫……五〇二
北滿洲概觀……七九〇
滿洲概觀……七九〇
滿洲國……五四八
滿洲商工事情……七九〇
滿洲統治論……七四五
滿洲讀本……七九〇
滿蒙副業資源讀本……六〇三
問題の支那……六〇三
山島社會誌……二五九
利權物語……六〇六
糧友……六〇一

○數學

演習高等數學講座……六九六
會計監査……三六八
會計事務管理論……三六八
解析幾何學……五九八
解析幾何學……七八八
解析幾何學演習……九六八
幾何……九七二
幾何學……七八八
幾何學考へ方……九三七
行列及び行列式……前付一
初等微分幾何學……前付一
統計學概論……前付一
計算法及び計算器械……前付一
幾何學軌跡作作圖解法吟味……九三九
幾何學研究と受驗新法……九三九
幾何學作圖題解法……七八八
幾何學初步根本定理重要問題の解き方……三六四
幾何初步學び方考へ方と解き方講義……四九九
幾何學精解……九六八
幾何學の獨力解決……三六四
幾何學の要點……八九三
幾何學び方考へ方と解き方……四九九
幾何新指導……六五三
幾何正解……九八二
幾何のあたま……九五一
工業數學……七八八
高等數學通論……五〇五
高等代數學……四五六
高等代數學通論……五〇五
高等平面三角法……六九七
高等平面立體圖學……五〇四
最近幾何學概要……七九三

最新數學公式……四一二
最新珠算の詳解……九〇六
作圖及軌跡……七九三
三角……一〇〇九
三角のあたま……九五一
三角法學び方考へ方と解き方……四九九
算術……一〇〇九
算術考査の研究……一〇一三
算術講義……六九三
珠算自習法……九〇六
算術重要問題解答……九五〇
算術重要問題基本問題の正しき解き方……三六四
算術正解……九八二
珠算傳票……九〇六
算術の完成……九五五
算術の正しき解き方……八九二
算術學力增進法……九四五
珠算の學び方……九〇六
算術學び方考へ方と解き方……四九九
算術問題精解……八九二
珠算の彈き方……三六四
實踐數學……三〇六
實用解析學……七八八
實用解析幾何學講義……六九三
初等解析幾何學學び方考へ方と解き方……四九九
初等幾何學……七八八
初等實用數學……七八九
初等數學解析……七八九
初等數學史……七八九
初等數學の基礎……七八八
初等代數學……七八八
省略算……九四五
省略算法……七四九
新算術解義……五九八
新算術指導書……九七六
新式珠算教本……三六四
新修高等數學講座……六九六
新定幾何問題集……八九四
數學閑話……九六八
數學公式……七八九
數學ハンドブック……八八九
數學問題練習カード……四九九
稅務會計……三六八
積分學演習……九六八
損益計算……三六八
代數……一〇〇九
代數因子分解活法……九三九
代數學……五〇五
代數學演習……七八八
代數學講義……九六八
代數學の要點……八九二
代數學狙ひ所……九六八
代數受驗要點の研究……九八一
代數初步學び方考へ方と解き方講義……四九九
代數新指導……六五三
代數正解……九八二
代數のあたま……九五一
代數のちから……三五六
代數學の獨力解決……三六四
代數學び方考へ方と解き方……四九九
圖計算及び圖表……七八八
圖式算術解法……九六七
統計數學……五九八
特種會計……三六八
初めて學ぶ人の代數學……九〇六
輓近初等數學講座……六九八
微分學演習……九六八
微文學積分學序論……五〇五
微分積分學……五〇五
微分積分學講義……六九三
普通算法……七四九
フーリエ級數及積分論……五〇五
フーリエ級數とルジヤンドル並にベツセルの函數（應用數學）……五〇五
平面解折幾何學講義……六九三
平面三角法、地圖作製法……七八九
平面三角法講義……六九三
滿點算術……九七五
明解算術……九〇六
メートル換算ハンドブック……九六三
メートル法の解說……二七〇
メートル法の知識……五〇七
問題集……七四九
融合問題指導……六五三
用器畫法詳解講義……六九三
立體解折微分幾何學……九六八
ローレンツ微分積分學……五〇五

○理學

蟻と蜂……七四七
有機化學……六九六
有機化學演習……七八九
有機化學講義……六九三
有機化學要論……一〇〇九
一般理科……九八二
有機化學……前付一
物理實驗法……前付一
動物學辭典……前付一
四種基本雲形圖……前付一
特種雲形圖……前付一
氣象學……前付一
遺傳學……四五六
宇宙の秘密……五〇七
橫觀有機化學……五九六
橫觀無機化學……五九六
應用化學大觀……六九三
應用動物圖鑑……五〇〇
應用物理學實驗……五〇四
化學……三六〇
化學……九五五
化學……九七一
化學……九八二
化學計算法學び方考へ方と解き方講義……四九九
化學語彙……五〇四
化學講義……三五四
化學綱要……四五六
化學重要問題解答……九五六
化學總論……四五六
化學の要點……八九二
化學方程式……五〇四
化學本論……八九二
化學學び方考へ方と解き方講義……四九九
化學問題詳解……八九二
化學要點の研究……九八一
科學萬能の世界……五〇七
家庭科學の話……五〇四
球面天文學……五〇四
氣象學講話……七九六
蟻塔……六九七
近世有機化學講義……五〇四
菌類界の特異現象……二六六
高山植物の培養……九四二
鑛物……九七一
鑛物及地質學講話……七四〇
鑛物學……九六一
昆蟲採集便覽……三一一
昆蟲圖鑑……四五五
昆蟲七〇〇種……七三七
色彩の知識……八八九
自然科學の進化……五〇七
實驗化學講座……六九六
重水素と重水……四五六
集成昆蟲圖鑑……九六二
趣味の理化實驗……七四〇
樹木和名考……五〇五
植物……九七一
植物及動物……二六二
植物學……九五五
植物學講話……七四〇
植物學重要問題解答……九五六
植物學通論……五〇五
植物學問題精解講義……八九二
植物學要點の研究……九八一
植物分類學（被子植物篇）……五〇五
植物分類學（裸子植物篇）……五〇五
植物名彙……三一一
初等量子力學……四五六
新電子論……五〇四
新無機化學……三〇七
水產動物圖鑑……九六二
生物學概論……八九四
生物學精義……八四六
生物物理學要論……五九七
臺灣植物圖說……七九三
彈性體及流體の力學……五〇四
地球化學……五〇五
地形學原論……七四〇
地文學講義……六九三
鳥類原色大圖說……九六二
徹底せる化學研究……四一二
徹底せる物理研究……四一二
天體の話……六五〇
天文小話……七四七
電氣磁氣學……五〇四
電磁氣學精義……六九三
電子論……五〇四
傳書鳩……七四七
動物學……四五六
動物學……九五五
動物……九七一
動物學……九八二
動物學概論……二六七
動物學講義……六九三
動物學重要問題解答……九五六
動物學の要點……八九二
動物學要點の研究……九八一
譜物採集便覽……三一一
動物圖鑑……五〇〇
動物學び方考へ方と解き方……四九九
東洋蘭圖譜……五六〇
內外植物誌……四五〇
日常科學の話……五〇七
日用化學講義……三五四

有機化學講義……六九三
有機化學要論……五九六
一般理科……九八二
有機化學……前付一
物理實驗法……前付一
動物學辭典……前付一
四種基本雲形圖……前付一
特種雲形圖……前付一
氣象學……前付一
遺傳學……四五六
宇宙の秘密……五〇七
橫觀有機化學……五九六
橫觀無機化學……五九六
應用化學大觀……六九三
應用動物圖鑑……五〇〇
應用物理學實驗……五〇四
化學……三六〇
化學……九五五
化學……九七一
化學……九八二
化學計算法學び方考へ方と解き方講義……四九九
化學語彙……五〇四
化學講義……三五四
化學綱要……四五六
化學重要問題解答……九五六
化學總論……四五六
化學の要點……八九二
化學方程式……五〇四
化學本論……八九二
化學學び方考へ方と解き方講義……四九九
化學問題詳解……八九二
化學要點の研究……九八一
科學萬能の世界……五〇七
家庭科學の話……五〇四
球面天文學……五〇四
氣象學講話……七九六
蟻塔……六九七
近世有機化學講義……五〇四
菌類界の特異現象……二六六
高山植物の培養……九四二
鑛物……九七一
鑛物及地質學講話……七四〇
鑛物學……九六一
昆蟲採集便覽……三一一
昆蟲圖鑑……四五五
昆蟲七〇〇種……七三七
色彩の知識……八八九
自然科學の進化……五〇七
實驗化學講座……六九六
重水素と重水……四五六
集成昆蟲圖鑑……九六二
趣味の理化實驗……七四〇
樹木和名考……五〇五
植物……九七一
植物及動物……二六二
植物學……九五五
植物學講話……七四〇
植物學重要問題解答……九五六
植物學通論……五〇五
植物學問題精解講義……八九二
植物學要點の研究……九八一
植物分類學（被子植物篇）……五〇五
植物分類學（裸子植物篇）……五〇五
植物名彙……三一一
初等量子力學……四五六
新電子論……五〇四
新無機化學……三〇七
水產動物圖鑑……九六二
生物學概論……八九四
生物學精義……八四六
生物物理學要論……五九七
臺灣植物圖說……七九三
彈性體及流體の力學……五〇四
地球化學……五〇五
地形學原論……七四〇
地文學講義……六九三
鳥類原色大圖說……九六二
徹底せる化學研究……四一二
徹底せる物理研究……四一二
天體の話……六五〇
天文小話……七四七
電氣磁氣學……五〇四
電磁氣學精義……六九三
電子論……五〇四
傳書鳩……七四七
動物學……四五六
動物學……九五五
動物……九七一
動物學……九八二
動物學概論……二六七
動物學講義……六九三
動物學重要問題解答……九五六
動物學の要點……八九二
動物學要點の研究……九八一
譜物採集便覽……三一一
動物圖鑑……五〇〇
動物學び方考へ方と解き方……四九九
東洋蘭圖譜……五六〇
內外植物誌……四五〇
日常科學の話……五〇七
日用化學講義……三五四

日用物理學講義……三五五
日本海藻圖譜……五六〇
日本貝類圖譜……七三七
日本高山植物圖說……九四八
日本昆蟲圖鑑……五〇〇
日本細胞學史……五〇五
日本地史の研究……五〇五
日本植物圖鑑……五〇〇
日本水產動植物圖集……三一一
日本動物圖鑑……五〇〇
日本の寄生蟲と其病害……七四七
日本博物學年表……八四一
博物辭典……七九三
博物通論重要問題解答……九五六
パラデイン植物生理學……五〇五
標準一般理科精義……九八二
標準植物學精義……九八二
標準動物學精義……九八二
物理……九七一
物理化學ハンドブック……八九九
物理學……三六〇
物理學……九五五
物理學一般……五九七
物理學演習……九六八
物理學三週間……八九二
物理學實驗法講義……五九七
物理學大要……五〇四
物理學通論……五〇四
物理學の要點……八九二
物理學問題詳解……八九二
物理學要點の研究……五九七
物理計算學び方考へ方と解き方……四九九
物理と化學……六九七
物理の第一歩……九七〇
物理學び方考へ方と解き方講義……四九九
細胞學總論……五〇五
マツバカ學の發達とその歷史的批判的考察……五〇四
萬有科學の知識……五〇七
萬年青圖譜……五六〇
三重縣植物誌……七九三
無機化學……六九三
無機化學演習……九八八
無機科學要論……五九六
無線電話の知識……五〇七
無線電話早わかり……五〇七
最も分り易い化學計算法……八九二
モノシリ博士の理科……六五〇
藻類系統學……五〇五
野外植物圖譜……五五九
理化學講話……七四〇
力學演習……九六八
力學講義……六九三
わかり易い物理學計算法……八九二

○醫學・衞生

アチドージスとアルカローヂス……二七一
醫界展望……七九五
醫者の手帳より……六〇三
遺傳の研究……七九三
榮養概念、食物知識……六〇一
榮養食と治病食……三六七
家畜寄生蟲病學……六九四
家畜産科學……六九四
家畜生理學……六九四
乳幼兒の哺育と看護……前付一
應用黴菌學……前付一
家畜組織學……六九四
家畜組織學各論……六九四
家畜病理解剖學……六九四
簡明外科各論……七九五
簡明臨牀細菌學……七九五
近世解剖學……七九五
健康聖典……三五九
皇漢藥草妙菜圖鑑……九七四
産科婦人科讀本……七四六
獸醫外科各論……六九四
獸醫外科總論……六九四
獸醫調劑術並投藥法……六九四
獸醫內科學讀本……六九四
獸醫藥理學……六九四
實驗兒科學……七九五
耳鼻咽喉科學……七九五
小眼科學……七九五
小外科總論……七九五
小兒病看護の秘訣……九七四
小兒病藥處方箋……九七四
掌中醫學新辭典……七九五
新醫藥學大辭典……七九五
新産科學……七九五
新婦人科學……七九五
診療醫典……九〇五
性的惡習と神經衰弱の新療法……三六七
性と生殖の原理……五〇五
生理衞生……一〇〇九
生理衞生學……九五五
生理衞生要點の研究……九八一
綜合日光療法……七五〇

組織學實習指針……六九四
蹄病學……六九四
頭腦明快成功法……三五九
どもり矯正法……九六七
吃音はなほる……六五〇
內外醫治療の仕方……七九五
內科醫臨牀の爲に……七九五
內科讀本……七四六
內科臨牀診斷學……七九五
日光浴と治病問答……七五〇
日本主要食品榮養圖解……六〇一
肺病征服記……八九七
不老强精の秘訣……九二二
便秘……二七一
法醫學……七九五
臨牀家畜診斷學……六九四
臨牀の日本……七九五
臨牀放射線學……七九五
和漢洋古典本草醫籍絕版書……三六三

○商業

印刷と出版の實際知識……九二二
運送業會計……三六八
運動具の製造販賣……七三八
商學研究……前付一
商業教科書……五五〇
商業經營……五五〇
商業政策……五〇一
商業讀本……九六八
商業簿記提要……七〇〇
商事要項……五〇七
商品の包裝……六〇二
生命保險會社の批判……六〇六
相場戰術百態……六〇六
手形及小切手の實際知識……九二二
尖端商賣百プラン……七五〇
度量衡器計量器販賣……七三八
貿易實務……九一一
貿易政策原論……六〇二
簿記會計の知識……七〇〇
簿記原理……三六八
簿記の要點……八九二
ホフマン經營學……七〇二
理化學器械博物標本販賣……七三八

○交通

海運運賃市場……五五一
航海の話……七四七
鐵道粁程及乘車賃計算便覽……六〇六
鐵道の知識……九〇九
東京書籍商組合史……五九五
會計實務誌……七〇〇
會社かゞみ……六〇六
海上賣買論……九一一
革新商業簿記教科書……六〇三
株式會社會計……三六八
株式會社年鑑……六〇六
株式投資の實際……三六八
官廳會計……三六八
勘定學說研究……七〇二
企業財政の比率分析……七〇二
銀行實務誌……七〇〇
金融業會計……三六八
グツドウキルの研究……七〇二
經營學研究……七〇二
傑作廣告圖案大集成……七四六
決算書の作り方見方……七〇〇
ケスター貸借對照表論……七〇二
原價會計……三六八
原價計算の要領……七〇〇
小賣店問題……七四四
產業貿易……五五一
實修商業簿記……五〇七
事務必携……七〇〇
出版の實際知識……五〇六
商業會計……三六八
商業教科書……五五〇
商業經營……五五〇
商業政策……五〇一
商業讀本……九六八
商業簿記提要……七〇〇
商事要項……五〇七
商品の包裝……六〇二
生命保險會社の批判……六〇六
相場戰術百態……六〇六
手形及小切手の實際知識……九二二
尖端商賣百プラン……七五〇
度量衡器計量器販賣……七三八
貿易實務……九一一
貿易政策原論……六〇二
簿記會計の知識……七〇〇
簿記原理……三六八
簿記の要點……八九二
ホフマン經營學……七〇二
理化學器械博物標本販賣……七三八

○工業・工藝

新しい家庭工業……七四七
有機化學構造論……五〇四
有機合成化學……五〇四
異常電壓と送電系統の防護……九六二
一般自動車講義……九〇三
渦卷ポンプ……三〇六
榮養化學概論……三〇七
エネルギー使用法……三六七
オートバイの實際知識……九〇三
應用X線工學概說……九六二
應用航空力學……九六二
應用彈性學……七八八
應用テンソル解析……四五六
應用電氣の智識……九〇六
耐震構造汎論……前付一
鐵筋コンクリート……前付一
橋梁……前付一
テレビジョン……前付一
電燈及び照明……前付一
電氣鐵道……前付一
水車……前付一
齒車……前付一
有機化合物分析法……前付一

機械工學便覽……前付一
山崩……前付一
地籍測量……前付一
石油地質學通論……前付一
波動力學……前付一
改良住宅及文化住宅……八九三
化學工業概說……七四七
化學工業の智識……九〇六
花瓣裝飾の話……一〇一一
灌漑工事設計資料……五九五
感光色素……七八九
ガラス……六九七
機械工學の智識……九〇六
機械用語集……八八九
機械採炭と切羽片磐の運搬……九六二
規矩術……五九五
規矩術……六九二
氣體製法化學……七八九
氣體分析化學……七八九
基本圖案學……六九七
切拔細工透し彫刻圖案三百種……八九三
金銀銅採鑛冶金學……九六二
金屬材料及其加工法……三〇六
金屬總論……五〇四
近代數寄屋住宅設計資料……八三四
近代の金屬材料……五〇四
近代欄間百種……五九五
珪酸鹽工業要覽……五〇五
建築設計製圖と青寫眞の作り方……八九三
建築圖案文化生活と其住宅……八九三
健康住宅設計圖案集……五九五
現代工業政策論……二六一
光化學……七八九
工業會計實務誌……七〇〇
工業概論……五五一
工作機械の實際的檢查法……九六三
工業研究輯覽……九六三
工業政策要論……五五一
工業分析法……九六三
工事用機械取扱法……六九二
工務者製圖設計計算便覽……九六三
鋼索運輸……九六三
酵素化學概論……三〇七
最新オートバイ全集……九〇三
最新應用セメント工學……九六二
最新實務電氣工學……九六二
最新自動車操縱法……九〇三
最新自動車試驗問答全集……九〇三
最新式自動車圖解全集……九〇三
最新自動車用語解說……九六二
最新測量學……五〇四
最新電氣機械器具試驗法……九六二
材料試驗法……五〇四
寺院門鐘樓建築構造工作法……八九三
脂質……四五六
膠質化學……七八九
膠質學……四五六
質點の力學……五〇四
實驗工學講座……六九六
實驗電磁及高周波測定……九六三
實驗試驗の受方其練習法……九〇三
實地試驗機械工學……九六二
實用渦卷ポンプ……九六三
實用機械工學講座……六九六
實用金屬材料講座……六九六
實用製造化學講座……六九六
實用電弧鎔接法……五九五
實用電弧鎔接機……九六三
自動車故障發見並修理法……九〇三
自動車試驗模範問答全集……九〇三
自動車詳解……九〇三
シボレー自動車の知識……九〇三
住家設計圖案……五九五
鑄物工場の原價計算……六九七
初級力學……九六三
商店デパート陳列家具設計資料……八三四
硝子……九六三
神社建築構造工作法……八九三
新型シボレー自動車圖解……九〇三
眞空管……六九七
數寄屋建築……六九二
住みよき小住宅の設計……三六二
製圖便覽……九七四
石數尺〆早わかり……九五〇
石綿……九六三
西洋建具圖案百八十種……八九三
西洋建築天井圖集……五九五
西洋住宅百圖……五九五
セメント概論……三〇六
纖維素塗料……五〇五
全國標準問題と答案の書方……九〇三
TBZ機械製圖解說……九六二
創作手工藝圖案集……七四二
裝飾構成の研究……八八九
測量便覽……九七四
大工術構造篇……八九三
大工術造作篇……八九三
大建築學……五九五
耐酸耐蝕金屬及合金……五〇四
建具圖案百種……八九三
短波長電波の話……七四七
茶室構造圖解……八九三
圖解化學工業……七四七
鐵筋コンクリート理論……七八八
鐵鋼の腐蝕の防錆の研究……五〇四
手摺と持送り圖案……八九三
點火電氣裝置講義……九〇三
電界百話……二六〇
電氣學の智識……九〇六
電氣回路交流現象論……九六三
電氣工學の智識……九〇六
電氣鎔接……九六二
電弧鎔接の實際……九六二
電鐵叢話……二六〇
店頭廣告圖案集……八九三
獨逸表現的彫刻……八九三
床棚圖案……八九三
碍子及び棄管と高壓工學……九六二
土木設計便覽……九七四
塗料……六九六
塗料及塗裝法……五九五
隧道施工法……五九五
日本繪様圖解……八九三
日本家具圖案百種……八九三
日本建築詳細圖……五九五
日本工業政策……五〇一
日本石材精義……二六六
日本住宅及別莊建築……八九三
日本住宅百圖……五九五
日本テレビジョン學會年報……九六三
日本標準規格……九六三
熱導傳論……五〇五
燃料問題圖說……七四七
飛行機の力學……七八九
飛行機の理論と設計……五〇四
微生物化學概論……三〇七
標準規格解說……二六六
腐蝕と防蝕法……五九五
ブラウン管の應用……九六三
文化建具圖案……八九三
ベクトルとテンソル……五〇四
勉强法……九〇三
窓と欄間圖案……八九三
滿洲高粱研究……七九〇
滿洲の鐵業……七九〇
滿洲の纖維工業……七九〇
無線工學講座……六九六
木工術……七九三
木工初步の家具……八九三
木材尺〆見積便覽……八九三
木材着色塗料法……八九三
模範自動車教科書……九〇三
門と玄關圖案……八九三
冶金學……五〇四
輸出向工藝品圖錄……九六三
洋風住宅圖案百種……八九三
欄間と書院組子圖案百種……八九三
和洋建築規矩術……八九三
和洋建築構造……九六三
和洋建築入口窓圖集……五九五
和洋住宅設備圖集……五九五
和蘭商店及住宅建築……八九三

○農業・園藝

新しい草花園藝……九七三
新しい農會必携……七五〇
育雛の秘法……九〇四
こやしをやるには……七五〇
歐米較近の養豚法……七五〇
溫室植物の話……一〇一一
家畜と園藝……七五〇
果樹蔬菜の作り方……七五〇
花卉園藝の經營……九五〇
土壤膠質化學……前付一
畑作新說……後付一
日本米價變動史……後付一
日本農業史……後付一
世界農業史……後付一
畜産學……後付一
肥料學……後付一
園藝植物繁殖法……後付一
蠶絲經濟概論……後付一
生絲市場論……後付一
農民心理の研究……後付一
簡明農業經營要覽……後付一
珠根草花の話……九七三
菊の接木栽培法……九四四
きつと當る育蠶法……七五〇
絹絲學……九六〇
漁村問題と其對策……六〇三
勤勞國民學校農村塾……四九八
現代農村政策の新研究……七五〇
原色園藝植物圖譜……五五九
小鳥飼方の實驗……二七〇
米……九六〇
こやしをやるには……七五〇
昆蟲寫眞生態……九〇四
最新花壇園藝……九〇四
最新養兎法……九〇四

作業科園藝精義……四五四
搾乳衞生……九四四
サフランと黃蓮の栽培法……七五〇
産牛講話……九四四
産業統制政策……三六八
産業組合經營論……三六八
産業組合の話……九六八
産業組合論……九六〇
椎茸栽培法……九四四
四季園藝虎の卷……三六五
飼鳥秘訣……二七〇
實驗葡萄全書……九〇四
實際養狸……八四〇
實利主義の副作物……七五〇
趣味の有用植物園藝篇……九六二
趣味の有用植物果樹蔬菜篇……九六二
趣味の有用植物藥用植物篇……九六二
趣味の四季園藝……七六八
昭和農民讀本……七五〇
小農經營學……九〇四
自力更生に依つて救はれた村々……三五三
信用組合論……九〇四
新産業組合論……七五〇
新生活の曙光……七五〇
新農業精說……九〇四
新農村の建設……七五〇
實用農産製造學……九六六
食用作物學……九六六
新産業組合論……七五〇
森林生産學……九六六
水産化學……九六六
水田裏作物栽培法……七五〇
スツポンの飼ひ方……七五〇
青果價格の構成……九〇四
成功せる農村振興策……三六七
成功の近道……三五三
全國優秀農家組合行脚……二六七
全村學校……三五三
草花栽培の話……九七三
ソーセージ篇……九〇四
村民訓……三五三
堆肥と綠肥……七五〇
大輪朝顏栽培秘法……九七三
畜産製造論……九四四
畜産學……九六六
竹林の仕立方……七五〇
竹林の仕立方……七五〇
乳と乳製品の物理學……九〇四
地方青年の覺醒……三五三
茶樹栽培及製茶法……九〇四
帝國水産讀本……四五五
田畑山林測量法……九〇四
東北地方大凶作の原因、現狀、對策……三五三
土壤微生物學……九六六
農家と副業……七五〇
乳牛の經營……九四四
日本産業の合理化……六〇六
日本主要産業論……三六八
日本水産學……九〇四
日本の甲蟲……九〇四
日本の農業……五五一
鷄の疾病と其の治療法……九〇四
農家記錄帳……七五〇
農家と副業……七五〇
農家寶典……九四四
農家の副業……七四七
農家副業大典……七九三
農學原論……九〇四
農業及園藝……二六二
農業革新論……九四四
農業實習日誌……五四八
農業保險の理論と實際……七四五
農業小組活動の實際……二六七
農業經營と農政……二六七
農業細菌學……九〇四
農業の認識と更生の道……三五三
農具の知識……七五〇
農作物病害要說……九〇四
農産製造學……九六六
農産製造實習法……九〇四
農産物增收法……五三五
農山村天産物の利用……三五三
農事組合講話……三五三
農村更生講話……三五三
農村更生の道……三五三
農村計劃……三五三
農村社會學……三五三
農村庶民金融……三五三
農村振興根本方策……三五三
農村青年の行くべき道……四九八
農村精神講話……三五三
農村の生くべき道……三五三
農村の更生を語る……三五三
農村の窮乏と對策……六〇二
農村發展の基礎……五四七
農村問題解決の神髓……三五三
農村問題對策……六〇二
農道說語……三五三
農民道の眞髓……七四五
農民への大號令……三五三
農民に味方して……七五〇
蜜蜂の生活……九〇八
花の作り方……九一二
百姓だつて人間だ……三五三
病害蟲の藥劑驅除……九〇四
肥料學……九〇四
肥料詳說……二六七
品種改良法……七四五
副業十羽養鷄……三一四
米作原理の話……九五〇
米作十二講……七五〇
保育事業と農繁託兒所……七四五
滿洲の水産業……七九〇
麥作多收法……七五〇
木材の乾燥……九〇四
模範村行脚……七五〇
山羊……九四四
優良農村の經營……三五三
養鷄生産物の利用及加工法……九〇四
養鷄百科全書……三六五
養鷄の研究……八四〇
養豚全書……九四四
養豚秘訣……七五〇
陸苗栽培法……七五〇
理想の農家……三五三
理想農村の建設……三五三
理想の村……三五三
林業實驗と實習……九〇四
林業簿記及收益評定論……九〇四
レツキス兎とは何か……七五〇
若き人々へ……三五三

○軍事

衞戍條令衞戍勤務令……九五二
海軍須知……九五二
騎兵須知……九五二
軍隊及團體炊事獻立カード……六〇一
軍隊內務書……九五二
輜重特務兵須知……九五二
輜重兵須知……九五二
武道極意……後付三
旅順入城式……前付一
劍術教範……九五二
工兵須知……九五二
山砲兵須知……九五二
重砲兵須知……九五二
手旗信號法圖解……九五二
射擊教範……九五二
體操教範……九五二
陣中要務令……九五二
日本兵食史……六〇二
兵器大觀……五四九
歩兵五書……九五二
歩兵四書……九五二
歩兵新須知……九五二
歩兵須知……九五二
歩兵操典……九五二
野砲兵須知……九五二
陸軍刑法、陸軍懲罰令……九五二
陸軍の話……五〇七
陸軍禮式……九五二

○美術

繪畫教習……九二三
寫眞……前付一
平福白穗畫集……前付一
龍の中より……九四七
花鳥畫の本質……八九五
カメラ……九四七
魚介と藝術……八九五
草と藝術……八九五
藝術、寫眞の知識……九四六
月刊ライカ……九四七
現像の實際……九四七
現代圖案カット大集成……七八七
現代圖案文字大集成……七八七
原板の手入……九四六
最新寫眞大講座……九四七
山嶽寫眞の研究……九四六
寫眞化學……三〇八
寫眞器さげて歐米へ……九四六
寫眞術五十講……九四六
寫眞術の第一步……九四六
寫眞處方集……九四六
寫眞の構圖……九四七
寫眞のうつし方……九四七
寫眞の失敗と其原因……九四六
寫眞の新技法……九四六
寫眞問答……九四三
寫眞燒付と引伸……九四七
趣味の寫眞術……八九五
樹木と藝術……七八六
書畫便覽……八八九
新圖案の基礎……九四六
人物寫眞のうつし方……九四六
整色寫眞のうつし方……九四七
整色寫眞の研究……九四七
正則寫眞術……五〇六
世界出版美術史……八九五
蔬果と藝術……八八九
天然色寫眞術……

廣告圖書類別索引

南宗畫法……九九六
日本畫實習帳……八八三
日本美術の知識……七四〇
俳畫講座……九三九
バテーの自家現像……九四六
花と藝術……八九五
巴里畫壇の全貌……七四二
美術辭彙……九六〇
引伸寫眞術……九四六
美術大講座……五〇九
美術百科全書……四一六
美術方寸……九〇八
フイルム寫眞術……九四六
密着と引伸……九四七
蟲と藝術……八九五
洋畫鑑賞十二講……六〇三
露出の秘訣……九四七
私の寫眞……九四七

○音樂

ヴアイオリン音樂解說……八八三
ヴアイオリン奏法……八八三
ヴアークナーの生涯と藝術……八八三
オルガン奏法……八八三
音樂解說……八八三
音樂檢定受驗必成……七九四
音樂史……八八三
音樂受驗者のために……七四〇
音樂の知識……五〇七
音樂美學……八八三
音樂理論講義……八八三
音樂學入門……九六〇
學校用兒童唱歌劇集……七九一
樂典諸問題と解答……七九四
樂典の講義……八八三
歌謠音曲集……九六〇
管絃學論……八八三
觀世流改訂謠本……六九八
觀世流昭和版謠本……九七五
交響管絃樂……八四七
作曲法……八八三
社交ダンス早わかり……八八三
ジヤズ音樂……八八三
唱歌ベイジエントの研究……八三七
筆のふほんと歌本……八九八
新音樂教育の研究……四五四
新曲と聽音……七九四
新社交ダンス……八八三
新編ピアノ演奏法……八八三
スコアの讀み方……八八三
對位法學……八八三
タンゴの踊り方……八八三
聽音新曲習の要訣……七九四
ハーモニカ新奏法……八八三
ピアノ奏法……八八三
フオツクストロツトの踊り方……八八三
ブルースの踊り方……八八三
謠曲……九四八
謠曲三百五十番……九六〇
レヴユウ百科……八八三
和聲學……八八三
ワルツの踊り方……八八三

○運動

學校體操精義……九六四
昭和天覽試合……四〇三
審判の仕方……二七〇
テニスの理論と戰術……八九〇
軟式野球規則……二七〇
軟式野球コーチ……二七〇
野球規則解說……六五六
野球規則問答集……二七〇
野球の話……五〇七
野球用語小辭典……六五六
圍棋年鑑……六四六
映寫の理論と實際……七四〇
弓道……四一〇
弓道教本……九四六
弓道新射法……四一〇
曲球の撞き方……二七〇
競馬の儘け方……四一三
劒舞術教範……三一四
酒道……四一〇
趣味の犬……七八六
將棋大衆講座……四五三
玉の撞き方……二七〇
圍十郎の芝居……三一〇
茶道……四一〇
釣狂五十年……九四五
投入花と盛花の見方と生け方……三一四
ベビー、ゴルフ練習法……二七〇

○娛樂

○家政・婦人讀物

愛兒の導き方……八九七
新らしい和服の仕立方……三六五
新しき年中行事……五〇七
犬の飼ひ方とその訓練法……三六五
衣服材料の基礎知識……九七一
榮養と食物……九七一

學校と家庭の兒童衛生……三六五
家計簿記……九七一
家事衣類整理綱要……九七一
家事衛生要義……九七一
家事經濟……九七一
家事經濟提要……九七一
家事經濟要說……九七一
家事教授法要義……九七一
家事科……九八三
家政學講義……九七一
家政新論……九七一
家庭科學の話……五〇七
家庭看護法提要……九七一
家庭貯藏壜の詰方……六〇一
家庭パンと洋菓子の作り方……六〇一
割烹指導方案……九七一
基本料理法……六〇一
結婚禮式一切の知識……二七〇
コドモの相談……八九七
子供服の時代化……九四七
齊家の栞……三五六
最新榮養概論……九七一
最新家事提要……九七一
最新手藝讀本……三六八
四季の新日本料理……八九七
支那料理……九七一
食品の選擇榮養價計算早見書……六〇一
新育兒法綱要……九七一
新型毛絲編物のをしえ……三六五
新生活の曙光……七五〇
新女性の洋裝……七四〇
生活……三五三
調理概論……六〇一
母の知識……三六五
パンの科學……六〇一
婦人の進むべき道……五〇七
婦女鑑……六〇四
文化生活の基礎……五〇七
洋裁學習書……九四七
世に立つ道……三五三
理想の家庭……五〇七
料理の友……八三八
禮儀作法……三六五

○叢書

科學畫報叢書……五五八
漢文叢書……五一二
キング文庫……四〇三
國民叢書……五〇七
東方古典叢刊……九〇八
日本趣味藝術叢書……七八五
文藝社作文叢書……五〇六

○全集

チエーホフ全集……四五三
感激實話全集……四五三
現代隨筆全集……四五三
ジイド全集……四五三

○講座

昭和漢文講座……五一二

○年鑑・要覽

衛生工業便覽……三〇八
音樂年鑑……八八三
銀行會社要錄……三〇九
帝國銀行會社要錄……三〇九
帝國大學年鑑……三〇九
日本工業要鑑……三〇九
日本帝國統計年鑑……三〇八
法律年鑑……七〇一
理科年表……三〇九
勞働統計要覽……三〇九

○雜書

家相方鑑大全……七八七
觀相秘錄……七四六
記念寫眞帖……九四三
記念繪葉書……九四三
新年繪葉書……九四三
神佛靈妙開運大秘書……三一四
新聞之新聞……四五八
生兒命名の栞……三一四
名前の附け方字引……九一三
日本古書通信……一〇一四
名所繪葉書……九四三

○雜

淺見文林堂……二五七
一般圖書、教科圖書大取次……三五七
岡本商店……九九〇
大倉洋紙店……九九二
大阪每日新聞……一〇〇一
王子製紙……九九一
柏原洋紙店……九八九
河北新報……九九八
共同印刷株式會社……九八七
教育コドモ紙工品……七三九
古版畫、肉筆、繪本類、新作版畫……八八六
時事新報……九九五

自轉車用防水荷箱……八八一
寫眞アルバム……九四九
寫眞アルバム……七五一
出版、販次、販賣……二五七
新愛知……一〇〇〇
凡ての古書の御用は一誠堂へ……二〇七
大同洋紙店……九八五
太平洋紙店……九八六
中外商業新報……九九六
地圖專門……七三九
東京朝日新聞……九九三
東京書籍株式會社……九〇一
東京日日新聞……九九四
圖書、雜誌、新聞……三一一
圖書出版及地圖掛圖類販賣……七三八
中井商店……九八四
北越製紙……一〇一三
大日本印刷會社……一〇二五
北國新聞……九九八
滿洲日報……一〇一一
下野新聞……一〇〇四
都新聞……九九六
大阪時事新報……一〇〇三
秋田魁新報……一〇〇五
大分新聞……一〇〇八
奥新聞……一〇〇七
鹿兒島新聞……一〇〇八
名古屋新聞……九九九
小樽新聞……一〇一〇
新潟每日新聞……九九八
福岡日日新聞……一〇〇三
報知新聞……一〇〇〇
北海タイムス……九五四
三宅莊藏書店……九七二
柳原書店……九九七
讀賣新聞……一〇一三
大阪朝日新聞……一〇〇七
中國新聞……一〇〇四
中國、防長新聞……一〇〇一
新潟新聞……一〇〇五
臺灣日日新聞……一〇〇二
北陸每日新聞……一〇一一
京城日報……一〇〇九
九州日報……一〇〇六
中國民報……

出版年鑑

（昭和十年版）

昭和九年の出版界

一國に於ける出版物の發行部數は其の國の文化水準のバロメーターとして、業界乃至は社會から多大の關心を以て迎へられる。北音味に於ても、我國最近の出版界を見るとき其の內容乃至は種類に於て驚異的な躍進を示しつゝある事は周知の事實である。今我國の出版界を國際的に觀察するとき、我國は明らかに世界第一流の出版國に位して居り、恐らくは世界の首位に擬せられて然るべきではないかと思ふ。其の詳細を統計を以て示せば次の如くである。

昭和七年（一九三二）に於ける世界主要國の普通出版物發行種數。

ソ聯邦	三五、一〇〇	（單行本小冊子のみ）
日本	三一、一〇四	（官版を除く但し圖畫・地圖樂譜等を含む）
獨逸	三一、四五二	（墺太利・瑞西發行の獨逸出版物を含む）
佛蘭西	一五、六九九	（樂譜及畫集を含む）
英吉利	一四、八三三	（官版及び小冊子を除く）
伊太利	二三、五四四	
亞米利加合衆國	九、〇三三	（小冊子を除く）

此統計は各々括弧內備考に示せる如く、標準が必ずしももとより絕對的のものではないが、殊にソ聯邦の如きは、彼れ獨特の宣傳政策により、その文化政策をいさゝか誇示せる處があり、どの程度まで其の發表を信用すべきかは甚だ疑問である。

右統計の示せる如く、出版物の發行種數に於て列强間に於ける我が國の地位は非常に優勢であつて、此點より見ても、我國の文化水準は吾人が漫然と卑下して居るよりも、遙かに優秀であり、歐米文明國に對して決して劣るものではないのである。

此意味に於て我國過去一ヶ年間

（昭和九年）の出版界はどうであつたらうか。

先づ各種出版物の内容を通じて特に感じた事は、我が國が今や對内外的に文字通り多事多難であつて、此難局を如何にして打開すべきかを國民各自が非常に重要視して居る事實である。

昭和九年は國内的に觀るときは來るべき一九三五、六年の國際的危機を目捷に控へて、所謂非常時であり、加ふるに農村經濟の逼迫（凶作、飢饉）……本年の農村經濟は例年の如き米乃至は繭に關する景氣如何の問題にあらずして、一つの大きな社會問題であり、國民をして不安の頂點に押し上げたのである。一方對外的に於ては、先づ友邦滿洲國の歷史的に輝やかしき帝制實施あり、十月より十一月にかけては、世界注視の倫敦に於ける海軍軍縮豫備會商があり、經濟的に於ては歐羅巴諸國を母國とする植民地に於ける貨日排斥工作（日印・日蘭會商……割當制實施・禁止的高率關稅壁の創設等々）は社會人心をいやが上にも動搖せしめたのである。

然らば社會の眼であり國民氣質の唯一の反映機關たる出版界は此昭和九年を如何に描寫したであらうか。卽ち昭和九年中に出版されたる各種の出版物を見るに、今や我が日本は一つの躍進期に遭遇して居るのではないか？との感じを深くするのである。非常時と謂ひ或は至難時代と謂ひ、或は昭和維新と呼ぶ。何處となく社會人心が來るべき新時代を待望し、善く言へば希望と活氣に充ち、惡く言へば其處に動搖と不安があり、何んとなく社會人心がざわめいて居る樣な氣持が感ぜられるのである。

玆に之を少しく具體的に觀察すれば、先づ其の發行種數に於て、過去數年に比し驚異的增加を示して居り（後表參照）而して其の內容より觀察するとき、昭和九年の出版界を通して特筆すべきは宗教書の洪水時代を現出し、爲めに後半期に於ては、全く宗教書に壓倒され他の出版物は影が薄くなつたかの感を與へたのである。宗教出版外にも「日米野球戰」の如きは十數萬部を賣盡したものもあるが之は一時的のものであつて、宗教書以外に於ては、前年度に比較して如何なる變化があつたらうか？勿論之を仔細に檢討すれば多少の相異は認め得るも、大體に於て前年度より踏襲せるものと觀て間違はないのである。卽ち從來の抽象的な出版物が漸次下火となり、すべてが實際に則した所謂實質的な出版物が增加して居り、往年全盛を極めた左翼的出版物乃至はファッシズムに關する研究書が漸次衰微し、本年においては、ほんの屈指に過ぎない程度のものであり、且つ其の內容に於ても消極的な理論に留まり、他はたゞ單に資料の紹介報告に過ぎない程度のものであつた。之に反し、所謂一九三五、六年の國際的危機に當面し、現下の社會情勢よりして國民の精神的結束を必要とし、其の反動として倫理、敎育乃至は思想善導の立場より日本精神に關する出版物：其の日本精神論にしても、最近頗る理論的な統制により哲學的領域に進み、又一方、政治經濟乃至は社會の各部門に亙り、巧みに日本精神を取り入れ、以て日本精神の光明若くは宣揚的な出版物が激增せる事は注目すべき傾向であり、尙非常時社會の反映として、倫敦海軍々縮豫備會商を中心として、來るべき本會議を檢討する軍事物の橫行、滿洲問題、歷史傳記物の增加と他方所謂文學書類就中隨筆書類の增加せる事を擧げ得るのである。

次に統計を通じて、昭和九年度の出版傾向を檢討するとき、自づから其の社會情勢も分明になるのである。

一、發行數に就て

昭和九年度の出版物發行總數は實に二萬六千三百三十一種（官廳出版物を除く）であり、我國出版界最高の記錄である。此處に於て見るとき出版業者各自が、國民文化啓發の爲めに、言論機關たる出版物を通じて、如何に社會大衆に訴へて居るかを推測し得るのである。

今左に最近五ヶ年間の發行數對比表を示せば、

昭和五年	二二、四七六種
昭和六年	二三、二一〇種
昭和七年	二二、一〇四種
昭和八年	二四、〇三五種
昭和九年	二六、三三一種

右表に於て分明なる如く昭和七年を除き年々出版物の增加傾向を示しつゝあり、殊に昭和九年に於ては八年に比し二千三百〇六種の激增である。之を各月別に其の對比を示せば次表の如くである。

A、單行本

月別＼年別	昭和八年	昭和九年
一月	1.131	1.166
二月	1.219	1.065
三月	1.262	1 578
四月	1.482	1.548
五月	1.453	1.750
六月	1.437	1.440
七月	1.200	1.219
八月	1.128	1.187
九月	1.454	1.613
十月	1.646	1.706
十一月	1.521	1.268
十二月	1.640	1 381
計	16.573	17.021

月別＼年別	昭和八年	昭和九年
一月	1 475	1.669
二月	1.709	1.705
三月	1.915	2.270
四月	2.140	2.205
五月	2 172	2.550
六月	1.955	2.232
七月	1 903	2.061
八月	1.731	1.803
九月	2.061	2.307
十月	2 422	2.653
十一月	2.124	2.355
十二月	2.418	2 521
計	24.025	26.331

上表を一覽するとき、二月に於て四種の減を示せるのみにて、他に於ては增乃至激增である。今上表を形態的に分類するとき、出版物の實質的傾向がより明瞭となるのである。

此處に單行本とは、普通單行本の謂であり、書籍として其の形態完備し、尚其の內容豐富にして、著者が其の學術乃至は研究に對する蘊蓄を發表せるものであり、其の實質に於て出版界を左右するものである。今上表に於て前年度との對比を一覽するに、二月及び十一、十二兩月に於て著しい減少を示せるは、此三ケ月に於てはリーフレツト、パンフレツトの激增に伴なふ必然的結果にして、其の理由は次表により分明となるであらう。

B、リーフレツト、パンフレツト

月別＼年別	昭和八年	昭和九年
一月	420	348
二月	325	456
三月	488	484
四月	475	474
五月	502	542
六月	348	603
七月	540	626
八月	444	483
九月	436	577
十月	514	752
十一月	471	844
十二月	605	928
計	5.468	7.117

C、ビラ

月別＼年別	昭和八年	昭和九年
一月	21	36
二月	55	37
三月	33	34
四月	39	22
五月	51	42
六月	25	54
七月	53	73
八月	42	90
九月	36	62
十月	40	75
十一月	16	100
十二月	11	76
計	422	701

上表に於て見るに三月に四種四月に一種の減を示せるも、之はもとより問題でない。前表單行本の二月及び十一、十二兩月の激減に對して、リーフレツト、パンフツトの增加は、前者に於ては友邦滿洲國の帝制實施に關し、列國の態度及び其れに對する皇國民の責任覺悟等に關する物の多數出版されしによるものにして、後者二ケ月に於ては倫敦海軍軍縮豫備會商開催に關し、來るべき本會議に對する帝國海軍の所信及び之に伴なふ列國の情勢に付、主に海軍將官の講演を速記印刷配布せしに俟るものである。又六、七兩月の增加は七月の政變前後に於ける兩內閣に關する政治パンフレツトの出版に伴なふ增加現象である。

此處に謂ふビラとは、其の形態

一枚もの、半紙様のものであり、其の内容に於ては、思想宣傳又は檄文等を主に謄寫版刷となせるものにして、之は普通一般出版業者より發行さるゝものにあらずして、勞働組合等に於て勞資鬪爭の機關の一として發行するものである。而して此ビラが一枚刷形態にかゝはらず重要視さるゝ所以は前述の如く勞働爭議の一手段として用ふるに付之を通じて其の國の勞働運動の過程を端的に知り得るからである。

以上昭和八年度との對比表を通じて見るとき最後のD表を除き前三表に於ては、著るしい增加を示して居る。之より推して昭和九年度の出版界を見るときは、其の內容に於て現下の重大時局は那邊にあるかを詳論し、尙且之に對する國民の覺醒を促すものであり、叙上の非常時局にかゝはらず、ビラの前年度に比較して著しき增加は東京市電の大爭議を筆頭に各地に於ける勞働爭議の爲めにして、昭和九年度が對外的のみならず國內的に於ても多事多難なりし事を如實に證明するものである。

年別 / 月別	昭和八年	昭和九年
一月	103	119
二月	110	147
三月	132	174
四月	144	161
五月	166	216
六月	145	135
七月	110	143
八月	117	43
九月	135	55
十月	222	120
十一月	116	143
十二月	163	136
計	1.663	1.592

D、寫眞・玩具類・地圖・樂譜・圖書等

次に內容種類別に就て

二、內容種類別に就て

內容より觀たる分類は之を三十一種に區別する。今其の主なるもの二三に付短評を下して見やう。

(イ) 政治

政治に關する出版物は九年度に於て七百〇四種であり、之を八年度の五百八十一種に對比すれば百二十三種の增加を示して居る。其の理由とする處は七月に於ける政變前後に於ける兩內閣に關する批

判的政治パンフレットの增加に伴なふ結果にして、前述せし如く西洋流の燒直し的著作物が姿を消し之に代ふるに純然たる日本古來の傳統精神、換言せば我が光輝ある國體に立脚し、建國精神に則せる指導原理に基く出版物が優勢となつて來たのである。之は前年よりの踏襲的傾向であるが、其の內容においては比較にならぬほど進歩したものであり、單なる抽象的にあらずして、實際に則した所謂實質的著書が增加しつゝある事は注目すべき現象である。

次に各月別に統計を示せば左表の如くである。

種別 / 月別	政治
一月	52
二月	43
三月	50
四月	39
五月	43
六月	49
七月	72
八月	57
九月	72
十月	95
十一月	56
十二月	76
計	704

種別 / 月別	法律
一月	70
二月	51
三月	54
四月	62
五月	78
六月	44
七月	31
八月	16
九月	39
十月	64
十一月	66
十二月	60
計	635

(ロ) 法律

法律に關する出版物は、九年度に於て六百三十五種であり、之を八年度の六百九十九種に對し六十四種の減を示して居る。もと〳〵法律書に於ては、其の發行數が每年大同小異的なものであり、前年度の增加傾向は、手形法、小切手法、兒童虐待防止法、自動車取締法、恩給法に於ける制定乃至改正に伴ふ解說書の出版に依るものである。

次に各月別統計を示せば上表の如くである。

(ハ) 經濟

經濟に關する出版物は、九年度に於て一千〇〇五種であり、之を八年度の一千百二十八種に對し、百二十三種の減を示して居る。其の因る處は、前年度に於て經濟更

政策として、世界經濟情勢特に英米兩國の經濟界を紹介乃至評論せる譯本の多數發行せる結果の增加にして、九年度に於ては之等の問題に對し比較的消極的であり、拱手傍觀態度的傾向の反射とも言ふべきではなからうか。

次に各月別統計を示せば左表の如くである。

（ニ）社　會

社會に關する出版物は、昭和九年度に於て八百三十二種であり、之を八年度の九百九十種に對し、百五十八種の減を示して居る。之は此處數年間の傾向であり、我が國最近の社會相の反響として注意すべき事である。卽ち最近數年間に於て、殊に政治思想方面動行の描寫であると考へられる、前述せる如く往年全盛を極めた左翼物乃至はファッシズムに關する所謂思想的出版物が漸減の傾向を呈し昭和九年度に於ては、全く其の後を絶つたと言つても過言ではない。之に代はるに日本民族中心主義的出版物が漸增の過程にある事は前述の如くなるも、各種出版物を通じて見るとき九年度あたりを最低限度として、一層增加への過程を辿るのではあるまいかといふ事が考へられる。玆に最近四ケ年間に於ける社會出版物の統計を示せば次の如くである。

社會	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
	一、二九	一、三三	九九〇	八三二

種別 / 月別	經濟
一月	64
二月	66
三月	87
四月	87
五月	117
六月	102
七月	86
八月	84
九月	60
十月	89
十一月	79
十二月	84
計	1.005

種別 / 月別	社會
一月	61
二月	61
三月	76
四月	50
五月	84
六月	70
七月	56
八月	61
九月	64
十月	77
十一月	86
十二月	86
計	832

前表に依つて見るに昭和七年度の增加は當時ファッシズムに關する著書全盛時代にして、而も其の勢は永續せず八年度に及び激減し漸減傾向を辿つて居るものである。

次に各月別統計を示せば前頁の如くである。

（ホ）宗　教

宗教に關する出版物は、九年度に於て一千三百三十九種にして、八年度の一千〇四十五種に對し、二百九十四種の激增を示した。つい二三年前までは、ひどく不人氣だつた宗教が如何にして、此處一年そこそこに急テンポに宗教者が增加し、かくも歡迎されるに到つたか。其の動因は他にもあらうがともかくラヂオによつて、調子づいた聖典講義は、新聞廣告乃至はラヂオ自身抱有する偉大なる宣傳力に依り忽ち出版界を風靡したのである。一つが賣れると出版界の通弊たる模倣追從者が群出し競爭的にわれ勝にと出版した。而も其れが相當な賣行を示した爲めに、九年度後半期に於ては全く出版界を壓倒したかの觀があつた。然らば此狀態は何時まで續行し得る可能性があるか？　現下の狀態を以て、宗教復興と斷ずるは極めて怪やしい根據のないものと言はねばなるまい。勿論宗教自體がさう簡單に衰へるとも考へられないし、且一方に於て其の哲學的背景の相當根強いものなる事を認むる時に於て、此問題は非常に興味ある問題であらう。

次に各月別統計表を示せば左の如くである。

（ヘ）兵　事

兵事に關する著書の最近急激に增加した事も注目に値する。九年度に於ては四百七種にして、八年度の百五十六種に對し二・六倍の驚異的增加にして、此非常時局に對し、如何に出版物を通じて、軍事意識を普及せしめつゝあるかを如

種別 / 月別	宗教
一月	91
二月	88
三月	107
四月	115
五月	116
六月	88
七月	99
八月	109
九月	94
十月	154
十一月	133
十二月	145
計	1.339

實に物語る數字である。一概に兵事書と云ふも、九年度に於ては十、十一月にかけて行はれた倫敦海軍々縮豫備會商を主體として、帝國の立場を宣明し、且來るべき本會議とは？が論點の中心として取扱つたものが其の大部分である。

次に各月別の統計を示せば下表の如くである。

種別 ＼ 月別	兵事
一日	9
二月	19
三月	17
四月	11
五月	24
六月	33
九月	50
七月	39
八月	63
十月	59
十一月	38
十二月	45
計	407

其れから內容分類より見たる前年度との對比表を示せば左の通りである。

種目	昭和八年	昭和九年	對比
政治	五八一	七〇四	○一二三
法律	六九九	六三五	△六四
經濟	一、一二八	一、〇〇五	△一二三
社會	九九〇	八三二	△一五八
兵事	一五六	四〇七	○二五一
統計	一〇四	一三〇	○二六
神書	二二六	二一七	△九
宗教	一、〇四五	一、三三六	○二九四
哲學	五六四	九八五	○四二一
教育	二、七二七	二、七九八	○七一
教科書	一、九四八	一、八〇九	△一三九

種目	昭和八年	昭和八年	對比
文學	二、六五二	二、四三一	△二二一
語學	八六二	一、一一四	○二五二
歷史	四五五	四七〇	○一五
傳記	三〇二	五三二	○二三〇
地誌	七〇八	九八六	○二七八
紀行	四七	七七	○三〇
數學	八七	二〇二	○一二五
理學	四五八	四四八	△一〇
工學	三八七	七二四	○三三七
醫學	七七一	八〇九	○三八

種別	昭和八年	昭和九年	對比
產業	四三五	一、一六六	○七三一
交通	七三	一五一	○七八
美術	八四四	九〇七	○六三
音樂	九一五	八八八	△二七
娛樂	四五一	五五二	○一〇一
家庭	一、一二〇	一、一六三	○四三
技藝	九四	六七	△二七
辭書	一五一	一三四	△一七
叢書	一八	二三四	○二一六
雜	三、〇二七	二、四一五	△六一二

備考○印ハ增　△印ハ減ヲ示ス

昭和九年度の出版總數は實に二萬六千三百三十一種であり、之を府縣別に調査せば、東京は一萬六千六百十一種で、總數の六十三パーセントを占めて居る。次位が大阪の二千二百十九種であり、次が京都、此三府を除外せば他縣の發行數は殆んど問題でない。之を內容本位に觀察するとき、實質的良書は大部分が東京の出版であり、他府縣は遠く之に及ばざるものがある。各府縣を通じての最下位は沖繩縣の三十五種に過ぎない僅少部數であり、各月を觀るとき一種の發行も見ざる縣は、佐賀の三月と德島、沖繩の各七月である。

以上を以て昭和九年度出版界の概略をかいつまんで述べたものである。要するに其の發行種數に於て例年に比し最高記錄であり、其の內容より觀察するにしても堅實なものであり、一九三五六年の非常時局を控へた意義ある昭和九年の出版界の筆戰は花々しかつた。

茲に最近數ケ年の出版傾向を見るに誰もが知つて居る樣に、最近出版物の種類が非常に增加して來た事實である。之は數年前における圓本豫約ものゝ洪水的出版の結果我が國の讀書階級が非常に廣範圍に普及し、其の當然の歸結として我が出版界は大量生產主義的經營に陷らざるを得なかつた。而し之は出版界にとり必らずしも喜ばしい現象とのみは言へないのである。反面に於て種類の增加は個々の新刊書の賣行きの不振を來し、ひいては全體の賣上高に必然的影響を及ぼす事は理の當然である。要するに現下の社會情勢を見るとき、一般社會人が購賣力が此處數年來變化なきか、或は減退してゐるに拘らず、新刊書が續々と出版されるといふ事は同傾向の書と對立抗爭するの結果を生じ、其の結論として、再版乃至は重版書籍の刊行がほとんど無いと言ふべき事實に遭遇する。之等を純理的に考察すれば、此出版物の種類は必然的に淘汰し、加ふるに制限を以てし、より實質的により優秀なる出版物のみを撰定するに非ざれば、目下の出版形態にては到底其の目的を修める事は困難と謂はねばならぬ、此處に於て出版業者は社會大衆の動きに注意し、如何なる出版物が如何なる讀書階級に迎合するかを研究するの必要があらう。勿論昭和九年に於ては一般當業者が此點に留意し、其の結果限定出

版物が各種別を通じて增加せる事實あるも、之に於ても、もとより不用意になさるべきものではない。勿論此出版界に於ては、他の各種商品と異なり、同種的傾向のものにしても相手方を直接妨害するものにあらず、一般階級に於ては其の内容如何にありては、購買力に幾分の融通性が伴なふものであり、其の販路は擴大されて行くものと言へよう。要は實際に則した問題であり技術的專門書を大量的に生產し亦大量向出版物を限定出版するが如きは、當初の期待に則しないものである、當業者の留意すべき點ではあるまいか。出版物は其の内容が國民の僞らざる聲であり、ひいては社會大衆の輿論ともなり得るのである。此處に於て當業者は國民思想啓發の唯一機關であり、延ては國家文化への貢献ともなるのである。此の意味に於て當業者は良書の普及と社會大衆の讀書階級構成に之努め以て我が國出版界をして名實共に世界の文化水準の首位たらしめん事を望むんで止まぬのである。

要するに昭和十年を迎へて、出版界、讀書界の動きを新らしく見直すことは、當業者にとつても、讀者にとつても必要なことである。

昨年は宗教書の流行で暮れたが、所謂一九三五年の危機を孕んだ今年は出版界にどんな反映を示すであらうか。元よりこれを豫言することは六ケ敷しい。然し、過去の經驗と最近の動向から、それは窺ひ知られる樣にも思はれる。今日では、書籍でも雜誌でも立派な商品であるから、その時々に起る流行といふ現象も、興亡隆衰の法則も、純然たる商業乃至企業の法則に從つてゐることは明らかで、如何に出版者が良書と自負しても、讀者大衆の要求を無視しては出版といふ企業は全然成り立たないことは云ふまでもない。

だが、書籍といふ商品は、帽子やショールのやうな一般商品とは若干趣きを異にした文化的特性を有してゐる。帽子やショールなら流行とあれば、大衆はわけもなくそれに惹きつけられるであらうが、書籍は必ずしもさうは行かない。それは讀者大衆の心の要求に關係したものだからである。そこで尠くとも大衆を相手とする出版は、讀者大衆の趣好に無條件に追隨するものと、大衆を惹きつけて、いはゞ流行をつくり出すものとの二種に分けられる。而して前者は極めて浮動的なもので、危げが多いのに反して、後者は困難であると同時に確實である。例へば、前者は宗教物が流行すると云へば、無條件に宗教物を出し、文藝が復興したと云へば、何でも文藝物を出すと云つた類であるが、かうした出版が必らず成功するとは限らない。流行を追つてゐては、その流行に取り殘されることが多いのである。

しかるに、後者の場合は、讀者大衆が何を求めてゐるかを見極め、それに適應したものを出すことによつて流行を造り出すので、これには出版者の見識と確信とが必要である。

流行の聲を聞いてから、流行を追ふのでは、すでに流行遲れである。そこで出版者は須らく自ら流行を造り出す意氣込みでなければならない。然し乍ら、これは云ふべくしてなか〳〵難いことである。

斯う見て來ると、出版界の動きは社會と民衆の動き行く姿を如實に反映する鏡のやうなもので、それに見入つてゐると飽くことを知らぬほど興味のあるものである。

さて、いはゆる一九三五年、即ち昭和十年の讀者大衆の關心はどうなるであらうか。先づ第一に興味を持たれるものは、例の軍縮會議に關するもの、從つて各國の軍備に關するものであらう。次に、疲弊せる農村に關聯した農村問題も單に流行を追ふといふだけの淺薄なものではもはや讀者は手を出さないであらう。權威ある、そして大衆の心から納得の行くやうに解決を與へる體のものでなければならない。

最後に、何といつても今日は内外多事、不安の時代である。大衆は安心を得やうともがいてゐる。だから、昨年來の流行の宗教物も急には跡を絶たないであらう。けれども、果して宗教物が大衆に安心立命を與へたか？　それは問題である。宗教物でなくても讀者大衆に安心立命を與へるやうな出版物が出れば、賣れることは請合である。

× × × ×

昭和九年度單行本發行府縣別統計表（昭和九年）

府縣別＼月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
東京	一、〇二四	一、〇八五	一、三一九	一、四七〇	一、六三三	一、四三〇	一、三四一	一、一三六	一、五三七	一、六五〇	一、四〇六	一、五四一	一六、六二一
大阪	一七三	一六四	三〇三	一八六	一三三	一六八	一三五	一〇四	一八三	一九四	二〇九	一九七	二、三二九
京都	六九	四七	一七	八三	九〇	一〇八	八八	八三	六九	一二五	一〇四	一〇七	一、〇四〇
北海道	一九	一六	一三	二〇	二〇	三〇	一八	一二	二五	三四	二三	二三	二二三
神奈川	一九	一三	一〇	一二	一二	一三	一五	一八	二五	三一	一二	二四	二二三
兵庫	一四	一二	四四	一八	三七	三一	四五	一六	三〇	四四	六六	五八	四四六
長崎	二	八	九	八	五	四	五	三	八	六	七	一四	七九
新潟	三	八	一六	六	一三	一〇	二	七	一四	一三	八	一七	一二五
埼玉	一〇	八	九	七	八	五	六	八	一二	一三	三	一三	一〇二
群馬	八	七	六	九	一〇	七	一三	八	一四	一一	一四	一四	一二一
千葉	二	二	六	九	八	八	八	八	五	一七	一三	五	九一
茨城	九	七	四	四	九	四	九	六	五	四	一〇	八	七九
栃木	一	五	六	九	一	一〇	一四	八	二	一三	九	一七	九二
奈良	一九	四	一三	六	一二	一〇	一七	一二	六	二三	一三	一二	一二四
三重	八	一五	九	六	一二	一二	一三	四	一二	一二	一四	一八	一二二
愛知	一六	一九	六四	六二	三一	六六	三五	四八	五二	六〇	八三	六五	六五二
靜岡	一二	一二	一五	一四	二七	一二	一四	一七	一六	二三	二三	一六	二一八
山梨	四	六	一二	六	七	七	七	五	五	一七	一〇	一三	九八
滋賀	三	七	四	一二	一七	一〇	五	八	一〇	二五	一九	四	一一四
岐阜	一三	一〇	一五	一八	八	一四	一六	一八	一二	一八	一六	一八	一八三
長野	一二	一八	一三	一四	一八	一七	二〇	二三	一九	三五	一八	三四	一六九
宮城	一三	七	一〇	七	九	九	七	九	八	一二	五	一五	一一一
福島	四	二	九	一〇	一八	一〇	三	一四	一九	一七	七	一八	一四〇
岩手	四	二	五	五	二	二	一	六	九	四	八	一一	一二三
青森	四	一三	四	四	九	一三	七	一三	一三	四	五	四	五九
山形	九	三	八	六	八	九	一一	九	九	一一	九	六	九八
秋田	二	三	二	一	五	四	四	八	五	四	七	三	四八
福井	四	五	一五	四	一〇	五	七	八	七	四	五	一一	八五
石川	一四	七	一〇	一五	一八	一九	六	一二	二	一〇	五	五	一二三
富山	一一	四	九	三	九	三	一〇	一二	七	一二	一一	一四	九六
鳥取	三	六	六	九	四	四	一一	八	四	九	四	七	七五
島根	七	八	七	一〇	一〇	五	六	九	八	七	五	二	八四
岡山	一三	一五	一六	一五	一八	二〇	一八	一四	八	一二	一四	一八	一九一
廣島	二〇	一二	一四	二〇	四四	一二	一九	一一	一二	一六	二七	二五	一六二
山口	九	一四	一三	一一	一六	一五	一〇	一〇	一二	一九	一五	一四	一五八
和歌山	一二	一一	一四	九	一七	一七	一四	一〇	一七	一六	一二	一八	一七八
德島	三	三	二	二	二	四	―	二	四	四	六	一二	四四
香川	八	七	四	八	七	九	六	四	八	六	一一	二	八〇
愛媛	九	一〇	一一	五	一五	一八	一八	一九	一二	一六	一六	一七	一六六
高知	二	八	九	八	六	五	八	一二	一四	八	一	六	八七
福岡	一五	二五	一八	一二	四五	一三	一四	一五	一六	一七	二〇	一二	一六〇
大分	一一	七	八	六	一一	二	一一	六	六	五	一七	一二	一二三
佐賀	一	二	―	八	二	八	六	一	五	八	四	四	四九
熊本	六	六	七	八	一一	五	一一	六	六	一七	五	九	九七
宮崎	四	一	二	四	八	四	四	一	三	八	五	三	四七
鹿兒島	二	一	一	三	四	三	二	六	二	八	二	四	三八
沖繩	一	一	一	一	五	四	―	五	八	四	二	三	三五
不明	八	二	九	九	一一	八	八	一〇	一四	一七	七	九	一一三
合計	一、六六九	一、七〇五	二、一二〇	二、一〇五	二、二五〇	二、一三三	二、〇六一	一、八〇四	二、二〇七	二、六一三	二、二五五	二、五三二	二六、三二一

一月　增○　減△

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	五二	△九	五二
法律	七〇	△六	七〇
經濟	六四	△三四	六四
社會	六一	△二	六一
統計	六	△七	六
評論	―	―	―
神書	一一	△七	一一
宗教	九一	△九	九一
哲學	四四	△二八	四四
教育	一六四	△四八	一六四
教科書	一四五	△三三	一四五
文學	一五八	△一四四	一五八
語學	五八	△七	五八
歷史	三一	△六	三一
傳記	一九	△一八	一九
地誌	五四	△三六	五四
紀行	五	△二	五
數學	四	△七	四
理學	二三	△一四	二三
工學	三三	○七	三三
醫學	五六	○三	五六
產業	二九	ナシ	二九
交通	四	△三	四
兵事	九	△一	九
美術	四四	△三八	四四
音樂	六七	○一〇	六七
技藝	七	○二	七
辭書	七	△七	七
叢書	一	△一	一
家庭	九七	△一二〇	九七
娛樂	二九	△一一五	二九
雜書	二二六	△一七九	二二六
合計	一、六六九	△七四九	一、六六九

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、一六六	△四七四	一、一六六
リーフレット パンフレット	三四八	△二五七	三四八
ビラ	三六	○二五	三六
寫眞玩具類 地圖樂譜圖畫	一一九	△四三	一一九
合計	一、六六九	△七四九	一、六六九

二月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	四三	△九	九五
法律	五一	△一九	一二一
經濟	六六	○二	一三〇
社會	六一	ナシ	一二二
統計	四	△二	一〇
評論	―	―	―
神書	二〇	○九	三一
宗教	八八	△三	一七九
哲學	五八	○一四	一〇二
教育	一六一	△三	三二五
教科書	一〇二	△四三	二四七
文學	一九五	○三七	三五三
語學	五四	△四	一一二
歷史	二六	△五	五七
傳記	二五	○六	四四
地誌	六五	○一一	一一九
紀行	三	△二	八
數學	四	ナシ	八
理學	二八	○五	五一
工學	五二	○一九	八五
醫學	五五	△一	一一一
產業	三九	○一〇	六八
交通	四	―	八
兵事	一九	○一〇	二八
美術	六二	○一八	一〇六
音樂	七四	○七	一四一
技藝	一	△六	八
辭書	一四	○七	二一
叢書	三	○二	四
家庭	六八	△二九	一六五
娛樂	三三	○四	六二
雜書	二二七	○一	四五三
合計	一、七〇五	○三六	三、三七四

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、〇六五	△一〇一	二、二三一
リーフレット パンフレット	四五六	○一〇八	八〇四
ビラ	三七	○一	七三
寫眞玩具類 地圖樂譜圖畫	一四七	○二八	二六六
合計	一、七〇五	○三六	三、三七四

三月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	五〇	○七	一四五
法律	五四	○三	一七五
經濟	八七	○二一	二一七
社會	七六	○一五	一九八
統計	一〇	○六	二〇
評論	―	―	―
神書	一四	△六	四五
宗教	一〇七	○一九	二八六
哲學	五四	△四	一五六
教育	三五三	○一九二	六七八
教科書	一八五	○八三	四三二
文學	二六二	○六七	六一五
語學	七二	○一八	一八四
歷史	三五	○九	九二
傳記	二五	―	六九
地誌	七五	○一〇	一九四
紀行	八	○五	一六
數學	四	―	一二
理學	三二	○四	八三
工學	五六	○四	一四一
醫學	九〇	○三五	二〇一
產業	三四	△五	一〇二
交通	二	△二	一〇
兵事	一七	△二	四五
美術	五六	△六	一六二
音樂	八四	△一〇	二二五
技藝	六	○五	一四
辭書	一七	○三	三八
叢書	一	△二	五
家庭	一一五	○四七	二八〇
娛樂	三四	○一	九六
雜書	二五五	○二八	七〇八
合計	二、二七〇	○五六五	五、六四四

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、五七八	○五一三	三、八〇九
リーフレット パンフレット	四八四	○二八	一、二八八
ビラ	三四	△三	一〇七
寫眞玩具類 地圖樂譜圖畫	一七四	○二七	四四〇
合計	二、二七〇	○五六五	五、六四四

四月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	三九	△一一	一八四
法律	六二	○八	二三七
經濟	八七	―	三〇四
社會	五〇	△二六	二四八
統計	一〇	―	三〇
評論	―	―	―
神書	一一	△三	五六
宗教	一一五	○八	四〇一
哲學	五〇	△四	二〇六
教育	三八七	○三四	一、〇六五
教科書	一〇一	△八四	五三三
文學	一九五	△六七	八一〇
語學	一四七	○七五	三三一
歷史	三四	△一	一二六
傳記	二六	○一	九五
地誌	六三	△一二	二五七
紀行	六	△二	二二
數學	八	○四	二〇
理學	四七	○一五	一三〇
工學	三六	△二〇	一七七
醫學	九〇	―	二九一
產業	五〇	○一六	一五二
交通	四	○二	一四
兵事	一一	△六	五六
美術	七〇	○一四	二三二
音樂	五八	△二六	二八三
技藝	一一	○五	二五
辭書	二八	○一一	六六
叢書	四	○三	九
家庭	八六	△二九	三六六
娛樂	五〇	○一六	一四六
雜書	二六九	○一四	九七七
合計	二、二〇五	△六五	七、八四九

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、五四八	△三〇	五、三五七
リーフレット パンフレット	四七四	△一〇	一、七六二
ビラ	一六一	△一三	六〇一
寫眞玩具類 地圖樂譜圖畫	二一	△一三	一二九
合計	二、二〇五	△六五	七、八四九

五月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	四三	○四	二二七
法律	七八	○一六	三一五
經濟	一二七	○一〇	四二一
社會	八四	○一四	三三二
統計	九	△一	三九
評論	—	—	—
神書	二六	○五	八二
宗教	一一六	○一	五一七
哲學	六〇	○一〇	二六六
教育	三八七	—	一、四六二
教科書	九〇	△二	六二三
文學	二五九	○六四	一、〇六九
語學	一〇三	△四四	四三四
歷史	三六	○二	一六二
傳記	二八	○二	一二三
地誌	一〇一	○三八	三五八
紀行	四	△二	二六
數學	八	—	二八
理學	五八	○一二	一八八
工學	五〇	○一四	二二七
醫學	八四	△六	三七五
產業	五五	○四	二〇七
交通	二	△二	一六
兵事	二四	○一三	八〇
美術	七三	○三	三〇五
音樂	九五	○三七	三七八
技藝	六	△五	三一
辭書	一六	△一二	八二
叢書	一	△三	一〇
家庭	八八	○二	四五四
娛樂	五八	○八	二〇四
雜書	二九一	○一三三	一、四六八
合計	二、五五〇	○三四五	一〇、三九九

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、七五〇	○二〇二	七、一〇七
リーフレット・パンフレット	五四二	○六八	二、三〇四
ビラ	四二	○二〇	一七一
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	二一六	○五五	八一七
合計	二、五五〇	○三四五	一〇、三九九

六月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	四九	○六	二七六
法律	四四	△三四	三五九
經濟	一〇二	△二五	五二三
社會	七〇	△一四	四〇二
統計	一〇	○一	四九
評論	—	—	—
神書	二一	△五	一〇三
宗教	八八	△二八	六〇五
哲學	九八	○三八	三六四
教育	二六二	△一二五	一、七二四
教科書	一三七	○四七	七六〇
文學	二七五	○一六	一、三四四
語學	五三	△五〇	四八七
歷史	三八	○二	二〇〇
傳記	五七	○二九	一八〇
地誌	一一四	○一三	四七二
紀行	六	○二	三二
數學	一八	○一〇	四六
理學	三七	△二一	二二五
工學	四三	△七	二七〇
醫學	六〇	△二四	四三五
產業	五〇	△五	二五七
交通	八	○六	二四
兵事	三三	○九	一一三
美術	七七	○四	三八二
音樂	八一	△一四	四五九
技藝	九	○三	四〇
辭書	八	△八	九〇
叢書	八	○七	一八
家庭	九八	○一〇	五五二
娛樂	五〇	△八	二五四
雜書	一二八	△一六三	一、五九六
合計	二、二三二	△三一八	一二、六三一

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、四四〇	△三一〇	八、五四七
リーフレット・パンフレット	六〇三	○六一	二、九〇七
ビラ	五四	○一二	二二五
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	一三五	△八一	九五二
合計	二、二三二	△三一八	一二、六三一

七月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	七二	○二三	三四八
法律	三一	△一三	三九〇
經濟	八六	△一六	六〇九
社會	五六	△一四	四五八
統計	一四	○四	六三
評論	—	—	—
神書	二三	○二	一二六
宗教	九九	○一一	七〇四
哲學	七八	△二〇	四四二
教育	一〇〇	△一六二	一、八二四
教科書	一六九	○三二	九二九
文學	一九九	△七六	一、五四三
語學	九七	○四四	五八四
歷史	三五	△三	二三五
傳記	四四	△一三	二二四
地誌	八三	△三一	五五五
紀行	九	○三	四一
數學	三五	○一七	八一
理學	三〇	△七	二五五
工學	七〇	○二七	三四〇
醫學	八五	○二五	五二〇
產業	一〇八	○五八	三六五
交通	一七	○九	四一
兵事	五〇	○一七	一六三
美術	八六	○九	四六八
音樂	九九	○一八	五五八
技藝	四	△五	四四
辭書	九	○一	九九
叢書	二六	○一八	四四
家庭	九四	△四	六四六
娛樂	四四	△六	二九八
雜書	九九	△二九	一、六九五
合計	二、〇六一	△一七一	一四、六九二

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、二一九	△二二一	九、七六六
リーフレット・パンフレット	六二六	○二三	三、五三三
ビラ	七三	○一九	二九八
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	一四三	○八	一、〇九五
合計	二、〇六一	△一七一	一四、六九二

八月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	五七	△一五	四〇五
法律	一六	△一五	四〇六
經濟	八四	△二	六九三
社會	六一	○五	五一九
統計	一〇	△四	七三
評論	—	—	—
神書	一五	△八	一四一
宗教	一〇九	○一〇	八一三
哲學	八四	○六	五二六
教育	一三五	○三五	一、九五九
教科書	一八九	○二〇	一、一一八
文學	一三〇	△六九	一、六七三
語學	四五	△五二	六二九
歷史	三八	○三	二七三
傳記	四一	△三	二六五
地誌	七七	△六	六三二
紀行	五	△四	四六
數學	六	△二九	八七
理學	二三	△七	二七八
工學	五六	△一四	三九六
醫學	五五	△三〇	五七五
產業	一一二	○四	四七七
交通	一六	△一	五七
兵事	三九	△一一	二〇二
美術	七五	△一一	五四三
音樂	五一	△四八	六〇九
技藝	三	△一	四七
辭書	五	△四	一〇四
叢書	四七	○二一	九一
家庭	七七	△一七	七二三
娛樂	五六	○一二	三五四
雜書	七七	△二二	一、七七二
合計	一、八〇三	△二五八	一六、四九五

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、一八七	△三二	一〇、九五三
リーフレット・パンフレット	四八三	△一四三	四、〇一六
ビラ	九〇	○一七	三八八
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	四三	△一〇〇	一、一三八
合計	一、八〇三	△二五八	一六、四九五

九月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	七二	○一五	四七七
法律	三九	○二三	四四五
經濟	六〇	△二四	七五三
社會	六四	○三	五八三
統計	三	○二	八五
評論	｜		｜
神書	二一	○六	一六二
宗教	九四	△一五	九〇七
哲學	一〇七	○二三	五三三
教育	二三〇	○九五	二、一八九
教科書	一九四	△四	一、三三一
文學	一七二	○四二	一、八四五
語學	一七九	○一三四	八〇八
歷史	四一	○三	三一四
傳記	五六	○一五	三二一
地誌	八〇	○三	七二二
紀行	七	○二	五三
數學	一九	○一三	一〇六
理學	五七	○三四	三三五
工學	六六	○一〇	四六二
醫學	六五	○一〇	六四〇
產業	一三〇	○一八	六〇七
交通	二七	○二一	八四
兵事	六三	○一四	二六五
美術	七六	○一	六一九
音樂	五三	○二	六六二
技藝	七	○四	五四
辭書	一三	○七	一一六
叢書	二八	△一九	一一九
家庭	一二四	○四七	八四七
娛樂	五五	△一	四〇九
雜書	九七	○二〇	一、八六九
合計	二、三〇七	○五〇四	一八、八〇三

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、六一三	○四二六	一二、六六六
リーフレット・パンフレット	五七七	○九四	四、五九三
ビラ	六二	△二八	四五〇
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	五五	○一三	一、一九三
合計	二、三〇七	○五〇四	一八、八〇三

十月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	九五	○二三	五七二
法律	六四	○二五	五〇九
經濟	八九	○二九	八四二
社會	七七	○一三	六六〇
統計	一〇	△二	九五
評論	｜		｜
神書	一九	△二	一八一
宗教	一五四	○六〇	一、〇六一
哲學	二三七	○一三〇	七七〇
教育	二四三	○一三	二、四三三
教科書	一九一	△三	一、五二二
文學	二〇〇	○二八	二、〇四五
語學	一〇七	△七二	九一五
歷史	六〇	○一九	三七四
傳記	六七	○一一	三八八
地誌	一一三	○三三	八二四
紀行	一〇	○三	六三
數學	三三	○一四	一三八
理學	四三	△一四	三七八
工學	一〇二	○三六	五六四
醫學	五七	△八	六九七
產業	一七八	○四八	七八五
交通	二五	△二	一〇九
兵事	五九	△四	三二四
美術	九四	○一八	七一三
音樂	九二	○三九	七五四
技藝	四	△三	五八
辭書	八	△五	一二四
叢書	三五	○七	一五四
家庭	一〇〇	△二四	九四七
娛樂	四五	△一〇	四五四
雜書	一四四	○四七	二、〇一三
合計	二、六五三	○三四六	二一、四五五

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、七〇六	○九三	一四、三七二
リーフレット・パンフレット	七五二	○一七五	五、三四五
ビラ	七五	○一三	五二五
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	一二〇	○六五	一、三一三
合計	二、六五三	○三四六	二一、四五五

十一月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	五六	△三九	六二八
法律	六六	○二	五七五
經濟	七九	△一〇	九二一
社會	八六	○九	七四六
兵事	三八	△二一	三六二
統計	一九	○九	一一四
神書	一六	△三	一九七
宗教	一三三	△二一	一、一九四
哲學	一二六	△一一一	八八六
教育	一九九	△四四	二、六三一
教科書	一二一	△七〇	一、六三三
文學	一七九	△二一	二、二二四
語學	一〇三	△四	一、〇一八
歷史	五四	△六	四二八
傳記	七七	○一〇	四六五
地誌	八四	△二九	九〇八
紀行	六	△四	六九
數學	二六	△七	一六四
理學	三五	△八	四一三
工學	六七	△三五	六三一
醫學	五一	△六	七四八
產業	一九三	○一五	九七八
交通	二二	△三	一三〇
美術	八七	△七	八〇〇
音樂	六五	△二七	八一九
娛樂	五五	○一〇	五〇九
家庭	八七	△一三	一、〇三四
技藝	二	△二	六〇
辭書	五	△三	一二九
叢書	三九	○四	一九三
雜書	一九〇	○四六	二、二〇三
合計	二、三五五	△二九八	二三、八一〇

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、二六八	△四三八	一五、六四〇
リーフレット・パンフレット	八四四	○九二	六、一八九
ビラ	一〇〇	○二五	六二五
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	一四三	○二三	一、四五六
合計	二、三五五	△二九八	二三、八一〇

十二月

內容類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
政治	七六	○二〇	七〇四
法律	六〇	△六	六三五
經濟	八四	○五	一、〇〇五
社會	八六	｜	八三二
兵事	四五	○七	四〇七
統計	一六	△三	一三〇
神書	二〇	○四	二一七
宗教	一四五	○一二	一、三三九
哲學	九九	△二七	九八五
教育	一六七	△三二	二、七九八
教科書	一七六	○五五	一、八〇九
文學	二〇七	○二八	二、四三一
語學	九六	△七	一、一一四
歷史	四二	△一二	四七〇
傳記	六七	△一〇	五三二
地誌	七八	△六	九八六
紀行	八	○二	七七
數學	三八	○一二	二〇二
理學	三五	｜	四四八
工學	九三	○二六	七二四
醫學	六一	○一〇	八〇九
產業	一八八	△五	一、一六六
交通	二二	｜	一五一
美術	一〇七	○二〇	九〇七
音樂	六九	○四	八八八
娛樂	四三	△一二	五五二
家庭	一三九	○五二	一、一六三
技藝	七	○五	六七
辭書	五	｜	一三四
叢書	四一	○二	二三四
雜書	二二二	○三二	二、四二五
合計	二、五二二	○一六七	二六、三三二

體裁分類別

類別	圖書數	對前月比	本年累計
單行本	一、三八二	○一一四	一七、〇二二
リーフレット・パンフレット	九二八	○八四	七、一一七
ビラ	七六	△二四	七〇一
寫眞玩具類・地圖樂譜圖畫	一三六	△七	一、五九二
合計	二、五二二	○一六七	二六、三三二

出版物每月對比表

增○ 減△

一月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	△二、五九〇	△一、六六九	△六、一二五	七四六
前年同月對比	△三、二六	△一〇六	△一、六六七	△一四
本年累計	八、五三〇	一、六六九	六、一二五	七四六

二月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	○一、六七七	○五六五	○九三四	○一七八
前年同月對比	○七〇八	○三五五	○二六三	○九〇
本年累計	二八、四二九	五、六四四	二〇、二五	二、五六〇

三月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	○五八一	○三六	○四九〇	△七二
前年同月對比	○三七五	△四	○四〇〇	△二
本年累計	一七、六四一	三、三七四	二一、七〇三	一、五六四

四月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	△五七二	△六五	△四一六	△九一
前年同月對比	○九九九	○六五	○九六一	△四七
本年累計	三八、六四五	七、八四九	二七、三二一	三、四六五

五月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	○二、二〇七	○三四五	○一、七八七	○七五
前年同月對比	○三七八	○三七八	○九七一	△一〇八
本年累計	五一、〇六八	一〇、三九九	三六、二二四	四、四四五

六月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	△二、一五八	△三八	△一、七六七	△一五八
前年同月對比	○一四〇	○三七	○四〇〇	△二
本年累計	六一、三五二	二一、六三一	四三、三五〇	○五、三五二

七月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	○二八	△七一	○四八二	△三
前年同月對比	○五九	○一五八	△三	△七
本年累計	七一、八一六	一四、六九二	五〇、九五八	六、二六六

八月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	△二三九	△二五八	○一三四	△九七
前年同月對比	○一一〇	○七三	○一四	○二四
本年累計	八二、〇七〇	二六、四九五	五八、六九二	六、八三

九月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	○二五八	○五〇四	△一六九	△七七
前年同月對比	△七七四	○二四六	△八九七	△二三
本年累計	九二、五八二	一八、八〇三	六八、二五七	七、五三三

十月

納本數	總數	普通出版物	雜誌	官廳出版物
前月對比	△二六〇	○三四六	△七三六	○一三〇
前年同月對比	△二、〇一四	○二三一	△二、一五一	△九四
本年累計	一〇二、八二四	二一、四五五	七三、〇八六	八、二九三

出版界一年史

昭和九年二月

月費値下の臨時總會

東京書籍商組合は二十四日午後二時から神田區美土代町東京基督教青年會館に於て臨時總會を開き月費十錢値下げ案（現在の四十錢を三十錢とする件）を諮つたが、從來通りの四十錢を主張するもの多く結局現狀維持と可決した。

京都出版協會總會

京都出版協會の本年度定時總會は十八日市内西石垣ちもとで開かれ役員の選擧を行つた、正副其他は左の通り

會長　永澤信之助
副會長　前田正次郎
會計　須摩勘兵衞
理事　中島善彌
同　田村敬男

退任評議員表彰

東京書籍商組合は一月の總會に於て評議員の選擧を行ひ、從來の評議員にして退任せられた左の諸君に對し就任年數に從ひ其れ〴〵大正十年以降選ハレテ本組合評議員タルコト十三年夙ニ當業ノ福利增進ヲ圖リ孜々黽勉組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞顯著ナリトス、仍テ評議員會ノ決議ヲ經テ玆ニ紀念品ヲ贈呈シ以テ其ノ功ヲ表彰ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

表彰狀

福田滋次郎殿

大正十一年以降選ハレテ本組合評議員タルコト十二年其間組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ經テ玆ニ紀念品ヲ贈呈シ以テ其ノ功ヲ表彰ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

表彰狀

青野友三郎殿

昭和二年以降選ハレテ本組合評議員タルコト七年、其間組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ經テ玆ニ紀念品ヲ贈呈シ以テ其ノ功ヲ表彰ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

表彰狀

石村菊次殿

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

表彰狀

櫻井作太郎殿

昭和二年以降選ハレテ本組合評議員タルコト七年、其ノ間組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ經テ玆ニ紀念品ヲ贈呈シ以テ其ノ功ヲ表彰ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

表彰狀

平林正男殿

昭和三年以降選ハレテ本組合評議員タルコト六年、其間組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ經テ玆ニ紀念品ヲ贈呈シ以テ其ノ功ヲ表彰ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

感謝狀

常田正治殿

昭和五年以降選ハレテ本組合評議員タルコト四年、其ノ間組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ以テ玆ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

感謝狀

中山軍治殿

昭和六年以降選ハレテ本組合評議員タルコト三年、其ノ間組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ以テ玆ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

感謝狀

堀内德太郎殿

昭和八年以降選ハレテ本組合評議員ニ當選シ能ク組合ノ爲メニ盡瘁セラレ功勞尠ナカラス、仍テ評議員會ノ決議ヲ以テ玆ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年二月五日
東京書籍商組合組長　上原才一郎

三月

洋紙の暴騰

わが洋紙界は近年爲替安による輸入激減と輸出促進乃至は非常時が誘起せる需要增加などの理由より頓に好轉を示し八年の如きは製造高十四億四千四百十萬四千ポンド、販賣高十四億六千八百五十七萬九千ポンドといふ昭和四年以來の好記錄を示現し、その後も活況を續けてゐる、しかして一方製品相場は獨占の非難をおそれる製紙聯合會が八年十一月に約五分方の

建値引上を公表したるのみに止まつてゐるに拘らず市中は連月昂騰の一途をたどり、昨今の相場と昨春三社合同前の安値に比較すれば次の如く總じて二割より五割方の暴騰を示す所となつてゐる。

（單位錢）

品名	最近値	合同前
模造紙（一封度）	一六・五	一一・〇
色上質紙（一封度）	一八・五	一四・五
印刷紙（一封度）	一六・〇	一四・〇
ロール紙（一連）	三八〇・〇	二四〇・〇

この原因は三社合同により王子紙が全國製産高の八割五分以上を占める事となり、ほとんど市場を獨占せる結果市の下値が完全に防止されてゐるといふ根本事情の上に

一、王子が製品の値上こそ遠慮してゐるがその供給を獨占してゐる原料パルプの倍額値上を敢てしたゝめ、群小製造會社が製品賣値釣上げの策動をつゞけてゐる事

二、製紙聯合會が尚七・八千萬ボンドの大量ストツクを擁しかつ平均五割方の高率限産をなしつゝあるにも拘らず品薄の市場へ供給增加を抑制してゐる事

などの獨占の害惡が次第に顯著となり、更にこの形勢を見て一部の大問屋が先高を思惑しやゝもすれば賣惜しみの行動あるに基くものであるが、これが爲め市中の中小洋紙問屋並に小賣商乃至は洋紙を原料とする加工業者、印刷屋など何れも原價高の苦境に陷り一部には早經營困難の結果破綻を訴へる者も出づるに至つた、從つて今後製紙聯合會並に一部大問屋の反省自重と適宜な對應策が講ぜられぬ限り一般消費大衆の困窮は益〻つのり遂に一種の社會問題を引起すやも知れずと重視されるに至つた。

出版協會と洋紙業者の會見

東京出版協會では十二日午前十時紙價對策研究委員會を開き昨春製紙三會社の合同以來非常なる紙價の暴騰を來し、製紙會社側では今秋九月頃更に値上を斷行するの意向を有つので不況の爲め書籍の賣行減退の上に紙價の暴騰は出版業者としてこれ以上の苦痛はなく應急對策の必要に迫られ協議した結果、製紙會社並に問屋側と會見値上中止の嘆願をなすことゝし直ちに關係者の參集を求めて正午日比谷三信ビルに打揃つて赴き、紙業者側から出席の王子製紙、北越製紙、問屋の團體大正會のメンバー博進社、大倉、大同、服部、岡本等十一社代表と會見懇談した。かくて一同は出版協會に引上げ協議員會に對して委員長から模樣を報告した

出版法改正法律案通過

政府案として議會に提出された出版法改正法律案、著作權法改正法律案並に出版物納付法案の三法律案は議會の最終日たる二十五日の衆議院本會議に於て出版法改正法律案、著作權法改正法律案の二案とも委員長の報告通り可決され、惡法の謗を受けた新法案の出版物納付法案は貴族院に於て審議未了のまゝ握り潰しとなつた、著作權法改正法律案はベルヌ條約改訂の萬國著作權法會議を控へて暫定的のものであり內務省當局も出版法改正法律案の道伴れとして提出したものゝその通過は期待して居らず且つ納付法案の通過を希望してゐた模樣であつたが、反對の結果を見たので、暫定的の著作權法改正案にも今後幾多の修正を提出し又納付法案は更に研究した上再度議會に提出する筈である。

納本規定の綜合統一

內務省では現行出版法其の他に散在する納本及發行屆出に關する規定を綜合統一した出版物納付法案が握潰しの運命に遭ひ、出版法改正と著作權法改正案が通過したことは今後の檢閱に重大な支障を來すものとして二十七日警保局に於て對策を協議した結果次の方針を決定した。

一、納付法に包含されたる最重要なる輸出又は輸入出版物の屆出制度は新に省令を以て之を規定し內外出版物に對する檢閱統制を行ふ

二、蓄音機レコードの納付は改正法律案中の規定によつて之を行ひ成る可く當業者に便宜を與ふる手段を講ずること

三、文化保存の目的を以てする帝國圖書館の納付は現在の制度を以て行ふ

四、納付義務懈怠者に對する刑罰加重、印刷者の取締は他の機會に改めて立法す

商工省の紙價對策

ビール、製紙兩企業のカクテル乃至トラスト統制による獨占價格取締りの産業合理局臨時顧問會議は三十日午後二時から商相官邸で開催、商工省側より松本商相、吉野次官外關係局課長及び大河内正敏、松岡均平、井坂孝、牧田環の各顧問出席し先づ商工當局よりビール、製紙兩企業の統制の現狀及び統制確立以來の生産狀況、市價變動、現在の紙價と生産費との關係及兩商品の市價と一般市價の比較等につき詳細說明を行つた後、現行重要産業統制の精神より見て兩産業の統制に對し是正すべき點を審議した結果、製紙業については市價騰貴の原因として原料パルプの値上りがあるが、原料パルプは現在王子製紙が全生産量の九割以上を占めてゐる關係上、原料パルプの價格引上げは一般製紙會社の製品市價に直接に響くので、原料パルプの統制價格を取締らねばならぬが右の如く原料パルプは殆んど王子一社によつて生産されつゝあり現行重要産業統制法では取締り得ない爲め差當つて製紙業者を招致し市價騰貴の防止策について意見の交換を行ふことになつた。

東枝吉兵衞氏逝去

京都の取次店株式會社東枝書店社長東枝吉兵衞氏は腦溢血にて二月廿五日來自宅に於て療養中鬱血性肺炎を併發し三月三日病卒に革まり翌四日午前五時十分安らかに眠るが如く逝去した。氏は往年京都雜誌組合長、書籍組合長として信望を一身に集め、最近迄大毎京都聯合販賣店取締役、京都武德會評議員等の要職にあり現に京都書籍雜誌商組合の相談役であつた、尙組合經營の「昭和圖書館」は翁が組長在任中今上陛下御成婚紀念事業として建設を志し全組合員の贊成の下に之を完成せしめたものである、東京書籍商組合より贈つた弔辭は左の如くである。

弔　辭

京都書籍雜誌商組合相談役東枝吉兵衞君、八十有七歲ノ高齡ヲ以テ本月四日溘焉トシテ逝去セラル、訃報到ルヤ哀悼措クトコロヲ知ラズ、本日故舊ノ有志相計リ、玆ニ組合追悼法會ヲ擧行セラル、惟フニ君ハ溫厚ノ君子ニシテ曾テ爭ハズ、其ノ組合ノ組長ニ就任シテ年ヲ重ヌルコト十有幾年、其ノ間、鞠躬盡瘁、組合ノ制度ヲ改善シ、當業ノ福利增進ヲ圖リ諸般ノ畫策枚擧ニ遑アラズ、殊ニ昭和圖書館創立ニ力ヲ致シ、當業界ノ重鎭トシテ皆其ノ德ヲ稱セリ、今ヤ人材ヲ要スルコト急ナリ、君ノ力ニ待ツコト多カリシニ、幽冥永ク鎭シテ再ビ君ノ聲音ニ接スベカラズ、哀悼何ゾ極ラン謹ミテ玆ニ弔辭一章ヲ捧グ、英靈尙クバ之ヲ饗ケヨ

昭和九年三月十六日

東京書籍商組合組長　上原才一郎

四月

函館の大火

三月廿一日の函館大火に付東京書籍商組合は不取敢見舞狀を發し四月五日の評議員會に於て見舞金を贈呈することに決し、左の如く送附した。

拜啓　三月廿一日夕、折カラノ烈風中突如、貴組合函館市ノ一端ヨリ出火シ、忽チ全市ヲ焦土ニ化シ、新聞ノ傳フルトコロニ依レバ全燒實ニ二萬數千戶ヲ數フト承知致候

貴組合員各位ノ御安否如何在ラセラレ候ヤト心痛致候、本組合ハ此ノ災厄ニ直面セラレタル貴組合員ニ對シ衷心ヨリ慰問ノ誠意ヲ披瀝致候（三月廿二日）

金壹百圓也

右甚ダ乍輕少御見舞ノ印マデニ敬呈仕候、右金ノ支途ハ貴組合ニ於テ可然御取計被成下度、何卒罹災組合員各位ニ弊組各ノ微意ヲ御傳聲願度此段得貴意候

昭和九年四月五日

東京書籍商組合組長　上原才一郎

北海道書籍雜誌商組合組長

中　村　信　以殿

帝都教育疑獄の餘波

帝都教育界の疑獄事件を誘發した小學校の教科書に絡まる出版業者と學校長との間における贈收賄は文部當局を極度に惱ましてゐるが、この外にも最近熊本縣下某小學校に起つた書方手本をめぐる醜事件、某縣教育會編纂の唱歌教科書の著作權侵害問題等教育者と出版業者との間に醜聞が絶へない、これは現在小學校で使用する國定教科書のうち修身、國語、國史、地理をのぞく他の教科書は文部省編纂以外のものでも府縣知事が認定すれば差支へないことになつてゐる事情に起因するので、この點に着眼した文部省では研究を重ねた結果「國定教科書以外の教科書は禁止」すべく聲明したが、いよいよ勅令を改正して文部省編纂以外のものは絶對使用せしめないことにすべくこの改正案起草に着手した、この改正勅令案の實施は十年度新學期からの見込みであるが

これら準教科書の發行元にとつては影響頗る大きい。

朝鮮總督府の檢閲強化

朝鮮總督府警務局では四月から思想專任檢事七名を增員主として出版物の取締強化を圖り先づ文筆業者のブラックリストを作製した其の內容は主要な記者、文士、著述家の中最近一人にて多くの變名を用ひて左翼的な筆を揮ふ者が多くなり相當害毒を流してゐるので之等を嚴密に調査の上ペンネーム別にリストを作り取締に備へると云つた有樣で、尙同局では之を手始めに相次いで種々の取締を遂行する方針で管下の出版界を怖れさせてゐる。

關東廳の檢閲强化

內地からの出版物の移入を取締る關東廳大連出版物檢閲事務所では最近出版物の納本並に休刊、發行延期の屆出が緩慢になり、甚しきに至つては無屆の出版物さへある狀態に鑑み、曩に各關係方面に注意を促したが、今後は更に關東廳の出版物發行に關する命令條項により嚴罰主義を採り屆出の遲延或は無屆出版物は發見次第拘留或は科料に處することになつた。

王子製紙に警告

洋紙市價の獨占價格について臨時產業合理局顧問會議を開いて對策を協議した商工省の產業合理局ではその後調査の結果當業者に對して一應警告を發して置く必要があると認め四日午後藤田第一部長は商工省に王子製紙專務井上憲一氏を招致し、藤田部長より

一、今後、八年十月製紙聯合會に於て決定した製紙會社より特約店へ販賣する洋紙の建値を餘りに引上げぬこと

二、今後品薄により市中相場の昂騰の虞れある場合においては直ちに封度解除又は減產緩和を行ひ、需給の不均衡を調節し以て市價昂騰を除去又は未然に防止すること

の二項について考慮を求め之に對して井上氏は適宜善處すべき旨回答して辭去した、因みに昭和八年十月の製紙聯合會の建値は模造紙標準品一封度十五錢三厘であるに對し市中相場は品薄のためこれより上位にあり而も製紙會社は今なほ最高五割五分、最底三割の生產制限を實行してゐる

辭書の著作權爭ひ

有朋堂から發行された「諺語大辭典」の編纂者京都帝國大學教授文學博士藤井乙男氏は東方書院發行の「俚諺大辭典」編纂者中野吉平氏と東方書院を相手取つて十四日東京地方裁判所檢事局に著作權侵害の告訴を提起した、辭書の著作權侵害は珍らしいのでこの成行は注目されてゐるが、藤井博士の代理人正木辯護士の言分によれば「藤井博士のものは明治四十三年既に完成したもので遙か後に出版された東方書院のものが編輯と云ひ引例と云ひ全く類似し滑けいなのは誤植までそのまゝ寫してある程で明かに版權侵害と認める」と云ひ被告側の東方書院並に代理十藏寺護辯士は語る「こちらの著者中野吉平氏は福島縣信夫郡中野村の人で東京には居ない、外の本屋で一度出版したが發賣に至らず燒失して昨年こちらに持込まれたものです、字引の性質上その註釋などに同じものがあつても僞作とは云へぬ、そのまゝ用ひた所もあらうが藤井博士の著書でも先人の著作等を引用されてゐる部分は多々あらう、殊にこちらの語彙においては三倍半もあるのだから僞作呼はりは當らぬ」

婦人雜誌の附錄制限協定

無制限な婦人雜誌の附錄競爭を如何にして制限し或は廢止すべきかの問題は雜誌協會多年の懸案であつて、從來もしば〳〵協定が行はれながらその度毎に解消されてゐたが最近小賣業者方面から附錄廢止の要求が愈〻昂まり、大取次も輸送上多大の運賃を加重されるので、種々競爭による弊害損失を痛感した大取次四社から豫て婦人雜誌發行元に對し、附錄の回數制限と重量の制限を提案し、三月來婦人雜誌の屬する第五分科會に於て協議中であつたところ、漸く自制案の成案を見たので十九日午後二時から日本橋區江戶橋同協會事務所に臨時評議會を開き、左の諸項に亙る自制案を協議可決した。

一、七月號(六月發行)から現行協定案の全重量一割五分を制限し更に明年一月號より二割を制限すること

二、附錄は最初の案一年三回(新年號、春秋二回)外三回合計六回とすること

三、娛樂雜誌は明年一月號から現

行協定の重量の一割五分を制限すること

中等教科書協會と洋紙商の會見

中等教科書協會では二十七日午前十時から協會樓上に紙價對策委員會を開き問屋團大正會員の列席を求めて懇談した、協會からは坂本會長、森下副會長、外委員、大正會から博進社、川島、岡本、大倉中井、服部、大同、柏原八店の代表が出席、協會側から中等教科書は普通出版物と異り定價に制限があり無暗に紙質を落すことは不可であるから今後成るべく値上げしないやう希望し、これに對し紙商團も趣旨を諒とし會社側に協會の意向を傳へ御希望に添ふ樣盡力する旨を答へ正午會見を終つた。

五月

六種出版に啓明會から補助金

大久保利武侯を理事とする財團法人啓明會は今回評議員會において左記六件に關し特にその研究調査を優秀なりと認め左の如く夫々補助金額を決定し採用することになつた。

一、名將言行錄の英譯出版（補助金五千圓）秋元俊吉

一、巴里語佛教辭典出版（補助金四千五百圓）文學博士高楠順次郎

同長井眞琴、文學士山本快龍

一、「滿洲におけるロシヤ」出版（補助金五百圓）山下義雄

一、「子宮癌腫に關する研究報告」出版（補助金二千五百圓）醫學博士緒方十右衞門

一、染織物及その用品類の用語統一の調査（補助金三千圓）染色技術官協會

一、X光線による定量分析（補助金三千七百圓）工學博士志村繁隆

國定教科書の大改善

文部省は國定教科書を時勢の進運に伴ふやう毎年度順を追つて改正し昭和九年度は國語讀本卷五及び六、修身卷二、歷史教師用下の二、地理附圖、高等小學用圖畫、高等小學三年用の家事各教科書に改正を加へる事に決したが、右國語讀本及び修身教科書はいづれも色刷の新體裁を施し、又地理附圖には新たに滿洲國圖を加へ支那領土と確然これを區別する事となつた尙この外全然新規に高等小學第一學年用の商業教科書及び尋常小學

第一及び第二學年の兒童用並に教師用の算術書を編纂する事となつたが商業教科書は現行小學令施行の規則に於て土地の狀況により商業教育を正科目となし得る事を定め、現に農業教科書は編纂されてゐるに拘らず商業教科書は今日までその編纂を見なかつたのを遺憾とし今回新たに編纂する事になつたものである、尙今回の尋常小學第一及び第二學年兒童用並に教師用の算術書は日常の數理思想を養成し且つ數理に關する普通の知識技能を得しむる要旨で從來尋常小學第三學年から始めて使用せしめてゐたものを今回尋常一學年からこれを使用せしめ一層算術教育の徹底を計らんとするものである。

教科書の字體を改正

國定教科書の使用文字は明治五年學制發布以來木版で押通し（最近準く一部を凸版にした）全く文化に逆行して來たが、今度六十二年の傳統を破つて全部を活字に改め、先づ昭和十年四月から使用する新尋常小學國語讀本卷の五から試みる事になつた。現在の國定教科書は井上圓氏と云ふ無名の書家が二十年來一手に引受け一々毛筆で丹念に書いたもので、どんなに急いでも一日七枚以上は書けないので今年のやうに各科に亙つて改正が行はれると四月の新學期に間に合はないやうな不始末も起つたが今後は經濟的にも時間的にもどし〳〵大量生産が出來ることゝならう。

獨逸印刷藝術展覽會

財團法人日獨文化協會、印刷學會が共同主催となり文部省　獨逸大使館が後援で一日から十日まで日本橋三越本店展覽會場で「獨逸印刷藝術展覽會」が開かれた、主催者を代表して日獨文化協會主事文理大教授友松高彥氏の開會の辭に次いで大久保侯爵、印刷學會長工學博士矢野道也氏の式辭、齋藤文部大臣（東次官代讀）獨大使フオン・ディルグゼン、其の他の祝辭があり午後から一般に公開したが出品は各方面から數百點の陳列あり、殊に書籍の出品が非常に多く出版業者にとりて貴重な資料が展覽され、流石印刷術の發祥地であり世界第一位を誇る出版國獨逸の出版技術の進歩が一堂に集められて益する所が多かつた。

大阪出版業組合運動會

大阪圖書出版業組合運動會は六日若葉の奈良公園春日野運動場に開催された、明朗皐月の空は爽やかに晴れて絶好の競技日和、午前九時選手一同グランドに集合、優勝旗返還式を行ひ、博多組長の開會挨拶があつて直ちに競技を開催したが正午先づ休憩し、此間公會堂に於て第七回勤續店員表彰式を擧行、湯川副組長の開會の辭博多組長の式辭に次ぎ大阪市役所（代理）並に大阪商工會議所（代理）評議員代表鈴木顧問の祝辭があり、勤續店員十三名に對し博多組合長より賞狀を受與し、次で受賞者代表寶文館八木賢治君答辭を朗讀、三宅副組合長が閉會の辭を述べて閉式した。

國際文化振興會

最近内外の情勢に鑑み日本並に東方の文化に關する正確な知識理解を世界に普及するため國際文化振興會設立の議が起り、準備委員を擧げてこれが設立の準備をなしてゐたが、十二日午後零時東京會館において正式に之が發表をした同會の事業は大體次の如きものである。

（一）著述編纂、飜譯、出版　（二）講師の派遣交換（三）文化資料の寄贈交換（四）知名外國人の招聘學生の派遣交換（五）會館、圖書館、研究室の設置、經營。

然してこれに要する基金百萬圓を募集する豫定であるが既に應募額五十萬圓に達してゐると。

出版廣告主座談會

電通主催の出版廣告主招待座談會は十七日午後五時半から同社六階會議室に於て開催された、出席者の顔觸は赤石喜平（講談社）石川武美（主婦之友）岩波茂雄（岩波書店）龜井豐治（三省堂）島中雄作（中央公論）山本實彦（改造）都河龍（婦女界）神原周平（東洋經濟）吉谷專吉（博文館）佐藤義亮（新潮社）小宮山達（富山房）小倉秀道（實業之日本）佐々木茂索（文藝春秋）佐藤文二（研究社）他數名の一流所が網羅され盛會であつた。話題は出版廣告全般に亙り種々な希望や注文が出て今後の取引上に非常な參考となつた由。

御文庫碑石の建立

大阪出版業組合内大阪書林御文庫講は昭和八年六月三、四兩日に亙り住吉大社神館に於て住吉大社文庫貴重圖書の展觀を行ひ絶好の資料として一般に稗益するところ多かつたがその後之が紀念として碑石建立の議起り萬端の準備を進めてゐた處此程大阪に於ける最初の文庫たる住吉大社御文庫側前に服部宇之吉博士の揮毫になる「大阪最古の御文庫」の立派な碑を建立、五月二十日多數講員、關係者等列席の下に盛大なる建碑除幕式を擧行した。

碑石略記

一、碑石高サ五尺五寸、巾一尺三寸、横巾八寸

一、臺石高サ一尺、巾二尺、横巾一尺五寸

一、正面―大阪最古之文庫―揮毫服部宇之吉文學博士

一、側面―（右）、昭和八年六月住吉大社文庫貴重圖書展觀記念（左）大阪書林御文庫講

一、裏面―昭和八年六月現在講員氏名（五十七名）彫刻

中等教科書協會の賦課金

中等教科書協會では二十一日熱海溫泉岡本旅館に於て常集會を開催、出席者五十六名、かねて委員を擧げて調査研究中であつた九年度の協會維持の賦課金を議題とし て委員會の報告を審議した結果、最底二十圓、最高八百五十圓でそれ〴〵決定した、賦課金總額は九千圓、會員九十六名で割ると一名平均九十三圓强となる。

六月

出版協會の販賣制度改善案

半歲に亙る研究の成果たる出版協會の販賣制度改善案は十二日の協議員會に於て決定し直ちに目下規約を修正中の東京書籍商組合に建議として提出した、修正要項の全文は左の通りである。

東京書籍商組合販賣規程中修正要項

(1)第二條に依る景品添附の禁止は左記の場合に適用なきものとす

一、組合の主催若は協賛に係る催物期間に共同して景品附賣出を爲す場合

二、出版者若は其の委託を受けたる一手賣捌元の負擔に於て

全般に景品附賣出を爲す場合

(2)第二條第一項但書を左の通り改む

但販賣を目的とせずして一時に金額一千圓以上（學校教科書を除く）を購入するものに對しては定價に依らざることを得

(3)第三條第一項中「發行後一ケ年」とあるを「發行後六ケ月」と改め同條第三項中「發表十日前」とあるを「實施十日前」と改む

(4)第三條による特價販賣の制限は左記の場合に適用なきものとす

一、組合の主催若くは協賛に係る催物期間に共同して特價販賣を爲す場合

(5)第四條第一項中「發行後一ケ年」とあるを「發行後六ケ月」と改む

(6)第四條に依る定價引下の制限は左記の場合に適用なきものとす（以下略す）

良書の普及事業

文部省は良書普及事業に付協議會を開催する爲め東京書籍商組合に左の通牒があつた。

拜啓暑氣相加はり候折柄高臺益々御清穆の段奉賀候偖來る六月二十日午後一時より本省に於ける良書普及事業に關聯し左記要項に依り協議會を開催致し度候間御多用中恐縮に御座候へ共何卒御臨席相煩し度此段御案内旁々貴意を得度如斯御座候　敬具

昭和九年六月十三日

文部省社會教育局長　河原春作

東京書籍商組合組長上原才一郎殿

日時　六月二十日午後一時至三時

會場　文部省第二會議室（四階）

協議題　(1)推薦事業を振興する方策について

(2)推薦圖書の普及を促進する方策について

當日上原組長は右協議會に出席し、組長としての希望二三項を提案したが、文化事業に關する各方面の出席者があつた。

組長提案に基き文部省は六月二十五日、既に發行するところの「推薦圖書時報」、「讀書指導圖書目錄」、「認定圖書目錄」、「圖書調査時報」等を本組合に送附し來り之を全國各府縣の當業組合へ送附する樣との依賴があつたので、各組合の組長宛發送した。

七月

明治天皇御紀を改編公刊

宮内省空前の英斷を以て普及版として公刊する事に内定した明治天皇御紀については七月一日正式に「公刊明治天皇御紀編修委員會規程」を設け委員會は湯淺宮相を會長とし、委員及び特別委員を以て組織し、別に顧問を置くと共に編纂長編纂員及び編纂書記等編纂係員を付置し、七月以降三ケ年の豫定で編修する事となつた、そして明治天皇御紀は先に臨時帝室編修局で編纂したものであるが、それは編年體に據り圖書寮尚藏を目的としてゐる關係からそのまゝ公刊に適せず、よつて右の御紀を基準として記事本末體に縮約し、御傳記菊判凡そ三册、一册六百頁程度のものに編修申上げる見込みである。

公刊明治天皇御紀編修委員會規程

第一條　公刊明治天皇御紀を編修せしむる爲宮内省に公刊明治天皇御紀編修委員會を置く

第二條　公刊明治天皇御紀編修委員會は會長及び委員若干人を以て之を組織す、特別の事項を審議せしむるため必要あるときは特別委員を置くことを得

第三條　會長は宮内大臣をもつてこれに充つ、委員及び特別委員は宮内大臣の奏請によりこれを命ず、委員及び特別委員は勅任待遇とす、但し本官を有する者に付ては本官の受くる待遇に依る

第四條　會長は會務を總理す會長事故あるときは會長の指命したる委員其の職務を代理す

第五條　公刊明治天皇御紀編修委員會に公刊明治天皇御紀編纂長公刊明治天皇御紀編纂委員及び公刊明治天皇御紀編纂書記を置く、編纂長は一人勅任待遇とす御紀編纂の事を掌理す

編纂員は四人奏任待遇とす編纂長の命を承け御紀編纂の事を分掌す、編纂書記は五人判任待遇とす編纂員を助く

第六條　編纂長は編纂に必要なる從事員を命免し及び之を監督す

第七條　公刊明治天皇御紀編修委員會に顧問を置き宮内大臣の奏請に依り之を勅命す

第八條　公刊明治天皇御紀編修委員會に關する庶務は宮内大臣官房祕書課に於て之を管掌す

附　則

本達は昭和九年七月一日より之を施行す

文部内務大臣と局長

七月七日、岡田内閣成立と共に文部大臣には松田源治氏、内務大臣には後藤文夫氏就任し、警保局長には唐澤俊樹氏が就任された。

出版法改正期日公布

出版法中改正法律は昭和九年七月十七日法律第四十七號を以て其の期日を左の如く公布された。

昭和九年法律第四十七號ハ昭和九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

次で七月十八日、內務省令第十七號を以て出版法施行規則を定められた。

著作權爭ひは起訴

有朋堂から發行された「諺語大辭典」の編纂者京都帝國大學教授文學博士藤井乙男氏が東方書院發行「俚諺大辭典」の編纂者中野吉平氏と發行所東方書院を相手取つて東京地方裁判所檢事局に著作權侵害の告訴を提起した「辭典の著作權爭ひ」は出版界、學界の注目をひいてゐたが、野村檢事係りで藤井博士、中野氏の原被告を呼び出し對質取調べを行つたところ、被告中野氏は藤井博士の專門的な質問には答へる事も出來ず、分類方法項目の作り方、各項目に對する獨自の見解の三點とも、完全に侵害の事實が認められたので十七日正午遂に中野氏は起訴と決定、從來まぎらはしいもの丶多かつた辭書編纂上に一波紋を畫いた。

八　月

出版届樣式の簡略化

八月一日より改正出版法の實施に伴ひ公布された內務省令第十七號出版法執行細則による出版届樣式は從來より複雜化したのでこの取扱方について當業者は內務當局と懇談したが、その結果左記の通り實際上の便宜を圖るべき旨の內示を得た

編纂物に在りては各部著作物の題號及著作者の氏名を明細に表示することを原則とするも下記の如き特殊の事情あるものに付ては便宜の取扱を爲す

一、國語漢文の教科書、論文集講演集の類の如き多數の著作物を編纂し從て著作者の氏名も多數に渉るものは別紙として目次の印刷物（現品に使用の版の儘にて差支なし）を添附して届書本文の項には「別紙明細書目次の通り」と記載するを以て足る

二、百科辭書の類にして各項の分擔執筆者を表示するもの、或は極めて多數者の著作に係る詩歌俳句集の如きものに在りては目次をも添附することの不能なるものは届書本文の項に唯だ「現品の通り」と記載するを以て足る。

算術教科書色刷

色刷り繪入りの小學國語讀本で兒童からも父兄からも好評を博した文部省では、この方針を算術教育の上にも採り入れることになり早くも來年度の尋常一學年から色刷り繪本の算術教科書を使はせやうと編纂を急いでゐる、從來算術は一學年と二學年は教科書は使はず、掛圖などで數や加減乘除を教へてゐたものだが何分にも無味乾燥な學科なので、兒童の間に優劣の差が著しかつた、この繪本によつて興味を起させつゝ數の觀念を植ゑつけてゆけば數の教育もある程度まで普遍的に行ふことが出來るだらうとの見込みであるが、歐米諸國でも低學年から算術の教科書を使つてゐるところは割合に少く、兒童教育に劃期的な改革といはれてゐる、尋常一年生用のものは前期、後期と二卷から成り前期の卷は文字は省いて總て繪ばかりで自動車、電車、動物、草花など三色版の美麗なもの三十二頁、後期の卷になつて文字を用ひる。

輸入出版物の檢閱統制

內務省警保局は時局の重大性に鑑み從來大藏省稅關當局の手で檢閱されてゐた海外よりの輸入出版物の檢閱取締りに對し、國論思想統一の見地から檢閱の嚴重化を期し排日的並に國民思想善導の上に支障あるフアツシヨ出版物の輸入取締を徹底的に行ふことゝなつたが、これを契機として警保局は積年の懸案たる輸入出版物の檢閱權限を大藏省より內務省に移管すべく正式交涉を開始するに至つた、法律上輸入出版物の檢閱權限は稅關の權限に屬して居り、正規の手續移管には法律の改正を必要とするので、從來の大藏省單獨の檢閱を受け、その取締基準に關し一切警保局の規定する原則によつて兩省の統制連絡を圖らんとするもので、具體的細目に關し警保局と大藏省稅關局の間に折衝協議が進められてゐる。

九州聯合會の總會

九州書籍聯合會では十八日午後

二時當番の熊本縣熊本商工會議所會議室で開催　出席者は熊本、福岡、大分、鹿兒島、宮崎五縣代表で熊本縣組合組長長崎茂平氏議長となり雜誌週間並に圖書祭に關する對策を協議し次で出版協會から東京書籍商組合に提出したる公入札一千圓案に對する反對決議を行ひ全國書籍商組合聯合會に通告すること、最後に全國聯合會の幹事現在の十八名を更に七名增員案を同聯合會に建議することに決定議事を終つた。

中島卯三郎君逝去

辰文館中島卯三郎君は八月十一日死去された、東京書籍商組合は君の功勞を表彰する爲め左の如く表彰狀に紀念品を贈呈した。

表彰狀

故中島卯三郎殿

大正十五年以降選ハレテ評議員タルコト前後七年、其ノ間孜々黽勉當業ノ福利公益ヲ贊畫セラレ功勞尠ナカラス仍テ本組合ハ評議員會ノ決議ヲ經テ紀念品ヲ佛前ニ供ヘ以テ君カ生前ノ功ヲ表彰ス

昭和九年十月五日

東京書籍商組合

組　長　上原才一郎

東京の雜誌週間

第二回雜誌週間は七日から開始され二十日を以て終了した、日本雜誌協會が統制本部となつて全國府縣組合はそれ〳〵の趣向の下に津々浦々に至るまで行はれたがお膝元の東京では東京雜誌販賣業組合の主催で九段軍人會館に十二、十三、十四、十七、十九の五日に亘り愛讀者優待の講演餘興を催し九日から十七日までは白木屋主催で雜誌展覽會が、またこの間白木屋ホールは各發行元の讀者慰安會が開かれ、十五日は雜誌協會主催で九段軍人會館に大講演會があり十九日夜は法學博士穗積重遠氏の「明六雜誌の話」と題するAKからの紀念放送もあつた、概して昨年よりは熱が上り手段方法の宜しきを得たゝめ成績良好と認められ婦人、娛樂、兒童讀物など平月號より增刷して賣切れ尙再版したものあり、平均市內は二割乃至三割の賣行增大を示した模樣である。

東京書籍商組合の臨時總會

東京書籍商組合は三日午後二時から神田區一ツ橋教育會館に於て臨時總會を開き。

一、全國圖書祭に際し本組合より發行する福引券は之を添附することを得

一、全國圖書祭に際し本組合に於て認めたる福引券に限り之を添附することを得

を議題として特別決議を行つた。

佐賀の雜誌文化展覽會

佐賀の大坪惇信堂では雜誌協會並に福岡日日の後援の下に週間中の十日から十六日まで「雜誌文化展覽會」を開き地方讀書人の人氣を煽つた、雜誌の起源及沿革、初號雜誌百種、原稿と原畫、名寫眞及び繪本原畫、白紙から雜誌になるまで、名士の書齋巡り、雜誌と學校、家庭讀者への注意、回讀會の危險、雜誌相談所、特選名著三十種の賣店、講談社雜誌の統計等を陳列し每日千四五百の觀客を吸收して五割以上の販賣增加を得た

關西風水害

九月二十一日午前八時突如として襲ひ來たつた記錄的驚異の猛颱風！同時に捲起る高潮の戰慄！流石產業都を誇る大阪も大自然の猛威の前には完全に無力を暴露し盡し、總ての機關、活動の源泉は瞬時にして亂離骨灰、前代未聞の最惡現象を呈し全市民は只々呆然自失するのみ、而も一瞬にして無數の家屋は倒壞或は流失して六千（大阪）といふ尊い生靈を失つた事實は不可抗力とは云へ餘りにも傷しく大きい犧牲であつた。未曾有の風水禍に遭遇して大阪書籍雜誌商組合では之が應急對策に就き二十三日緊急臨時評議員會を開催四千乃至五千圓の非常臨時支出を即決し床上浸水或は家屋全壞を標準として組合員の被害各一戶に對し二十圓づゝの慰問金を贈ることゝしたが、翌二十四日全役員總出動三人乃至四人を一班として十一班の慰問班を組織し取敢へず、高潮の洗禮を受けて被害最も甚大な港大正、此花、西淀川、西成（一部）各區及び堺市（一部）など未だ交通機關の復舊を見ぬ非常な不便を排して各方面の罹災組合員を訪問、叮重なる見舞の辭と共に、不幸前記標準に該當する罹災者には親しく慰問金を贈呈したがその數百五十有餘に達した。

日本國民史完成祝賀會

蘇峰翁が十七年間心血をそそがれた一代の大著たる世界的大長篇「近世日本國民史」は五十卷の完成紀念として明治書院から普及版が發賣されたが、この披露會が二十八日午後五時から帝國ホテルで開かれた、朝野の名士數百名の參會あり二三の餘興後翁は「修史告白」と題して興味深い挨拶があり桑田欽次郎氏司會の下に岡田首相の祝辭(代讀)山本悌二郎、安達謙藏、永田秀次郎、三上參次、下村宏、野間清治、藤山雷太、光永星郎氏等の祝辭があつて十時散會、非常な盛會であつた、特に東久邇宮殿下には松本別當を御使として有難き御言葉を傳達された。

十月

關西風水害見舞

關西一帶を襲ひたる風水害に對して東京書籍商組合では早速二十二日付大阪、京都、兵庫、德島、高知、鳥取　奈良、和歌山、岡山滋賀、三重、愛知、名古屋の十三組合に見舞狀を贈つたが、更に慰問方法を講ずべく十月一日臨時評議員會を開き協議し、その被害狀態に應じて

大阪組合へ三百圓、京都、兵庫兩組合へ各一百圓、岡山、德島高知、滋賀、和歌山、鳥取の六組合に各五十圓を贈呈することゝなり早速各組長宛に送達した。

拜啓　今回關西地方一帶ヲ襲ヒ候稀有ノ暴風雨ハ其ノ災害激甚ナルコトヲ承知致候、貴縣下組合員各位ノ御安否如何在ラセラレ候ヤト心痛致候本組合ハ往年關東大震災ノ苦難ヲ回想シ玆ニ罹災各位ニ對シ衷心ヨリ深甚ナル同情ヲ表シ候

一金　圓也　甚ダ乍輕少臨時評議員會ノ決議ニ依リ贈呈仕候、該金ハ貴組合中災害ノ不幸ニ遭遇セラレ候各位ノ爲メニ可然方法ヲ講セラルル一助ニ充テラレ度此段得貴意候

昭和九年十月一日　敬具

東京書籍商組合組長上原才一郎
京都書籍雜誌商組合組長木村五郎殿
大阪書籍雜誌商組合組長　三木　佐助殿
兵庫縣書籍雜誌商組合組長　柏　佐一郎殿
滋賀縣書籍商組合組長吉田善次郎殿
鳥取縣書籍雜誌商組合組長　山本鐵太郎殿
岡山縣書籍雜誌商組合組長　大森　佐吉殿
和歌山縣書籍雜誌商組合組長　宇治德太郎殿
德島縣書籍商組合組長黑崎　精二殿

高知縣書籍雜誌商組合組長　澤本　駒吉殿
各　酒

日本雜誌協會の慰問

日本雜誌協會では二十九日實業之日本社に臨時評議員會を開き風水害の各府縣組合に對する慰問方法について協議した結果大阪組合へ一百圓、鳥取　兵庫、岡山、德島の四組合へ各五十圓の慰問金を贈呈することに決定、早速各組長宛に贈つた。

圖書大市會出來高

出來高二十萬圓を目標として種々なサービスを講じた東京書籍商組合主催の第三十二回圖書大市會は十月七、八兩日神田區一ツ橋教育會館に於て開かれたが、出來高は通信販賣を合せて二十萬一千六百五十三圓に達し昨年度の十萬四千圓に比して九萬七千六百五十圓を增し、これを過去の統計に對照すると大正六年から十年頃の好景氣時代と匹敵し得る。

地方協會定時總會

全國書籍商組合地方協會の第十二回定時總會は十月八日午後二時半から麹町區九段坂下軍人會館に於て開かれた、出席者正會員及び特別會員約百名、委員長伯佐一郎氏議長となり昭和八年度庶務並に會計を報告、九年度豫算案を審議可決し、左の建議案を協議した。

一、一般圖書取引改善に關する件(廣島組合提出)

一、各府縣書籍雜誌商組合よりの違約處分申請に對しては處分の原因が書籍と雜誌たるを問はず正當と認めたる時は全國書籍商組合聯合會及び日本雜誌協會は相互に連絡を圖り地方組合の決議を尊重して速に承認せられん事を望む(栃木組合提出)

一、醫書組合規約中更改を要求するの件(京都組合提出)

一、販賣價格の多寡を問はず定價販賣嚴守の件を全國書籍商組合聯合會へ本協會を通じて建議する件(鳥取組合提出)

一、昭和七年大阪組合の提出にかゝる各府縣教育會に於て兒童用參考書を發行し同會が直接販賣するを防止する件、及兵庫縣組合提出の各種學校に於ける教員の商行爲防止方については各府縣に於て夫々教育會或は文部省當局に陳情書提出することに決したるも當局者年々に交迭の場合もあるを以て每年運動を繼續し以て目的の貫徹を期

する件(同)
一、全國書籍商組合聯合會の幹事七名增員を同組合聯合會へ建議する件(同)
一、雜誌週間現行期日を變更し春秋二週間行ふこと(京都組合提出)
一、圖書祭を十一月一日より二十日まで延長する件(大阪組合提出)
一、書籍の等級を五級に統一せられん事を鐵道省に請願の件(北海道組合提出)
一、雜誌の販賣店へ懸賞賣出を禁止されたき事を日本雜誌協會に建議する件(岡山組合提出)
以上に就て各代表者の熱烈な意見交換を遂げ夫れ〴〵適宜に處理して五時閉會、同所に於て懇親會を催した。

濡損品の善後處理

關西の大風水害に當り大阪取次業者團(登美屋、大阪寶文館、大阪參文社　柳原書店、福音社　小島文開堂、三宅書店、宮井書店、新生堂書店、清水賺文館、盛文館)は二十五日罹災小賣店に對する應急措置を協議し濡損品の入帳或は處分方法につき

一、水害による濡損品は取次店に於て一時預り置く事　但し雜誌は返品期間中のもの、書籍は發行日より六ケ月以內のもの及び委託品に限る
一、右濡損品は發行元に於て御入帖又は新品と御取替御承諾を仰ぐこと
以上二項を發行元に對し諒解を求めた、これに對し東京出版協會では十月十二日臨時協議員會を開き取次團の希望に對し會員は努めて讓歩される樣書面を以て會員に通告し、又日本雜誌協會は八日軍人會館に於て臨時幹事會を開き「風水害に因る雜誌の濡損品は返品期間內に於ては無條件に引取ること且つ流失雜誌は過去三ケ月間の返品率により淸算すること」といふ寬大な解決法を決定した。

聯合會定時總會

全國書籍商組合聯合會の第十六回定時總會は十月十日午前十時神田區一ツ橋通り教育會館で開催、出席五十組合代表六十五名で目黑會長の挨拶に次で昭和九年度庶務並に會計を報告、十年度豫算案を審議可決し、建議案の審議及び役員の改選を行つた、建議案は左の通り。

一、全國圖書祭に際し各組合統制の下に十一月一日より二十日以內の期間に於て繪引又は景品を添附することを得但右期間に付ては各組合より本會へ屆出を要す(可決)聯合會幹事會提出
一、醫書組合規約中更改を要求する件(可決)京都組合提出
一、全國圖書祭擧行期間を二十日間に延長するの件(可決)大阪組合提出
一、各府縣書籍雜誌商組合よりの違約處分申請に對しては處分の原因が書籍と雜誌たるを問はず正當と認めたる時は全國書籍商組合聯合會及び日本雜誌協會は相互に聯絡を計り地方組合の決議を尊重して速かに承認せられんことを望む(可決)栃木縣組合提出
一、全國書籍商組合聯合會規約中第二十六條第四項に於て幹事十八名とあるを二十五名と改めることにしたし九州六縣聯合提出
一、全國書籍商組合聯合會幹事七名を增員の件(以上二件は一括附議し三名增員に可決)鳥取組合提出
一、販賣價格の多寡を問はず定價販賣嚴守の件(可決)鳥取組合提出
一、書籍の等級を五級に統一せられん事を鐵道省に請願の件(可決)北海道組合提出
終つて會長に目黑甚七、副會長に上原才一郎氏を推し詮衡委員に一任して幹事を選任し四時半閉會、柳橋龜淸に於て懇親會を催した、新幹事は左の如し。
北海道、岩手、埼玉、富山、愛知、京都、大阪(二名)、兵庫、廣島、福岡、熊本、朝鮮。

大阪古書組合の水害對策

大阪古書籍商組合では今回の風水害に當り藤堂卓、杉本要正副組長は災害翌日直ちに罹災地同業の慰問に向つたが二十四日これが急救と慰問につき緊急臨時評議員會を開催し、取敢ず床上浸水の罹災組合員に對し慰問金として金參圓宛を贈り尙向ふ三ケ月間組合費を免除することを決議、二十六日全評議員出動して罹災者を歷訪しそれ〴〵慰問金を手交したが各所を通じ床上浸水百三十軒に及んだ、

外國作品の飜譯に就て

一昨年來朝したフリードマンが自分の作品を演奏出來なかつた悲喜劇、徒らに交涉を重ねて優秀作品を飜譯するに一年餘も費す國際的煩雜、公然作られる小說、論文の剽竊等々、著作權の不備から來る現在我が國の文化上の損害は想像以上のものであるので、內務省

警保局では今春議會を通過した著作權改正法律案四十七號の成案化について鋭意研究中であつたが最近全く出來上つたので近く一齊に施行することになつた。今回の改正案は其實質的效果に於ては全く劃期的のもので、其の項目中主要な點は

一、外國作品は一定の保證金を積めば內務大臣の認可にて自由に飜譯演奏出來る

一、一般著述品は登錄制度にす

一、出版權の確立

等で昭和三年成立のベヌル國際條約の規定により文藝音樂作品は原作者が夫々の團體に加入した時はその飜譯に際して莫大な權利金を要求され著者の承諾あつても飜譯不可能の喜劇さへ續出し、其の交涉に少くとも一ケ年はかゝりいざ出版の時は諸外國に比べて二ケ年時代後れにならなければならず、その立後れを取戻すべく警保局では大英斷で

權利者の住所不明等大臣の定める自由理由に關する時は、大臣の認可を受け自由に飜譯上演するを得

といふ條文を楯に、供託金制度で見事外國の出版ブローカーをボイコットとしたのである從つてパリーの作曲家協會の代表者と稱する怪外人プラーゲの如く權利金ゆすりも一指も染めることが出來ず、昨日パリーで發表の新曲が今日我々の耳に入るのも夢ではなくなつた譯である。

十一月

全國圖書祭

年一回敬虔なる心を以て精神生活の糧たる圖書の廣大無邊な恩惠に感謝の念を捧げると共に、景氣の轉換を計らんとする意義ある第二回の圖書祭は、今年は期間を延長して一日から二十日まで全國津々浦々に至る一萬五千同業の總動員によつて開始された、國民の年中行事として加へられた一つの文化普及運動であり、書籍に對する同時に顧客に對する感謝の具象的表現である、この二十日間ばかりは（東京組合は一週間）定價販賣の鐵則から解放されて組合統制の下に福引景品付特賣、棚さらへ等の讀者サービスによる賣上增加を計り或は祭典、講演會、展覽會など有意義な企てがあつた。

圖書祭典

東京の圖書祭典は東京書籍商組合、東京出版協會、全國書籍商組合聯合會、日本圖書館協會の四團體の合同主催によつて一日午後零時半から日比谷公會堂大講堂で催された生憎雨であつたが定刻既に三千を容るゝ大講堂も滿員の盛況定刻開會の合圖に正面の大幕が靜かに引かれると、壇上中央には五色の錦幕と紅白幕をつらねた祭壇に神鏡が安置され、右側には祭司神田神社平田宮司が十名の社掌を從へ左側には主催者側の代表上原書籍商組合長、目黑出版協會長、松本圖書館協會理事長、松田文部大臣、後藤內務大臣永田帝國教育會長、大橋新太郎氏等が控へ、奏樂の裡に先づ修祓の式を行ひ參列者一同起立し被祠、大麻及鹽湯を終り、次で降神の式、奉弊、獻饌等があつて平田祭司祝詞を朗讀、目黑出版協會長の祭文上原書籍商組合の式辭朗讀續いて上原、目黑松本氏等主催者代表、松田文相、後藤內相、永田帝國教育會長、文部省社會局長、參列者代表大橋新太郎氏等の玉串奉奠の拜禮を終り撤饌、撤饌昇神の儀を以て一時十分嚴かな式は閉ぢられた。

祭典を終り一時二十分松本圖書館協會理事長の挨拶に次いで文部大臣松田源治、帝國教育會長永田秀次郎兩氏の講演、一龍齊貞山の講談、圓生の落語、淸水和歌一座の舞踊があつて四時閉會した。東京書籍商組合の式辭は左の如し。

式辭

國運の發展は文明の進步に件ひ、文明の進步は學術の普及を意味す、故に學術普及の程度は以て國家の降替を知るに足るべく、巷閭咿唔の聲絕へず、牧家柴屋、螢燭の光り滅せざれば、其の國必ずや富强民人篤厚にして穆々乎たりと、

卽ち出版界の殷賑は以て國運の隆昌を如實に表明するものと云ふべし、抑も出版の業たる、社會の木鐸、風敎の軌範にして、名篇良籍を精選するに於ては、靈腕一揮、鬼神も爲めに泣くの名章あれば、惰夫をして志を立たしむるの佳句もあり、其の靈氣相通ずるや幽玄神秘をも極む、縱令其の神に入らざるものも、克く人心を刺擊し、感化奬勵の功を擧ぐ、大哲學者出ては一世を指導し、大文豪ありては社會の曲折を畫く、文章想華讀書勸學の德、亦偉大なる哉

卽ち圖書は吾人生活の進步發展に密接の關係を有し、精神的糧として

日常欠くべからざるものにして、其の恩惠の鴻大なることは計り知るべからず、此の鴻大なる恩惠に浴し、吾人當業者は勿論、有ゆる讀書家に向つて、圖書に對する感謝と敬虔の念を一層深からしむる爲め、本組合は昨年の今月今日、創めて圖書祭を擧行し、爾來年々之を行はんとす

今や我國の文華は燦然として日に進み、圖書典籍は愈々盛んに刊行せらる、其の種數は一年實に二萬五千と云ふ多種を數へ、世界を通じて第三位を占むるの光榮を有す、洵に昭代の慶事と云ふべし

本日玆に第二回の圖書祭式典を擧ぐるに當り、予輩懷抱の一端を述べ以て式辭となす

昭和九年十一月一日

東京書籍商組合組長上原才一郎

雜誌カバーの排除

最近雜誌にカバーを覆せることが流行し店によつて雜誌を購入すると店員が心得顏に自店の包裝用紙で巧にカバーして渡すものがあり、これを狙つて雜誌カバー專門の商賣が現はれカバーに廣告を取入れて無料で販賣店に寄贈、受けた販賣店はそのまゝ簡單に表裝し得るので非常に重寶に盛んに利用するやうになつたが、この結果は折角有力雜誌の表紙に高價な代金を支拂つても廣告を揭載する側にとつてはカバーにより廣告は完全に隱蔽されてしまふので廣告主から發行元に對して頻々と苦情が持込まれるに至つた、雜誌協會では雜誌カバーの弊害除去について販賣店に注意撤底的に排除の法を講究した。

二大印刷會社の合併

都下四大印刷會社たる共同、凸版、日淸、秀英の合併問題は昭和七年の夏頃擡頭し、若しこれが實現すれば雜物印刷以外の纏つた書籍雜誌は殆んど新會社の獨占となるのでその成行は頗る注目されてゐたが、その後齊として消息を斷ち實現不可能と見られてゐたところ豫て日淸、秀英の間に兩社の取締役を兼ねる衆議院議員增田義一氏を介して新たな合併交涉が進められ、二日兩社それ〳〵に臨時株主總會を開き正式に合併を決定した、新會社は資本金六百萬圓、內拂込四百二十五萬圓、卽ち日淸二百萬圓(拂込百二十五萬圓)秀英四百萬圓(拂込三百萬圓)の現在資本金をその儘合併したもので合併條

件も總て對等である。

運賃値下の運動委員

本年度の全國書籍商組合聯合會總會に北海道組合から建議された鐵道運賃引下げ、卽ち現在四級品扱されてゐる一般圖書を國定教科書同樣五級品に統一されん事を鐵道省に請願することは全會の贊成を得て通過し、聯合會常任幹事會に於て地方組合と連絡をとり實行運動に着くことになつたが、東京組合では五日の定例評議員會に於て議長の指名で國領、山本、西村大橋、三樹の五氏を委員に擧げた聯合會常任幹事會と提携して請願運動の具體方法を研究することになつた。

雜誌文化展覽會

早大出版研究會主催の雜誌文化展覽會は日本雜誌協會の後援の下に十日から十四日まで東京堂小賣部階上ギヤラリーで開かれた。新聞と雜誌の區別のなかつた初期時代初めて雜誌と名付け月刊として發行された「西洋雜誌」(慶應三年の創刊で內容は和蘭雜誌の飜譯發行は柳河春三、五號まで續いた)を始め明治月刊(明治元年)世の噂(同三年、パリーにて發刊)新聞雜誌(同四年)明六雜誌(同七年)評論新聞(同八年)文部省雜誌(同九年)團々珍聞、講學餘談頴才新誌(同十年)頃のものから現代に至るまで數百種の雜誌創刊號を年代順に出品、外に雜誌の出來上るまで、新聞廣告の原稿より新聞に載るまで等の成作工程、新舊ポスター比較、雜誌文化の功勞者の寫眞雜誌に關する統計二十種等が陳列され、一つの文化形態たる雜誌の盛衰、社會情勢の變遷等の歷史的考察に資するところ多い企てであつた。

市場協會秋季大市會

大阪古書籍市場協會主催大阪古書籍商組合後援「市場協會秋季大市會」に二十日午前十時から日本橋俱樂部に開催したが市內同業は無論遠く東京、四國からの來會があり非常な盛況で取引高は五千圓を遙かに突破した。

圖書雜誌小賣組合總會

東京圖書雜誌小賣業組合は十七日午後二時神田區美土代町東京基督教青年會館に於て定時總會を開

催、昭和九年度庶務並に決算を報告、十年度豫算案を審議可決し、幹事の改選を行つた、尚幹事會の互選で組長に塚越都四郎副組長に岸他丑、同山本芳之助、常任幹事長に土屋右近氏等が就任した。

長井庄一郎氏逝く

上田屋書店主、株式會社大東館專務取締役長井庄一郎氏は豫てから病氣療養中であつたが遽かに病革まり二十四日午後九時十分湘南鵠沼の別邸に於て遂に逝去した。享年五十一歲、氏は大取次大東館の設立と同時に專務取締役に就任し今日の隆盛に至らしめた功勞者であり傍ら上田屋書店主として書籍に配給の圓滑を圖り、又衆望を擔つて東京書籍商組合評議員、日本雜誌協會評議員東京雜誌販賣組合幹事等の公職に就き日夜業界の爲めに盡し其功績大なるものがあつた。東京書籍商組合は氏の功勞に對し左の如く表彰した。

表彰狀

故　長井庄一郎殿

大正十五年以降株式會社大東館代表トシテ本組合ノ評議員タルコト九年其ノ間孜々勉勵當業ノ福利公益ヲ贊畫セラレ功勞尠ナカラス仍テ本組合ハ評議員會ノ決議ヲ經テ紀念品ヲ贈前ニ供ヘ以テ君カ生前ノ功ヲ表彰ス

昭和九年十二月二十日

東京書籍商組合組長上原才一郎

中等教科書販賣協會總會

昭和八年十月結成された中等教科書販賣協會は第二回總會を二十五日午前十時から大阪市東區綿業會館に於て開催し

一、古本店及兼業者への新本供給を禁ずる件

二、献本問題

三、發行元の直接割引販賣を防止の件

を議題として協議し役員の改選を行つた、役員左の如し。

（會長）大阪協會（副會長）愛知協會（常任幹事）和歌山、廣島、福岡（幹事）秋田、栃木、愛知、福井、和歌山、大阪、兵庫、廣島、岡山、愛媛福岡、鹿兒島

殖民地の送料負擔撤廢運動

滿洲・朝鮮・臺灣に於ける書籍販賣は定價の外に別に送料として定價の五分程度を掛けて居り、これが爲め從來もしばゝ〳〵讀者からその不當を非難され地方の新聞も讀者の送料負擔を書店の暴利の如く報道して、讀者の送料負擔撤廢運動を續けて來たが、最近滿洲日報が數日に亙つて大々的に定價賣を書立てたので地元同業も靜觀出來ず、去りとて現狀の取引を以て定價販賣すれば莫大な運賃に採算がとれないので、同じ苦惱を味ふ朝鮮・臺灣等と協議した結果、正味引下によつて讀者の送料負擔を免除し、よつて賣上の增進を圖り經營難を打開すべく聯合會總會に上京を機として會合し、三組合代表の連名を以て正味引下の陳情書を其れ〴〵へ提出した、その內容は左の通り

嘆願書

こゝに我々謹んで滿洲書籍商組合朝鮮書籍商組合、臺灣書籍商組合の總意を代表して

書籍卸正味の一齊値下を嘆願申上候、御承知の通り我々組合員は內地と遠く離れ其運賃に諸經費に內地同業各位の味ひ得ざる苦惱の負擔を致し居る譯に候故に致方なく讀者より送料を申受けることゝ致し居り候得共、これとて各賣込の競爭上、或は讀者の頑强な定價賣强要等にて實際に於ては其實行は法律書醫書等の正味の割高品のみ位の有樣に御座候、加えて一般讀者の定價賣卽行の要望は組合員に對しての非難の聲にまで到り、之に新聞社が讀者の聲を聲援する有樣にて、全く我々組合員はこのまゝの現狀を押進めんか、そこに橫はるものは廢業、破産の文字に候、而してそれは旣に前途のものでなしに悲しくも現實に直面しつゝある事實に候、我々としても、書籍に嚴然たる定價が存するものを、定價で賣れぬと云ふ非文律には常に心を傷め居るものに候希くば全出版元が海を越えての我々小賣業の立場に御同情を賜ひ卸正味の一齊値下を斷行なし下され度く、これに我々餓死線上にある組合員の回生の良藥たるのみならず、滿洲朝鮮臺灣の全讀者をして熱烈なる讀書慾の向上に到らしめるものに有之候、今我々はその讀者と組合員の兩者の切實なる總意を代表して上京し居るものに御座候（下略）

十二月

古典文學物の取締

古典文學には皇室に關した事が多く中には不敬と思はれるものもあり、風俗安寧の見地からも遺憾に思はれるものも少くないが、それ等は從來古典文學として殆ど世人の問題とならなかつた、しかし近年日本精神の作興が强調され社

會思想も大分變化して來たことから古典文學に對する議論が喧しくなつたので、內務省圖書課では古典物の檢閲取締につき愼重考究の結果、古典文學を三種に分ち三段構への取締方針を確立した、卽ち

一、純文學に對する取締—萬葉集、源氏物語、平家物語等の純文學については既に數百年も文學物として何等問題とならず存續して來たもので、しかもその時代の文章を以て書かれてゐるのでそれ等に對しては從來通りとする

二、宣傳力のあるものに對する取締—皇室の尊嚴を傷ける恐れありと見られるものや風俗安寧上面白くないと思はれる古典文學で、宗教及び謠曲その他のうちに大衆に呼びかけるものがある、それ等の宣傳力のあるものに對しては自發的に不穩當と見られるところを削除させるか秘傳として公開を遠慮させることにし、若し應じない場合は發賣禁止等によつて嚴重取締る

三、現代文に飜案したものに對する取締—古典文學を現代文に飜案したもので古典文學のまゝならば殆ど剌戟を與へぬが現代文とすると非常に惡影響を與へるものが少くないので、それ等に對しては現行の取締規則に依つて嚴重な取締を行ふ

芥川・直木賞の制定

文藝院設立の聲もどうやら空騒ぎに終り「文士に勳賞」が一場のナンセンスに終りさうに見える昨今、文藝春秋社では今度芥川、直木賞委員會を創設した、芥川龍之介、直木三十五兩氏の名を紀念したいといふ菊池氏等の故人との情誼に出るもので且つは文運隆盛の一助にも資さうといふ企てである

芥川賞の名に於て廣く各雜誌（同人雜誌をも含む）に發表された無名若くは新進作家の純文學作品の優秀なるものを、直木賞では純文學作品を除く他の一切の大衆文藝のそれを選定、各々賞牌（時計）と副賞として金五百圓を贈呈するもので、一月號から六月號までの分を第一回とし以後六ケ月毎に審査選定する、尙審査員として芥川賞には菊池、久米、山本、佐藤、谷崎、室生、小島、佐佐木、瀧井、橫光、川端の諸氏、直木賞には菊池、久米、小島、佐佐木、吉川、大佛、三上、白井の諸氏がその任に當ることになつた。

大市會の福引抽籤會

東京書籍商組合では三日午後一時組合事務所に於て業界新聞通信記者立會の下に圖書大市會の福引抽籤を行つた、一等十圓當籤をかち得たものは大阪屋號、大東館、奎運堂、大坪書店の各二本をはじめ巖松堂、栗田、愛知書籍、星野盛文館、益文堂、宇都宮書店、登美屋、東海堂、丸善、弘明堂であつた。

福岡組合國防費を献金

福岡縣書籍雜誌商組合では一九三五年の非常時に備へるため四百餘名の組合員が蹶起し決議を以て五百圓を國防費として第十二師團に献金、組長金文堂菊竹大藏氏が十五日、九州日報社を訪問委託した。

文藝家協會の改組

文藝家の單なる職業組合に過ぎなかつた文藝家協會は今度かねて懸案の社團法人組織が愈々認可されたので、これを機會に在來は著作權上演權、擁護等作家生活の消極的な自衞活動に留まつたものを向後は廣く社會敎化を目標に積極的に一般に呼びかけることになつた、十二月十八日麹町區內幸町に創立總會を開き、新役員として（理事）甲賀三郎、芦澤光治良、杉山平助、冲野岩三郎（監事）岸田國士、高田義一郎（評議員）菊池寬外二十九名を選任し、協議に移り協會の事業として文藝圖書、文藝關係文獻を集めて「文藝圖書館」を設立經營するほか、文藝に關する調査研究講演會、展覽會、談話會、映寫會等を隨時遂行するが、その第一着手として文部省推薦による協會員の社會敎化的作品の出狀、同省後援による古書珍籍の展覽會を開く。

十年一月

東京書籍商組合定時總會

東京書籍商組合は昭和十年度定時總會の十日午後一時から軍人會館に於て開催し議事に先立ち勤續店員二百七十八名の表彰式を擧げ、其れより上原組長を名議評議員に推薦し次で昭和九年度庶務並に會計を報告、特別決議案たる組合月費を當分の間三十錢に値下の件を可決し、次で十年度豫算案を審議承認して議事を終り、最後に評議員五十名の改選を行つた。

大阪書籍雜誌商組合總會

大阪書籍雜誌商組合は十四日實業會館に本年度定時總會を開き議事に先立ち午前十時勤續店員の表彰式を擧げ、午後一時より議事に移り昭和九年度庶務並に決算を報告、十年度豫算案を審議可決し、規約の一部修正を可決して、最後に評議員の改選を行つた、評議員左の如し。

(出版卸側)湯川松次郎、三木佐助、大阪參文社、石田松太郎、盛文館、柏佐一郎、矢部良策、大淵善吉、小島重太郎、武田福藏、服部勘太郎、岡本政治、佃要三郎丸善大阪支店、松本善次郎、千葉德松、藤谷芳三郎此村庄助、清水權次郎、

(小賣側)米原一之、松本政治、別所獻、松葉重造、森川茂太郎、今西時郎、荒木太藏、四方耕太郎、大塚覺二、所貞一郎、法西保藏、田中庄二郎、今井平次郎、牧藤治、稻森啓藏松岡惣吉、丸山英一郎、森田勝太郎高橋貞二

日本雜誌協會總會

日本雜誌協會は十九日午後四時東京會館に本年度定時總會を開催昭和九年度の庶務並に會計を報告十年度の豫算案を審議可決し、終つて五時から同所に懇親會を開いた。

書店員慰安會

東京書籍商同志倶樂部は二十日午後一時から軍人會館に於て第十三回書店員慰安會を開催「怒るな働け」の標語を守り働く小店員にとつては待遠しかつた一日で天野喜久代孃の獨唱、古川緑波君の漫談、東洋一の自轉車曲枝、日本一の怪力實演、林海軍少佐の軍縮問題に關する講演、梅の家一座の萬歳、最後に友松圓諦氏の「觀世音」と題する講話があり、この日の入場者約二千人の盛況であつた。

中等教科書協會總會

中等教科書協會は昭和十年度定時總會を二十一日上野精養軒に於て開き昭和九年度庶務並に會計を報告、十年度豫算案を審議可決して後幹事の改選を行つた、尚幹事改選後正副會長を互選し會長に冨山房(坂本嘉治馬氏)副會長に明治書院(森下松衛氏)が重任した。

東京雜誌販賣業組合總會

東京雜誌販賣業組合は二十四日午後二時半から軍人會館に於て本年度定時總會を開催、議事に先立ち勤續店員の表彰式を行ひ、それより昭和九年度庶務並に會計を報告十年度豫算案を審議可決し、それより幹事の改選を行つた。

東京出版協會總會

東京出版協會は二十三日午後三時から上野精養軒に於て本年度定時總會を開催、昭和九年度庶務並に會計を報告、十年度の豫算案を審議可決した、五時議事を終り餘興に移り六時半から懇親會を開き目黒會長の發聲で兩陛下の萬歳を三唱し、石川正作氏の發聲で出版協會の萬歳を三唱し八時半和かに散會した。

京都組合の總會

京都書籍雜誌商組合は二十四日午後一時から市內木屋町鮒鶴樓に於て本年度定時總會を開き議事に先立ち勤續店員の表彰式を行ひ、それより昭和九年度庶務並に會計を報告、十年度豫算案を審議可決して後評議員の改選を行つた。

東京組合の正副組長

東京書籍商組合は十三日初評議員會を開き正副組長以下各委員の互選を行つた。組長には目黒甚七氏が推薦され、副組長は山崎信興氏の重任となつたが、目黒氏は一身上の都合で之を受諾せず、止なく三十日臨時評議員會を開き組長に副組長山崎信興氏が推され、山崎氏の昇任に伴ふ副組長一名は榊原友吉氏が推され就任した。

九年度製紙生産販賣高

昨年中の洋紙界はインフレ景氣の影響と王子、冨士、樺工三社合併後の合理化が漸次その効果を示して來たので業界は活況を告げ、洋紙界の癌とされて居た共同保管紙の如きは殆ど一掃され、矢繼早なる臨時限産緩和に次いで十一月一日からは久しく掛置かれて居た基本限産率の五分緩和を見るに至つた。卽ち日本製紙聯合會調査に依る加盟九社の昨年中における洋紙製造販賣高製造十五億九千百四十七萬四千ポンド、販賣高十六億五百八十八萬四千ポンドと製造販賣高ともに未曾有の高記錄を示して居る、之を前年のそれに比較すれば製造高において一億四千七百三十六萬九千ポンド(一割二厘)販賣高において一億三千七百三十萬五千ポンド(九分三厘)の各激增である、三社の大トラストによる効果の現れにしてこの數字は驚異とされる。

我國刊行の圖書年表

我國に於て發行された圖書の數は何の位に達して居るかと云ふに、其の正確の數は明治十四年以前は不明であるが、古來の圖書目錄、記錄等に依り大體は左表の如くである。

國初以來、鎌倉開府の前年即ち後鳥羽天皇の文治元年に至る迄は約一、八〇〇種。鎌倉開府以降、德川幕府創立の前年即ち後水尾天皇の元和元年に至る迄は　約五、〇〇〇種

德川幕府以降明治維新迄は　約六〇、〇〇〇種

明治元年より同九年迄は　約一三〇、〇〇〇種

明治十年より同十三年迄は　三三、八一九種

明治十四年　二、一三二種

明治十五年　二、八一七種

明治十六年　二、八八一種

明治十七年　二、七六五種

明治十八年　二、八一二種

明治十九年　二、四八一種

明治二十年　二、七五三種

明治二十一年　五、五二八種

明治二十二年　六、三一二種

明治二十三年　七、九五六種

明治二十四年　七、三五八種

明治二十五年　七、二一六種

明治二十六年　八、七二〇種

明治二十七年　八、三三四種

明治二十八年　六、八四五種

明治二十九年　二五、三八一種

明治三十年　二〇、八〇五種

明治三十一年　二二、二五五種

明治三十二年　一八、一七〇種

明治三十三年　一八、九六三種

明治三十四年　二二、九四二種

明治三十五年　二四、二七九種

明治三十六年　二五、五七四種

明治三十七年　二七、〇七八種

明治三十八年　二八、二五四種

明治三十九年　二九、〇六〇種

明治四十年　二八、四七九種

明治四十一年　三四、〇六六種

明治四十二年　二二、八三七種

明治四十三年　二三、五三二種

明治四十四年　二三、八六八種

大正元年　二三、一〇四種

大正二年　二四、五五四種

大正三年　二四、三三二種

大正四年　二四、五〇一種

大正五年　二二、八二七種

大正六年　二一、五六〇種

大正七年　二〇、四〇〇種

大正八年　九、五八六種

大正九年　一一、九〇三年

大正十年　一三、〇八一種

大正十一年　一〇、九四六種

大正十二年　一四、三六一種

大正十三年　一八、〇二八種

大正十四年　二〇、二一二種

昭和元年　二〇、二一二種

昭和二年　一九、九六七種

昭和三年　一九、八八〇種

昭和四年　二一、一一一種

昭和五年　二二、四七六種

昭和六年　二三三、一一〇種

昭和七年　二三二、一〇四種

昭和八年　二四、〇二五種

昭和九年　二六、三三一種

備考（明治四十二年以後は雜誌及び官廳出版物を加へず）

新聞雜誌發行年表

明治八年以降の新聞雜誌年表は左の如くである、これは新聞紙法に依り發行したるもので、出版法に依る新聞雜誌は此表には算入せず、其れは出版物數に加へてある。明治八年以前は統計がない。

明治　八年　五三

明治　九年　一七〇

明治　十年　一五六

明治十一年　二二五

明治十二年　二三五

明治十三年　二五〇

明治十四年　二五三

明治十五年　二四四

明治十六年　一九九

明治十七年　二六九

明治十八年　三二一

明治十九年　四〇三

明治二十年　四七一

明治二十一年　五一一

明治二十二年　六四八

明治二十三年　七一六

明治二十四年　七六六

明治二十五年　七九二

明治二十六年　八〇二

明治二十七年　八一四

明治二十八年　七五三

明治二十九年　八二九

明治三十年　五四五

明治三十一年　七七五

明治三十二年　九七八

明治三十三年　九四四

明治三十四年　一、一八一

明治三十五年　一、三二八

明治三十六年　一、四九九

明治三十七年　一、五九〇

明治三十八年　一、七七五

明治三十九年　一、九八八

明治四十年　二、三〇〇

明治四十一年　二、五二四

明治四十二年　二、七六八

明治四十三年　二、七九三

明治四十四年　二、〇七七

大正　元年　二、二二七

大正　二年　二、六四七

大正　三年　二、七一九

大正　四年　二、八五一

大正　五年　三、〇六六

大正　六年　三、〇一八

大正　七年　三、一一三

大正　八年　三、四二三

大正　九年　三、五三二

大正　十年　三、九八〇

大正十一年　四、五六二

大正十二年　四、五九二
大正十三年　五、八五四
大正十四年　六、八九九
昭和　元年　七、六〇〇
昭和　二年　八、三五〇
昭和　三年　八、四四五
昭和　四年　九、一九一
昭和　五年　一〇、一三〇
昭和　六年　一〇、六六六
昭和　七年　一〇、九六〇
昭和　八年　一一、八八〇
昭和　九年　一二、〇五六

書籍目錄一覽

明治以前に於ける書籍目錄の寫本板本中主なるものは左の如くである。

將來目錄　僧最澄　延曆廿四年
日本國現在書目錄　藤原佐世　寛平
釋教目錄　僧圓超　延喜十四年
東域傳灯目錄　僧永超　寛治八年
和漢撰述　同　同
普門藏書明德目錄　僧智有　明德三年
仁和寺書目　永享
本朝書籍目錄　清原業忠　永享
日本書籍總目錄　清原業忠　長祿二年
詞合目錄　長祿　文明十五年
本朝書籍目錄　清原業忠　永正二年
諸家放實集目錄　高坂彈正　天正四年
冷泉家藏書目　天文二年
御請來目錄　寛永
和學講談新書目　塙忠寶　寛永二年
栂尾目錄　寛永十年
眞言宗所學經律論目錄　慶安元年
寶鏡鈔目錄　明曆三年
新板書籍目錄　萬治二年
長西錄　寛文二年
釋教諸師製作目錄二冊　寛文七年
大明三藏聖教目錄二冊　寛文九年
新板書籍目錄(十一行)一冊　寛文九年
增補書籍目錄大全(十一行)二冊　寛文十年
本朝書籍目錄　寛文十一年
新版增補書籍目錄　寛文十一年
新撰書籍目錄大全　天和元年
同　異本

序語類要　天和三年
廣益書籍目錄　貞享二年
御獻上目錄　元祿四年
廣益書籍目錄大全　元祿五年
俳諧書籍目錄　筒井重勝　元祿五年
增益書籍目錄　元祿九年
二酉洞　一色時棟　元祿十二年
唐本類書目錄　元祿
三韓紀略文籍彙　伊藤長胤　元祿
書籍目錄　寶永三年
增益書籍目錄　寶永三年
辨疑書目錄　中村富平　寶永六年
增補書籍目錄大全　寶永六年
增補書籍目錄　正德五年
同異本
醫籍志　僧義諦　正德六年
新撰書籍目錄　文照軒柴橘　享保十四年
三州岡崎領古書目錄　寬保二年
新增書籍目錄　寶曆四年
新版密宗書籍目錄　寶曆七年
藏版略目錄　寶曆
絲山三大藏目錄　僧隨天　寶曆十三年
和漢軍書要覽　明和七年
神道書目集覽　明和七年
禁書目錄　明和八年
大增書籍目錄　明和九年
古義堂遺書總目叙釋　伊藤善韻　安永三年
和漢軍書要覽　吉田一保　安永七年
群書類從目錄　安永
書籍名數　中村治重　天明元年
海北若沖藏書目錄　海北若沖　天明八年
戒籍志　澁井孝德　天明
諸宗章疏錄　僧諦順　寬政二年
國朝書目　藤井貞幹　寬政三年
足利學校藏書目錄　新樂定　寬政九年
諸藩藏版書目筆記　東條信耕　寬政
合類書籍目錄大全　多田勘兵衞　享和元年
君公御藏目錄　磯部茂兵衞　享和三年
自石先生著述目錄　堤朝風　享和三年
自石先生著述書目記　荒木田久老　享和
五十槻園藏書目錄　享和
傳教大師將來目錄　文化四年
寶生院圖書目錄　文化四年
書籍目錄　文化五年

物語書目錄備考		文化七年
近代名家著述目錄	堤朝風	文化八年
欽定四庫全書簡明目錄		文化十一年
四庫全書總目		文化十一年
佐伯毛利侯献書目錄		文化十二年
俳諧書籍目錄		文化
彙刻書目外集	松澤老泉	文政二年
傳教大師將來目錄		文政四年
官刻新收書目		文政五年
古刻書跋前		文政巳卯
物語書目備考	伴直方	文政七年
常磐種		文政九年
山路栞	高井伴覺	文政十年
椿亭叢書目錄	越智直澄	文政十二年
書籍目錄		文政
御本日記續錄	近藤守重	文政
御本日記附註	近藤守重	文政
東本日記附註	近藤守重	文政
御寫本譜	近藤守重	文政
平山氏藏書目	平山潛	文政
平山兵原藏書目	平山潛	文政
聿脩堂藏書目錄	丹波元簡	文政

曆書目錄	澁川景佑	天保三年
林崎文庫書目		天保四年
東大寺正倉古文書目錄		天保七年
欽定四庫全書提要		天保九年
增補外題鏡		天保十年
古今要覽調進目錄	屋代弘賢	天保十三年
近代著述目錄後篇	東條信耕	天保十四年
古今中華醫書便覽	僧大鵬	天保
吉原書籍目錄	柳亭種彥	弘化二年
五行四行淨瑠璃本目錄		弘化
酉軒書目	齋藤正謙	嘉永三年
尾張官庫書目		嘉永三年
五行四行淨瑠璃外題目錄		嘉永四年
日本國見在書目錄	穗亭	嘉永五年
西洋學家譯述目錄	岡本保孝	安政四年
岡本保孝著述目錄	林緯	安政五年
重訂御書籍目錄	林緯	安政五年
皇國醫籍目錄		安政五年
淨宗書籍目錄		文久元年
書叢	鵜養徹定	文久三年
古經題跋		

譯場列位	幸島宗意	文久三年
玉山堂製本書目	山城屋佐兵衛	文久三年
玉巖堂儲藏書目	和泉屋金右衛門	文久三年
玉巖堂唐本並碑帖之記	和泉屋金右衛門	文久三年
玉巖堂製本頒行書目	和泉屋金右衛門	文久三年
和學新書籍目錄		慶應元年
萬葉集書目	木村正辭	慶應二年
春廼屋藏書目錄	中根長章	
法華宗書目	丹屋甚四郎	
凌雲院藏書目		
毛利家藏書目錄		
明倫堂御文庫御書目		
水原書目		
間宮新持書目錄		
本朝法家文書目錄		
尾藩御文庫御書目		
披錦閣藏書目錄		
番外書目		
豐宮崎文庫書目		
通憲入道藏書目錄		
攝津國住吉神社書籍目錄		
小月樓書目		

眞宗末疏書籍標目	
新宮城藏書目錄	
書籍目錄大全	
諸宗章疏目錄	
諸家名目記錄	
諸家藏書目錄	
昌平阪御記錄目錄	
昌平學庫宋元版書目	
不忍文庫書籍目錄	
不忍文庫記錄目錄	
三寶院眞言經藏目錄	
觀世元規藏書目錄	
官庫書目	
官庫書籍目錄	
懷僊樓書目	
朽木家藏書目錄	
近世書目	
紀藩內府書籍目錄	
紀藩外府書籍目錄	
求古樓書目	
合卷外題集	
合卷綺草紙表題作者名目集	

樂書目六　太宰純　延亨元年
學庫書目　唐本類書考　寬延四年
溫故堂藏書目錄　同
惠山院藏和書目錄　群籍綜言　中村明遠　寶曆九年
以呂波分珍目錄　典籍概見　僧環〇　寶曆四年
今尾文庫書籍目錄　和漢軍書要覽　吉田一保　安永七年
異本本朝書籍目錄抄　漢土大略外題學問　安永九年
醫籍志　海印玄々錄　僧明道　亨和二年
足利學校舊書目錄　海印玄談　僧明道　亨和二年
群書一覽　尾後雅嘉　亨和元年
番外雜書解題　戶田民德　文化九年
掌中群書一覽　文化九年
典籍秦鏡　田口明良　文化十年
右文故事　近藤守重　文化十四年
寫紀提要　近藤守重
御本日記附註　近藤守重
慶長敷渡考　近藤守重
東本日記附註　近藤守重
群書備考　村井量竹　文政十年
本朝醫家古籍考　中川修亭　文政十年
醫家古籍考　中川修亭
編脩地誌備用典籍解題　間宮士信　文政五年

圖書解題

明治以前に於ける圖書解題書の大體は左の如くである。

淨典目錄　僧有覺　應和三年
軍書題說　林道春　元和元年
異朝書籍考　慶安二年
日本書籍考　林道春　寬文七年
經典題說　林道春　寬文七年
和板書籍考　幸島宗意　寬文十一年
倭板書籍考　元祿十五年
禪籍志　僧義諦　正德六年
讀書筆記　谷恒守　元文五年

記錄解題　戶田氏德　文政七年
寫記類聚抄　天保九年
正齋書籍考　近藤守重
國史纂文志　澁谷大室
官板書籍解題略　弘化四年
經籍訪古志　樾山精一　安政三年
日本書紀異本攷　海保元備　萬延元年
萬葉集書目提要　木村正辭　慶應二年
記錄書目提要　木村正辭
水戶史館珍書考　鶉飼信孝
存採叢書洽聞錄
番外書目
舶來書籍大意書
伊吹能舍著撰書目
記錄提要錄　國友恒足

著作權法施行期日定まらん

從來の著作權法は、昨年五月公布になつた「改正著作權法」に依つて漸く其の確立を見るに至つた譯であるが、一方內務當局では之が施行期日について、各方面の意見を聽し種々考究中のところ、來る四月一日より愈〻實施することに確定した、而して之に伴ふ內務省令に依る施行細則は目下警保局圖書課で立案中であり、今回の施行細則中特に注目すべきものは「著作權審查會」の設定である卽ち

施行細則に基き著作權審查會なるものを組織し、著作權に關する審查と爭議の調停解決を計り該法運行上の完璧を期す

と言ふのであるが、四月一日から實施される著作權登錄と言ふのは著作者が一定の登錄稅を納付して其の著作物の登錄を受けることが出來、所謂著作權の確立が當局に於て保證される譯であり從來の如く著作權に關する紛議は自然なくなる譯である、尙ほ右著作權審查會の組織については內務大臣を委員長とし、民間を主に出版、文藝、音樂、美術、建築、學術其他著作權に關係ある各界の權威並に外務、司法、文部、內務の各省代表者を委員に網羅するものの如くである（本年鑑印刷日迄には未だ施行期日の發布なし）

商標登錄書籍一覽

明治三十三年に制定された商標法により特許局に登録された書籍は大體次の通りであるが、その登録された書籍は單に登録されたるのみに止まり實際に於ては未刊のものも相當にあり、中には同一店で殆んど類似のものを登録して居るものもある、これは他店の類似刊行をそれてであらう、勿論本登録中には絶版もの廢刊、未刊、讓渡等も相當多いことであらうが、書籍の變遷を知る上には教へられるところが多いであらう。

（書名）	（登錄年月日）	（氏名）
Webtes Slictionary	明治三三年六、一四	米國　ジー、エンド、シーメリアムコンパニー
曆之友	同一〇、二六年	東京　柄澤庄八
御重寶	同三九年八、二五	東京　柄澤庄八
曆之栞	同九、二八年	東京　山内勇太郎
More lathe Work With Fewer Lekes	同四〇年三、八	米國　ゼ、ロツジ、エンドシツプレーマシーンツグルカムパニー
御壽寶	同一〇、三年	東京　柄澤庄八
禮和	同一二、二三年	獨逸　カルロ、ウヰツツ、ウンド、コムパニー
禮和	明治四〇年一一、三	獨逸　カルロ、ウヰツツ、ウンド、コムパニー
Louss aint Laugens cheidt	同四二年八、五	獨逸　カール、グーエフ、ラングンシヤイト
鋼鐵虎之卷	同一二、二七年	東京　河合佐兵衞
貫	明治四五年八	大阪　橋本德次郎
言海	大正二年七、一〇	東京　大槻文彥
百合子	同八、二八年	東京　金尾種次郎
言泉	大正三年五、一八	東京　大倉保五郎
漢和文海字典	大正四年三、一	東京　新井藤四郎
小ゆま	同三、三一年	東京　金尾種次郎
その日がへり	大正五年一、二三	東京　下田兵太郎
七日の旅	同一、一三年	東京　下田兵太郎
キネマ文庫	同六、二八年	東京　井平正一
東京神宮館藏版御要集	大正六年三、三〇	東京　山田照胤
香涙	同七、二一年	東京　町田濱雄
中外史傳嚴窟王	同八、〇九年	東京　町田濱雄

噫無情	大正六年八、〇九	東京　町田濱雄
一坪農業日誌	同九、二五年	東京　土戸伊三郎
花のしらべ	同一〇、〇三年	東京　妹尾幸次郎
花	同一一、一六年	東京　平野師應
美人遊	大正七年九、三〇	東京　坂本一郎
ライオンコスモス	同二、一八年	東京　小林商店
Stupley	大正九年四、一〇	米國　シムプレツクス、リスクラフ、コムパニーイン、コーポレーシヨン
奇蹟	同四、一三年	兵庫　加古忠兵衞
日本から日本へ	同九、一八年	東京　金尾種次郎
幡詞七音五字四句一詞	同一二、一一年	京都　二宮忠八
運氣豐凶便覽	大正十一、二二年	東京　柄澤庄八
胃腸のしる邊	同三、〇四年	東京　ドラッグ商會
情體の栞	同三、〇四年	東京　ドラッグ商會
鶴龜	同三、一八年	東京　柄澤庄八
農家曆	同三、一八年	東京　柄澤庄八
花柳病全治秘訣 全	大正十三、一年	東京　ドラッグ商會
六甲山	同五、一七年	兵庫　赤松筆吉
日本より日本へ	同六、二二年	東京　金尾種次郎
日本を出て日本へ	同六、二二年	東京　金尾種次郎
相場靈照術	同七、〇四年	東京　松永千代
折切紙盡帳讀本	同八、〇三年	東京　松本秀樹
らしくせよ	同九、一九年	東京　齋藤新太
井上英和大辭典	同九、二二年	東京　加島虎吉
一日かけ	同一〇、〇三年	大阪　小西猪之助
日本大觀	同一〇、一二年	東京　金尾種次郎
井上英和中辭典	同一〇、二〇年	東京　加島虎吉
一太郎やあい	同一二、一六年	東京　田中直吉
九曜星	同一二、一七年	東京　柄澤庄八
DELTOR 事行	大正十一、〇九年	米國　ゼバツターリツクパブリシング、コムパニー
同三、〇三年		東京　南雲眞治

新らしき用語の栞　大正十一年三、一〇　東京和出德一
和合愛敬　同三、一六年　東京清水長次郎
生て働く　同三、二三年　大阪小西猪三郎
公準　同三、二七年　東京矢沼商店
井上和英大辭典　同四、二七年　東京加島虎吉
江戸から東京へ　同五、〇二年　東京内藤加我
天保錢は吾が鏡　同五、〇三年　東京玉塚光雄
銀の笛　同五、一三年　東京伊澤修一
銀の笛　同五、一三年　東京伊澤修一
愛兒の爲め叢書　同七、一八年　東京小酒井文一郎
醫者の來るまで　同八、二九年　大阪宮田吉二郎
目のつけどころ　同一一、〇四年　東京大久保石太郎
花道遠山正流　同一二、一二年　大阪福田又兵衞
THE HARVARD CLASSICS　大正十二年一一、一六年　米國　ピー、エフ、コリアーエンドソンコンパニー
The fine fost shelf of books　同一、一六年　米國　ピー、エフ、コリアーエンドソンコムパニー

宮地嶽三柱大神　大正十二年二、一三　福岡川島澄三郎
如意寶珠　同二、二〇年　大阪佐藤善助
西園流　同二、二〇年　名古屋加藤謙治
學粹　同三、〇六年　東京風間寅吉
我が運命　同三、一三年　東京春江堂
人間　同三、二七年　東京末廣敏三
御家寶　同六、一二年　東京春江堂
近代の結婚　同六、一二年　東京井上貞一
電氣人形　同七、三一年　東京下出義雄
安南王の行列　同八、一四年　大阪甲賀良太郎
嵐璃寬　同八、一四年　大阪白井松次郎
寶塚少女歌劇　同八、二八年　大阪阪神急行電鐵株式會社
延長大學　大正十三年六、二四年　東京星製藥株式會社
學級文庫　同六、二四年　東京野口鶴
思想善導　同七、一五年　山梨中村忠次
大和百人一首　同九、二二年　大阪中田治三郎

共存同榮　大正十三年七、二二　東京上條長次郎
春牛圖　同九、〇二年　臺灣陳齊
獄中花　同一〇、二五年　朝鮮盧益亨
千齋　同一一、一八年　東京本間民之助
青年社會大學　同一一、一八年　東京宇野共次
御寶　同一一、二五年　東京柄澤庄八
人生の理想　同一一、二五年　尼ヶ崎小林久治
交響樂　同一二、一六年　東京山田耕作
國民大學　同一二、一六年　東京宇野共次
掌中　大正十四年一、二七年　東京加島虎吉
大阪仕入案內　同一、二七年　大阪小池惣次
Soneeids Coucise Japaue-e=En'lish Dictinary　同一、二七年　東京三省堂
袖珍コンサイス和英辭典　同一、二七年　東京三省堂
Sauseidos Concisee English=Japanese Dictionary　同一、二七年　東京三省堂

袖珍コンサイス英和辭典　大正十四年一、二七　東京三省堂
文藝　同三、一七年　東京小林善八
大正十四年日日之寶　同三、一七年　東京村瀨逸雄
ヴイクター　同三、一七年　東京野口鶴
國民叢書　同三、三一年　東京小林善八
KING　同三、三一年　東京後藤篤三
登山と遊覽　同五、二六年　大阪小西猪三郎
商道　同六、〇九年　大阪島田保一郎
鈴菊　同六、一六年　大阪吉川數海
玉丹春　同六、一六年　朝鮮盧益亨
小說冨士　同七、二一年　東京福永一良
小說ふじ　同七、二一年　東京福永一良
小說不二　同八、一一年　東京福永一良
大大阪營業名鑑　同九、二二年　大阪泰重吉
歌扇錄　同九、二二年　大阪中田治三郎

大福	大正十四年一〇、一三	靜岡市宮京丸	
英文每日五千語	同一一、一〇年	大阪島屋政一	
摩訶不思議濟口熊嶽自敘傳	同一二、〇一年	三重濱口熊藏	
日本植物圖鑑	同一二、〇一年	東京北隆館	
東京正則文華講義	中學同一二、〇八年	東京 文華出版株式會社	
東京正則高等女學講義	同一二、〇八年	東京 文華出版株式會社	
文華大學講義	同一二、〇八年	東京 文華出版株式會社	
SANSEIDOSGEM DICTIONARY	大正十五年二、一六年	東京三省堂	
日本動物圖鑑	同二、一六年	東京北隆館	
晩成處	同四、一三年	東京岩田僊太郎	
眞心の食餌	同六、〇八年	福岡廣瀨峻郎	
白ばら	同六、一五年	東京宇野共次	
青年訓練	同六、二九年	東京河野正義	
鼻	同八、二四年	東京高倉嘉夫	
腦	大正十五年八、二四年	東京高倉嘉夫	
要點	同九、〇七年	東京生地靜太郎	
THREE DIAMOND	同一〇、一二年	東京 三菱商事株式會社	
なるまで叢書	同一二、〇七年	東京田中清之	
英神の音信	同一二、二一年	東京坂本一郎	
廣辭林	昭和三、一五年	東京三省堂	
立體	同三、一五年	東京石川眞琴	
すがた	同四、一九年	東京島田一郎	
世界兒童文庫	同五、一〇年	東京北原鐵雄	
お鯉物語	同八、一六年	東京福永一良	
青淵回顧錄	同八、一六年	東京高橋重治	
事業と金融	同八、一六年	東京鹽田學	
日光	同八、一六年	大阪三浦明	
線	同八、一六年	東京高倉嘉夫	

ダンサー	昭和二、二二年	大阪伊藤冨二郎	
社交ダンス	同八、二三年	大阪伊藤冨二郎	
ソーシャルダンス	同八、二三年	大阪伊藤冨二郎	
ダンスホール	同八、二三年	大阪伊藤冨二郎	
萬德集	同九、〇六年	高知渡邊寬治	
國の礎	同九、二七年	東京千葉幸之輔	
職業讀本	同九、二七年	東京辻本經藏	
銀座と丸の内	同一一、〇一年	東京島田一郎	
日本兒童文庫	同一一、〇一年	東京北原鐵雄	
日本實用動物圖鑑	昭和三、二〇年	東京北隆館	
日本應用動物圖鑑	同三、二〇年	東京北隆館	
現代處世全集	同四、一七年	東京野間清治	
世界聖賢偉傑全集	同四、一七年	東京野間清治	
新時代處世全集	同四、一七年	東京野間清治	
世界大雄辯全集	同五、〇八年	東京野間清治	
日本大雄辯全集	昭和三、五〇八年	東京野間清治	
日本文庫	同五、二二年	東京北原鐵雄	
性典	同五、二二年	東京小川菊松	
整美	同六、〇五年	東京小柳米一	
有文	同七、一七年	東京小林善八	
性	同八、〇七年	東京博文館	
術	同九、二五年	東京和田彥	
術	同九、二五年	東京和田彥	
術	同九、二五年	東京和田彥	
慾	同九、二五年	東京和田彥	
物	同九、二五年	東京和田彥	
謝恩	昭和一、四年九、二九年	大阪若林常順	
王	同二、二六年	埼玉小島完吉	
勸	同二、二六年	埼玉小島完吉	
讀本	同一〇、〇八年	津市松本整之亮	
健行叢書	同一一、二六年	津市松本整之亮	
紙上見本市	同一一、〇五年	大阪東出清光	
天物謝恩	同一一、一九年	大阪若林常順	
健行叢書	同一一、二六年	津市松本整之亮	

法	昭和二、〇四年	津市	松本整之亮
鏡	同 二、〇四年	津市	松本整之亮
健行年鑑	同 二、〇四年	津市	松本整之亮
眞人道	同 五、一五年	東京	井伏太郎
キリン	同 九、一五年	東京	岡田榮太郎
繁榮の藥店	同 九、一八年	東京	芹川武
難航	同 一〇、〇二年	東京	金井十郎平
六星館	同 一〇、二三年	東京	岡田榮太郎
役に立つ人製成所	同 一〇、二七年	東京	宮下軍平
大日本帝國産業總聯盟	同 一二、〇一年	東京	梅坂清松
群旗	昭和三、二六年	埼玉	長谷川眞
東西南北	同 六、二九年	大阪	榊原庄太郎
大菩薩峠	同 七、一六年	東京	中里孫之助
S・T・C	同 九、〇三年	東京	桝田政一
S・T・C	同 九、〇三年	東京	桝田政一
知らぬば損	同 一〇、二二年	東京	長瀨榮一

ラブミー	昭和六、一二年	東京	奥住源藏
ラブユー	同 一〇、二二年	東京	奥住源藏
スタヂオライト	同 一一、一二年	米國	コダック、シヤパンリミテツト
聖圖	同 二、二六年	東京	熊崎健一郎
五聖漢	同 一二、二六年	東京	熊崎健一郎
大東新易	昭和七、三〇年	東京	平山內藏吉
一心道	同 七、二六年	東京	熊崎健一郎
夫婦和合國の礎の鏡	同 九、〇一年	大阪	藤崎孝敎
五聖殿	同 一〇、〇六年	東京	熊崎健一郎
金物要覽	同 一〇、〇六年	大阪	大島定治郎
盲海	同 一一、二四年	東京	大槻茂雄
書道	昭和九、八七年	東京	松代松之助
獨學立身	同 九、一四年	東京	宇野共次
夏休の友	同 一〇、一九年	大阪	日本ノート學用品株式會社
冬休の友	同 一〇、一九年	大阪	日本ノート學用品株式會社

僕の友	昭和八、二〇七年	東京	小酒井五一郎
講演	昭和九、二一九年	東京	野口保之
教明元世題	同 三、二九年	神戸	南奉倫非
其の日其の日	同 四、〇五年	東京	寶文館
絕對健康法	同 六、〇二年	東京	北原鐵雄
數學的競馬穴の研究	同 六、〇二年	東京	田中六三郎
言泉	同 四、一〇年	東京	大倉保五郎
愛國讀本	同 七、二八年	東京	福田滋次郎
東寶	同 八、一六年	東京	東京寶塚劇場
金國	同 八、二三年	大阪	岡本碩雄

ミエ藥報	昭和九、二七年	三重	加藤政吉郎
美人	同 九、〇六年	朝鮮	益亨
春夢	同 九、〇六年	朝鮮	益亨
秋月色	同 九、〇六年	朝鮮	益亨
綾羅島	同 九、〇六年	朝鮮	益亨
銃後の女性	同 一〇、〇四年	東京	島田一郎
海の光	同 一一、一五年	東京	岡本正一
大盲海	同 一二、〇六年	東京	大槻茂雄
だまされぬ叢書	昭和一一、二四年	東京	大倉廣三郎

全國書籍商組合員統計

	東京書籍商組合	八王子書籍雜誌商組合	京都書籍雜誌商組合	大阪書籍雜誌商組合	神奈川縣書籍雜誌商組合	兵庫縣書籍雜誌商組合	長崎縣書籍雜誌商組合	新潟縣書籍雜誌商組合	埼玉縣書籍雜誌商組合	群馬縣書籍雜誌商組合	千葉縣書籍雜誌商組合
大正八年九月現在	一、四四〇	二三	二六九	四四七	一一一	一八七	七四	二〇七	四二	六六	一四〇
大正九年九月現在	一、四七六	二六	二六九	四四三	一二六	一八七	七七	二〇七	四七	七〇	一四〇
大正十年九月現在	一、五八七	二六	二八〇	四九五	一八二	二三八	八二	二〇九	六七	七四	一五三
大正十一年九月末現在	一、六八九	二三	三二〇	五四九	一八二	二九四	一〇〇	二二六	七〇	八〇	一六八
大正十二年九月末現在	一、八三九	三一	三八七	六二七	一八六	三五一	一一五	二三四	七九	八五	一八五
大正十三年九月末現在	二、〇二五	三〇	四〇九	六七二	二〇六	三九〇	一一六	二三八	八九	八七	一九三
大正十四年九月末現在	二、二九五	四〇	三三〇	六九〇	二二六	四〇三	一一五	二三一	一〇四	九九	二〇三
大正十五年九月末現在	二、四一二	四〇	四八〇	六八九	二五〇	四二二	一三〇	二四六	一一四	一〇三	二〇〇
昭和二年九月末現在	二、七一五	四九	五二五	七五七	二六五	四六〇	一三〇	二七五	一三五	一一四	二三〇
昭和三年九月末現在	二、八八六	六二	五五五	八七一	三一七	四六六	一三七	二七七	一三四	一一八	二一五
昭和四年九月末現在	三、〇五五	八四	五九五	九七八	三一七	四七四	一六二	二七七	一五八	一三四	二三六
昭和五年九月末現在	三、二一〇	九三	六二六	一、〇五八	三四九	四八二	一六三	三二三	一七〇	一一四	二三六
昭和六年九月末現在	三、二九四	九九	六二六	一、一二四	三六二	四九二	一六八	三一九	一七二	一四七	二三三
昭和七年九月末現在	三、二七四	一一四	六三九	一、一一九	三五九	五一六	一七八	三三一	一七五	一四九	二三七
昭和八年九月末現在	三、二六二	一一四	六四二	一、一三六	三六四	五二六	一八二	三四六	一七二	一四八	二三六
昭和九年九月末現在	三、三二〇	一一四	六四二	一、一五〇	三六四	五二〇	一八六	三四六	一七二	一四九	二三五
昭和十年九月末現在	三、二七八	一〇四	六二三	一、一四九	三五〇	五二三	一七七	三五二	一七一	一三九	二九四

	茨城縣書籍雜誌商組合	栃木縣書籍雜誌商組合	奈良縣書籍雜誌商組合	三重縣書籍雜誌商組合	愛知縣書籍雜誌商組合	名古屋書籍雜誌商組合	靜岡縣書籍雜誌商組合	山梨縣書籍雜誌商組合	滋賀縣書籍商組合	岐阜縣書籍雜誌商組合	信濃書籍雜誌商組合	宮城縣書籍雜誌商組合	福島縣書籍雜誌商組合	岩手縣書籍雜誌商組合	青森縣書籍雜誌商組合	山形縣書籍雜誌商組合
大正八年九月現在	七八	八四	四三	四三	一二四	一〇三	七九	三八	七八	九九	一三八	六三	六七	一五	七一	七三
大正九年九月現在	七九	八四	四八	四八	一二四	一〇四	八三	三八	七八	九九	一三八	六五	七三	五〇	七八	七三
大正十年九月現在	八一	八六	五一	五一	一三〇	一二一	八八	四三	八三	一一八	一四五	七六	七四	五九	八二	七三
大正十一年九月末現在	八三	九三	五一	五八	一四九	一三七	一〇〇	四〇	八六	一二五	一四二	七九	九一	七三	八四	七六
大正十二年九月末現在	八五	八九	五八	六二	一五一	一五一	一三〇	四七	九三	一四四	一六二	八四	一〇八	八七	八七	八六
大正十三年九月末現在	九三	九八	五八	六二	一五六	一五五	一三四	四八	九三	一五三	一七〇	八九	一〇八	九五	八九	八六
大正十四年九月末現在	一〇九	一〇七	六七	七〇	一六七	一六一	一五五	五九	九七	一七〇	一七五	九五	一〇五	一一〇	九四	九五
大正十五年九月末現在	一一〇	一一一	七〇	七〇	一六七	一六五	一六三	五九	一〇三	一八五	一八四	九九	一〇八	九八	九三	九一
昭和二年九月末現在	一三〇	一二三	七八	七九	一八五	一八四	一八五	六四	一一五	二〇〇	一九六	一三〇	一一八	一〇八	九三	九三
昭和三年九月末現在	一四八	一三四	八六	八六	二〇五	一九七	二〇三	六三	一二五	二〇九	一九三	一二三	一一八	一二五	九三	九五
昭和四年九月末現在	一五四	一五六	七九	八二	二〇〇	二三〇	二四八	七三	一一一	二一七	二〇〇	一〇七	一三二	一三八	九四	一一七
昭和五年九月末現在	一六九	一六八	八三	八四	二〇一	二三八	三九二	七六	一三六	二二六	二一〇	一一五	一五五	一三三	一一七	一三六
昭和六年九月末現在	一七八	一九九	八三	八六	二〇三	二三六	三九三	七八	一三九	二六八	二一八	一一七	一四八	一四六	一五五	一三〇
昭和七年九月末現在	一八七	一七九	八九	八八	二二四	二九九	三七九	七九	一三八	二五六	二一九	一四二	一五九	一五六	一四一	一三七
昭和八年九月末現在	一八六	一七七	八九	八九	二三五	三一五	三七九	八〇	一三八	二六三	二三五	一五七	一五九	一六八	一四七	一三九
昭和九年九月末現在	一八六	一七六	九五	九一	二一〇	三一六	三七九	八〇	一三九	二六五	二三四	一六三	一四五	一七三	一五〇	一四五
昭和十年九月末現在	一七八	一六四	八四	八二	二七九	三〇一	三五〇	七八	一〇六	二六三	二〇八	一五一	一四一	一四八	一三六	一三三

秋田縣書籍雜誌商組合	六三	六三	七六	七五	八八	八八	九三	一〇三	一一二	一一二	一二四	一三二	一二八	一三九	一四九	一四八	一四〇
福井縣書籍雜誌商組合	一九	五七	五八	六五	七五	七五	八一	八五	八七	九一	九七	九八	一〇二	一一九	一三〇	一三三	一一一
石川縣書籍雜誌商組合	一五一	一二一	一二七	一三四	一五七	一六七	一七三	一七四	一九〇	二〇五	二〇九	二〇七	二〇九	二二九	二三二	二三三	二一〇
富山縣書籍雜誌商組合	一〇二	一〇四	一一〇	一〇五	一一〇	一二五	一三八	一五〇	一六八	一八三	二〇〇	二一二	二二三	二二五	二二五	二二六	一八一
鳥取縣書籍雜誌商組合	三四	三四	四二	四九	五七	五八	六二	六三	七一	七九	八六	八五	九五	九九	一一〇	一一三	一一三
島根縣書籍雜誌商組合	一三	一三	二四	二七	三二	三二	四九	五六	八六	一一四	一三三	一三六	一四五	一四九	一五九	一六七	一五三
岡山縣書籍雜誌商組合	一四六	一四六	一四五	一五〇	一五六	一六〇	一六六	一六七	一六七	一六六	一七六	一七八	一八八	一八三	二〇一	二〇四	一九二
廣島縣書籍商組合	一五三	一五五	一六六	二一三	二三八	二三八	二五二	二八〇	一九四	二〇五	三一八	三二三	三六二	三三六	三三六	三三七	三三五
山口縣書籍雜誌商組合	八八	九二	九七	一〇三	一一六	一一六	一三〇	一五〇	一六二	一六三	一六二	一九四	一九九	二二九	二三七	二三三	二二六
和歌山縣書籍雜誌商組合	一二三	一二三	一二七	一四三	一五九	一六五	一八二	一七五	一八六	一九六	一九〇	一九五	一九五	一九八	一九九	二〇三	一七五
德島縣書籍商組合	四〇	四〇	四一	五五	六三	六八	七八	八〇	八〇	八〇	八九	九四	九四	九八	九八	九九	九一
香川縣書籍雜誌販賣業組合	二八	三〇	三二	四三	四四	四五	五三	五七	五七	八八	九四	一〇七	一〇七	一一八	一一八	一一八	一一三
愛媛縣書籍商組合	四五	四四	五五	六一	六七	六七	六九	七六	七七	七八	八三	八四	八四	八九	八九	九〇	八三
高知縣書籍雜誌商組合	五八	五八	五七	六六	六九	七二	七七	七五	七八	八三	八二	八三	八三	八七	九五	九八	八七
福岡縣書籍雜誌商組合	一五二	一八一	一九五	二三三	二四〇	二四〇	二九七	三一〇	三六〇	三八七	四二四	四四二	四五三	四四九	四五七	四六五	四六三
大分縣書籍雜誌商組合	四二	四二	五九	六三	七七	七七	九七	一〇四	一三四	一三四	一三四	一三四	一四二	一五九	一六五	一六五	一六六

佐賀縣書籍雜誌商組合	四二	四三	四七	五七	六五	六八	七三	七七	九〇	九五	九五	九九	一一三	一〇九	一一三	一一三	一〇八
熊本縣書籍雜誌商組合	一一九	一二三	一二七	一四九	一五六	一七二	一八四	一八四	二〇二	二〇三	二三八	二四六	二六六	二六五	二七五	二八〇	二六八
宮崎縣書籍雜誌商組合	二〇	三三	二四	二七	四四	四七	六一	六二	六七	六七	六〇	六二	六五	六九	七五	七八	六八
鹿兒島縣書籍雜誌商組合	一二三	一一七	一二五	一三三	一六二	一六八	一七六	一七六	二七六	二八三	一八二	一八四	一九四	一九八	二〇三	二〇四	一九四
北海道書籍雜誌商組合	一八四	一九八	二一六	三七八	四〇四	四一六	四七五	五一五	五八五	六二〇	七一三	七五四	七九一	八二九	八四〇	八四六	八三三
沖繩縣書籍雜誌商組合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一九	二二	二三	二三	二三	二二
臺灣書籍商組合	—	—	—	三三	三五	四二	四五	五一	六三	六六	七〇	六九	七三	八五	八九	八八	七八
朝鮮書籍商組合	—	—	—	二七	九八	一四七	一九三	二三〇	三〇八	三三六	三三八	二九一	二九一	二九八	三三三	三三七	三二八
滿洲書籍雜誌商組合	—	—	二九	三九	四八	四六	五三	五六	五六	五六	六四	七二	八〇	九八	一一〇	一二九	一三二
樺太書籍雜誌商組合	—	—	—	—	—	—	—	—	三三	三三	三四	五二	六五	六九	八八	九一	七六
合計	五、八四七	六、一三八	六、七一五	七、六〇六	八、四七六	八、九九三	九、八一〇	一〇三八三	一一四六五	一二三二五	一三三二一	一四〇二九	一四五四九	一四、八六七	一五、一八二	一五、三三五	一四、八八四

東京書籍商組合員業別分布表

昭和十年二月末調査の東京書籍商組合員は三千二百七十八人で、其れを三十五區に分ち、更に出版販賣、出版、販賣の業別に區分すれば左の如くである。

區名	出版販賣業	出版業	販賣業	計
麹町區	二五	九四	四五	一六二
神田區	一二五	一六〇	二一〇	四九五
日本橋區	三〇	四六	四六	一二二
京橋區	三三	五五	五九	一三七
芝區	一〇	二九	八四	一二三
麻布區	六	一〇	三六	五二
赤坂區	三	一八	三三	五四
四谷區	四	一四	三〇	四八
牛込區	一〇	五四	九一	一五五
小石川區	八	五一	七三	一三一
本郷區	三三	五五	一〇六	一九三
下谷區	八	一五	六九	九〇
淺草區	六	一〇	八三	九八
本所區	一	一	九五	九五
深川區	二	四	五五	六一

區名	出版販賣業	出版業	販賣業	計
品川區	一	七	六五	七三
目黒區	〇	六	五四	六〇
荏原區	一	二	四七	五〇
大森區	二	八	六八	七八
蒲田區	四	二	四四	五〇
世田谷區	三	七	六三	七三
澁谷區	一三	一九	九四	一二五
淀橋區	九	二三	八一	一一三
中野區	一	一三	六一	七三
杉並區	七	六	六一	七四
豐島區	八	二〇	九二	一一〇
瀧野川區	一	五	三三	三九
荒川區	〇	三	二四	二五
王子區	二	一	三七	三〇
板橋區	〇	三	四五	四八
足立區	〇	〇	三八	三八
向島區	一	一	四六	四八
城東區	〇	〇	三八	三八
葛飾區	〇	〇	三二	三二
江戸川區	〇	〇	三一	三一
合計	三四五	七二九	二、一九四	三、二七八

全國書籍商組合所在地

（名稱）	（組長）	（所在）
東京書籍商組合	山崎信興	東京市神田區駿河臺一丁目二番地
八王子市外三多摩書籍雜誌商組合	寺島永作	八王子市旭町一三、鐵生堂方
京都書籍雜誌商組合	木村五郎	京都市中京區御池通河原町東入下丸屋町四一三
大阪書籍雜誌商組合	石田松太郎	大阪市西區南堀江通一丁目三八
神奈川縣書籍雜誌商組合	松信大助	横濱市中區蓬萊町二丁目三〇
兵庫縣書籍雜誌商組合	柏佐一郎	神戸市神戸區元町通五丁目六七大阪寶文館支店內
長崎縣書籍雜誌商組合	太田久三郎	長崎市東濱町一一、好文堂內
新潟縣書籍雜誌商組合	西村六平	新潟市古町通四町六、萬松堂書店內
埼玉縣書籍雜誌商組合	菅間定治郎	川越市南町
群馬縣書籍雜誌商組合	高橋清七	前橋市曲輪町二
千葉縣書籍雜誌商組合	茂木林藏	千葉市寒川新宿一、一四四千葉縣書籍株式會社內
茨城縣書籍雜誌商組合	川又銀藏	水戸市泉町一〇三三、川俣書店內
栃木縣書籍雜誌商組合	相馬繁三郎	宇都宮市鐵炮町三二三四
奈良縣書籍商組合	木原邁	奈良縣添上郡帶解町、木原文進堂內
三重縣書籍商組合	若林寅藏	津市伊勢町　若林書店內
愛知縣書籍商組合	川瀨條吉	名古屋市西區下長者町四丁目九、川瀨書店內
名古屋書籍雜誌商組合	野田改造	名古屋市西區御幸本町六愛知書籍株式合資會社內
靜岡縣書籍商組合	內沼甚藏	靜岡市稻川町一貳一
山梨縣書籍商組合	大塚源太郎	甲府市堅町三〇、柳澤方
滋賀縣書籍商組合	吉田善次郎	大津市丸屋町八
岐阜縣書籍商組合	森川好太郎	岐阜市北八ツ寺町一
信濃書籍雜誌商組合	西澤賢吾	長野市大門町三八、西澤書店內
宮城縣書籍商組合	鈴木英三郎	仙臺市國分町二丁目一三六
福島縣書籍雜誌商組合	小池勘次郎	福島市大町五六
岩手縣書籍雜誌商組合	玉山慶次郎	盛岡市肴町四
青森縣書籍雜誌商組合	今泉道次郎	弘前市土手町三〇、今泉本店內
山形縣書籍雜誌商組合	五十嵐太右衞門	山形市七日町五一六
秋田縣書籍雜誌商組合	石川信助	秋田市大町二丁目一七、石川書店內

福井縣書籍雜誌商組合	山上治三郎	福井市寶永上町一二八
石川縣書籍雜誌商組合	小谷孫次	金澤市石浦町七七
富山縣書籍雜誌商組合	中田清兵衞	富山市東四十物町三五、中田書店內
鳥取縣書籍雜誌商組合	山本鐵太郎	鳥取市片原二丁目三六、尙文館書店內
島根縣書籍雜誌商組合	今井彖文	松江市殿町一五〇、今井書店內
岡山縣書籍雜誌商組合	大森佐吉	岡山市內山下町三五ノ一岡山書籍株式會社內
廣島縣書籍商組合	岡原佐太郎	廣島市猿樂町廣島商工會議所內
山口縣書籍雜誌商組合	白銀禮治	山口市中市七
和歌山縣書籍雜誌商組合	宇治德太郎	和歌山市十三番丁、宇治書店內
德島縣書籍商組合	黑崎精二	德島市西新町五ノ四八九黑崎方
香川縣書籍雜誌販賣業組合	宮脇仲次郎	高松市丸龜町四丁目二五
愛媛縣書籍商組合	足立守寬	松山市湊町三丁目四八
高知縣書籍雜誌商組合	澤本駒吉	高知市種崎町一五三、富士越書店內
福岡縣書籍雜誌商組合	菊竹大藏	福岡市西中洲町、博多商工會議所內
大分縣書籍雜誌商組合	塚本秀雄	大分市荷揚町三七

佐賀縣書籍商組合	大坪萬六	佐賀市吳服町五七
熊本縣書籍雜誌商組合	長崎茂平	熊本市上通町四丁目、長崎方
宮崎縣書籍雜誌商組合	高妻秀季	宮崎市宮田町二丁目一〇一、修進堂內
鹿兒島縣書籍雜誌商組合	和田彌兵衞	鹿兒島市易居町二ノ二〇國定教科書特約販賣所內
沖繩縣書籍雜誌商組合	大城彖義	那覇市東町一ノ二八
北海道書籍雜誌商組合	中村信以	札幌市北三條西一丁目一國定教科書會社內
臺灣書籍商組合	村崎長祉	臺北市榮町一ノ二〇、村崎方
朝鮮書籍商組合	內藤定一郎	京城府本町一ノ二八、大阪屋號書店內
太書籍雜誌商組合	若林平治郎	樺太豐原町西一條南一ノ四、若林書店內
滿洲書籍商組合	山縣富次郎	大連市連鎭街京極通、金鳳堂書店內

東京書籍商組合

事務所　神田區駿河臺一ノ二
電話神田八五四番
振替東京三一〇〇三番

東京書籍商組合規約

第一章　總則
第二章　組合員
第三章　役員
第四章　會議
第五章　會計
第六章　營造物
第七章　制裁
第八章　規約及規程ノ變更
第九章　附則

第一章　總則

第一條　本組合ハ東京市內ニ營業所ヲ有シ圖書ノ出版又ハ販賣ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス

第二條　本組合ハ東京書籍商組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條　本組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條　本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ事項ヲ執行ス

一　圖書ノ出版及販賣ニ關スル利害得失ヲ調査研究シ其ノ改善ヲ圖ルコト

二　本組合ノ機關雜誌、圖書目錄、書籍商名簿其ノ他ニ必要ナル圖書ヲ發行スルコト

三　組合員出版圖書ノ大市會ヲ開催スルコト

四　圖書ノ出版及販賣ニ關スル法令ノ制定及改廢ニ關シ官廳若クハ議會其ノ他ニ意言ヲ開申シ又ハ請願スルコト

五　組合員ノ從業者ヲ表彰スルコト

六　組合員間ノ營業上ノ紛議ヲ調停スルコト

七　全國書籍商組合聯合會ニ加入スルコト

八　前各號ノ外本組合ノ目的ヲ達スルニ必要ト認ムル事項

第二章　組合員

第五條　本組合ニ加入セントスル者ハ本組合所定ノ用紙ニ其ノ營業所、商號、氏名、年齡及業別（出版、販賣）ヲ記シ加入金五拾圓ヲ添ヘ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ申込ムヘシ但紹介者ノ一人ハ評議員タルコトヲ要ス

分店、支店、出張所等ハ各別ニ加入スヘキモノトス

本組合從業者表彰規定ニ依リ表彰セラレタル者ハ加入金ヲ要セス但一旦脫退シタル者又ハ本條第二項ノ規程ニ依リ加入スル者ハ此限ニアラス

第六條　本組合ハ加入申込者ニ對シ評議員ノ互選ヲ以テ定メタル調査委員十人ニ審査セシメ評議員會ノ決議ヲ以テ其ノ許否ヲ定ム

加入ノ許可ハ其ノ通知ノ到達ニ因リテ效力ヲ生ス

第七條　組合加入ノ許可ヲ與ヘタル後

ト雖加入ヲ許可スヘカラサル事由ノ存スルコトヲ發見シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第八條　左ノ各號ニ該當スル者ハ本組合ニ加入スルコトヲ得ス

一　露店若クハ道路ニ於テ圖書ノ販賣ヲ營ム者

二　專ラ戸々ニ就キ圖書ノ行商ヲ營ム者

三　官衙學校及病院ノ構内ニ設ケタル營業所ニ於テ圖書ノ販賣ヲ營ム者

第九條　組合員ハ左記各號ノ場合ニ於テハ之ヲ本組合ニ届出テ其ノ承認ヲ經ヘシ

一　營業所ノ移轉

二　出版業者ニシテ販賣業ヲ營マントスルトキ

三　販賣業者ニシテ出版業ヲ營マントスルトキ

第十條　組合員ハ左記各號ノ場合ニ於テハ七日以内ニ之ヲ本組合ニ届出ツヘシ

一　氏名若クハ商號ノ變更

二　商號ノ併用若クハ廢止

三　廢　業

第十一條　組合員ハ組合ノ經費トシテ月費五十錢ヲ負擔ス（特別決議ヲ以テ現在ハ四十錢）

第十二條　組合員ハ其ノ出版又ハ專賣ノ圖書ニ定價ヲ記載スヘシ

第十三條　組合員ハ卸取引ノ外總テ圖書ハ定價ヲ以テ販賣スヘシ

第十四條　組合員ハ本組合及各地書籍商組合ノ組合員ニアラサル者ト卸取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　前三條ノ規定ニ付テハ別ニ細則ヲ定ム

第十六條　組合員ニ對シ取引上ノ義務ヲ履行セサル者アルトキハ別ニ定メタル取引規程ニ依リ之ヲ處分ス

第十七條　組合員間ニアリテハ既ニ組合員カ圖書ノ出版ニ關シテ有スル發行販賣ノ利益ヲ侵害スヘカラス

組合員カ新タニ出版セントスル圖書ニツキ既ニ組合員ト其ノ著作者若クハ藏版者トノ間ニ出版若クハ專賣ノ契約ヲ締結セル場合ニ於テハ豫メ前約者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條　組合員間ニアリテハ現ニ組合員ノ使用スル商號ト同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ス其ノ著シク相類似スルカ爲メニ取引上紛雜ヲ來タスノ虞アルモノニツキ亦同シ但先用者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第十九條　組合員ニシテ本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スル事アルヘシ

第二十條　組合員ハ自己ニ關スル件ニ付組合ヨリ出頭ヲ求メタルトキハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條　組合員タル資格ハ其ノ相續人若クハ法律上ノ家族ニ於テ營業ヲ繼續スル場合ニ限リ之ヲ承繼スルコトヲ得

個人若クハ法人ノ營業ヲ個人若クハ法人ニ於テ讓受ケタル場合及法人ノ組織ヲ變更シ又ハ合併新設アリタル場合ニハ總テ新タニ加入ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス但評議員會ニ於テ特別ノ事情アリト認メタル者ニ限リ加入金ヲ免除スル事ヲ得

第二十二條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ其ノ資格ヲ喪失ス

一　任意ノ脫退

二　廢業又ハ營業ノ全部讓渡

三　營業所ノ組合地域外移轉

四　死亡若クハ法人ノ解散

五　破　産

六　除　名

第二十三條　組合員ニシテ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ之ニ對シ財産ノ分配並ニ加入金ノ返還ヲ爲サス

第三章　役　員

第二十四條　本組合ハ組合員中ヨリ評議員五十人ヲ選出ス

評議員ハ互選ヲ以テ組長一人副組長二人ヲ定ム

評議員ハ互選ヲ以テ會計主任二人ヲ定ム

評議員ハ互選ヲ以テ全國書籍商組合聯合會代表議員十人ヲ定ム

第二十五條　評議員ノ選擧ハ總會ニ於テ無記名連記投票ニ依リテ之ヲ行フ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トシ得票同數ナル者ノ間ニアリテハ年長者ヲ取リ年齡ニ依リテ決定シ難キ者ノ間ニアリテハ選擧委員會ニ於テ選擧長抽籤ニ依リテ當選者ヲ定ム

第二十六條　評議員ノ選擧ハ總會ノ議長ヲ以テ選擧長トス

選擧長ハ總會ニ於テ選任セラレタル選擧委員二十人ト共ニ投票ヲ管理スル投票終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員會ヲ開キ開票、審査及當選ノ決定ヲ爲ス

第二十七條　評議員ノ選擧ハ代人ヲ以テ投票スルコトヲ得ス

投票用紙ハ選擧ノ當日會場ニ於テ之ヲ交付ス

第二十八條　左ノ各號ニ該當スル投票ハ無效トス但第二號ノ場合ニ於テハ其ノ資格アル者ヲ有效トス

一　所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選人以外ノ事項ヲ記シタルモノ

第二十九條　本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ名譽評議員ニ推薦スルコトヲ得

名譽評議員ハ終身トシ其ノ職務權限ハ評議員ニ同シ

第三十條　評議員ノ任期ハ一箇年トス

第三十一條　評議員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第三十二條　評議員ニ十人以上ノ缺ヲ生シタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選擧ヲ行フ

補缺評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第三十三條　評議員ハ無報酬トス但功勞アリタル者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ評議員會ノ決議ヲ經テ表彰若クハ謝禮ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　役員ノ職務權限左ノ如シ

一　組長ハ本組合ヲ代表シ組合全般ノ事務ヲ統轄ス

二　副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス

三　會計主任ハ會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

四　評議員ハ諸般ノ議案ヲ審議シ且規約第四條各號ノ事務ヲ分掌ス

第三十五條　評議員會ハ其ノ決議ニ依リ必要ノ規程又ハ細則ヲ定ムルコトヲ得但組合員共通ノ利害ニ重大ナル關係アルモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第三十六條　組長ハ評議員會ノ決議ヲ經テ事務員ヲ任免ス

第四章　會　議

第三十七條　會議ヲ分テ左ノ三種トス
一　定時總會
二　臨時總會
三　評議員會

第三十八條　定時總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ付議ス
一　前年度ノ庶務、收支決算及財產目錄ノ報告
二　歲入出ノ豫算案
三　前各號ノ外豫メ組長ヨリ提案シタル事項

第三十九條　臨時總會ハ評議員會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員總數十分ノ一以上ノ同意ニ依リ其ノ目的事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第四十條　總會ヲ招集スルトキハ開會七日前組長ヨリ會議ノ目的タル事項日時及場所ヲ組合員ニ通知スヘシ但急速ヲ要スル場合ニ於テハ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得
總會ニ於テハ豫メ組長ヨリ通知シタル事項ノ外議スルコトヲ得ス

第四十一條　評議員會ハ毎月一回之ヲ開クモノトシ組長之ヲ招集ス
組長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ評議員會ヲ開クコトヲ得
評議員會ハ評議員半數以上ノ出席ヲ以テ成立ス

第四十二條　會議ノ議長ハ組長之ニ當ル組長事故アルトキハ副組長之ヲ代理シ組長副組長事故アルトキハ評議員ノ互選ヲ以テ代理者ヲ定ム

第四十三條　組合員ハ總會ニ於テ發言及表決ノ權ヲ有ス但會議ノ事項ニ關シ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス

第四十四條　會議ハ本規約ニ特別ノ規定アル場合ノ外出席員ノ過半數ヲ以テ其ノ可否ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十五條　會議中議場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ議長之ヲ制止シ其ノ制止ニ從ハサル者ハ之ニ退場ヲ命スルコトヲ得

第五章　會　計

第四十六條　組合ノ經費ハ月費、加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十七條　緊急ノ場合ニ際シ臨時支出ヲ要スルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得

第四十八條　組合ノ基金及收入金ハ評議員會ニ於テ定メタル銀行ニ寄託ス

第四十九條　組合ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第六章　營造物

第五十條　組合ハ必要ナル營造物ヲ所有スルコトヲ得

第五十一條　營造物ハ評議員會ニ於テ選定シタル管理者ヲ以テ之ヲ管理セシム

第五十二條　營造物ハ事務ニ妨ケナキ限リ之ヲ貸與スルコトヲ得

第七章　制　裁

第五十三條　組合員ニシテ本規約及附屬規程ニ違背シタル者ハ評議員會ノ決議ニ依リ左ノ制裁ヲ加フ
一　戒　告
二　違約料
三　除　名

第五十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ戒告若クハ壹千圓以下ノ違約料ニ處ス

一　第五條第二項、第九條、第十二條、第十四條、第十七條、第二十條ノ規定ニ違背シタル者
二　販賣規程第二條乃至第六條ノ規定ニ違背シタル者
三　取引規程第十一條ノ規定ニ違背シタル者
四　虛僞ノ申告ヲ爲シ其ノ他組合員ノ信用ヲ毀損シタル者

第五十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ニ處ス
一　月費ノ滯納六ケ月ニ亙ル者
二　違約料ノ徵收ニ應セサル者
三　三年以內ニ取引停止若クハ違約料ニ處セラルルコト通シテ五回ニ及ヒタル者
四　本組合ノ體面ヲ汚損シタル者

第五十六條　除名ニ處セラレタル者改悛ノ實アリト認メタルトキハ更ニ加入ヲ許スコトアルヘシ

第八章　規約及規程ノ變更

第五十七條　本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第五十八條　本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ノ變更ヲ議スヘキ總會ニアリテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

第九章　附　則

第五十九條　本規約施行前ニ制定セラレタル商號使用規程、取引帳簿取扱規程、圖書大市會規程及圖書出版研究會々則ハ之ヲ廢止ス

第六十條　本規約ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

販賣規程

第一條　圖書ノ定價トシテ其ノ各冊ニ記載シタルモノノ外豫約價、會費、特價、賣價等總テ公表セラレタル價格ヲ以テ定價ト看做ス

第二條　組合員ハ圖書ノ定價ヲ割引シ又ハ送料負擔若クハ景品添附其ノ他割引ニ類スル行爲又ハ其ノ豫備行爲ヲ爲スコトヲ得ス但官公署（學校ヲ除ク）ノ公入札ニシテ金額三千圓以上ノモノニ限リ定價ニ依ラサルコトヲ得

組合員他ノ業務ヲ兼營シ其ノ慣例ニ依リ景品附賣出ヲ爲ス場合ニ於テハ圖書ニ限リ景品ヲ添附セサル旨ヲ公示スヘシ

第三條　出版者ハ發行後一箇年ヲ經過シタル圖書ニ限リ九十日ヲ超エサル期間ヲ以テ特價販賣ヲ行フコトヲ得前項ノ特價販賣ヲ行ヒタルトキハ其ノ期間滿了ノ後六ケ月ヲ經ルニアラサレハ再ヒ之ヲ行フコトヲ得ス本條ノ特價販賣ヲ行ハントスルトキハ其ノ發表十日前ニ之ヲ本組合ニ屆出テ且販賣者ニ周知セシムルコトヲ要ス

特價販賣ノ發表ハ新聞廣告又ハ印刷物ヲ以テ之ヲ公表スルコトヲ要ス

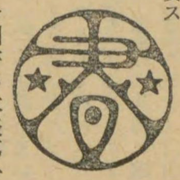
第四條　圖書ノ定價ハ其ノ發行後一箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ引下クルコトヲ得ス

圖書ノ定價ヲ引下ケントスルトキハ其ノ發表三十日前ニ之ヲ本組合ニ屆出テ且販賣業者ニ周知セシムルコトヲ要ス

第五條　豫約出版法ニ依リテ發行スル圖書ハ其ノ豫約出版完了ノ後ニアラサレハ從前ノ價格ヲ引下ケテ更ニ豫約募集ヲ行フコトヲ得ス

第六條　發行後一箇年ヲ經過シタル圖書ハ出版者ノ意思ニ依リ之ヲ見切品

ト爲スコトヲ得
前項ノ見切品ニハ本組合ニテ定メタル左ノ印章ヲ出版者ニ於テ押捺スルコトヲ要ス



汚損シタル圖書ハ本條第一項ノ規定ニ拘ラス前項所定ノ印章ヲ押捺シタルトキハ定價ニ依ラスシテ之ヲ販賣スルコトヲ得

第七條　國定教科書及補習教科書ノ類ハ規約第十四條、本規程第二條第一項中送料負擔及第四條ニ依ラサルコトヲ得

第八條　中等教科書及軍隊用教科書ノ類ハ本規程第二條第一項中送料負擔及第四條ニ依ラサルコトヲ得

第九條　營利ヲ目的トセスシテ發行セラレタル圖書ハ規約第十三條ニ依ラサルコトヲ得

第十條　玩具ニ類スル印刷物ハ當分ノ內規約第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十一條　圖書ノ專賣者ハ出版者ト同シク本規程ヲ遵守スヘキモノトス

附　則

第十二條　本規程ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

取引規程

第一條　本規程ハ本組合員相互間及本組合員ヨリ他ノ組合ノ組合員ニ係ル卸取引ヲ規律スルモノトス

第二條　雜誌、教科書其ノ他特種ノ出版物ニシテ別ニ取引ノ準則アルモノ及特ニ取引ノ條件ヲ協定シタルモノノ外ハ第三條及第四條ノ規定ニ準據ス

第三條　註文ニ困ル取引ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　掛賣ニ在リテハ毎月二十日ヲ以テ品代金及註文者ノ負擔ニ屬スル諸費用ヲ締切リ其ノ月末ニ全額ヲ支拂フモノトス

二　發送ノ荷造費及運賃ハ註文者ノ負擔トス

三　代金引換又ハ荷爲替ニ因ル費用ハ註文者ノ負擔トス

四　註文者ハ濫ニ註文ノ取消又ハ註文品ノ返送ヲ爲スコトヲ得ス但現品ニ落丁綴違其ノ他ノ瑕疵アリタルトキハ之カ引換又ハ修補ヲ請求スルコトヲ得

五　註文品到着前ニ出荷主又ハ註文者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ紛失又ハ毀損シタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ平等ニ分擔ス

第四條　委託取引ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　受託者ハ受託ノ時ヨリ六ケ月以內ニ賣上ノ決濟及殘品ノ返送ヲ完了スルコトヲ要ス此期限經過後ハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

二　委託者ノ必要ニ因リ殘品ノ返送ヲ申出テタルニ拘ラス受託者遲怠ナク之ヲ返送セサルトキハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

三　受託者カ商品ノ取扱ニツキ注意ヲ懈リタルニ因リ生シタル汚損毀滅ノ損害ハ當該受託者負擔トス

第五條　本組合員ニ對シ取引上ノ債務ノ支拂ヲ延滯シ又ハ註文品ノ引取ヲ

爲サス其ノ他取引上ノ義務ヲ履行セサル者アルトキハ被害者ヨリ本組合ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ爲ス者ハ手數料トシテ一件ニ付五圓ヲ前納スルコトヲ要ス

第六條　前條ノ請求アリタルトキハ本組合ハ評議員ノ互選ニ依リ調査委員十人ヲ選任シテ其ノ事實ヲ調査セシメ不履行者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ義務ノ履行ヲ催告ス

第七條　前條ノ催告ヲ受ケタル者期間內ニ義務ノ履行ヲ爲ササルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ不履行者ヲ取引停止處分ニ付シ之ヲ本組合員及全國書籍商組合聯合會ニ通知ス

第八條　取引停止處分ノ前後ヲ問ハス不履行者其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ組織ヲ變更シタルトキハ取引停止處分ノ效力ハ其ノ營業承繼者ニ及フモノトス

第九條　不履行者取引停止處分ヲ受ケタル後其ノ義務ヲ履行シ又ハ決濟ニ付協調ヲ遂ケタルトキハ原請求者ヨリ本組合ニ取引停止處分ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第十條　前條ノ請求アリタルトキハ本組合ハ第六條ト同一ノ手續ニ依リテ取引停止處分ノ解除ヲ爲シ之ヲ本組合員及全國書籍商組合聯合會ニ通知ス

第十一條　本組合員ハ取引停止處分ノ解除ヲ得ルニ至ル迄ハ前條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

附　則

第十二條　本規程ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

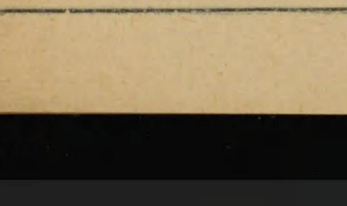
第十三條　本規程施行前ニ制定セラレタル賣掛代金延滯者處分細則及代金引換郵便物荷爲替物取引違背者處分細則ハ之ヲ廢止ス

從業者表彰規程

第一條　本規程ニ從業者ト稱スルハ本組合員ノ雇傭セル書籍營業從事者ヲ云フ

第二條　本組合ハ從業者滿七年以上勤續シ品行方正ニシテ業務ニ勉勵シタル者ヲ表彰スルモノトス但新ニ本組合ニ加入シタル組合員ニシテ其ノ加入後滿三年ヲ經過セサルモノハ本規程ニ依ルコトヲ得ス

第三條　前條ノ表彰ヲ爲ス場合ハ左ノ表彰狀ヲ授與ス



表彰狀

第　號

何　某　殿

品行方正ニシテ業務ニ勉勵シ滿七年以上勤續ニ付茲ニ精勵ノ功ヲ表彰ス

何　誰　員

年　月　生

第四條　表彰狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ本組合員ニ報告スヘシ

第五條　本組合ハ精勤者名簿ヲ備ヘ之ヲ保存スヘシ

第六條　精勤資格ヲ有スル者アルトキハ本人ノ履歷書ヲ添ヘ其ノ營業主ヨリ本組合ニ屆出ツヘシ

前項　屆出アリタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　從業者勤續中兵役ニ服シ除隊後直ニ復勤シタル者ハ其ノ年數ヲ中斷セラルルコトナシ

第八條　表彰ヲ受ケタル者ニシテ不都合ノ行爲アリタルトキハ之ヲ精勤者名簿ヨリ削除シ本組合員ニ報告スヘシ

第九條　本規程ノ表彰式ハ每年本組合定時總會ニ於テ擧行ス

第十條　第六條第一項ノ屆出期間ハ每年九月一日ヨリ同三十日迄トス

第十一條　本規程ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京書籍商組合評議員

組長　山崎信興
副組長　岸他丑

副組長	榊原友吉	東京市
名譽	大橋新太郎	大阪市
同	大倉保五郎	京都市
同	上原才一郎	横濱市、神戸市、名古屋市
同	稻垣近義	各一人
同	北澤彌三郎	十人
同	酒井宇吉	三人
同	島村水之助	二人
同	西村辰五郎	
同	三樹良知	
同	淺見四郎	
同	山本芳之助	
同	國領友太郎	
同	福田金次郎	
同	山岸武治	
同	清水米吉	
同	竹內淳郎	
同	大橋信一	
同	伊藤買一	
同	塚越郁四郎	
同	大野孫平	
同	龜井豐治	
同	栗田確也	
同	坂本守正	
同	高岡安太郎	
同	波多野重太郎	
同	目黑甚七	
同	飯島竹次郎	
同	吉谷專吉	
同	中川治三郎	
同	小川勝藏	
同	池田定	
同	鈴木銅一	
同	淺井光之助	
同	市川松之輔	
同	土屋右近	
同	松崎善太郎	
同	本間龍藏	
同	川合初太郎	
同	丸山常藏	
同	風間是宏	
同	藤井誠治郎	
同	酒卷修三	
同	大川義雄	
同	淺利元治	
同	小澤作次郎	
同	松原環	
同	福田滋次郎	
同	大葉久治	
同	福島孝太郎	
同	長谷川留吉	

組合印

年　月　日

東京書籍商組合組長　何　誰　㊞

全國書籍商組合聯合會

聯合會

所在地　神田區駿河臺一ノ二

規約

第一章　總則

第一條　本會ハ全國書籍商組合聯合會ト稱ス

第二條　本會ハ全國ノ書籍商組合ヲ以テ組織ス

第三條　本會ハ事務所ヲ東京市神田區駿河臺一丁目二番地ニ置ク

第二章　目的

第四條　本會ハ圖書ノ定價販賣ヲ勵行シ營業上ノ利害得失ヲ研究シ文化ノ普及ト斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三章　會員

第五條　各府縣、北海道、臺灣、朝鮮、滿洲、樺太ヲ一組合ノ區域トス但左記ノ六市ハ各特別一區域トナスコトヲ得

東京市、大阪市、京都市、橫濱市、神戸市、名古屋市

地方ノ事情ニ依リ數區域ヲ併合シテ一組合ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ一區域每ニ代表議員一人ヲ選出スルコトヲ得

第六條　各組合ハ左記ノ代表議員ヲ選出スルモノトス

各府縣、北海道、臺灣、朝鮮、滿洲、樺太、　各一人

東京市　十人
大阪市　三人
京都市
橫濱市、神戸市、名古屋市　二人
各一人

新潟縣、福岡縣、北海道ハ尙一人ヲ增員スルコトヲ得

第七條　各組合ハ其ノ規約及附屬規程ヲ本會ニ提出シ承認ヲ經ヘシ其ノ變更シタル場合亦同シ

第八條　各組合ノ組合員ハ組合ニ加入セサル同業者ト商取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　各組合ハ其ノ組合員ノ異動アリタルトキハ直ニ本會ニ報告スヘシ

第十條　各組合ハ其ノ組合ニ加入ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ其ノ加入ヲ否ヲ遷延スルコトヲ得ス

第十一條　各組合ニ於テ組合員ヲ違約處分ニ付シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ本會ニ報告スヘシ

前項ノ報告アリタルトキハ本會ハ常任幹事會ニ於テ之ヲ調査シ其ノ處分ヲ適當ナリト認メタルトキハ取引停止又ハ除名處分ニ限リ直ニ各組合ニ通知スルモノトス

第十二條　前條第二項ノ通知アリタルトキハ組合員ハ其ノ違背者ニ對シ解除ノ通知アルマテ商取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　本會ヨリ通知シタル要件ハ各組合ハ其ノ組合員ニ通知スヘシ

第十四條　各組合ハ新加入者ニ對スル加入金ハ五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十五條　本會ハ組合間又ハ組合ト組合員トノ間ニ起リタル營業上ニ關スル紛議ヲ調停スルコトアルヘシ

第四章　會議

第十六條　會議ヲ分チテ左ノ四種トス

一、定時總會
二、臨時總會
三、常任幹事會
四、幹事會

第十七條　定時總會ハ每年十月東京ニ於テ之ヲ開キ左ノ事項ヲ付議ス

一、前年度庶務、收支決算及財產目錄ノ報告
二、收支ノ豫算案
三、前各號ノ外豫メ會長ヨリ發案シタル事項

第十八條　總會ハ各組合ノ代表議員ヲ以テ組織シ議決權ハ一人一箇トス

第十九條　出席議員ニシテ各組合ノ正副組長ニアラサル者ハ組長ノ證明ヲ要ス但役員ニ限ル

第二十條　會長ハ必要ト認メタルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十一條　總會開會ノ通知ハ十四日前ニ會長ヨリ之ヲ發ス但緊急ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二十二條　常任幹事會ハ毎月一回以上之ヲ開キ幹事會ハ必要ニ依リ之ヲ開ク

第二十三條　各組合ノ建議案ハ幹事會ニ於テ審議シ總會ニ提出ノ可否ヲ決ス

第二十四條　會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十五條　總會ニ於テ當該問題ニ利害關係ヲ有スル出席議員ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス

第五章　役員

第二十六條　本會ニ左記役員ヲ置ク其ノ任期ハ三ケ年トス

會長　一人
副會長　一人
幹事　十八人

第二十七條　幹事中八人ヲ東京ヨリ選出シ之ヲ常任幹事トス

第二十八條　役員ノ選舉ハ定時總會ニ於テ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第二十九條　役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ次期ノ總會ニ於テ其ノ補缺選舉ヲ行フ但其ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第三十條　會議ハ總テ會長ヲ以テ議長トシ會長事故アルトキハ副會長之ニ代リ會長副會長事故アルトキハ幹事之ニ代ル

第三十一條　會長ハ會務ヲ總理シ役員選舉ノ場合ハ選舉長トナル副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

常任幹事會ハ諸般ノ事項ヲ審議シ會務ヲ處理ス

幹事會ハ會長ノ諮問事項ヲ審議ス

第三十二條　會長ハ常任幹事會ノ決議ヲ經テ會務執行ニ必要ナル附屬規程ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　本會ハ常任幹事會ノ協議ヲ經テ事務員若干人ヲ置ク

第三十四條　役員ハ總テ無報酬トス但實費ヲ支辨ス

第六章　會計

第三十五條　本會ノ會計年度ハ十月一日ヨリ翌年九月末日迄トス會計主任ハ常任幹事ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　本會ノ經費ハ代表議員ノ一人ヲ一箇トシ均一ニ負擔スルモノトス

第三十七條　豫算外ノ支出ニシテ緊急ヲ要スル場合ハ常任幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第七章　制裁

第三十八條　各組合ニシテ本規約ニ違背シ又ハ總會ノ決議ニ服從セサル場合ハ總會ノ決議ヲ以テ左ノ處分ヲナス

一、戒告
二、千圓以下ノ違約料

第三十九條　各組合ニシテ前條ノ制裁ニ應セサルモノハ除名ス

第四十條　本規約ハ總會ノ決議ニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

附則

第四十一條　本規約ハ昭和六年十月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特別決議

一、組長死亡ノ場合ハ弔慰金拾圓ヲ贈ルコト

一、組合事務所燒失ノ場合ハ見舞金拾圓ヲ贈ルコト

聯合會常任幹事

會長　目黒甚七
大倉　保五郎　岸他丑
山崎　信興　淺井光之助
大野孫平　龜井豐治
塚越郁四郎　西村辰五長
榊原友吉

東京出版協會

所在地　神田區小川町三ノ八
電話神田九三〇番
振替東京五五三一〇番

東京出版協會規約

第一章

第一條　本會ハ東京出版協會ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第二條　本會ハ東京市及東京市ニ隣接スル四郡ノ地域內ニ營業所ヲ有スル圖書出版業者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　本會ハ會員相互ノ和親ヲ敦クシ共同ノ利益ヲ增進シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條　本會ノ目的ヲ達スル爲メ諸般ノ事項ヲ調査シ必要ト認ムル事業ヲ

經營ス

第五條　本會ハ協議員會ノ決議ニ依リテ別ニ必要ナル各種ノ規程ヲ制定スルコトヲ得　但シ其ノ規程ニシテ會員共通ノ利害ニ重大ナル影響アルヘキモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第二章　會　員

第六條　本會ニ加入セントスル者ハ本會所定ノ申込用紙ニ本人ノ氏名商號營業所ノ所在地及開業ノ時期其ノ他必要ノ事項ヲ記載シ紹介者タル會員ノ連署ヲ得テ之ヲ本會ニ提出スヘシ

第七條　加入ノ申込アリタルトキハ協議員會ノ決議ニ依リテ其ノ許否ヲ決ス

第八條　本會ニ加入スル者ハ加入金三十圓ヲ本會ニ納付スルコトヲ要ス

第九條　會員ハ平等ニ會費ヲ負擔ス

會費ノ額ハ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第十條　會員其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ氏名若クハ商號ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ本會ニ屆出ツルコトヲ要ス

第十一條　會員ハ左ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失ス

一　任意ノ退會

二　出版業務ノ廢止

三　營業所ノ地域外移轉

四　死亡

五　法人ノ解散

六　破産

七　除名

前項第四號ノ場合及會員カ隱居ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ相續人カ營業ヲ繼續スルトキニ限リ會員タル資格ヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依リテ會員タル資格ヲ喪失シタル者ハ本會ニ對シ財産ノ分配若クハ加入金ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ有スルコトナシ

第三章　役　員

第十三條　本會ニ協議員二十五人ヲ置ク

第十四條　協議員ハ會員中ヨリ總會ニ於テ無記名投票ニ依リテ之ヲ選擧ス

有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ得票同數ナル者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ取リ年齡ニ便リテ決定シ難キ者ノ間ニ在リテハ選擧委員會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第十五條　協議員ノ選擧ハ總會ノ議長ヲ以テ選擧長トス

選擧ハ總會ニ於テ選任セラレタル選擧委員十人ト共ニ投票ヲ管理ス

投票終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員會ヲ開キ開票審査及當選ノ決定ヲ爲ス

第十六條　協議員選擧ノ投票ハ會員一人毎ニ一票ヲ限リ協議員ノ定數以下ノ被選人ヲ連記スルコトヲ得總會ノ

招集通知書ニ添附セラレタル會員名刺ヲ提出シタル者ヲ以テ會員ト看做ス

第十七條　投票ノ用紙ハ本會ヨリ之ヲ交付ス

第十八條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　被選人以外ノ事項ヲ記載シタルモノ

第十九條　投票ニ會員ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シ又ハ被選人ノ何人タルカヲ確認シ難キ字句ヲ記載シタルモノアルトキハ其ノ部分ヲ無效トス

第二十條　協議員ノ任期ハ二年トス

但シ次ノ總選擧ヲ行フヘキ總會招集ノ便宜ニ因リ新ニ當選シタル協議員ノ就任スル迄ノ間任期ヲ延長スルコトヲ妨ケス

第二十一條　協議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フコトヲ得

協議員ニ五人以上ノ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フコトヲ要ス

但シ前任者ノ殘任期六ケ月以內ニシテ且會務ニ支障ナキ場合ハ協議員會ノ決議ニ依リテ補缺選擧ヲ行ハサルコトヲ得

第二十二條　補缺選擧ニ於ケル投票ニハ選擧ヲ要スル協議員ノ定數以下ノ被選人ヲ連記スルコトヲ得

第二十三條　補缺選擧ニ依リテ當選シタル協議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期ト同ス

第二十四條　協議員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任スルコトヲ得ス

第二十五條　協議員ハ報酬ヲ受クルコトナシ　但シ其ノ在任中顯著ナル功勞アリタル者又ハ特ニ劇務ヲ處理シタル者ニ對シテハ協議員會ノ決議ニ依リテ相當ノ謝儀ヲ贈ルコトヲ妨ケス

第二十六條　協議員ハ會長一人及副會長二人ヲ互選ス

第二十七條　會長ハ本會ヲ代表シ全般ノ事務ヲ統轄ス

第二十八條　會長ハ本規約ニ明定スル事務ノ外總テ總會ノ決議及協議員會ノ決議ヲ執行ス

第二十九條　副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第三十條　協議員ハ協議員會ヲ組織シテ各般ノ議案ヲ審議決定スルノ外協議員會ノ委任ニ依リ各自ニ會務ヲ分掌ス

協議員ハ豫メ協議員會ノ承認ヲ得テ相當ノ代理者ヲ定メ代理セシムルコトヲ得

第四章　會　議

第三十一條　會議ヲ分テ總會及協議員會ノ二種トス

第三十二條　定時總會ハ每年一月中ニ之ヲ開ク

定時總會ニ於テハ前年度ノ庶務及會

計ノ報告ヲ爲シ且當年度ノ收支豫算ヲ付議スルコトヲ要ス

第三十三條　臨時總會ハ協議員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ開クコトヲ得

會員三十人以上ノ同意ニ因リ付議事項ヲ明示シテ臨時總會ヲ招集スヘキコトヲ請求シタルトキハ遲滯ナク之ヲ開クコトヲ要ス

第三十四條　總會ニ於テハ前條第二項ノ場合及本規約ニ依リ總會ニ付議スルコトヲ要スルモノト定メタル場合ノ外協議員會ノ決議ニ依リテ總會ニ付議スヘキ事項ヲ議スルコトヲ得

第三十五條　總會ヲ開クトキハ開會七日前ニ會員ニ對シ付議事項、日時及場所ヲ記載シタル招集通知書ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ急迫ヲ要スル事情ノ存スル場合ニ限リ之ヲ二十四時間迄ニ短縮スルコトヲ得

第三十六條　總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外之ヲ議スルコトヲ得ス

第三十七條　總會ノ招集通知書ニ添附セラレタル會員名刺ヲ提出シタル者ニ非サレハ總會ニ於テ發言及表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條　協議員會ハ毎月一回之ヲ開ク

會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス臨時ニ協議員會ヲ開クコトヲ得

第三十九條　協議員會ニ於テハ本規約又ハ本規約ニ基キテ制定セラレタル各種ノ規程ニ依リ協議員會ノ決議ヲ要スヘキ事項及隨時協議員ノ提案シタル事項ヲ審議決定ス

第四十條　會議ヲ開クトキハ總テ會長之ヲ招集ス

第四十一條　會長ハ會議ノ議長ト爲リ議場ヲ整理ス

會長事故アルトキハ副會長之ニ代リ副會長事故アルトキハ協議員ノ互選ニ依リテ議長ヲ定ム

第四十二條　會議ニ於ケル付議事項ハ本規約ニ特別ノ規定ヲ存スルモノノ外出席者ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決ス

付議事項ニ關シテ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五章　會計及財産ノ管理

第四十三條　本會ノ經費ハ會費及加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十四條　緊急ノ須用ニ因リ豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ一時借入ヲ爲スノ必要アルトキハ協議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第四十五條　會計年度ハ曆年ニ依ル

第四十六條　會計ノ事務ハ會計主任ノ管理ニ屬ス

會計主任ハ二人トシ協議員ノ互選ニ依リテ之ヲ定ム

第四十七條　事務ノ便宜ニ因リ通常會計ノ外ニ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第四十八條　本會ノ基本金及收入金ヲ寄託スヘキ銀行ハ協議員會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第四十九條　本會ノ有スル主要財產ノ管理ニ付別ニ協議員ノ互選ニ依リテ管理委員ヲ置クコトヲ得

管理委員ノ員數及權限ハ協議員會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第六章　制裁

第五十條　會員ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一　會費ノ納付ヲ怠ルコト六ケ月以上ニ及ヒタル者

二　過料ノ制裁ヲ科セラレテ之カ徵收ニ應セサル者

第五十一條　會員ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ハ情狀ニ因リ之ヲ除名シ若クハ之ニ千圓以下ノ過料ヲ科ス

一　故意ニ本會ノ信用ヲ毀損シタル者

二　著シク本會ノ體面ヲ汚損シタル者

三　不正競爭ノ目的ヲ以テ他ノ會員ノ信用ヲ毀損シタル者

四　他ノ會員カ圖書ノ出版ニ關シテ專有スル發行販賣ノ利益ヲ侵害シタル者

第五十二條　本規約ニ基キテ制定セラレタル各種ノ規程ニ於テ別ニ制裁ノ規定ヲ設クルコトヲ妨ケス　但シ制裁ノ種類及限度ハ前二條ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十三條　本章ノ規定ニ依リ會員ニ對シ制裁ヲ科スル場合ニハ協議員會ニ於テ事實ヲ審査シ其ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ヲ爲スヘキ協議員會ニハ協議員十五人以上出席シテ其ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第七章　規約ノ變更

第五十四條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第五十五條　本規約ヲ變更スヘキ總會ノ議事ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

附則

第五十六條　本規約ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條　本規約施行ノ際現ニ協議員タル者ノ任期ハ仍ホ舊規約ニ依ル

第五十八條　本規約施行前ニ制定セラレタル各種ノ規定ハ本規約ニ基キテ制定セラレタルモノト看做ス

地方取引規定

第一條　本規程ハ東京出版協會會員ノ發行發賣スル出版物ニ付キ會員ト東京以外ノ地方販賣業者トノ間ニ行ハ

ル卸賣取引ヲ規律スルモノトス

第二條　雜誌、中等教科書其他特種ノ出版物ニ付キ他ノ協會若クハ組合ニ於テ特別ナル取引規程ヲ存スルモノハ先ツ其規程ニ準據ス

第三條　繼續シタル委託取引、返品條件附ノ賣切取引其他特異ノ取引ヲ行フ者ハ豫メ取引條件ヲ協定シテ權利關係ヲ紛雜セシメサルコトニ注意スルヲ要ス

第四條　注文ニ因ル取引ニ付キ豫メ特別ノ取引條件ヲ協定セサルモノハ總テ左ノ各項ニ準據スヘキモノトス

一　每月二十日現在ヲ以テ送品代金及注文者ノ負擔ニ屬スル諸費用ヲ締切リ計算シテ其月末ニ注文者ヨリ全額ノ送金ヲ受クルモノトス

二　發送ノ荷造費及運賃ハ注文者ノ負擔トス

三　出荷主ノ意思ニ基キ小包郵便、客車便其他普通便ヨリ多額ナル運賃ヲ要スル輸送方法ニ依リタルモノニ在リテハ出荷主ニ於テ其運賃ノ半額ヲ負擔スヘキモノトス

第五條　平常連續シテ月末清算取引ヲ爲スノ協定ナキ地方販賣業者ヨリノ注文ハ總テ前金若クハ代金引換ノ方法ニ據ル此場合ニ於ケル荷造費、運賃及代金引換ノ手數料ハ注文者ノ負擔トス

第六條　注文ニ因リ發送シタルモノハ返品スルコトヲ得ス　但現品ニ落丁、綴違其他ノ瑕疵アリタルニ因リ引替ヲ請求スルモノハ此限ニ在ラス

第七條　明白ナル過誤ニ因リ注文違ヲ生シタル場合ニハ注文者遲滯ナク其事由ヲ疏明シテ注文替又ハ注文取消ヲ爲スコトヲ得　但之カ爲メニ生シタル損害ヲ出荷主及注文者平等ニ分擔スヘキモノトス

第八條　注文ニ因リ發送シタル荷又ハ注文者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ紛失又ハ毀損到著前ニ出荷又ハ發送ノ月ヨリ六ケ月ヲ經過シタルトキハ返品スルコトヲ得ス此期限經過後ハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

第九條　新刊委託取引ニ付キ豫メ特別ノ取引條件ヲ協定セサルモノハ總テ左ノ各項ニ準據スヘキモノトス

一　受託者ハ一ケ月以上新刊見本ヲ陳列スルノ義務ヲ負フ

二　發送ノ月ヨリ三ケ月以內ニ於テ返品スルコトヲ得ス

三　發送ノ月ヨリ六ケ月ヲ經過シタルトキハ返品スルコトヲ得ス此期限經過後ハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

四　委託者ノ必要ニ因リ殘品ノ返送ヲ申出テタル際受託者遲滯ナク之ヲ返送セサルトキハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

第十條　受託者カ商品ノ取扱ニ付キ善良ナル注意ヲ懈リタルニ因リ生シタル汚損毀滅ノ損害ハ當該受託者ノ負擔トス

第十一條　地方販賣業者ニシテ會員ニ對シ取引上ノ義務ヲ履行セス又ハ取引上ノ信義ニ背戻スルノ行爲アリタルトキハ被害者タル會員ヨリ其事實ヲ本協會ニ申告シテ之カ審査ヲ求ムルコトヲ得

第十二條　前條ノ審査ヲ求メラレタルトキハ特ニ審査委員ヲ設ケテ事實ヲ審査セシム

第十三條　審査委員ハ七人トシ各事件每ニ協議員ノ互選ヲ以テ定ム

第十四條　審査委員ニ於テ審査ヲ遂ケタル結果ハ之ヲ協議員會ニ報告シ第十一條所定ノ行爲アリタルコトノ明瞭ナル場合ニ於テハ其事實ヲ會報ニ揭載シテ會員ニ通報ス

附　則

第十五條　本規程ハ昭和二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京出版協會協議員

會　長　目黑甚七
副會長　江草重忠
副會長　小林又七
大倉　保五郎
三樹　愛二
矢島　一三
龜井　豐治
長坂　金雄
榊原　友吉
福岡　益雄
楠間　龜楠
中土　義敬
橋本　福松
西村　辰五郎
山崎　信興
坂本　守正
岡本　正一
神戸　文三郎
小川　菊松
和田　利彥
大橋　進一
藤田　知治
杉山　常次郎
松邑　孫吉

中等教科書協會

所在地　神田區小川町三ノ八
電話神田九三〇番

中等教科書協會規約

第一章　總　則

第一條　本會ハ中等教科書出版業者ヲ

以テ組織ス

第二條　本會ハ中等教科書協會ト稱シ本部ヲ東京市ニ支部ヲ大阪市ニ置ク

第三條　本會ハ中等教科書ノ改善及ビ之ガ供給普及ノ方法ヲ講ジ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章　會　員

第四條　本會ニ入會セントスル者ハ其營業所、商號氏名ヲ記シ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ムベシ

入會ノ申込ニ對シテハ幹事會之ガ諾否ヲ決ス

入會者ハ入會ト同時ニ入會金トシテ金參拾圓ヲ納付スベシ

第五條　會員ハ本會ノ經費ヲ負擔ス

第六條　退會セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨本會ニ申出ヅベシ

退會ノ諾否ハ幹事會之ヲ決ス

第七條　退會者、失格者、除名者ニ對シテハ入會金及ビ會費ノ返還又ハ財產ノ分配ヲナサズ

第八條　會員ニシテ特ニ本會ノ爲ニ功勞アリタル者ニハ總會ノ決議ヲ經テ報酬ヲナスコトアルベシ

第三章　役　員

第九條　本會ハ會員中ヨリ幹事十六名ヲ選出ス內十二名ハ本部ニ於テ四名ハ支部ニ於テ選擧ス

但シ支部選出ノ幹事ハ三名ヲ大阪會員中ヨリ一名ヲ京都會員中ヨリ選ブモノトス

幹事ノ選擧ハ本部ニ在リテハ每年一月ノ定時總會ニ於テ支部ニ在リテハソレヨリ五日前ニ支部會ヲ開キテ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行フ

但シ再選ヲ妨ゲズ

幹事ノ任期ハ定時總會終了後次ノ定時總會迄トス

第十條　幹事ニ半數以上ノ缺員ヲ生ジタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選擧ヲ行フ

但シ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキハ半數以內ノ缺員ノ場合ト雖モ補缺選擧ヲ行フコトヲ得

補缺幹事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十一條　幹事ハ會長一名副會長一名ヲ互選ス

別ニ支部選出ノ幹事ハ支部長一名ヲ互選ス

第十二條　役員ノ權限左ノ如シ

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理シ會議ヲ召集シ其議長トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

幹事ハ各般ノ會務ヲ處理シ會長副會長事故アルトキハ之ニ代ル

支部長ハ會長指揮ノ下ニ支部ノ會務ヲ管理シ支部會ヲ召集シ其議長トナル支部長事故アルトキハ支部選出ノ幹事之ニ代ル

第十三條　會長ハ事務員ヲ任免ス

第十四條　役員ハ無給トス

但シ役員ニシテ繁劇ノ事務ニ當リ又ハ特ニ功勞アリタル者ニハ總會ノ決議ヲ經テ報酬ヲナスコトアルベシ

第四章　會　議

第十五條　會議ヲ分チテ左ノ五種トス

一、定時總會
二、常集會
三、臨時總會
四、幹事會
五、支部會

第十六條　定時總會ハ每年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ議決ス

一、前年度ノ庶務及ビ財產目錄、收支決算ノ報告
二、經費ノ賦課、其徵收及ビ收支豫算
三、幹事ノ選擧
四、前各項ノ外豫メ會長ヨリ提出シタル議案

第十七條　常集會ハ每月一回之ヲ開キ會務ヲ議ス

第十八條　臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開キ會長提出ノ議案ヲ審議ス

第十九條　幹事會ハ每月一回之ヲ開キ會務ヲ處理ス

但シ會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十條　支部會ハ每月一回之ヲ開キ會務ヲ議ス

但シ支部長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十一條　會議ハ本規約ニ特別ノ規定アルモノノ外ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第五章　會　計

第二十二條　本會ノ經費ハ會費、入會金其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條　本會ノ會計年度ハ曆年ニ據ル

第二十四條　本會ハ篤志ノ寄附金又ハ經費剩餘ノ一部ヲ積立テ基本金トナス

基本金ハ永遠ニ保存スルモノトシ其利子ハ經常收入トス

但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ基本金ノ支出ヲ要スルトキハ會員ノ過半數出席シタル定時總會又ハ臨時總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第六章　制　裁

第二十五條　會員ハ他ノ會員ノ契約セル圖書ノ發行若シクハ專賣ノ依託ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十六條　中等教科書出版業者ニシテ故意ニ本會ニ入會セズ本會ノ目的ヲ阻碍シ會員共同ノ利益ニ反スル行爲アリタル時ハ本會ヨリ中等教科書販賣業者ニ向ツテ該出版業者ノ發行セル中等教科書ノ販賣ヲ拒絕スルコトヲ申込ムモノトス

中等教科書販賣業者ニシテ前項ノ申込ニ應ゼザルトキハ別ニ定メタル取

引規定ニヨリ之ヲ處分ス

第二十七條　會員ニ對シ中等教科書代金ノ支拂ヲ延滯シタル者アルトキハ會員ハ本會ニ向ツテ其處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本會ハ之ガ調査ヲナシ其延滯者ニ對シ支拂方ヲ勸告ス延滯者勸告ニ應ゼザル場合ハ會員ナルトキハ第二十八條ニヨリテ處分シ會員外ナルトキハ其者ト會員全體トノ取引ヲ停止ス

前項ノ勸告ニ應ゼザル者ト尙取引ヲ繼續スル會員ニ對シテモ第二十八條ヲ準用ス

第二十八條　會員中左ノ行爲アリタルトキハ常集會又ハ總會ノ決議ヲ以テ金五百圓以內ノ違約金ヲ課シ又ハ除名スルコトアルベシ

一、本會ノ體面ヲ汚損シタル者

二、會費又ハ賦課金納入ノ義務ヲ三箇月以上怠リタル者

三、本規約及ビ取引規定又ハ本會ノ決議ニ違背シタル者

第七章　規約變更

第二十九條　本規約ハ會員ノ過半數出席シタル定時總會又ハ臨時總會ニ於テ決議スルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

附　則

第三十條　本規約ハ昭和九年一月二十日ヨリ施行ス

第三十一條　本規約施行以前ニ會員タル者ハ第一條ノ資格ナキ者ト雖モ引續キ會員タルコトヲ得　以上

中等教科書協會幹事

會　長　坂本　嘉治馬
副會長　森下　松衞
目黒書店　六盟館
大日本圖書會社　育英書院
至文堂　培風館
中文館　東京開成館
興文社　三教書院
大阪寶文館　大阪修文館
大阪三宅書店　京都金港堂

日本雜誌協會

所在地　神田區一ツ橋敎育會館內
電話九段四一五一番

日本雜誌協會規約

第一章　總　則

第一條　本會ハ本邦內ニ於ケル雜誌發行業者及本會ノ承認シタル雜誌元取次業者ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ日本雜誌協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ東京市ニ置ク

第四條　本會ハ會員共通ノ利益ヲ擁護シ斯業ノ發達文化ノ向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第五條　本會ハ其目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一　雜誌發行ニ關スル必要ナル諸般ノ事項ヲ協定ス

二　內容相類スル雜誌發行業者ノ爲メ特ニ分科會ヲ設ケ之カ共通事項ヲ協定ス

三　雜誌ノ普及ヲ促進スル爲メ雜誌ノ販賣方法ヲ統一シ販賣上ノ弊害ヲ防止ス

四　前各號ノ外、會員ノ利害ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理ス

五　毎月一回會報ヲ發行シ會員ニ對シ諸般ノ協定及必要ナル事項ヲ報告ス

第二章　會　員

第六條　本會ニ入會セントスル雜誌發行業者ハ元取次業者タル會員ノ紹介ヲ以テ本會所定ノ申込書ニ記名捺印ノ上、入會金參拾圓及第八條ノ會費六箇月分ニ其發行雜誌一部ヲ添附シ申込ヲ爲ス可シ但入會ヲ謝絕シタル場合ハ該金額ハ之ヲ返却ス

第七條　入會申込者ニ對シテハ評議員會ニ於テ申込者ノ資格及雜誌ノ性質等ヲ審査シ且本會ノ目的及規約ニ鑑ミ之カ許否ヲ決定ス

第八條　發行業者タル會員ハ會費月額金壹圓、二種以上ノ雜誌發行者ハ一種ヲ增ス每ニ月額金五拾錢宛ヲ增額負擔ス

元取次業者タル會員ハ會費月額金五圓ヲ負擔ス

各會費ハ三箇月分宛前納スルコトヲ要ス

第九條　會員ニシテ左ノ事項ヲ生シタルトキハ直チニ本會ニ書面ヲ以テ之カ申請ヲ爲シ第四號第五號以外ノ事項ハ必ス本會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一　雜誌ノ創刊、改題
二　雜誌ノ發行權又ハ營業權ノ讓受本號ノ場合ハ讓渡人ノ連署ヲ要ス
三　相續若クハ組織變更ニ因ル名義又ハ商號ノ變更
四　雜誌ノ休刊若クハ廢刊、營業所ノ移轉若クハ廢業
五　休刊中ノ雜誌ノ復活發行

第十條　前條ノ創刊又ハ發行權、營業權ノ讓受ニ付テハ一件毎ニ金貳拾圓改題又ハ名義及組織、商號ノ變更ニ付テハ一件毎ニ金拾圓ノ登錄料ヲ本會ニ納付スルコトヲ要ス

第十一條　雜誌ノ休刊一箇年ニ及フモノハ廢刊ト看做シ之ヲ處理ス

第十二條　會員ノ納付金ハ退會、廢刊其他ノ事由ニ因ルモ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條　會員ハ他ノ會員ノ使用スル商號又ハ雜誌ノ題號ト同一若クハ類似ノ商號、題號ヲ用フルコトヲ得ス但先用者ノ承諾書ヲ添ヘ本會ニ申請シ其承認ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

第十四條　會員ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ會員タル資格ヲ喪失ス
一　退會、雜誌全部ノ發行權ノ讓渡又ハ廢刊、營業ノ廢止
二　會費ノ滯納六箇月ヲ超ユル者
三　業務ノ休止一箇年ニ亙ル者
四　除名セラレタル者

第三章　役　員

第十五條　本會ニ評議員二十人ヲ置ク評議員ハ總會ニ於テ無記名連記投票ニ依リ會員中ヨリ之ヲ選擧ス
得票最高ノ者ヨリ順次之ヲ當選者トシ、得票同數ナル時ハ年長順ニ依リ年長順ニ依リ難キ場合ハ抽籤ニ依リ當選者ヲ定ム

第十六條　評議員ハ會員タルノ資格ヲ失ヒタルトキ營業權ノ組織ノ變更又ハ其發行ニ係ル雜誌全部ヲ休刊シタルトキハ其資格ヲ喪失ス

二項第三項ヲ準用ス

第十七條　評議員ノ選擧ハ會長選擧長ニ當リ選擧委員若干名ヲ指名シ選擧委員會ヲ組織シテ之ヲ行フ

第十八條　評議員ノ選擧ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル投票ハ之ヲ無效トス
一　本會所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
二　被選擧人ノ氏名商號以外ノ事項ヲ記載シタルモノ
三　被選擧人ノ氏名商號不明ナルモノ

第十九條　評議員ノ任期ハ二箇年トス但任期滿了後ト雖モ改選ノ終了確定スルマテ其件務ヲ執行ス

會長、副會長、會計監督ノ任期ハ評議員ノ任期ニ從フ

第二十條　評議員ハ會員タルノ資格ヲ失ヒタルトキ營業權ノ組織ノ變更又ハ其發行ニ係ル雜誌全部ヲ休刊シタルトキハ其資格ヲ喪失ス

會長、副會長、會計監督ニシテ會員又ハ評議員ノ資格ヲ失ヒタルトキモ亦同シ

第二十一條　評議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ臨時總會ヲ開キ補缺選擧ヲ行フコトヲ得

補缺選擧ニ依リ就任シタル評議員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第二十二條　會長ハ本會ヲ統轄代表シ會務ヲ執行ス

第二十三條　副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アル時ハ會長ノ職務ヲ行フ

第二十四條　會計監督ハ會計事務ヲ監理ス

第二十五條　評議員ハ評議員會ニ於テ諸般ノ事項ヲ議決ス

第四章　會　議

第二十六條　會議ヲ分チテ總會、評議員會、分科會、其他各種ノ委員會トス

第二十七條　總會及評議員會ハ會長之ヲ招集ス

第二十八條　總會及評議員會ノ議長ハ會長之ニ當リ議事ノ整理議場ノ秩序ヲ維持ス

第二十九條　評議員會ハ毎月一回之ヲ開ク但必要アルトキハ臨時之ヲ開クコトヲ得

評議員會ハ評議員ノ半數以上出席スルニ非サレハ成立セス

第三十條　總會ハ毎年一回一月中ニ之ヲ開キ左ノ事項ヲ議ス
一　前年度ノ庶務及事業ノ報告
二　前年度ノ收支決算ノ報告
三　本年度ノ收支豫算ノ決議
四　豫メ通知シタル議案
五　隔年毎ニ評議員ノ選擧

第三十一條　臨時總會ハ評議員會ノ決議ニ依リ又ハ會員三十人以上ノ同意ヲ以テ會議ノ目的及其理由ヲ明示シテ之カ招集ヲ請求セラレ評議員會ニ於テ之ヲ可決シタルトキ之ヲ招集ス

第三十二條　總會ノ招集ハ會員ニ對シ少クトモ開會七日前ニ付議事項、日時及場所ヲ記載シタル通知書ヲ發スルコトヲ要ス但緊急ヲ要スル臨時總會ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三十三條　總會及評議員會ニ於テハ出席者ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決ス

第三十四條　總會及評議員會ハ本人又ハ代表者ノ外其代理者トシテ豫メ本會ニ申請シ其承認ヲ經タル者ニ非サレハ出席スルコトヲ得ス

第三十五條　本會ハ特別事項ニ關シ必要ニ應シ評議員中ヨリ若干名ノ委員ヲ選任シ委員會ヲ組織スルコトヲ得委員會ニ於テ審議シタル事項ハ其都度評議員會ニ報告スルコトヲ要ス

第五章　分科會

第三十六條　第五條第二號ニ基キ左記分科ニ屬スル會員ハ評議員會ノ承認

ヲ經テ各科毎ニ又ハ聯合シテ其分科會ヲ組織スルコトヲ得

第一分科　幼年繪畫雜誌
第二分科　幼年讀物雜誌
第三分科　少年少女雜誌
第四分科　男女青年雜誌
第五分科　婦人雜誌（甲部、乙部）
第六分科　娯樂雜誌（甲部、乙部）
第七分科　時事、思想、經濟、產業等ニ關スル雜誌
第八分科　前各分科ニ屬セサル雜誌

第三十七條　各分科會ハ正副幹事各一人ヲ互選ス　但評議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第三十八條　分科會ノ幹事ハ第十九條第二十條第二十一條ヲ準用ス

第三十九條　分科協議會ハ幹事ニ於テ其必要アリト認メタルトキ若クハ會員三人以上ノ同意ニ依リ協議事項ヲ明示シ幹事ニ請求アリタルトキ幹事ハ會長ノ承認ヲ經テ之ヲ招集ス尚會長ニ於テ必要アリト認メタルトキ又ハ評議員會ノ請求ニ依リ會長之ヲ招集スルコトヲ得

第四十條　幹事ハ分科協議會ノ座長ニ當リ協議事項ヲ整理ス

幹事ハ分科協議會ノ協定事項ヲ評議員會ニ報告スルコトヲ要ス

第四十一條　分科協議會ハ第三十三條第三十四條ヲ準用ス

第四十二條　分科協議會ノ協定事項ハ之ヲ評議員會ニ於テ承認決議ヲ經タル後チ其效力ヲ生ス

第六章　販賣

第四十三條　本會員ノ發行スル雜誌ヲ取次若クハ販賣スル者及之ニ關係スル各地方ノ雜誌販賣業組合ハ總テ本規約ニ準據スルコトヲ要ス

第四十四條　前條ノ雜誌ヲ取次若クハ販賣スル者ハ本會員ニ非サル者ノ發行シタル雜誌又ハ本會ノ規約或ハ協定ニ違背シテ發行シタル雜誌ヲ取次販賣スルコトヲ得ス

第四十五條　雜誌ハ販賣業者ニ對スル卸賣ノ外ハ總テ定價ヲ以テ販賣スルコトヲ要ス　但發行定日後三箇月ヲ經過シタルモノハ此限ニ在ラス

第四十六條　雜誌ヲ販賣スルニ當リ景品又ハ各種ノ割引券、福引券等ヲ添附シ若クハ郵送料ヲ負擔スル等總テ定價割引ニ類スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス　但各地方ノ雜誌販賣業組合ニ於テ協定シタル福引券ニ限リ期間ヲ定メテ之ヲ添附スルコトヲ得

此場合其組合ハ要項ヲ明記シテ豫メ本會ニ申請ヲ爲シ其承認ヲ受クルコトヲ要ス

第四十七條　雜誌ノ取次業者又ハ販賣業者ニシテ第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條ヲ遵守セサル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ本會ハ評議員會ノ決議ヲ以テ本會會員トノ取引ヲ停止ス

一　取引上ヨリ生シタル債務ヲ履行セサルニ因リ之カ處分ヲ請求セラレタル者
二　發行定日三箇月ヲ經過セサル雜誌ノ買戻シ、買取リヲ爲シタル者
三　前號ノ期間內ニ貸貸、回覽ヲ爲シタル者及一旦賣渡シタル雜誌ヲ引取リ他ノ雜誌ト交換ヲ爲シタル者其他不正賣買ヲ爲シタル者若クハ不正返品ヲ爲シタル者
四　古雜誌ノ賣買ヲ兼業スル者ト雖モ前第二號第三號ノ行爲アリタル者其古雜誌賣買ノ爲メ別ニ營業所ヲ設ケタル者モ亦同シ

第四十八條　前條ノ取引停止ニ付シタル者ニシテ改悛ノ實アリト認メタルトキハ請求ニ因リ評議員會ノ決議ヲ以テ取引ノ復活ヲ爲スコトヲ得　但前條第一號ノ場合ハ請求者ノ申請アルコトヲ要ス

第四十九條　第四十三條ノ各地方ニ於ケル雜誌販賣業組合ハ其規約及組合員名簿ヲ本會ニ提出スルコトヲ要ス

尚規約ノ變更及組合員ニ異動アリタルトキハ其都度本會ニ通告スルコトヲ要ス

第五十條　各地方ノ雜誌販賣業組合ニ於テ其組合員ニ對シ取引停止若クハ除名處分ヲ爲サントスルトキハ內地ハ二週間其他ハ三週間前ニ本會ニ申告シ本會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十一條　各地方ノ雜誌販賣業組合ハ第四十三條乃至第四十七條所定ノ外其組合員ノ加入金又ハ營業場所ノ距離制限等其他ニ關シ雜誌ノ普及ヲ妨クルカ如キ不當ノ規定ヲ其規約中ニ設クルコトヲ得ス

第五十二條　各地方ノ雜誌販賣業組合ニ於テ本會ノ規約又ハ本會ノ決議事項ニ背キ本會ノ目的ニ悖戻スル行動アリタルトキハ評議員會ニ於テ適當ナル處置ヲ爲スコトヲ得

第七章　會計

第五十三條　本會ノ經費ハ會費、入會金、登錄料其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十四條　會計年度ハ十二月一日ヨリ翌年十一月三十日ニ至ル期間トス

第五十三條　每年度ノ收支決算ハ總會ニ報告スルコトヲ要ス

第五十六條　每年度ノ收支決算ハ總會ニ於テ之ヲ決定ス

第五十七條　臨時緊急ノ必要アルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ豫算外ノ支出ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ次ノ總會ニ報告シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五十八條　本會所有財產ノ保管方法ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ會計監督其任ニ當ル

第八章　制裁

第五十九條　會員ニシテ本規約若クハ本會ノ決議事項ニ違背シタル者又ハ

本會ノ體面ヲ汚損シタル者アル時ハ事態ノ輕重ヲ裁量シテ左ノ處分ヲ爲ス

一　戒　告
二　貳千圓以下ノ違背課金
三　三箇月以下ノ取引停止
四　除　名

本號ハ第二號第三號ノ處分ニ服從セサル者ニモ適用ス

第六十條　除名處分ヲ受ケタル者改悛ノ實アリト認メタルトキハ請求ニ因リ更ニ入會ヲ許可スルコトヲ得

第六十一條　前二條ノ適用ニ付キテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

附　則

第六十二條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十三條　本規約ハ昭和九年二月十一日ヨリ之ヲ施行ス

日本雜誌協會評議員

會　長　實業之日本社
副會長　新潮社
東京堂　東海堂
北隆館　大東館
博文館　講談社
主婦之友社　婦人之友社
文教社　料理之友社
小學館　研究社
中央公論社　改造社
ポケット講談社　政教社
婦女界社　誠文堂

東京雜誌販賣業組合

所在地　神田區駿河臺四ノ二
電話神田六六七番

東京雜誌販賣業組合規約

第一章　總　則

第一條　本組合ハ東京雜誌販賣業組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第二條　本組合ハ東京市内ニ營業所ヲ有スル雜誌販賣業者ヲ以テ組織ス

第二章　目　的

第三條　本組合ハ組合員間ノ利益增進ト共濟親睦ヲ旨トシ無益ノ競爭ヲ避ケ斯業ノ發達ヲ圖リ營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス

第四條　本組合ハ組合員間ノ一方若クハ双方ノ請求ニヨリ營業上ヨリ起ル紛議ノ調停ヲナスコトヲ得此場合ハ幹事會ノ互選ヲ以テ調停委員若干人ヲ擧ケ之ヲ調停セシム

第五條　本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ組合員ハ左ノ事項ヲ嚴守スヘキモノトス

一　組合員外ノ營業者ト取引ヲ爲ササルコト

二　雜誌ハ凡テ定價ヲ以テ販賣スルコト　但前金拂込ノ購讀者ニ對シテハ各雜誌奥附記載ノ價格ヲ以テ販賣スルコトヲ得、尚奥附記載ノ發行日ヨリ三ケ月ヲ經タルモノハ除外ス

三　雜誌ヲ販賣スルニ景品ヲ添附シ送料負擔若クハ割引ニ類スル行爲ヲ爲ササルコト

四　貸覽及回覽ノ營業ヲ爲ササルコト

五　貸覽及回覽業ヲ營ムモノニ雜誌ヲ販賣セサルコト

六　取引停止中ノ組合員ト取引ヲ爲ササルコト

七　營業休止中ノ組合員ト取引ヲ爲ササルコト

第三章　組合員

第六條　本組合ニ加入セントスル者ハ本組合所定ノ加入申込書（第一號書式）ニ一定ノ店舖ヲ有スル營業所及商號、氏名、年齡ヲ記載シ所要地圖（店舖ノ位置及附近組合員ノ位置ヲ明記シタルモノ）誓約證ヲ添付シ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ申込ムヘシ　但紹介者ノ一人ハ幹事タルコトヲ要ス

加入金ハ貳百圓トシ加入ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ本組合ニ納入スヘシ

金額納入ノ日ヨリ組合員タルノ資格ヲ生ス

支店、分店若クハ出張所ノ設置ハ各別ニ加入スヘキモノトス

組合員（加入後滿七ケ年以上）ノ從業者ニシテ滿七ケ年以上勤續シ本組合ヨリ表彰ヲ受ケタル者ハ加入金ヲ拾圓トス此場合ハ第二號書式ノ證明書ヲ申込書ニ添付スルコトヲ要ス

但一旦脫退シタル者又ハ退店後滿二ケ年ヲ經タル者ハ此限ニアラス

第七條　加入申込者ニ對シテハ調査ヲ行ヒタル後幹事會ニ於テ其ノ許否ヲ決ス

第八條　申込者ノ營業所カ組合員ノ營業所ニ接近シ甚敷支障アリト認メタル場合ハ其ノ加入ヲ許可セサルコトアルヘシ

第九條　加入申込者ニシテ組合員營業

所ノ讓渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ニヨリ讓渡人讓受人連署ノ上屆出テ其ノ許可ヲ受クヘシ此場合讓渡人ハ脫退（第六號書式）ノ手續ヲ要シ讓受人ハ加入登錄料トシテ金壹百圓ヲ納入スルコトヲ要ス其ノ營業所ニ對シテハ前條ニ依ラシテ其ノ加入ヲ許可スルコトアルヘシ　但讓受人カ勤續者ノ場合ハ登錄料金拾圓トス

第十條　組合員ニシテ其ノ營業所ヲ移轉セントスルトキハ移轉前必ス第五號書式ニ依リ本組合ニ屆出テ許可ヲ受クルコトヲ要ス

移轉場所カ第八條ニ該當スル場合ハ其ノ移轉ヲ許可セサルコトアルヘシ

第十一條　組合員ニシテ其ノ營業所移轉ニ際シ第八條ニ該當スル場合ト雖營業休止ノ誓約證ヲ提出スルトキハ其ノ移轉ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條　組合員ハ死亡若クハ隱退ノ場合相續人又ハ法律上ノ家族ニ其ノ營業ヲ繼承セシムルコトヲ得此手續ハ第三號書式ニ依リ戶籍謄本（或ハ抄本）其ノ他ノ證明書相添屆出テ許可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ加入金ヲ要セス

第十三條　組合員ハ他ノ組合員ト同一ノ商號ヲ有スルコトヲ得ス但先用者ノ承諾ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十四條　組合員ハ其ノ店頭ニ組合員タルノ標章ヲ掲出スルコトヲ要ス

但標章ハ組員ヨリ交附ス

第十五條　組合員ニシテ氏名、商號ヲ變更シ若クハ廢業シタルトキハ一週間以內ニ組合ニ屆出ツヘシ但商號變更ノ場合ハ第十三條ニ據ル

第十六條　組合員ハ組員經費負擔ノ義務ヲ負フ

第十六條　組合員間ニ於テ商取引ノ支拂ヲ延滯シタル者アルトキハ被害者ヨリ其ノ處分ヲ組合ニ請求スルコトヲ得

第十八條　組合ハ前條ノ請求アリタルトキ事實ヲ調査シ其ノ延滯ヲ認メタルトキハ日ヲ限リ支拂フヘキ旨通告シ之ニ應セサルトキハ第四十九條ニ據リ處分スヘシ

第十九條　組合員ハ自己ニ關スル件ニ付キ組合ヨリ出頭ヲ求メラレタルトキハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　組合員ニシテ組合員タル品位ヲ汚損シ若クハ幹事會ニ於テ不都合ノ行爲アリト認メタルトキハ第四十九條ニ據リ處分スヘシ

第二十一條　組合員ニシテ滿一ケ年間以上營業ヲ休止シタルトキハ第八條ヲ適用セサルモノトス

營業休止ノ起算日ハ組合員ノ屆出若クハ調査ノ上其ノ營業休止ノ事實ヲ幹事會ニ於テ確認シタル上之ヲ決定

ス

第二十二條　組合員ハ左ノ事由ノ發生ニ因リテ組合員タルノ資格ヲ喪失ス

一　任意ノ脫退
二　廢　業
三　營業所ノ讓渡
四　營業ヲ休止スルコト滿二ケ年ニ亙ルモノ
五　營業所ノ組合地域外移轉
六　許可ヲ得スシテ其ノ營業所ヲ移轉シタルモノ
七　死　亡　但第十二條ヲ適用シテ其ノ資格ヲ繼承スルコトヲ得
八　法人ノ解散
九　破　產
十　除　名

第二十三條　本組合ハ規約第三條ノ目的ヲ達スル爲メ本組合內ニ共濟會ヲ設ケ幹事中ヨリ委員若干人ヲ置キ特別會計ヲ以テ組合員ノ共濟事務ヲ擔任ス

共濟會細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條　組合員ニシテ本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スルコトアルヘシ

第二十五條　組合員ノ從業者ニシテ滿七ケ等以上勤續シタル者ハ本組合ニテ表彰ス表彰規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條　組合員ノ從業者ニシテ規約ニ反スル行爲アリタル場合ト雖組合員ハ其ノ責任ヲ負フモノトス

第二十七條　組合員ニシテ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ之ニ對シ加入金ノ返還又ハ組合財產ノ分配ヲ請求スルコトヲ得ス

第四章　役　員

第二十八條　組合ハ組合員中四十人ニ對シ一人ノ比率ヲ以テ幹事ヲ選擧ス

幹事選擧施行細則ハ別ニ之ヲ定ム

幹事ハ其ノ互選ヲ以テ組長一人副組長二人常任幹事五人會計二人規約勵行委員十人共濟會委員十人ヲ定ム

幹事取扱ノ爲メ事務員若干人ヲ置ク

事務員ハ幹事會ノ決議ヲ以テ組長之ヲ任免ス

第二十九條　組長ハ本組合ヲ代表シ會議ノ際議長ノ職ヲ掌ル副組長ハ組長ヲ補輔シ組長ヲ代理ス常任幹事ハ緊急ヲ要スル事件ヲ審議シ會計ハ會計事務ヲ掌ル規約勵行委員ハ規約運用ノ事務ヲ掌リ共濟會委員ハ共濟事務ヲ處理シ幹事ハ諸般ノ議案ヲ審議シ事務ヲ分掌ス

第三十條　幹事ノ任期ハ一ケ年トス

第三十一條　幹事ニ當選シタル者ハ正當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第三十二條　幹事ハ無給トス但特ニ費用ヲ要シタルトキハ實費ヲ支辨ス

第三十三條　本組合ハ本組合ニ特ニ功勞アリタルモノニ對シ幹事會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ相談役ニ推薦スルコトヲ得

相談役ハ終身トス

第三十四條　幹事中特ニ功勞アリタル者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ以テ褒彰若クハ報酬ヲ爲スコトヲ得

第五章　會　議

第三十五條　會議ヲ分ツテ左ノ六種トス

一　定時總會
二　臨時總會
三　幹事會
四　常任幹事會
五　規約勵行委員會
六　共濟會委員會

第三十六條　定時總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ擧行ス

一　前年度ノ事務報告及財產目錄會計收支決算報告
二　豫算案審議
三　組長ヨリ豫メ提出シタル議案ノ審議
四　役員ノ選擧

第三十七條　臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員十分ノ一以上ノ同意ニヨリ其ノ目的タル事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第三十八條　總會ヲ開カントスルトキハ七日前組長ヨリ會議ノ目的タル事項、場所及日時ヲ組合員ニ通知スヘシ　但緊急ヲ要スル場合ハ其ノ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十九條　總會ニ於テハ豫メ組長ヨリ通知シタル事項ノ外他ノ事項ヲ議スル事ヲ得ス

第四十條　幹事會ハ毎月一回之ヲ開ク常任幹事會及規約勵行委員會共濟會委員會ハ隨時之ヲ開キ必要ノ場合ニハ臨時幹事會ヲ招集スルコトアルヘシ

第四十一條　組合員ハ總會ニ於テ幹事ハ幹事會ニ於テ發言贊否ノ權ヲ有ス但幹事會ニ於テ會議ノ事項ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス

第四十二條　議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六章　會　計

第四十三條　組合員ハ組合維持費トシテ月額貳拾錢ヲ支出スルモノトス

第四十四條　本組合ノ經費ハ月費、加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第四十五條　緊急及非常ノ場合ニ際シ臨時支出ヲ要スルトキハ幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得但此場合ハ次期ノ總會ニ之ヲ報告シ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四十六條　組合ノ基金及收入金ハ幹事會ニテ定メタル銀行又ハ信託會社ニ寄託ス

第四十七條　組合員ハ事務ニ妨ケナキ限リ會計帳簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七章　制　裁

第四十八條　組合員ニシテ本規約ニ違背シタル者ハ幹事會ノ決議ヲ以テ左ノ制裁ヲ爲ス

一　譴　責
二　拾圓以上壹千圓以下ノ違約料
三　期限ヲ定メタル取引停止
四　期限ヲ定メサル取引停止
五　除　名

第四十九條　左ノ條項ノ一ニ該當スル者アルトキハ第四十八條ヲ適用ス

第五條、第六條第四項、第十條第一項、第十八條、第十九條、第二十條、第五十三條

第五十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ニ處ス

一　月費ノ滯納六ケ月ニ亙ルモノ
二　違約料ノ徵收ニ應セサルモノ
三　組合員ニシテ貸覽及回覽業ニ類スル行爲アルモノ

第五十一條　期限ヲ定メサル取引停止ニ處セラレタル者ニシテ悔悛ノ實アリト認メタル場合ハ組合員二人ノ保證ニヨリ幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ解除スルコトアルヘシ

第五十二條　組合員ハ組合員中ニ規約違反者アルコトヲ認知シタルトキハ速ニ組合ニ申告セラルヘシ申告者ノ氏名ハ絕對ニ祕密トス

第五十三條　前條ノ申告者カ故意ニ他ヲ中傷セントスル虛構ニ出タルトキハ申告者ハ第四十九條ノ制裁ヲ受ク

第五十四條　本章ノ制裁ニ對シ組合員ハ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第八章　附　則

第五十五條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第五十六條　本規約ハ昭和六年一月一日ヨリ施行ス

東京雜誌販賣業組合共濟會細則

第一條　本會ハ東京雜誌販賣業組合共濟會ト稱ス

第二條　本會ハ東京雜誌販賣業組合ノ組合員ヲ以テ組織ス

第三條　本會ハ本組合規約第二十三條ニ依リ會員相互ノ共濟ヲ以テ目的トス

第四條　本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ事業トシテ會員營業所ノ火災ニ際シ見舞金ヲ贈呈スルモノトス

第五條　本會々員ハ每月拾錢ヲ共濟基金トシテ積立ツルモノトス

第六條　本會ハ會員ノ罹災ニ際シ調査ノ上其ノ程度ヲ審査シ五百圓以內ヲ贈呈スルモノトス

第七條　本會々員ニシテ左ニ該當スル場合ハ第六條ヲ適用セサルモノトス

一　無斷移轉場所ニ於ケル出火

二　警視廳令所定ノ爆發物取締規則
　違反ニ依ル出火
三　天災地變ニ依ル出火
第八條　本會ハ本組合幹事中ヨリ互選ヲ以テ委員十名ヲ定メ事務ヲ處理ス
第九條　本會々計ハ特別會計トシテ本組合會計之ヲ擔任ス
第十條　委員ハ會員罹災ノ通知アリタルトキハ直ニ現狀ヲ調査シ委員會ニ於テ見舞金ヲ査定シ本組合幹事會ノ承認ヲ經テ之ヲ實行ス會員ハ之ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第十一條　本會ノ事務及會計ノ決算ハ毎年一月本組合定時總會ニ於テ之ヲ報告ス
第十二條　會員ニシテ本組合規約第二十二條ニ依リ組合員タル資格ヲ喪失シタルモノハ本會積立金及財産ノ分配ヲ請求スルコトヲ得ス
第十三條　本細則ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

特別決議

一、組合員ハ他ノ商品ヲ販賣スル爲メ福引、景品等ニ新刊雜誌ヲ使用スヘカラス
一、組合員ハ組合員外ノ者ニシテ新刊雜誌ヲ福引、景品等ニ使用スル目的ヲ以テ購求スル者又ハ其疑アル者ニハ販賣スルコトヲ得ス

東京雜誌販賣業組合幹事

組長　大野孫平
副組長　塚越郁四郎
副組長　岸他丑
宮子晉吉　福田滋次郎
福島孝太郎　淺見四郎
中川治三郎　植野錄夫
土屋右近　伊藤貫一
市川松之輔　大橋信一
樋口政次　岡崎傳五郎
稻川佐八　越石保文
根次芳朗　中川謙
酒卷修三　中山軍次
小澤作次郎　本間龍藏
紅谷安久　林五郎
大川義雄　大曾根鉦治

長谷川留吉　小澤一男
相川治平　門坂吟一郎
鶴岡周作　石塚卯三郎
東海堂北隆館
大東館

東京圖書雜誌小賣業組合

所在地　神田區錦町一ノ九（共同書籍内）
電話神田一三五一番

東京圖書雜誌小賣業組合規約

第一章　總則

第一條　本組合ハ東京圖書雜誌小賣業組合ト稱ス
第二條　本組合ハ東京書籍商組合員又ハ東京雜誌販賣業組合員ノ小賣業者ヲ以テ組織ス
第三條　本組合ハ事務所ヲ東京市ニ置ク
第四條　本組合ハ必要ニ應ジテ各個所ニ支部ヲ設置スルコトヲ得
　支部細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　目的

第五條　本組合ハ組合員間ノ親睦ヲ旨トシ協同一致以テ斯業ノ發達隆益ヲ圖リ併セテ營業上ノ弊風ヲ矯正スルヲ以テ目的トス
　尚月報ヲ發行シ必要ト認メタル場合市會ヲ開キ又ハ營業上竝ニ日常用度品ノ共同購買ヲナス事ヲ得

第三章　組合員

第六條　本組合ニ加入セントスル者ハ其營業所商號始業年月日及氏名年齡ヲ記シ組合員貳名（一名ハ幹事）連署ノ上本組合ニ申込ムベシ但シ支部推薦ニヨル加入申込者ハ連署ヲ要セズ
第七條　組合員ニシテ其營業所ヲ移轉シタルトキハ直ニ本組合ニ屆出ツベシ
第八條　組合員ハ組合經費負擔ノ義務ヲ負フ
第九條　組合員ニシテ廢業、脫退若クハ失格シタル者アルモ組合財産ノ分配ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四章　役員

第十條　組合ハ組合員中ヨリ左ノ役員ヲ選擧ス
　幹事　四十名
　幹事ハ其互選ヲ以テ組長一名副組長二名常任幹事七名ヲ定ム

常任幹事ノ中常勤幹事一名會計二名ヲ互選ス

第十一條　組長ハ本組合ヲ代表シ副組長ハ組長事故アル時之ヲ代理ス

第十二條　幹事ハ組合員ヲ代表シ幹事會ニ於テ總テノ問題ヲ審議ス

第十三條　役員選擧ハ定期總會ニ於テ組合員ノ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行ヒ有効投票ノ多數ヲ以テ當選トス得票同數ナルトキハ年長者ヲ採リ同年ナルトキハ抽籤ニヨリ之ヲ定ム

選擧人名簿及投票用紙ハ選擧當日其會場ニ於テ交附ス

選擧長ハ組長之レニ當リ選擧委員ハ組長之ヲ定ム

第十四條　幹事ノ任期ハ一ケ年トス但シ再選ヲ妨ゲズ

第十五條　幹事ニ當選シタルモノハ正當ノ理由ナクシテ辭任スル事ヲ得ズ

第十六條　本組合ノ役員ハ總テ名譽職トス　但シ費用ヲ要シタル時ハ支辨ス

幹事中繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ以テ賞與若クハ報酬ヲ爲スコトヲ得

第十七條　本組合ハ本組合ニ特ニ功勞アリタル者ヲ幹事會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ名譽幹事ニ推薦スルコトヲ得　名譽幹事ハ終身トシ其權限ハ幹事ト同ジ

第五章　會　議

第十八條　會議ヲ左ノ四種トス

一　定期總會
二　臨時總會
三　幹事會
四　常任幹事會

第十九條　定期總會ハ毎年十一月之レヲ開キ向必要ノ場合ハ臨時幹事會ヲ招集シ常任幹事會ハ隨時之ヲ開ク

第二十條　總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員十分ノ一以上ノ同意ニヨリ其目的及事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第二十一條　臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員十分ノ一以上ノ同意ニヨリ其目的及事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第二十二條　總會ヲ開カントスルトキハ七日前組長ヨリ會議ノ目的ノ事項及場所ヲ組合員ニ通知スベシ　但シ緊急ヲ要スル場合ハ此限リニアラズ

第二十三條　幹事會ハ毎月一回之ヲ開キ向必要ノ場合ハ臨時幹事會ヲ招集シ常任幹事會ハ隨時之ヲ開ク

第二十四條　會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ組長之ヲ定ム

第六章　會　計

第二十五條　組合員ハ組合維持費トシ

テ月額金貳拾錢ヲ納入スルモノトス

第二十六條　本組合ノ經費ハ組合員月費寄附金及其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

組合ハ支部維持費トシテ各支部ニ金若干ヲ支給ス

第二十七條　組合ノ積立金及收入ハ幹事會ニ於テ定メタル銀行ニ預金ス

第二十八條　組合員ハ事務ニ妨ゲナキ限リ帳簿ノ閲覽ヲ求ムル事ヲ得

第七章　雜　則

第二十九條　本組合員中死亡シタルトキハ弔慰料トシテ金三圓ヲ贈呈ス

第三十條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

第三十一條　本規約ハ昭和七年十一月十七日ヨリ施行ス

東京圖書雜誌小賣業組合支部細則

第一條　支部設置ハ本組合ノ承認ヲ要ス

第二條　支部ヲ設置セントスル時ハ三十名以上ノ組合員ヲ以テ組織シ規約及ビ其ノ名簿ヲ添付シ本組合ニ届ケ出デ其ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三條　支部ニ於テ規約ヲ變更シ又ハ支部員ニ移動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度本組合ニ届ケ出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第四條　支部長ハ支部ヲ代表シ本組合ト聯絡ヲ執リ本組合規約第二章ノ目的ニ依ツテ協調ス　但シ支部長ハ本組合ノ幹事タル事ヲ得

第五條　本組合ハ當分ノ內支部ノ維持費トシテ當該支部員一名ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ支給ス

第六條　本組合ハ支部ニ對シ前條ノ支給ヲナス外其ノ會計ニ干渉セザルモノトス

東京圖書雜誌販賣業組合幹事

組　長　塚越　郁四郎
副組長　岸　他丑
副組長　山本　芳之助
福島　孝太郎　土屋　右近
林　六郎　伊藤　貫一
會根　高一郎　鶴岡　周作
門坂　吟一郎　大會根　銈治
藤井　幹一　市川　松之輔
中川　謙　中川　治三郎
大川　義雄　大塚　周吉
小澤　作次郎　青野　友三郎
本間　龍藏　高橋　又治
酒卷　修三　川合　初太郎
淺井　光之助　宮子　晉吉
稻川　佐八　石塚　卯三郎
相川　治平　植野　錄夫
木村　孝一　清水　米吉
中山　軍治　紅谷　安久

風間 彰一　土戸 伊三郎
丸山 常藏　澤田 斧藏
北御門 庫一　鈴木 銅一

全國醫書組合

所在地　本鄉區春木町三ノ三二(南江堂內)

全國醫書組合規約

第一章　總則

第一條　本組合ハ本邦(但シ臺灣、朝鮮、樺太ヲ除ク)ニ於テ醫書ノ出版又ハ販賣ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス

第二條　本組合ハ全國醫書組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條　本組合員ハ常ニ本規約ヲ遵守シ協同一致親睦相待チ取引ハ圓滑ニ誠意著實相互ノ利益ヲ擁護シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條　此規約ニ醫書ト稱スルハ醫科專屬ノ圖書全般及他科學ニ屬スル圖書ト雖、醫、齒、藥家並ニ醫、齒、藥學生ニ必要ノモノハ總テ之ヲ包含ス

第二章　組合員

第五條　本組合員ハ一定ノ組合標札ヲ店頭ノ見易キ場所ニ掲クヘシ

第六條　本組合員ハ組合ノ維持費トシテ每月金七拾錢ヲ負擔ス

第七條　本組合ニ加入セント欲スル者ハ本組合所定ノ用紙ニ其營業所、商號、氏名、年齡、法人ニアリテハ社名、代表者氏名ヲ記シ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ加入金壹百圓ヲ添ヘ事務所ニ申込ムヘシ

個人ガ法人ニ變更シクル場合又ハ法人ノ性質ヲ變更シクル場合ニ新ニ加入手續ヲナスモノトス。但シ其實質ニ於テ變更ナキト認メタル場合ハ役員會ノ決議ヲ以テ加入金ヲ免除ス

支店、分店、出張所ハ各別ニ加入スヘキモノトス　但シ各店各所每ニ代表者ヲ屆出ツヘシ

第八條　本組合員ノ從業者ニシテ滿十ケ年以上勤續シタルモノハ加入金ヲ半額トス　但シ舊營業主ノ連署シタル勤續年限證明書ヲ加入申込書ニ添付スヘシ

第九條　本組合ハ加入申込者ニ對シ役員會ニ於テ可否ヲ決ス

第十條　加入金ハ脫退其他如何ナル事情アリト雖之ヲ還付セス

第十一條　組合員ハ左ノ事由ニヨリテ其ノ資格ヲ喪失ス

一、任意ノ脫退
二、廢業又ハ營業ノ讓渡
三、法人ノ解散
四、破　產
五、除　名
六、組合費六ケ月以上滯納シタル時

但シ滯納シタルモノハ一ケ年ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ加入スルヲ得

第十二條　本組合ハ左ノ役員ヲ置ク

組合長　一人
副組合長　一人
常務委員　五人

第十三條　本組合員中ヨリ役員七名ヲ連記無記名投票ヲ以テ選擧シ役員ノ互選ヲ以テ組合長、副組合長及常務委員ヲ選任ス

第十四條　役員ノ任期ハ二ケ年トシ定期總會ニ於テ之ヲ選出ス

第十五條　役員ハ無報酬トス

第十六條　役員ハ規約上ノ處分權ヲ有ス

第十七條　役員ハ規約上ニ明文ナキ事項ト雖、役員會ノ決議ヲ以テ之ヲ處理スルコトヲ得

第十八條　組合長ハ組合ニ關スル常務ヲ擔任シ會計及財產保管ノ任ニ當リ副組合長及常務委員ハ之ヲ補助ス

組合長事故アルトキハ副組合長之ニ代リ副組合長事故アルトキハ常務委員ノ一人之レニ代ル

第四章　販賣及取引

第十九條　醫書ハ總テ一定賣價ヲ以テ販賣スヘシ

第二十條　醫書ハ破損又ハ汚染ヲ生シ一見新本ノ體裁ヲ保チ難キモノノ外古本ト見做シ販賣スル事ヲ得ス

第二十一條　本組合員ニシテ古本賣買營業者ハ其取扱フ所ノ醫書古本ニハ組合ノ規定シタル記號ヲ押捺シ新本

トノ區別ヲ判然タラシムベシ

第二十二條　本組合員ニシテ支拂延滯者アリタルトキハ其被害者ハ左ノ要件ヲ詳記シ處分方ヲ本組合ニ請求スルコトヲ得

延滯ニ關スル前後往復ノ情況

延滯金額

第二十三條　前條ノ請求アリタル場合ハ役員ハ之レヲ調査シ延滯ノ事實ヲ確メタルトキハ被請求者ニ對シ延滯金額ヲ指定期日間ニ支拂フベキコトヲ催告スヘシ

第二十四條　既ニ發表シタル一定賣價及正味ハ更ニ改正ノ通知ヲ經サル前其發行者又ハ發賣所ハ任意之レヲ變更スヘカラス

第二十五條　取引シタル書籍ニシテ買受後三週間以内ニ新版發行ノ場合ハ其殘本ハ引換ヲ請求スルコトヲ得

但シ汚損無キモノニ限ル

第二十六條　本組合外ノ書店ニ對スル

醬書ノ割引率ハ組合員ニ對スル割引ノ半額ヲ超ユルヘカラス

第二十七條　本組合員外ノ書店ニシテ一定賣價ヲ亂シ販賣シタルトキハ其書店ニ對シ一切取引セサルモノトス

組合ハ其商號氏名ヲ直ニ組合員ニ通知スヘシ

第五章　通　知

第二十八條　本組合員ハ醬書ヲ發行シタルトキハ書名、著譯者、定價、正味、送料、發行者(發賣所)ヲ明記シ組合ニ屆出ツヘシ

第二十九條　組合ハ前條ノ通報アリタル時ハ之レヲ組合員ニ通知スヘシ

但シ發行者ニ於テ他ノ方法ヲ以テ發表スルトキハ此限ニ非ス

第三十條　組合ハ違約處分又組合員ノ異動アリタル時ハ直ニ組合員ニ之レヲ通知スヘシ

第三十一條　組合員ハ組合中規約違背ノ行爲アル者ヲ發見シタルトキハ速ニ之レヲ事務所ニ通知スヘシ

第三十二條　組合員ハ氏名住所、代表者ノ變更、又ハ組合ヲ脫退セントスル時ハ直ニ事務所ニ屆出ツヘシ死去ノ場合ハ其遺族ヨリ屆出ツルモノトス

第六章　會　議

第三十三條　本組合ノ會議ハ左ノ四種トス

役員會、定期總會、臨時總會、仲裁會議

第三十四條　役員會議ハ組合事務ニ關スル諸般ノ件ヲ議ス

第三十五條　定期總會ハ每年壹回五月之レヲ開キ左ノ事項ヲ附議ス

一、前年度ノ庶務、收支決算等及財產目錄ノ報告

一、前各項ノ外豫メ組合長ヨリ提案シタル事項

第三十六條　總會及仲裁會議ヲ招集セントスルトキハ開會十日前、組合長

ハ會議ノ目的タル事項、日時、場所ヲ通知スヘシ、但急速ヲ要スル場合ハ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得

總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外議スルヲ得ス

總會ニ出席シ難キ場合ハ委任狀ヲ以テ組合員ニ委任スルコトヲ得

第三十七條　臨時總會ハ組合員拾人以上連名請求アリタル時、又ハ組合長之レヲ必要ト認メタル時開ク

第三十八條　仲裁會議ハ第四十五條、第四十六條ノ場合之レヲ開キ會議ハ公開ス

第三十九條　役員會ハ役員四人以上、總會ハ組合員五分ノ一以上出席スルニアラサレハ之レヲ開クコトヲ得ス

第四十條　會議ハ出席者半數以上ノ同意ニヨリ決ス可否同數ナルトキハ議長之レヲ決ス

第四十一條　出席者發言セントスルトキハ必ス議長ノ許可ヲ經ヘシ

第四十二條　會議ノ議長ハ組合長之レニ當リ組合長事故アルトキハ副組合長、副組合長事故アルトキハ常務委員ノ壹人之レニ當ル

第四十三條　議長ハ議場ヲ整理シ議事ヲ妨害スル者アルトキハ之ヲ退場セシムルコトヲ得

第七章　專　賣

第四十四條　本組合員ノ一人若クハ數人ニ發賣ノ特約アルモノ更ニ他ノ一人若クハ數人ニ依託セントスル場合ハ後者ハ前約者ノ承諾ヲ得ヘキモノトス

第四十五條　前條ノ場合正當ノ理由ナク或ハ惡意ヲ以テ之ヲ拒ミ若クハ強請スルトキハ前約者又ハ後者ハ組合ニ向テ仲裁會議ヲ請求スルコトヲ得

第八章　仲　裁

第四十六條　組合員間ニ營業上ニ關シ紛議ヲ生シタル場合ハ其ノ一方若クハ双方ヨリ本組合ニ其仲裁會議ヲ請求スルコトヲ得

第四十七條　仲裁會議ノ請求アリタルトキハ仲裁會議ヲ組織シ左記人員ヲ選出シ調停セシム役員中ヨリ役員選ノ出シタルモノ三人

請求者ヨリ選出シタル組合員二人、被請求者ヨリ選出シタル組合員二人

第四十八條　仲裁會議ノ議長ハ前記會議員中ヨリ互選ヲ以テ之レヲ定ム

第四十九條　仲裁會議ノ決定ニ對シテハ双方服從スヘキモノトス

第九章　制　裁

第五十條　規約違背處分ハ左ノ四種トシ事情ニヨリ併加シ行フコトアルヘシ

一、譴　責

二、違約金　貳百圓以下

三、取引停止　三ケ月以內

四、除　名

第五十一條　左ノ各項ニ該當スルモノ

ハ除名ス
一、二回以上違約金若クハ取引停止處分ヲ受ケ尚ホ違背シタルトキ
二、延滯金ヲ皆濟スヘキ通告ヲ受ケ其指定日時内ニ皆濟セサルトキ
三、仲裁會議ノ決定ニ服從セサルトキ
四、違約金ノ徵收ニ應セサルトキ
五、本組合ノ體面ヲ汚損シタルトキ
第五十二條　除名處分ヲ受ケタル者悔悟ノ狀アリト認メタルトキハ處分後六ケ月以上ヲ經テ加入ヲ許スコトヲ得
第五十三條　前條ノ加入ヲ許可スル場合ハ本組合員三名ノ連署ヲ要シ更ニ加入金ヲ徵收ス

第拾章　規約變更

第五十四條　本組合ノ規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之レヲ變更スルコトヲ得ス
第五十五條　本規約ノ變更ヲ議スヘキ總會ニアリテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

附　則

第五十六條　本規約ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

書籍業團體一覽

七日會	神田區小川町三ノ三(神戸方)	親交俱樂部	麹町區麹町三ノ二(福田方)
中央雜誌會	麹町區丸ビル二三(都河方)	三區同志會	芝區三田一ノ一六(福島方)
東京書籍卸業組合	神田區神保町一ノ三(栗田方)	懇和會	日本橋區馬喰町三ノ一四(綱島方)
益友會	神田區錦町二ノ四(島村方)	清友會	神田區神保町一ノ五(高岡方)
富登美會	下谷區上野町二ノ八(木村方)	昭和會	神田區神保町一ノ五(高岡方)
城北睦會	豐島區池袋二ノ二〇七(大曾根方)	交和會	本鄉區
		東京南部圖書雜誌商組合	蒲田區蒲田町六八二(伊藤方)
		城西懇和會	杉並區高圓寺七ノ九四(小澤方)

全國醫書組合常務委員

會長　小立鉦四郎
副　今井甚太郎
淺井光之助　大倉保五郎
山口德次郎　山崎信興
横山大樞

城南圖書雜誌同業組合　品川區南品川二ノ一八〇(土屋方)
都南組合　世田谷區下馬一ノ六七(中川方)
東會　下谷區坂本町三ノ三五(市川方)
中央睦會　日本橋區元柳町八(山本方)
山の手會　淀橋區角筈二ノ三七(本間方)
同志會　目黒區自由ケ丘五〇(門坂方)
城東睦會　江戸川區逆井一ノ四(丸山方)
明治大正會　神田區須田町一ノ二六(赤井方)
同志倶樂部　神田區一ツ橋通三(相賀方)
東京古書籍商組合　神田區小川町三ノ二二
東京圖書倶樂部　神田區小川町三ノ二二
文藝家協會　京橋區木挽町五ノ四

中等程度の學校數

我國中等程度の學校、卽ち中學校、女學校、實業學校其の他各學校の數は最近の調査に依れば四千九十校であるが、其の各別數は左の如くである。

官立中學校	七校	公立高等女學校	六百二十九校
官立高等女學校	三校	私立高等女學校	八百七十五校
官立實科高等女學校	一校	公立實科高等女學校	百六十二校
官立工業學校	一校	私立實科高等女學校	十七校
師範學校	六十三校	工業學校	二百四十八校
女子師範學校	四十六校	農業學校	六百〇六校
教員養成所	七十一校	商業學校	四百九十校
公立中學校	四百八十六校	商船學校	十三校
私立中學校	三百七十二校		

東京書籍商組合員一覽

あ

あべ文具店　城東龜戸町三ノ五四
アカギ堂　本所東駒形町三ノ六
アカツキ堂　小石川大塚窪町一五
アサヒ堂　中野朝日丘一〇
アサヒヤ書店　赤坂青山北町六ノ四六
アトラス社　牛込北町三〇
アトリエ社　牛込喜久井町三四
アポロ　下谷谷中町五
アメリカヤ　日本橋兩國三〇
アヤセ堂書店　葛飾小菅町八〇七
アルス　神田神保町三ノ一三
アルバ社　豐島池袋五ノ二三九
アルプス堂　王子豐島町一四〇
相澤福井堂　本所竪川三ノ一八
愛文堂　淺草地方今戸町九五
愛心堂　中野宮前町二三
青木商店　本所江東橋三ノ一二
青木堂　城東南砂町二ノ七三〇
青木文化堂　日本橋本町四ノ七
青野書店　日本橋通三ノ五
青野書店支店　日本橋通三ノ八
青柳堂　神田仲町二ノ六
赤石正文堂　神田錦町三ノ五
赤い鳥社　淀橋西大久保一ノ四六一
赤城書店　世田谷上馬三ノ九六八
赤玉書店　牛込若松町一二一
赤トンボ　京橋銀座西七ノ三
赤羽書店　芝金杉濱町六八
赤門堂　本郷本郷六ノ一八
曉堂書店　世田谷若林町三八九
淺井厚生堂　本郷本富士町二
淺井商店　淀橋柏木一ノ八七二
淺草出版社　淺草公園仲見世八二號
淺倉屋　淺草雷門二ノ二五
淺見文林堂（株式）　日本橋大傳馬町一ノ二
朝倉書店　小石川小日向臺町二ノ三四〇
朝田書店　本郷湯島三ノ九
朝日商工株式會社　神田鎌倉河岸二三
朝日書房　麹町上二番町二
朝日堂　淀橋戸塚町一ノ四〇二
朝日屋　王子豐島町三〇四
旭堂　牛込原町二ノ一〇
旭屋　向島寺島町一ノ一五二
蘆田書店　神田鍋町一一鍋町ビル
足立書店　中野住吉町八
熱田勉強堂書店　深川新大橋二ノ八
東東堂　神田神保町一ノ一
東油屋　荒川尾久町三ノ二四八七
阿部書店　江戸川今井町一一三四
阿部盛文館　葛飾高砂町八〇一
阿部勉強堂　京橋寶町二ノ一
天野書店　荒川尾久町五ノ二六六
天野書店　牛込市ケ谷長延寺町五
雨宮書店　足立千住橋戸町四〇
新井堂　神田神保町一ノ一七
新井書店　本郷森川町八〇
新井石禪全集刊行會　芝芝公園十一號地ノ八
板橋上板橋町三ノ六一三
荒井書店　小石川大塚辻町六
荒井書店　小石川茗荷谷町一九
荒尾書店　中野江古田三ノ一、三四
荒木照文堂　瀧野川上中里町四〇六
有牛有文堂　大森新井宿六八〇
安倍一心堂　本郷西片町二
安心堂　京橋靈岸島一ノ一六
安心堂　世田谷松原町三ノ九〇三
安盛堂　杉並成宗二ノ八七七
安藤書店　大森北千束町五三三

い・ゐ

いづみ書店　中野打越町三〇
いとう呉服店　下谷上野廣小路町一
いろは堂支店　豐島西巢鴨四ノ三八八
いろは書房　淺草藏前三ノ二
いろは堂　澁谷下廣尾町一三
いろは堂　豐島池袋一ノ六五二
イクタマヤ　城東大島町七ノ四四八
イケガメ堂　荏原中延町一二六〇
イデア書院　淀橋西大久保一ノ五五五
イトー書店　大森南千束町二〇
イトウ博文堂　板橋上石神井一ノ四九
イスクラ書房　豐島堀之内町一四二
井荻堂　杉並中瀨町二一〇
井上辭典刊行會　日本橋本町四ノ一五
井上書店　神田神保町二ノ七
井上書店　本郷森川町七九
井上書店支店　本郷菊坂町七七
井上商店　杉並阿佐ケ谷六五六
井坂青雲堂　豐島池袋二ノ一六九八
井田書店　神田錦町一ノ一九
井筒屋　澁谷原宿町二ノ一七〇
伊川堂書店　麹町九段四ノ一五
伊坂出版部　京橋靈岸島二ノ二
伊勢川書店　荒川南千住町五ノ二〇
伊勢丹　四谷新宿町三ノ八
伊勢屋　本郷春木町三ノ一二
伊勢屋　王子上十條町一四九四
伊田商店　神田千代田町二八
伊藤書店　日本橋室町三ノ三
伊藤書店　牛込東五軒町三五
伊藤書房　本郷駒込動坂町九四
伊藤商店　目黒下目黒四ノ九五三
伊藤書林　麹町飯田町四ノ二〇
伊藤屋　赤坂青山南町二ノ六
伊東屋　京橋銀座三ノ一二
伊林弘文堂　下谷上車坂町六四
以文館　品川大井金子町六六六
以文堂　王子王子町五三六
以文堂支店　王子上十條町六〇
維新學會　小石川大塚仲町三六
帷文堂　小石川竹早町一一四
飯島書店　神田神保町二ノ三
飯沼商店　江戸川松本町九七二
飯野書店　向島隅田町二六四三
飯野文明堂書店　品川五反田町一ノ四三
飯村書店　麻布霞町一
有起堂書店　神田錦町三ノ二〇
有教社　赤坂青山南町六ノ四八
有光社　麹町丸ノ内三ノ八仲六號館
有恒社　神田表猿樂町九
有宏社　牛込下宮比町九
有終閣書房　本郷森川町八〇
有秋堂　本郷湯島二ノ五
有信堂　京橋寶町一ノ八
有精堂（株式）　神田神保町一ノ三九
有精堂　神田神保町一ノ三九
有誠堂　京橋京橋三ノ六
有斐閣　神田神保町二ノ一七
有斐閣雜誌店　神田神保町二ノ五
有朋堂　神田錦町一ノ一九
有樂堂　神田神保町一ノ一二
有隣書屋　杉並阿佐ケ谷五ノ七六
有隣堂　品川大井山中町四二九七
有隣堂書房　世田谷上馬町一ノ五四六
五十嵐日新堂　豐島池袋一ノ一五三
育英會　豐島西巢鴨三ノ八〇七
育英館　牛込橫寺町六四
育英書院　澁谷千駄ケ谷四ノ七二〇
育英堂　瀧野川瀧野川町二六四三
育成洞　本郷森川町七一
育文堂書店　下谷新坂町三七
郁文舍　神田紺屋町三六
郁文堂　澁谷上通一ノ二一
郁文堂　向島隅田町三ノ五四七

安藤書店　目黒月光町一六九

郁文堂書店　本郷森川町八〇
侑文堂書店　蒲田蒲田町六八二
郁文堂書店神田店　神田小川町四〇
池上電車五反田驛構内賣店　品川下大崎五反田二七一
池島文具店　深川萬年町二ノ四五
池添紙店　淀橋上落合二ノ七一九
池田商店　世田谷野澤町一ノ九九
池田博文堂　牛込早稻田鶴巻町四四四
池田屋書店　京橋小田原町二ノ四
池田屋書店　四谷新宿町三ノ二八
池谷誠文堂　日本橋濱町二ノ七一
石井商店　中野住吉町七
石井文具店　荏原小山町三〇九
石井明文堂　神田神保町一ノ五
石川書店　赤坂榎坂町四
石川書店　澁谷千駄ケ谷五ノ七〇四
石黒商店　本郷駒込千駄木町二〇六
石島屋　深川門前仲町二三
石田昭和堂　本所平川橋二ノ八
石塚好文堂　板橋石神井關町二ノ一
石塚書店　牛込市ケ谷富久町一六
石塚書店　品川大井鎧町三四九三
石野日進堂　下谷中根岸町四〇
石野工業事務所　芝南佐久間町一ノ五一
石橋正文堂　日本橋新和泉町四
石原有文堂　豐島西巣鴨二ノ二七七七　佐藤方

石原書店　本所厩橋二ノ一二
石原書店　深川新大橋三ノ一六
石原屋　大森南千束町一三四
石渡正文堂　下谷仲徒士町四ノ六
石渡文榮堂　芝愛宕下町一ノ九
磯部甲陽堂　日本橋本町四ノ二
磯部屋　麹町麹町三ノ三
一英堂　淀橋角筈三ノ一八〇
一貫堂　本郷駒込追分町六二
一貫堂　淺草南富坂町八
一元社　本郷弓町一ノ二五
一光社　麹町下二番町三七
一光堂書店　本郷駒込追分町五一
一行會分店　目黒駒場町七六九
一松堂書店　京橋木挽町八ノ一
一心堂　淺草小島町二ノ三
一心堂　牛込市ケ谷甲良町七
一信堂　本所東駒形四ノ三
一進堂　神田美土代町二ノ一
一眞堂　豐島池袋五ノ三六一
一成社　芝二本榎西町三
一清堂　大森堤方町六九
一誠堂書店　神田神保町一ノ七
一泉堂　京橋入舟町三ノ一九
一到書院　牛込市ヶ谷加賀町二ノ三三
一二堂　下谷上車坂町一一

一歩堂　品川北品川三ノ三一九
一葉社　牛込新小川町一ノ二
一葉堂　深川白河町一ノ六
一葉堂　澁谷千駄ケ谷町四ノ六八一
一力や　大森池上本町三三二
市岡近清堂　四谷鹽町二ノ一
市川書店　杉並中通町一八
市川博進堂　下谷坂本町三ノ三五
市川勉强堂　芝横新町九
市原書店　京橋槇町一ノ七
泉堂　目黒原町一三四九
泉屋　中野新井藥師町五〇八
泉屋書店　淀橋淀橋三三七
和泉堂　目黒下目黒二ノ四〇〇
和泉支店　杉並和泉町一二〇
逸文堂　中野千代田町七二
出井書店　小石川音羽町八ノ一三
稻井書店　本郷彌生町三
稻垣書店　神田神保町一ノ九
稻垣支店　大森池上德持町四一九
稻田堂　葛飾本田中原町三四
稻見書店　澁谷羽澤町五七
今泉弘文堂　荒川日暮里町三四二
今泉堂　蒲田今泉町一八二
今つる書店　淀橋柏木五ノ一一四五
今村紙店　足立本木町三ノ二六三五

今村紙店支店　足立本木町二ノ一九九二
色部勇林堂　神田錦町一ノ二
岩井屋　下谷下根岸町三五
岩岡書店　芝濱松町二ノ二
岩切商店　本郷弓町二ノ四
岩佐書店　牛込山吹町二六〇
岩城書店　赤坂新町三ノ三一
岩瀬書店　神田通神保町六
岩槻書店　小石川新諏訪町一二
岩本農園出版部　世田谷松原町三ノ八六五
岩波書店　神田神保町二ノ三
岩丸書店　中野上高田一ノ一九一

う

うへの堂　澁谷松濤町二一
ウシロジ堂　荏原戸越町三四一
宇田川商店　江戸川東船堀町八九
宇田川文房具店　王子志茂町一ノ九六〇
宇野出版社　神田三崎町二ノ三四
宇宙堂　豐島高田本町一ノ三二七
宇宙堂支店　澁谷幡ケ谷笹塚一〇三八
宇宙堂書店　神田神保町一ノ二三
右文館　神田表神保町三
右文書院　本郷千駄木町二七九
右文社　牛込市ケ谷富久町六〇
上田泰文堂　淀橋戸塚町一ノ一三

上田書戸　杉並清水町一八四
上田屋　神田神保町一ノ一
上野書店　小石川白山御殿町四〇
上原エクレシア　澁谷代々木上原町一三二四
潮田博文堂　本所龜澤町一ノ三一
牛島屋　本所小梅町三ノ一五
臼倉書店　中野沼袋南二ノ一四九
臼田屋　大森新井宿一三〇五
内木屋　向島寺島町五ノ六九
内田書店　豐島長崎南町三ノ三八七六
内田書房　板橋上板橋七ノ四七二五
内田屋　板橋練馬町一九三三
内田老鶴圃　日本橋大傳馬町一ノ四
打村書店　本所兩國驛東口構内
梅澤書店　神田錦町三ノ一六
梅原書店　麹町鐵道院内賣店
梅村書店　蒲田新宿町五七五
浦井文明堂　淀橋柏木一ノ八〇
浦島堂　淺草公園仲見世東側四八
瓜生濟生館　本郷本郷六ノ五
雲水閣　世田谷經堂町五五
芸艸堂支店　本郷湯島一ノ一
運輸社代理部　芝新橋六ノ三

え・ゑ

エスカ堂　淺草千束町一ノ一四〇

エスペランド研究社　麹町九段三ノ二
エビス出版社　日本橋通一ノ一野村ビル内
エロス堂　淺草千束町二ノ二五四
ABC　芝白金今里町五五
永久堂　淀橋下落合一ノ五五〇
永文堂　飾葛小谷野町三二〇
永昌堂　淺草永住町一二五
永樂堂　麻布市兵衛町二ノ三七
永樂賣店　麹町大手町一ノ六 永樂ビル一一
英語倶樂部社　麹町二番町四二
英語研究會　本郷動坂町九四
英語研究書刊行會　澁谷榮通二ノ一三
英山堂　神田錦町三ノ六
英進社　日本大傳馬町一ノ二
英風社　澁谷千駄ケ谷一ノ三五二
英文法通論發行所　麻布龍土町一八
英美堂　芝二本榎町二ノ一四
英蘭書房　麹町富士見町三ノ三
榮運書店　足立梅田町一九六二
榮光堂　世田谷玉川奥澤町三ノ一〇八〇
榮松堂　日本橋人形町二ノ六
榮松堂支店　日本橋蠣殼町四ノ一〇
榮昭堂　小石川竹早町一〇八
榮久堂　大森入新井一ノ三八
榮進堂　杉並高圓寺六ノ六七四
榮文堂　芝三田四國町二ノ一

榮文堂分店　下谷豐住町三六
螢雪堂　杉並高圓寺一ノ四五四
益文堂　神田錦町二ノ二
益美屋　牛込早稻田南町三二
越後屋　淀橋下落合一六八八
越前屋　大森久ケ原町三九五
越山堂　小石川大塚坂下町九三
江川三角堂　足立下沼田九四二
江戸川書房　江戸川東小松川二ノ三八七
江戸屋　淺草千束町三ノ九
江戸屋　目黑上目黑六ノ一五七〇
榎書房　牛込榎町三〇
榎本書店　杉並堀ノ内二一四
榎本商店　瀧野川田端五一三
榎本文華堂　日本橋蠣殼町三ノ八
荏原堂書店　荏原中延町四四〇
惠比壽堂　本所綠町二ノ二
惠比壽屋　澁谷山下町四七
海老屋　麴町竹平町一 東京外國語學校内賣店
演藝畫報社　本郷駒込動坂町一一〇
園藝書院　世田谷松原町三ノ八六五
遠藤誠文堂　本所石原町三ノ三〇二
遠藤文房具店　本所竪川二ノ二二
烱文堂　烟草石濱町一ノ五

を・お

おきつ文具店　城東大島町二ノ四一〇
をことや　杉並井荻三ノ一五
おもだかや商店　本所向島須崎町二五〇
オーアミ書店　豐島西巢鴨三ノ九三〇
オーム社　神田錦町三ノ一八
オルゲストラシンフオニカタケキ　本郷湯島三組町五九
大井書店　品川南品川一ノ一五三五
大井商店　淀橋東大久保一ノ四四三
大石書店　牛込戸山町九
大内商店　芝西久保巴町四八
大岡書院　神田駿河臺三ノ五
大岡山書店　麻布一本松町二七
大岡山堂　目黑宮ケ丘一八七八
大河内書店　赤坂青山高樹町三
大川屋　淺草藏前三ノ六
大木書店　淺草阿部川町二八
大木屋書店　向島吾嬬町西八ノ七
大國屋　淺草南松山町三七
大久保昌盛堂　本郷湯島天神町三ノ一四
大雲堂　神田神保町一ノ九
大雲堂　本所横網町二ノ一〇 保善商榮學校内
大雲堂支店　神田神保町二ノ五
大雲堂支店　大森新井宿六ノ六八〇
大熊商店　江戸川逆井一ノ二七三
大倉廣文堂　京橋京橋一ノ八
大倉書店　日本橋通一ノ一九

大阪屋號書店(株式)　日本橋呉服橋二ノ五
大阪屋號書店　日本橋呉服橋二ノ五
大澤商店　豐島高田南町一ノ三八五
大島書店　淀橋柏木四ノ九五九
大志滿屋　神田千代田町二八
大竹商店　本所江東橋三ノ一四
大竹書店　日本橋芳町一ノ二
大谷書店　中野桃園町一四
大谷龍文堂　蒲田小林町二二三
大地屋書店　豐島池袋二ノ一一〇七
大地屋書店支店　豐島池袋二ノ一一〇七
大塚巧藝社　本郷金助町四五
大塚書店　日本橋室町四ノ一
大塚屋　日本橋兜町二ノ五五
大塚屋　赤坂新町二ノ四
大津光文堂　淺草淺草橋三ノ三三
大坪書店　神田神保町一ノ七
大富堂　深川高橋四ノ八
大富堂　城東南砂町六ノ二〇一
大友書店　淀橋戸塚町三ノ五
大庭書店　豐島西巢鴨二ノ二〇八二
大野書店　神田小川町三ノ六
大野商店　小石川林町八〇
大野商店　中野鷺宮四ノ一〇二七
大野屋　小石川同心町五
大野屋　板橋根之上町三〇六一

大場書店　下谷西町二
大橋書店　本郷森川町七一
大橋堂　淺草北仲町九
大橋堂支店　葛飾新宿町三ノ六一八
大畑書店　神田一ツ橋通町三〇 教育會館内
大林堂　麻布新堀町二
大原堂　荏原上神明町五四
大前書店　江戸川平井町一ノ一〇二七
大村書店　小石川武島町一〇
大屋書房　神田神保町一ノ一
大矢書店　深川清澄町二ノ一
大山書店　大森大森五ノ二二四六
大山堂　板橋板橋町四ノ一二五六
太田書店　本所竪川一ノ二四
太田書店　大森大森三ノ一三四二
太田商店　板橋練馬南町二ノ三七七一
太田屋　淀橋西大久保二ノ二五五
太田屋　足立本木町二四七三
小川喜次郎書店　下谷御徒町三ノ四
小川弘文堂　神田神保町一ノ一四
小川出版社　本郷春木町三ノ三七
小川書店　麻布新堀町一一
小川書店　淺草茅町二ノ二
小川支店　牛込神樂町二ノ一二
小川商店　芝三田四國町東京高等女學校内
小川堂　牛込早稻田鶴卷町三〇八

小川南郊堂　大森新井宿五ノ五七五
小川文具店　淺草馬道町六ノ五
小笠原書院　品川五反田一ノ二七七
小此木宏文堂　淀橋西大久保三ノ一三四
小此木宏文堂　荒川尾久町三ノ二五四八
小崎勉强堂　本郷根津清水町一〇
小澤書店　淺草鳥越町二ノ八
小澤書店　蒲田御園町二六二
小澤雄文堂　澁谷上通二ノ一八
小田商店　下谷上車坂町六〇
小野勉强堂　本郷湯島天神町一ノ三五
小野澤書店　深川西平井町一五
小野塚本所堂　本所龜澤町四ノ四
小野光文堂　荏原戸越町一二四八
小林玉流堂　本郷根津八重垣町三六
王子書店　王子下十條六八七
王文堂　淺草石濱町二ノ一
旺文堂　麴町三番町二二
歐文社　淀橋下落合四ノ一九八六
歐米旅行案内社　麴町九段一ノ一六 中山ビル内
歐米都市名著刊行會　神田今川小路一ノ三
扇堂　豐島西巢鴨二ノ二二七二
扇屋　澁谷代々木山谷町三二五
扇橋堂　深川石島町二八一
櫻雲堂　芝櫻川町二五
櫻林堂　四谷大番町四五

櫻楓會商業部　小石川目白鬘日本女子大學構内
櫻文堂　下谷入谷町二二六
尾上書店　小石川白山御殿町七
尾崎書店　大森大森四ノ一八二二
尾西堂　荒川尾久町六ノ六〇七
尾山商店　深川白河町四ノ四
尾張屋　京橋月島西中通九ノ八
近江屋書店　日本橋兜町三ノ三〇
應來社書房　神田駿河臺二ノ一〇
岡倉書房　神田淡路町二ノ七小口ビル
岡崎屋書店　神田神保町一ノ一五
岡澤文信堂　神田多町二ノ二
岡書院　神田駿河臺一ノ八
岡田三角堂　瀧野川西ケ原町八九四
岡田商店　小石川駕籠町五二
岡田商店　澁谷千駄ケ谷四ノ六六六
岡田新誠堂　荏原中延町二七六
岡田東榮堂　神田神保町一ノ六七
岡田日榮堂　神田佐久間河岸三七號 神田川ビル
岡田屋　深川門前仲町二ノ三
岡二松堂　澁谷伊達町四七
岡野商店　牛込早稻田鶴卷町四四四
岡村書店　淺草柳橋一ノ二一
岡安商店　本所向島二ノ一八岡安方
荻野敬文堂　神田神保町一ノ三
荻原星文館　神田神保町一ノ三五

奥上清文堂　中野大和町一〇一
奥川書房　神田錦町一ノ二
奥澤文雅堂　世田谷玉川奥澤町一ノ三二五
奥田裁縫女學校出版部　杉並馬橋四ノ四〇一
奥田文昭堂　荒川三河島町二ノ二六五二
奥野書店　神田神保町二ノ五
奥村松榮堂　神田神保町三ノ一三
奥村商店　荏原小山町五四九
奥村商店　澁谷常盤松町六五
落合書店　大森田園調布五ノ八三六
越智書店　小石川小日向水道町六八
織田書店　麻布龍土町一三
織田屋　淺草北清島町七八
織内商店　牛込西五軒町四八
音羽出版社　小石川音羽町四ノ二
音樂社　神田三崎町三ノ三六

か

かがみ社　小石川雜司ヶ谷一〇〇
かづさや　品川北品川二ノ八九
かつみや　荏原中延町二七二
かどや　中野江古田一三三八
かはぐちや　向島吾嬬町西二ノ九一
がま金堂　深川永代町一ノ六
からすや　江戸川東長島町九三七
カオリ社　神田錦町一ノ一二
カジマ書店　淺草馬道一ノ一伊藤方
カドヤ　淀橋戸塚町三ノ一二
カナモジカイ　芝芝公園六號地協調會館内
カナリヤ書店　中野江古田一三二二
カネー社　下谷仲御徒町一ノ一四
カメヤ　中野新山通二ノ一四
開拓社　神田西神田一ノ二
開田堂　下谷二長町二七
開發社　淀橋上落合一ノ四七二
開文社　神田錦町一ノ二
開文社　世田谷赤堤二ノ五三五
開隆堂　神田錦町三ノ五
外苑堂　澁谷千駄ヶ谷町二ノ三六二
外語學院出版部　神田神保町三ノ三
外語研究社　日本橋茅場町二ノ二
外語書房　神田猿樂町一ノ五
外國語學研究會　麴町下六番町一七
會計社　杉並阿佐ヶ谷一ノ七二
會通社　小石川小日向臺町三ノ二
海外研究社　中野沼袋南三ノ三〇九
海外社　芝愛宕町三ノ二一
海文堂　神田小川町二ノ一、二
魁文堂　蒲田六郷町二九〇
改進社　四谷新宿町二ノ五四
改造社　芝新橋七ノ一五
偕隆社　蒲田蒲田町一二八八
化學工業時報社　京橋京橋一千代田信託ビル内
科學知識普及會　麴町丸ノ内二ノ六
鹿取豐文堂　牛込神樂町一ノ五
加島勉强堂　神田金澤町二二
加瀨書店　荒川尾久町三ノ二三八
加瀨商店　下谷金杉上町九三
加藤玉泉堂　大森田園調布四ノ五
加藤書院　本郷本郷六ノ九
加藤書店　京橋銀座西五ノ二
加藤商店　京橋月島西仲通一ノ二
加藤商店　四谷永住町一
加藤文具店　豐島池袋一ノ六四二
加納金星堂　荏原戸越町九三九
香柏社　豐島堀ノ内町一〇三五
香山堂　小石川雜司ヶ谷町五二
學園堂　向島吾嬬町西五ノ九一
學園堂書店　板橋東大泉町五一〇
學海指針仕　神田昌平河岸四號地
學究社　神田錦町一ノ九
學藝書院　本郷湯島新花町三四
學校美術協會出版部　荒川日暮里町三ノ一九六
學修館　日本橋茅場町二ノ二
學習社　神田神保町一ノ一
學生堂　向島吾嬬町東三ノ六七
學友社　淀橋東大久保二ノ二八九
學友堂　葛飾本田町三

學洋社　王子王子榎町三一〇
鶴鳴館　荏原戸越町一一九四
鶴嶺堂　神田同朋町二
岳陽社　京橋槇町二ノ三
掛川屋　小石川大塚仲町二〇
掛川屋西川支店　豐島堀ノ内町一二四
笠原支店　江戸川平井三ノ八一八
笠原書店　江戸川小松川三ノ七五
笠原書店　神田小川町三ノ八、三
柏木書店　淀橋柏木町三ノ三三五
柏木堂　杉並阿佐ヶ谷三ノ四七八
堅木屋　神田神保町三ノ四
柏屋書店　淺草石濱町二ノ八
數矢堂　深川數矢町三六
片桐商店　神田末廣町二三
片野書店　神田神保町一ノ三
片山有信堂　蒲田蒲田町二〇五三
梶川書店　神田神保町二ノ三四岡田方
勝田書店　城東龜戸町三ノ二四九
勝田書店　芝芝公園一五ノ一一
勝谷書店　荒川南千住町一ノ四〇
勝文堂　城東龜戸町四ノ四三
勝俣書房　淀橋西落合三ノ九三六
活動社　下谷入谷町三三〇
家事及裁縫社　牛込矢來町二二
家庭醫學社　神田今川小路二ノ三神保ビル
家庭生活改善會　本郷駒込動坂町四七
夏汀堂　杉並西高井戸二ノ三八
要書房　深川西平井町一五
門野書店　神田神保町三ノ六
金井書店　淀橋下落合一ノ五三五
金曾木堂　下谷下根岸町七一
金杉商店　日本橋蠣殼町四ノ九
金刺書店　神田神保町三ノ九
金子書店　荏原下神明町二一八
金子商店　本所横綱町二ノ六
金子昭文堂　豐島池袋二ノ一一五六
金子出版部　芝南佐久間町二ノ二
金子堂　小石川久堅町八三
金原商店　本郷湯島切通坂町二一
丁平商店　蒲田麴谷町一ノ二二〇
叶屋　淺草千束町二ノ二八五
浦田商店　瀧野川中里町二九四
蒲田書房　蒲田女塚町三〇九
蒲田文化堂　蒲田御園町一二
鏑木堂　荏原小山町五七四
鏑木屋　荏原中延町二八四
土方屋書店　神田神保町三ノ二一
上條昭和堂　向島吾嬬町西二ノ九一
上山書店　澁谷下通二ノ一一
神谷書店　神田小川町一ノ五
神山書店　澁谷下通二ノ一三
神山堂　本所龜澤町二ノ一九
神田屋　足立千住仲町五八
神戸書店　麴町九段一ノ八
龜井堂　神田淡路町二ノ一三
龜井屋　杉並高圓寺六ノ七五八
龜屋　豐島池袋五ノ二八四
龜屋　瀧野川瀧野川町二〇七五
茅沼書店　神田西神田一ノ三
唐木屋　淺草淺草橋三ノ三一
畫報社　日本橋濱町二ノ八八
畫覽堂　赤坂一ツ木町三三
川合商店　城東龜戸町六ノ一二一
川江書店　品川東大崎四ノ一四〇
川上商店　城東南砂町一ノ一〇三三
川崎書店　豐島巣鴨七ノ一八七六
川島商店　向島吾嬬町東三ノ六八
川島書店　品川北品川三ノ二一五
川田商店　蒲田羽田鈴木町一五八
川津書店　神田多町二ノ二
川端商店　赤坂福吉町一
川原書店　本郷森川町三〇
川邊書店　目黑上目黑八ノ五一一
川村拓文堂書店　小石川大塚町六八
川村商店　本所横綱町二丁目日本大學普通部構内
川村書房　下谷上車坂町六〇
川村書房支店　神田三崎町一ノ二

川村書房支店　神田三崎町三ノ一日本大學構內
河上書店　芝新橋五ノ一八
河島書店　中野新井藥師町四七一
河内書店　日本橋兩國一二
河内屋　麻布宮下町六
河出書房　日本橋通三ノ一
河鍋書店　牛込早稻田鶴卷町四三八
河本商店　日本橋通二ノ四
觀我社　京橋銀座西五ノ三對鶴館內
干城堂　麹町下六番町一七
貫之堂　芝南佐久間町二ノ四
貫文堂　淀橋角筈日本中學校內賣店
觀櫻堂　淺草馬道町三ノ一四
觀世流改訂本刊行會　神田一ツ橋通町二
考へ方研究社　神田三崎町一ノ八
含弘堂書店　牛込早稻田鶴卷町四三
巖海堂　神田神保町二ノ二
巖松堂書店（株式）　神田神保町二ノ二
巖松堂書店　神田神保町一ノ四五
巖松堂書店出版部　神田三崎町二ノ三六
巖翠堂書店　淀橋戶塚町一ノ六二九
巖誠堂

き

キクチ堂　本所龜澤町二ノ一九
きくや　淺草田中町九二

キクヤ文具店　豐島長崎南町一ノ一七四
キムラヤ　下谷中根岸町七三
キユーピー堂　神田多町二ノ三
キング書籍雜誌部　中野上町二一
キンシ堂　本所錦糸町二ノ一一
キング堂文具店　牛込北山伏町一九
紀伊國屋書店　京橋銀座六ノ一
紀伊國屋書店銀座支店　淀橋角筈一ノ八二六
紀元社　杉並松庵南町六一
紀元書房　神田須田町一ノ四須田町ビル
紀芳堂　神田錦町三ノ一一
喜久屋　大森田園調布三ノ二五一
喜久屋書店　杉並阿佐ケ谷一ノ八〇五
喜多村博進堂　神田小川町一ノ一
喜文堂　京橋木挽町一ノ一七
喜吉堂　日本橋通三ノ三
京橋築地二ノ四　京橋築地二ノ四
木下有文堂　神田三崎町一ノ五
木下商店　王子上十條町一四一四
木田書店　深川萬年町二ノ一三
木原書店　本鄉弓町一ノ一二
木村商店　本所橫川町四ノ六
木村書店　豐島西巢鴨三ノ八八一
木村屋書房　品川五反田一ノ三八四
木屋　深川西平野町一
桔梗屋　麻布田島町二〇

桔梗屋　豐島高田町三二七
技能教育社　小石川小日向臺町一ノ七三
輝文堂書房　小石川戶崎町一三
牛山堂書店　麹町九段四ノ六
求我堂　小石川西青柳町一
求道發行所　本鄉森川町一
救世軍出版部　神田神保町二ノ一七
究明堂　小石川小日向水道町三三
久榮堂　深川三好町一
久文堂　蒲田蒲田町一〇七四
機械評論社　大森田園調布三ノ三二
菊川堂　本所竪川四ノ八
菊壽堂　神田大和町八
菊水書肆　世田谷玉川奥澤一ノ三七八
菊地商店　中野橋場町五〇
菊地屋　四谷本村町九
菊原興文堂　神田神保町二ノ四八
菊洋堂書店　神田淡路町二ノ一九
岸田書店　荒川町屋三ノ一三五九
岸田商店　芝三田同朋町三
北川商店　澁谷幡ヶ谷本町二ノ一四
北澤書店　王子岩淵町一ノ八五五
北澤書店支店　神田神保町二ノ五
北島書店　神田神保町二ノ三
　中野上高田一ノ二二一
田屋　向島寺島町五ノ八八

龜甲堂　城東大島町二ノ五〇〇
砧書店　世田谷玉川上野毛町一一八一
甲子社書房　赤坂青山南町五ノ六七
甲子書院　神田小川町一共成社內
吉備堂　澁谷代々木上原二四〇
希望閣　牛込早稻田鶴卷町四七一
希望堂　澁谷千駄ヶ谷二ノ三六二
鳩居堂　澁谷千駄ヶ谷二ノ四六〇
嶺堂　神田南神保町一六
清野書店　小石川茗荷谷町三七
橘南堂　荒川南千住八ノ八
協調會　芝芝公園六號地
協文堂　荒川尾久町一ノ七四七
擧國社　芝新橋二ノ二〇
極東書院　麹町隼町二四
極東書院　赤坂溜池町三〇自動車ビル內
旭翠堂　小石川大塚辻町二
旭文堂　品川大井原町五一八八
旭邦堂　下谷池之端七軒町二二
玉英堂　本鄉本富士町二
玉英堂支店　神田神保町一ノ一
玉光堂　淺草龜岡町一ノ一五
玉進堂　城東大島町六ノ六六〇
玉森堂　淺草公園仲見世西側四六
玉森堂分店　本所向島町一ノ四
共榮堂支店　杉並荻窪町三ノ一二〇

共榮堂書店　杉並天沼一ノ一四八
共益商社　京橋銀座七ノ一
共益商社書店　芝松本町四四
共生會出版部　麻布笄町一二六
共同書籍株式會社　神田神保町一ノ六五
共立社　神田駿河臺三ノ九
共和堂　目黑上目黑三ノ一九六三
共和堂出版部　本鄉春木町二ノ五九
京華堂書店　中野谷戶二三九〇
京都弘文堂東京支店　神田駿河臺四ノ四
京文社　神田淡路町二ノ一七
京文堂　世田谷代田二ノ七二〇
京屋　大森田園調布三ノ三六
京陽堂　荏原戶越町七九八
恭文堂　目黑三谷町二
基督教思想叢書刊行會　神田西神田二ノ三青年會同盟內
基督教出版社　神田錦町一ノ八基督教會館內
桐山商店　麹町九段四ノ一三
麒麟堂　世田谷代田二ノ八六一
近代社　京橋銀座西五ノ三對鶴ビル內
近代書房　澁谷向山町四三
近代文明社　荒川日暮里町九ノ一〇八二
近文堂　品川南品川四ノ三五〇
欣榮堂　品川五反田一ノ二七七
欽文堂　神田猿樂町一ノ一

琴堂　澁谷鉢山町七
金櫻堂　四谷新宿町二ノ一八
金榮堂　日本橋室町一ノ一〇
金榮堂支店　神田材木町一〇
金華堂　目黑下目黑町四ノ九五〇
金華堂支店　目黑大岡山三五
金鷄學院　小石川原町一二
金港堂書籍株式會社　神田神保町三ノ八
金書店　下谷谷中初音町四ノ二六
金松堂支店　目黑上目黑七ノ二〇九
金松堂書店　赤坂新町三ノ一〇
金星堂　神田神保町三ノ二一
金登喜堂　芝芝浦二ノ三
金塔社　本鄉根津富永町二一
金の星社　下谷二長町六二
金文堂　芝三田二ノ一二
金蘭社　豐島駒込一ノ二八
金竜堂　淺草小島町二ノ三一
金鈴社　淺草小島町二ノ一〇
錦華堂　神田猿樂町二ノ八
錦耕堂　日本橋小傳馬町三ノ一四
錦晃堂書店　蒲田矢口町三三九
錦秀堂　澁谷幡ヶ谷本町一ノ二
錦松堂書店　神田神保町一ノ一二
錦水堂　杉並高圓寺五ノ八二七
碩足立千住五ノ三

錦文堂　京橋采女町一七
銀行研究社　麹町九段一ノ四
銀座三昧堂　京橋銀座八ノ二
銀扇堂書店　中野本町通一ノ一〇
銀杏舍　神田表神保町二
吟葉社　澁谷惠比壽通一ノ四

く

クラヤ　本所向島二ノ一一
グランド書店　下谷池ノ端七軒町五一
九段書房　神田神保町三ノ一七
久野書店　牛込早稻田鶴巻町四四三
久保井書店　蒲田蒲田驛前
久保田書店　日本橋馬喰町三ノ二二
久保屋　大森馬込町東三ノ七二
日下有信堂　大森新井宿五ノ五六
草下書店　下谷竹町一二
草間書店　芝金杉四ノ二〇
楠豐文堂　豐島池袋二ノ九四八
窪川書店　小石川白山前町五六
熊谷商店　神田花房町秋葉原驛構内
熊谷書店　豐島西巣鴨二ノ二七二
倉持書店　本郷本郷五ノ二八
倉持本店　本郷弓町二ノ一七
藏方商店　蒲田安方町三一五
栗田書店(合資)　神田神保町一ノ三九
栗田書店　神田神保町一ノ三九
栗田商店　大森大森七ノ三一〇五
栗林三角堂　麹町富士見町一ノ四
久留田書店　瀧野川西ケ原町五九五
黑田光文社　四谷鹽町一ノ二一
黑田書店　王子赤羽町一ノ一〇四
黑田屋　淺草象潟町一〇
黑田屋　江戸川桑川町五九六
軍事學指針社　四谷本村町九
軍事教育會　麹町麹町六ノ五
軍需商會　牛込若松町一五〇

け

ケーキ堂　王子上十條町一四六五
奎運堂　神田神保町一ノ六九
奎運堂出張所　神田錦町一ノ一三
奎文堂　荏原下神明町五三
桂文閣　神田淡路町一ノ二
敬昌堂書店　淀橋角筈一ノ八〇〇
敬文館　神田小川町三ノ二四
敬文社　澁谷大向通七
敬文堂書店　牛込早稻田鶴巻町四三六
啓成社　麹町丸ノ内三ノ六
啓文館　神田淡路町一ノ一三
啓文社　本郷元町二ノ六六
啓明閣　神田駿河臺南甲賀町三
慶應義塾販賣部　芝三田二ノ二
慶應書房　芝三田四國町五
慶雲堂　深川高橋一ノ三
慶文堂書店　神田錦町一ノ三
警眼社　日本橋三ノ八
警醒社　京橋木挽町五ノ四
警友社　牛込横寺町五八
景氣研究所　麹町丸ノ内二ノ一八時事新報社ビル四ノ一〇
經濟情報社　麹町丸ノ内二ノ一八昭和ビル内
經濟知識社　麹町丸ビル三〇六區
經濟之日本社　日本橋兜町二ノ一〇
經濟新聞社　日本橋南茅場町二九
經法堂　本郷本郷六ノ八
刑務協會　麹町西日比谷司法省構内
溪文社　世田谷赤堤町一ノ一八六
仰文堂　豐島巣鴨五ノ一〇二六
藝文館書房　瀧町内幸町一ノ七幸ビル内
藝文書院　神田小川町四〇
教育研究會　神田表猿樂町二三
教育實際社　京橋入舟町三ノ五
教育社　日本橋通三ノ八
教育出版社　下谷上根岸町四四
教育第一協會　神田錦町三ノ一二
教育圖書出版社　小石川大塚坂下町七一
教育用品研究會　牛込辨天町二八
教界時報社　澁谷緑岡町二三日本メソヂスト教會内

教學院書房　赤坂青山南町四ノ三
教化的國家社　澁谷羽澤町五三
教神社　小石川表町一〇五
教文館　京橋銀座四ノ二
教文堂　王子豐島町八〇九
教佑社書房　中野大和町五三
玄廉洞書院　目黑下目黑二ノ二一六
研究社　麹町富士見町一ノ五
研精社　豐島長崎東町三ノ四八八
研精堂　赤坂青山北町三ノ六八
研文社　瀧野川田端町東臺通四〇〇
建設工業社　品川南品川六ノ一四六九
建築書院　神田神保町三ノ六
建文館　牛込矢來町七九
健康堂　神田神保町二ノ二
建設社　牛込揚場町八
健全社書店　大森田園調布一ノ二四三
建築書房　京橋西八丁堀三ノ六
健文社　麹町富士見町二ノ八
月光堂　目黑月光町一七一
言語學會　本郷動坂町九四
言誠社　神田神保町一ノ三
言文社　牛込辨天町六
玄黃社　本郷西片町一〇
玄誠堂　芝白金臺町二ノ二〇
玄誠堂支店　目黑下目黑二ノ三三四
元文堂　品川西大崎一ノ三九〇
原泉堂　本所番場町六九
原理日本社　世田谷若林町二七八
現代教育社　神田中猿樂町一二前田ビル内
現代社　下谷西町三
現代文化社　京橋銀座西八ノ五日吉ビル内
源泉堂　神田元佐久間町五

こ

こひばり　豐島池袋五ノ二〇四
コウサン堂　澁谷代々木初臺町四九六
コドモ社　小石川林町五七
コドモヤ　澁谷千駄ケ谷五ノ八五六
コムマーシヤル　本郷弓町一ノ八
ジヤパン社　小石川駕籠町一二
コロナ社　小石川宮下町一四
小石川音樂協會　芝高輪北町一〇
小池書店　淺草千束町一ノ九
小池書店　下谷坂本町三ノ三
小泉榮文堂　淺草田原町一ノ一四
小泉商店　深川猿江町一ノ一三
小喜多商店　杉並荻窪三ノ二二三
小菅書店　豐島池袋二ノ一〇三九
小瀧堂　中野小瀧町二四
小西支店　本郷菊坂町五六
小西六本店　日本橋室町三ノ三
小沼日英堂　本郷駒込追分町六
小畠文具堂　蒲田町屋町一六一
小橋書店　下谷谷中初音町四ノ九一
小林商店(株式)　淺草茅町一ノ八
小林書店　蒲田六郷町二〇七
小林書店　杉並下高井戸一ノ一三三
小林書房　中野本町通四ノ二六
小林昭文堂　板橋根之上町二九一一
小林昭和堂　大森入新井町六ノ四三
小林精華堂　牛込市ケ谷藥王寺町六一
小堀商店　豐島池袋二丁目東鐵教習所内
小堀堂　本所東兩國四ノ二
小松堂　牛込北町二四
小宮書店　足立本木町二ノ一九四〇
小山書店　小石川諏訪町五九
小山勉強堂　荒川三河島町六ノ二〇三
小山保雄書店　豐島巣鴨七ノ一六四三
光有館　世田谷松原町二ノ六九四
光榮館　神田三崎町二ノ三〇
光英堂　荒川南千住町一ノ六五
光昭館　小石川大塚窪町一七
光世館　日本橋本町四ノ一二
光成館　小石川大塚窪町三
光星館　赤坂青山南町六ノ五〇
光誠堂　品川大井立會町五七五
光大社　板橋板橋町三ノ二八七

光東館書店　向島寺島町一ノ一六七
光南堂　杉並大宮前六ノ三〇九
光風館　神田神保町一ノ五
光文館　小石川雜司ケ谷町七五
光文堂　四谷傳馬町一ノ三七
光明館　本郷駒込追分町五
光明社　豐島長崎町一〇〇八谷口方
光明堂　神田神保町一ノ三
光融館　神田小川町三ノ二〇
光陽堂　向島吾嬬町東五ノ一
光林堂　小石川駕籠町七
光林堂支店　目黑上目黑八ノ四三七
高學堂　蒲田萩中町六八〇
高華堂書店　本郷駒込林町二四五
高光堂　目黑上目黑五ノ一三六三
高知屋　澁谷代々木富ケ谷一四四七
高踏社　淀橋柏木一ノ一四二
高文館書店　荏原中延町一五八
高文堂　豐島高田本町三ノ一五二一
高陽書院　神田小川町二ノ一二內神田ビル三六號
高陽堂　王子志茂町一ノ八〇七
弘學館　神田神保町二ノ二〇
弘進堂　荏原中延町五一六
弘道閣　神田錦町二ノ三
弘道館　神田神保町二ノ四〇
弘文館　神田三崎町一ノ八

弘文社　神田錦町三ノ二四
弘文莊　本郷西片町一〇
弘文堂　神田神保町一ノ一
弘明堂書店　神田錦町一ノ一
弘陽堂　杉並阿佐ケ谷三ノ三〇八
工學書院　神田表神保町三
工華堂　大森北千束町七七六
工榮教育會　本郷眞砂町一九
工榮雜誌社　京橋銀座七ノ三朝日ビル內
工玉堂書店　品川西大崎三ノ四九五
工事畫報社　麴町丸ノ內三ノ六
工人社　神田神保町二ノ五
工政會　神田旅籠町三ノ四
興學館　神田錦町三ノ二六
興國統盟本部　麴町內幸町一ノ七幸ビル
興文社　日本橋馬喰町二ノ二
興文堂　下谷御徒町二ノ四九
興文堂書院　麴町丸ノ內二ノ一八時事新報社內
好文閣　葛飾本田淡之須町一三八
好文社　小石川原町三一
好文亭　淺草山谷三ノ二
好文堂　神田錦町三ノ七
廣惠堂支店　澁谷中通一ノ二二
廣惠堂書店　澁谷下通四ノ一八
廣集堂　荏原小山八八
廣進堂　麴町紀尾井町六

廣文館　神田通神保町五
廣文館支店　神田通神保町五
廣文庫刊行會　本郷駒込林町三〇九
廣文堂　大森新井宿二ノ一七九
廣陵社　神田通神保町五
廣林堂　蒲田新宿町六〇〇
五橋堂　城東龜戶町六ノ一四
五橋堂支店　向島吾嬬町三六三
五九堂　深川毛利町一六
五車樓　麴町丸ノ內三ノ八仲六號館
五聖閣出版局　神田須田町一ノ五
五念屋　下谷龍泉寺町二六
公生堂書店　杉並荻窪四ノ四
公文館　神田神保町一ノ五九
公文書院　赤坂田町三ノ一六
公文堂　澁谷代々木上原町一〇四五
公文堂支店　世田谷羽根木町一六〇四
公民社　淀橋下落合四ノ一六〇〇
公覽社　神田永富町九岡野方
厚生閣　麴町下六番町四八
更生社書房　世田谷上馬町三ノ一〇〇八
皇學書院　澁谷氷川町一一
皇典社　神田神保町二ノ五
晃文堂　蒲田御園町一三六
御殿山堂　品川北品川四ノ七一八
浩文館　本郷森川町九三

浩文社　芝新橋六ノ七
浩文堂　荒川町屋一ノ七四七
弘文堂　深川東陽町一ノ三
光月堂　城東南砂町二ノ八五八
巧藝社　神田須田町二五
梧桐書院　神田東神田一八
鴻之巢書房　本郷駒込坂下町二
鴻盟社　芝新橋五ノ四
構成社書房　麴町飯田町二ノ三
航空時代社　麴町內幸町一ノ七幸ビル
黃雲堂　四谷新宿町一ノ五
貢文堂　神田神保町一ノ三
郊外社　瀧野川西ケ原町七四
江東社　江戶川小岩町四ノ一八六九
皓山堂　澁谷代々木初臺町四八二
紅城社　牛込矢來町八
紅梅堂書店　世田谷下馬町三ノ七三〇
港灣協會　麴町外櫻田町一內務省土木局港灣課內
曠臺社　中野大和町二六五
向山堂書房　麴町九段一ノ一二
向原堂　目黑向原町二二一
向文堂　淀橋柏木一ノ五八
康文社　牛込早稻田鶴卷町一〇七
康文堂書房　芝西大久保廣町三五
交誠堂　芝田村町二ノ二
交通經濟社　神田錦町一ノ九

交蘭社　小石川江戶川町一八
洪洋社　牛込市ケ谷臺町一〇
校風閣　本郷駒込千駄木町一六六
河野書房　赤坂丹後町一一
河野明文館　芝愛宕町二ノ八五
耕進社　本郷駒込動坂町二六四
耕文堂　中野城山町一四
甲進堂　城東大島町八ノ四三二
甲房堂　本郷駒込神明町八三
甲文堂　世田谷三軒茶屋町五〇
甲文堂　向島寺島町三ノ三七
孝養堂　麻布六本木町一
幸山堂　中野前原町二
幸文堂書店　下谷竹町一三〇
鄕土研究社　小石川茗荷谷町五二
國榮堂　葛飾細田九三一
國華堂　神田豐島町二八
國光印刷株式會社　京橋築地三ノ三ノ六
國語傳習所　神田三崎町一ノ二
國際經濟新報社　京橋槇町二ノ七
國際出版印刷社　麴町有樂町二ノ六
國際書房　神田小川町三ノ五ノ二
國際情報社出版部　麴町內幸町一ノ三
國際日本協會出版部　日本橋通三ノ八
國際美術社　澁谷代々木富ケ谷一四六一
國史講習會　麴町飯田町六ノ二三

國勢社　京橋京橋三ノ一第一相互館內
國風會出版部　牛込東五軒町一
國風閣　麻布北新門前町三
國文社　淀橋百人町三ノ一三七
國文堂書店　澁谷八幡通一ノ一八
國寶建造物刊行會　日本橋通三ノ二
國民文化研究會　本郷西片町一〇
國民圖書株式會社　麴町內幸町一ノ六
國民時論社　麴町元園町二ノ一〇
國民新聞社　京橋銀座西七ノ二
國民精神社　目黑東町五四
國民出版社　神田神保町三ノ六
國民文庫刊行會　神田小川町一ノ六
國民法制學會　淀橋柏木一ノ一四一
國林堂　品川下大崎三八三
克誠堂　本郷本富士町二
克明堂　神田小川町二ノ一二
黑龍會出版部　麴町永田町二ノ八六自由俱樂部內
兒島出版社　赤坂青山南町六ノ一〇一
古今書院　神田駿河臺二ノ一〇
滑稽堂　日本橋室町二ノ二
子寶俱樂部　瀧野川瀧野川町一九四九
子供の教養社　杉並阿佐ケ谷四ノ三四八
子供の日本社　神田神保町一ノ五二
近藤出版部　牛込赤城下町七一
金春書房　小石川高田豐川町一一

さ

さかゑや	中野大和町一〇〇
さつまや	芝白金臺町一ノ三九
サイタ書林	牛込原町三ノ三四
サキガケ商會	中野多田町六八
サキガケ堂	大森馬込東町四ノ三三三
サガミヤ	四谷東信濃町一一
サガミヤ	淺草馬道町四ノ一一
サクラヤ商會	豐島池袋五ノ二五〇
西條商店	四谷南伊賀町五六
西東社	神田錦町三ノ二四
西東書房	神田花房町五
齋雲堂書店	向島寺島町三ノ四四
齋藤三信堂書店	豐島池袋二ノ一〇八九
齋藤商店	品川區南濱川町一六三四
齋藤書店	京橋木挽町一ノ一四
齋藤書店	江戸川逆井町二ノ三六六
濟命堂書籍部	小石川戸崎町八八
財政經濟時報社	麴町有樂町仲通六號館
埼玉屋	荒川町屋二ノ四〇一
彩雲堂	京橋銀座西二ノ五
彩華社	小石川關口町一七一
彩美堂	麻布飯倉町四ノ四
座右寶刊行會	本郷龍岡町三四
榊原文盛堂	日本橋本町四ノ二

坂井書店	品川區大井町四六七
坂井堂	淺草永住町一二五
阪入書店支店	葛飾新宿町一ノ三八六
坂口共榮堂	日本橋箱崎町二ノ六
坂田更生堂	向島區寺島町八ノ一三三
坂田書店	本郷森川町九〇
坂本商店	麴町九段一ノ一二
坂本堂	荏原小山町二一九
坂本屋	深川萬年町二ノ二九
酒井一貫堂	本所厩橋通三ノ二七
酒井十字屋	神田神保町一ノ七
酒井書店	本郷駒込淺嘉町五〇
酒井書店	品川西大崎三ノ四七七
榮堂	大森入新井六ノ四九一
榮屋	芝白金三光町三八七
相模屋	下谷南稻荷町四四
櫻井商店	荒川三河島町一三三五
櫻井商店	城東北砂町二ノ二四〇
櫻井書店	四谷麴町一ノ二二四
櫻井書店	豐島區西巢鴨一ノ三三七
櫻井芳文堂	荏原戸越町四三八
櫻川堂	芝新橋七ノ一〇
櫻木書房	四谷西信濃町一
櫻田文房具店	芝新橋三ノ一六
櫻屋	小石川大塚町五六
櫻や	下谷上根岸町一二四
佐伯明進堂	本所石原町一ノ一

佐久間堂	神田和泉町一ノ一六
佐久間商店	豐島西巢鴨三ノ二三七
佐久間書店	向島吾嬬町東五ノ九一
佐々木書院	澁谷代々木富谷町一五七〇
佐藤商店	本郷駒込千駄木町五〇
佐藤商店	下谷金杉上町八五
佐藤書店	杉並和泉町一二〇
佐藤書店	杉並堀ノ內二ノ四四〇
佐藤屋	足立本木町二四七二
佐野書店	足立千住仲町六一
佐野屋	品川大井南濱川町一七六八
佐野屋	芝白金臺町一ノ三二
笹岡書店	京橋越前堀三ノ九
笹川書店	神田西神田一ノ一三
左門堂書店	四谷西信濃町一
澤崎書店	瀧野川田端町一〇四三
澤田信陽堂	淀橋西大久保三ノ三九
澤田屋	大森新井宿一ノ三六〇
澤野榮松堂	城東龜戸町三ノ一一
澤村商店	葛飾青戸町二ノ二七四
澤村書店	中野塔ノ山一六
三愛社書店	神田錦町三ノ一〇
三一堂	豐島池袋八六八
三榮堂	牛込北町二〇
三榮堂本店	神田佐柄木町一九
三益出版社	麴町富士見町四ノ八

三角堂	小石川表町一〇
三角社	京橋京橋二ノ七
三角屋	芝高輪南町四六
三嘉堂	牛込早稻田南町三二
三鳩堂書店	麻布北日ヶ窪町一一
三共商會	京橋銀座西五ノ二
三共社	荒川三河島町一ノ一七八九北村方
三圭社	芝二本榎町西町二
三元社	神田鍛冶町一ノ一
三惠書店	神田猿樂町二ノ四
三元堂書店	神田錦町一ノ二
三光院	本所厩橋一ノ三六小林方
三光社	京橋湊町三ノ二
三光堂書店	神田神保町一ノ七
三江堂	本所區江東橋一ノ三
三甲堂	豐島西巢鴨三ノ七二四
三興社	神田三崎町一ノ三
三才社	神田神保町二ノ一五
三才堂	杉並高圓寺三ノ三四五
三秀舍	神田美土代町二ノ一
三昭堂	本所横網町八
三勝堂	王子稻付西町六ノ六
三正堂	下谷竹町一二
三書堂	荒川日暮里町二ノ三六
三書堂	足立千住旭町一三
三松堂	京橋槇町二ノ五ノ一

三適堂	神田神保町一ノ四三
三信堂書店	世田谷大原町一三〇六
三水社	芝濱松町二ノ一七
三星社書店	神田小川町三ノ七
三星書店	牛込市ケ谷藥王寺町八一
三星堂	杉並馬橋三ノ三三六
三省堂	神田神保町一ノ一
三省堂書店	神田神保町一ノ一
三成社	神田神保町一ノ五二
三盛堂書店	神田鍛冶町一ノ四
三泉堂	中野新井町六六一
三竹堂	小石川竹早町一九
三鳥社	目黑下目黑七〇四
三德社	神田美土代町二ノ一
三の丸商會	品川大井町鮫洲四三
三の丸書店	本郷西片町六
三寶閣	神田神保町二ノ二二
三明社	淀橋戸塚町一ノ一三
三友社	四谷新宿町一ノ八八
三友堂書店	牛込細工町六
三勇堂	世田谷玉川奥澤町一ノ一四九
三陽閣	神田小川町三ノ二四
三洋社	麴町麴町二ノ一五
三洋堂	板橋練馬南町一ノ三五七八
三葉堂	世田谷絃卷町三ノ三二
三葉堂	世田谷經堂町七九五

三鈴社	小石川大塚仲町三六
參天堂書林	足立六月町四四五
參陽社	麴町九段三ノ二
山海堂出版部	神田神保町二ノ一〇
山喜房	本郷本郷六ノ九
山洲堂	芝二本榎西町三
山洞書院	下谷西町一四
山陽堂	赤坂青山北町六ノ三七

し

シグナル週報社	赤坂青山北町三ノ六八
ジ・パーナムプレスエート	京橋銀座四ノ四
ジャパンタイムス社	麴町内幸町一ノ六
ジャパン・ツーリスト・ビューロー	麴町東京驛構內
シンフオニー樂譜出版社	牛込西五軒町三四
シンヤ	向島寺島町八ノ一二三
椎橋商店	目黑碑文谷二ノ一〇八一
十字堂	荏原小山町九
十字屋	京橋銀座三ノ二
汐見堂	本郷駒込千駄木町三九
鹽澤書店	澁谷下通三ノ一一
鹽田商店	足立花畑町五三二四
鹽野書店	麴町富士見町四ノ一二法政大學構內
四恩堂	下谷金杉上町九三
四海堂書林	淀橋戸塚町一ノ五六八
四海書房	豐島巢鴨七ノ一六九四

四條書房　神田駿河臺二ノ一
四誓堂　中野前原町四〇
四ノ橋書店　本所江東橋三ノ一六
四方堂　本郷森川町一
四六書院　小石川茗荷谷町一九
繁田巧精堂　本所江東橋三ノ二
時事新報社　麹町丸ノ内二ノ一八
時習堂　瀧野川瀧野川町二〇三
時習堂　豐島池袋一ノ八一五
時代社　瀧野川西ケ原町六八
時潮社　芝田村町五ノ二三
史省堂　四谷傳馬町三ノ五
志誠堂　葛飾堀切町四一
司泉堂　淀橋西大久保二ノ二五五
手相學院出版部　赤坂青山北町三ノ八
靜岡屋　麻布笄町五四
支那時報社　麹町下六番町五
支那問題研究所　澁谷原宿二ノ一七〇
芝浦書店　芝芝浦三ノ一
芝原書店　蒲田羽田町三ノ二五二
澁江堂　葛飾本田澁江町七五二
斯文館　京橋寶町一ノ八
斯文書院　牛込新小川町二ノ一一
斯文堂　本郷駒込曙町二六
資文堂書店　麹町飯田町二ノ三
重寶堂　深川大島町七

重屋　蒲田羽田二ノ七一
鷲峯社　日本橋本町二ノ一杉野ビル
紫雨出版社　本郷動坂町九四
紫雲堂　淺草芝崎町四八
柴田うたひ本店　淀橋下落合一ノ五六〇
柴田書店　品川上大崎二ノ五五三
柴田書房　淀橋西大久保一六九
柴田清海堂　淀橋角筈二ノ九三
柴善書店　本郷森川町九〇
柴又書店　葛飾柴又町一ノ七八
使命社　世田谷下北澤七一〇
僕會出版部　世田谷上馬町三ノ八九一
至誠書院　麹町九段二ノ六
至誠堂　日本橋本町四ノ一五
至誠堂出張所　本郷本富士町二
至誠堂第一分店　日本橋人形町二
至誠堂第二分店　本郷本富士町二
至文堂　牛込拂方町二七
至文社　牛込戸山町四〇
至泉堂書店　本郷本郷六ノ九
島崎書院　本郷本郷六ノ四
島商店　荏原戸越町八一三
島田書店　本郷駒込林町七
島田書店　品川下大崎三七一
島宗書店　品川大井倉田町三二六二
島村書店　本郷森川町二

島村商店　城東大島町三ノ四六八
島村文具店　江戸川平井三ノ二〇七八
島屋　淺草今戸町二ノ一四
島屋　大森池上本町二九六
島屋　澁谷新橋町五六
實業界社　芝田村町二ノ一
實業教育會　澁谷穩田一ノ一五五
實業堂　牛込早稻田鶴巻町四四一
實業之世界社　芝芝公園五號地
實業之日本社　京橋銀座西一ノ三
實生活社　品川大井宮本町四五〇三
實誠堂　荏原戸越町九六四
實踐教育會　世田谷下北澤一六五
實踐女學校販賣部　澁谷澁谷實踐女學校内
實用工學社　麹町丸ノ内二昭和ビル内
實力社　瀧野川田端町四八〇
清水一貫堂　淺草北富坂町八五
清水キング堂　芝新橋四ノ八
清水商店　豐島池袋二ノ二〇五
清水商會　豐島西巣鴨二ノ一九八二
清水商店　城東龜戸町五ノ一五一
清水書店　神田神保町三ノ三
清水書店　神田神保町三ノ一一
清水書店　芝三田二ノ一一
清水日進堂　板橋板橋町七六七
清水百貨店　目黑唐ケ崎五九二

清水文具店　神田佐久間町四ノ九
清水鳳文堂　下谷龍泉寺町三七六
清水屋　神田鍛冶町二ノ二
清水屋　瀧野川田端町五五
清水屋　淺草公園仲見世八二號
清水屋支店　本郷駒込神明町四一九
篠山書房　豐島巣鴨七ノ一六八八
下澤書店　小石川小日向水道町五八
下田文榮堂　本郷龍岡町三六
下田書店　世田谷上馬町一ノ八二一
寫眞藝術社　京橋銀座七ノ二資生堂内
寫眞の友社　本郷根津須賀町二七
社會學徒社　荏原下神明町二八〇
社會教育協會　小石川白山御殿町一二七
社會思想研究所　豐島西巣鴨二ノ二三九三
社會書房　神田錦町一ノ一六
社會運動往來社　芝琴平町三七喜多ビル内
上海内山書店出張所　日本橋人形町二ノ五京華堂方
自動車工學會　淀橋諏訪町二一六
自生堂　四谷傳馬町三ノ五
自由莊　本郷蓬萊町一七
自習堂　豐島池袋一ノ二
自彊館　神田錦町一ノ一二
自省堂　小石川江戸川町七
自彊術學院出版部　神田北甲賀町二〇　自彊術學院内
自治館　神田神保町三ノ八

自由社　神田三崎町三ノ九二
樹泉堂　大森調布嶺町一ノ一七七
兒童科學教育會　本郷西片町一近藤方
兒童教育社　牛込東五軒町四ノ一〇
兒友堂　神田鍛冶町二ノ八
秋豐園　神田小川町一ノ六
聚精堂　本郷龍岡町三二
集英社　神田一ツ橋通町三
集成社　牛込原町二ノ四五
集文館　牛込津久戸町三一
集文堂　荒川本千住六ノ一一八
秀榮堂　杉並新町二五五
秀文閣　芝芝公園五號地
秀文書院　澁谷大和田町六三
秀文堂　王子堀船町一ノ五八三
秀文堂　芝高輪南町七
秀山堂文庫　麻布狸穴町三一
秀美堂　向島寺島町八ノ五五
秀名社　神田中猿樂町一七
趣味人房　麹町九段二ノ八九段ビル一
趣味普及會　澁谷青葉町一〇
修學社　淀橋柏木五ノ一〇〇五正好方
修文館　神田表神保町二
修文堂書店　下谷御徒町二ノ五
修省堂　神田裏猿樂町一五
主婦之友社　神田駿河臺一ノ六

受驗界社　麹町内幸町一ノ三大阪ビル二五三
受驗研究社　神田神保町一ノ五九
受驗講座發行所　牛込新小川町二ノ一一
受驗新誌社　神田神保町二ノ二二
受驗生社　神田小川町三ノ二二
春啓堂　品川南品川五ノ七七
春光堂　牛込西五軒町五二
春江堂　日本橋兩國四四
春古屋　足立千住二ノ五
春秋社　日本橋呉服橋二ノ五
春秋堂　赤坂青山南町四ノ三〇
春祥堂　京橋銀座四ノ一
春草堂　神田神保町一ノ一
春村堂　淀橋戸塚町一ノ二二〇
春鳥會　小石川關口駒井町三
春芳堂　澁谷代々木上原町一三三五
春洋社　神田錦町一ノ七
春陽社　神田神保町三ノ一七
春陽堂　日本橋通三ノ八
春林堂　牛込砂土原町三ノ四
順成堂　目黑下目黑三ノ五二六
順生堂書店　神田旭町三〇
小學館　神田一ツ橋通町三
小學社　本郷湯島兩門町一五
小學堂　足立千住宮元町六四
小學學びの友社　神田美土代町三ノ四